

# 福岡県の近世窯業関係遺跡

福岡県文化財調査報告書 第284集

2024

福岡県教育委員会



## 序

安土桃山時代末期、文禄・慶長の役に伴い、朝鮮半島から九州に渡来した多くの陶工たちによって、九州各地で国焼が興りました。この陶工たちによる新たな焼物技術の導入は、我が国の陶磁器の歴史にも大きな影響を与えました。

現在の福岡県域においては、筑前では黒田氏が高取焼を、豊前では細川氏が上野焼を興します。これらの窯は江戸時代初頭の茶人大名である小堀遠州が指導した遠州七窯としても有名です。筑後では、江戸時代初頭に田中氏の下で蒲池焼が興り、その後、久留米藩・柳河藩の下で、藩窯のみでなく、様々な民窯で焼物が焼かれました。

明治時代の廃藩置県により、多くの藩窯は廃窯に追い込まれますが、民窯として継続する窯もありました。特に小石原焼は、大正時代に柳宗悦、バーナード・リーチらによる民藝運動で高く称賛されたことで有名です。

福岡県教育委員会では、江戸時代以降に焼物が焼かれた場所を、近世窯業関係遺跡として捉え、現状を把握するために、令和2年度から緊急分布調査を開始し、4年にわたる調査を終えて、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

焼物は現在の私たちの生活に欠かせない日用品であり、我が国における茶の湯文化の発展に大きく寄与してきました。その焼物を生産した窯跡について、今後、文化財として保存・活用していくなど、適切な保護の推進を図っていくことで、本県の特徴ある焼物の歴史を後世に残していくことができます。

近世窯業関係遺跡の調査や報告書の作成において、地元自治体を始め多くの方々に御支援・御助力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

福岡県教育委員会

教育長 吉田 法稔

## 例 言

1. 本書は、令和2～5年度に国庫補助を受けて福岡県教育委員会が実施した福岡県内の窯業関係遺跡に関する調査報告書である。
2. 調査にあたっては福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会を設置し、その指導のもとに現地調査や資料作成等を行った。
3. 本書における「窯業関係遺跡」は、焼物＝窯業に関わる構造物や痕跡並びにそれらが埋蔵されている場所を指している。主として近世を対象とするが、近代に続き操業された窯で遺跡となっているものも含めた。
4. 本書においては、窯跡等が近世の江戸時代を中心とすることもあり、原則として内容について言及する際には旧国や藩ごとに示した。現在の福岡県域は明治9年（1876）8月21日に確立したが、江戸期には、筑前に福岡藩・秋月藩のほか対馬府中藩領、中津藩領、幕府御料があり、筑後には久留米藩・柳河藩や下手渡藩（三池藩）、豊前には小倉藩・小倉新田藩・豊津藩・中津藩の一部などがあった。
5. 調査は、当該地区の市町村の協力のもとに実施した。また掲載した出土遺物は九州歴史資料館及び各市町村に保管されており、遺物実測図に所蔵先を明記した。
6. Ⅲ-2の重点調査の報告に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図を編集・加工したものである。
7. 本調査・報告に係る参考文献は、巻末にまとめて掲載した。
8. 本書に掲載した発掘調査の遺構写真・遺構実測図は、参考文献に掲げる報告書等から再録したものである。ただし、上畑窯跡実測図は新たに岡垣町教育委員会から提供を受けた。現況写真は、明示したもの以外は事務局で撮影したものである。
9. 本書は、Ⅰ・Ⅱは伊崎俊秋・岸本圭・坂本真一、Ⅲは岸本、坂本、遠藤啓介が執筆した。ⅣのⅠ・Ⅱは坂本、Ⅲは酒井芳司、Ⅳは岸本、Ⅴは坂本が担当し、編集は坂本が行った。

# 目次

|     |                      |         |
|-----|----------------------|---------|
| I   | はじめに                 | 1       |
| 1.  | 調査に至る経過              | 1       |
| 2.  | 調査の経過                | 2       |
| 3.  | 調査の組織                | 6       |
| II  | 福岡県の近世窯業遺跡に関する調査     | 7       |
| 1.  | 福岡県の近世窯業の概要          | 7       |
| 2.  | 福岡県の近世陶磁の把握          | 8       |
| 3.  | 福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査  | 10      |
| 4.  | 近世窯業遺跡の史跡指定等         | 13      |
| 5.  | 皿山の地名                | 15      |
| III | 福岡県近世窯業関係遺跡調査        | 17      |
| 1.  | 第一次調査（悉皆調査）          | 17      |
| 2.  | 第二次調査（重点調査）          | 17      |
| 3.  | 各遺跡の詳細               | 18      |
| 表1  | 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡    | 20～45   |
| 表2  | 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 関係遺跡  | 46・47   |
| IV  | 総括                   | 139     |
| 1.  | 調査成果                 | 139     |
| 2.  | 福岡県における近世の窯跡と窯道具について | 141     |
| 3.  | 文献史料調査の成果と課題         | 150     |
| 表3  | 歴史史料調査               | 152～163 |
| 4.  | 窯跡の保存と活用             | 164     |
| V   | おわりに                 | 167     |
| ○   | 福岡県の窯業関係事象年表         | 168     |
| ○   | 参考文献                 | 172     |



# I はじめに

## 1. 調査に至る経過

埋蔵文化財の保護にあたっては、その把握と周知が重要であり、このことは文化財保護法第95条に規定されている。埋蔵文化財は土地に埋蔵されているという性格上、把握にあたっては試掘・確認調査等の成果を反映させ、より精度を高めていく必要がある。福岡県教育委員会では、これまで昭和51～55年度(1976～1980)に『福岡県遺跡等分布地図』16冊を刊行し、県内の埋蔵文化財包蔵地の周知化を行った。それ以降、各自治体が主体となり、更なる分布調査や試掘・確認調査の積み重ねにより、埋蔵文化財包蔵地地図の精度を高めてきた。

埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については国による考え方が示されている。文化庁に設置された「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」(平成6年(1994)10月設置)は、平成10年(1998)6月に「埋蔵文化財の把握から開発事前の発掘調査に至るまでの取扱いについて」の報告を行った。これは文化庁記念物課(現文化財第二課)埋蔵文化財部門が所管するもので、この中で、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲は「全国に共通する原則としては、当面、次のとおりとするのが適切と考えられる」とした。

- ① おおむね中世までに属する遺跡は、原則として対象とすること。
- ② 近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができること。
- ③ 近現代の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができること。

この報告は同年9月29日付で「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」として各都道府県教育委員会教育長宛てに通知・周知された。この「平成10年通知」をもって、条件付きながら近世の遺跡は「地域において必要なものを対象とすることができること」となり、さらには近現代の遺跡についても調査対象とすることができるようになった。また、埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会でも、「九州地区埋蔵文化財発掘調査基準」を定め、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については文化庁の考えと軌を一にしている。

そして、文化庁記念物課が監修した『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—』(2010年5月)において、「埋蔵文化財は、……文字や記録のない先史時代はもとより、古代や中・近世さらには近・現代においても、文献史料だけからでは知ることのできない歴史や文化を明らかにする手がかりとなるものである」(p2)とされた。さらには同書第Ⅲ章第1節「2 埋蔵文化財包蔵地の範囲」において、「近世以降の遺跡の扱い」は「各地方公共団体では、今日的な観点から、埋蔵文化財として扱う範囲について再検討し、適切な保護措置をとることが求められる」(p51)としている。

埋蔵文化財の周知化は、各自治体の取組を主体とする一方、「地域において必要なもの」や「地域において特に重要なもの」という視点は、市町村域を越え、県内を俯瞰した評価が必要となる。そこで福岡県教育委員会では、遺跡の性格に応じた県内遺跡の詳細分布調査を進めてきた。平成24～28年度(2012～2016)『福岡県の中近世城館跡』(I)～(IV)、平成29～令和元年度(2017～2019)『福岡県の戦争遺跡』の調査及び報告書の刊行がこれに該当する。

近世窯業関係遺跡については、昭和30年(1955)に福智町釜ノ口窯跡、昭和54年(1979)直方市内ヶ磯窯跡を始めとし、早い段階から発掘調査が行われており、地域において必要なものとして扱われてきた。特に、北九州市菜園場窯跡、東峰村釜床1号窯跡、一本杉2号窯跡は発掘調査の結果、重要な価値

が見出され、県指定史跡（菜園場窯跡は移設保存したため県指定有形文化財（考古資料））として保護されている。福岡県内には近世初期から現在まで高取焼、上野焼を始めとした窯が操業しているが、その全容を把握するまでには至っていなかったため『福岡県の近世窯業関係遺跡』として調査することとした。当初は令和2年度（2020）から4年度（2022）の3ヵ年事業としたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出等により現地調査や委員会開催ができず、調査期間を令和5年度（2023）まで延長することとした。

## 2. 調査の経過

### a. 福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

まず、窯業遺跡を調査するにあたり、その基本方針を定め、福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会に諮った上で、その方針に則って実施していくこととした。基本方針は次のとおり定めた。

#### 福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

##### 1 必要性と目的

福岡県内では、高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では、小石原焼が重要無形文化財に指定され、技術の保持者として福島善三氏が認定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

現在、このような窯業を始めとした、近世以降の生産遺跡は、各自治体にとって重要と考えられるもののみが記録保存調査の対象となっている。これらの遺跡は、県内における位置付けが十分になされていないものが多いことから、歴史上又は学術上重要なものがあるにもかかわらず、近年の開発により把握されないままに消滅したものもあると考えられる。

このため、福岡県教育委員会において、県内の近世以降の窯業関係の生産遺跡について悉皆調査を行い、現状の把握及び評価を行うことで、適切な保護の推進に資するものとする。また、それらの調査を通し、地域の歴史を掘り起こすことで、新たな地域の魅力の創出にも繋がると考えられる。

##### 2 対象・範囲

調査の対象は、江戸時代に営まれた陶磁器等の窯跡とする。その他、陶磁器に関連する生産関連遺跡（陶土・粘土等の原料採掘遺跡、工房跡など）も対象とする。

##### 3 組織・体制

(1) 調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務とする。

(2) 調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会設置要項」を定める。

##### 4 スケジュール

令和2年度：既存情報の把握、整理

令和3年度：一次調査（悉皆調査：基礎的な情報収集と整理）

二次調査（重点調査：重要遺跡の詳細調査）

令和4年度：二次調査（重点調査：継続調査）

令和5年度：二次調査（重点調査：補足調査）

調査内容に基づく成果報告書の作成

## 5 調査結果の取扱い

- ・調査の成果は調査報告書として刊行し、県内の文化財関係機関や図書館に送付して幅広く閲覧に供する。
- ・地域にとって必要なものについては、文化財保護法第95条に基づき、「埋蔵文化財包蔵地」に決定して保護の対象とし、周知の徹底を図る。
- ・重要な遺跡については、国、県又は市町村による史跡指定や登録による保護を推進する。

### b. 第一次調査（悉皆調査）と調査指導委員会

令和2年度は事務局で協議を行い、「福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針」を定め、九州歴史資料館において、諸文献等を参照して基礎となる一覧表を作成した。この一覧表は、県内に所在する近世～近代（明治時代）の窯跡について書籍・県・市町村誌類や関係論文から情報を収集し、遺跡・関係遺構などを取り上げたものである。その内訳は、各旧国における陶磁器窯跡地名表（調査表1）に、筑前50件余、筑後30件余、豊前20件余を掲載した。窯業関係施設等の地名表（調査表2）は、参考事例として5件程載せたのみであった。それに参考文献一覧表を加えた。

この調査表1・2について、令和2年9月24日付2教文第1639号で「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」の文書を県内60の自治体に送付し、11月末を締切として加除修正を依頼した。各窯跡については、県内を筑前・筑後・豊前の旧国名毎に分け、筑前50件、筑後31件、豊前22件の合計103件を確認した。また近世窯業関係遺跡に関わる、陶土の採取地や陶磁生産の作業場所、販売・管理をする施設、神社・記念碑・墓地などを対象とした関係遺跡としては、筑前16件、筑後5件、豊前4件の合計25件を確認した。

その成果をもとに、令和3年1月19日に第1回の福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会（以下、委員会という）を開催する運びとなったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による非常事態宣言が発せられたこともあり、オンラインによる会議開催となった。委員長に大橋康二委員を選出し、福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針のもと調査を進めていくことやスケジュール等についての説明を行い、意見をいただいた。

令和3年度第2回委員会は東峰村で開催し、釜床1号（県指定）・2号窯跡、一本杉1号・2号（県指定）窯跡を視察した。委員会では新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出により、重点調査が遅れているため、スケジュールを1年延長（令和5年度まで）することと重点調査のリスト内容



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第5回近世窯業関係遺跡調査指導委員会

について了承を得た。また陶片だけではなく、窯道具の実態を調べる必要について、意見をいただいた。

令和4年度は委員会を2回開催した。第3回委員会は福智町で開催し、直方市永満寺宅間窯跡、福智町皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡を視察した。委員会では現地調査で位置が特定できない窯跡については、古地図等を確認するように指摘を受けた。また窯跡の時期については、文献等の記録と異なる場合があるので確認が必要との指摘を受けた。第4回委員会はみやま市で開催し、筑後市赤坂焼窯跡、みやま市二川焼窯跡を視察した。委員会ではできるだけ現地の窯の有無を確認するよう指摘を受け、令和5年度刊行の調査成果報告書についても指摘を受けた。

令和5年度は第5回委員会を須恵町で開催し、須恵町立歴史民俗資料館及び須恵町立美術センター久我記念館所蔵の須恵焼資料を実見した。委員会では報告書の内容について協議した。

#### 委員会一覧

| 名称                     | 日時               | 場所               |
|------------------------|------------------|------------------|
| 第1回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 | 令和3(2021)年1月19日  | 福岡県庁4階会議室(オンライン) |
| 第2回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 | 令和3(2021)年12月3日  | 東峰村小石原庁舎第1会議室    |
| 第3回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 | 令和4(2022)年5月17日  | 福智町中央公民館2階研修室    |
| 第4回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 | 令和4(2022)年12月27日 | みやま市まいピア高田第1会議室  |
| 第5回 福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 | 令和5(2023)年11月10日 | 須恵町アザレアホール会議室    |

#### c. 第二次調査(重点調査)

第一次調査を基に、福岡という地域の特徴を示す遺跡と遺構の残りが極めて良く、保存して価値を伝えるのに適した遺跡という2つの選定基準に基づき、特に重点的に調査をしなければならない場所を24件選定した。その内訳は高取焼関係9件、上野焼関係3件、地域窯として筑前4件、筑後5件、豊前4件である。すでに発掘調査で遺跡の内容が明らかな遺跡については、重点調査から除外している。

重点調査では、遺跡の位置の特定・現状の把握・写真撮影等の記録の作成を行い、調査に当たっては原則として当該市町村の文化財担当者とともに現地確認を行った。重点調査は、第2回委員会時に調査候補リストを上げるために、4月の東峰村の小石原焼関係から着手した。まず県指定史跡である小石原窯跡群の釜床1号窯跡と一本杉2号窯跡の現況の確認と窯跡に関連する天照太神宮から始めた。同年8月には、上野焼のある福智町の皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡の現況確認を行った。同年12月には東峰村で第2回委員会を開催し、そこで調査候補リスト25件について、委員会です承を得て、1月には朝倉市浄満寺窯跡、野鳥窯跡、2月には香春町田香焼窯跡の調査を行った。令和4年度はさらに重点調査を進め、特に筑後地域で筑後市2件、八女市5件、みやま市1件、豊前地域でみやこ町2件、上毛町1件の調査を行った。これら地方窯以外にも小石原焼関連で東峰村7件も調査を行った。令和5年度は報告書を作成する過程で、委員会時に指摘された瓦窯の調査として東峰村の奥畑瓦窯跡、嘉麻市から新たに情報提供のあった野口窯跡と事務局で必要と判断した福岡市の野間焼窯跡と関連遺構、大牟田市の黒崎焼窯跡、須恵町の役所畑新窯跡と昨年度確認できなかったみやこ町の乙子焼窯跡を追加調査した。

#### d. 調査経過一覧

令和3～5年度の3年間の調査経過について、前述したことも含めて列記する。

令和3年度

| 日時    | 市町村名   | 調査地                            | 備考                      |
|-------|--------|--------------------------------|-------------------------|
| 4月13日 | 朝倉郡東峰村 | 釜床1号窯跡 天照太神宮 小石原伝統産業館          | 窯跡と関連遺跡の確認<br>小石原焼の展示視察 |
| 4月23日 | 朝倉郡東峰村 | 一本杉窯跡 十文字窯跡                    | 十文字窯跡のみ窯跡未確認            |
| 8月5日  | 田川郡福智町 | 釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 岩屋高麗窯跡             | 岩屋高麗窯跡のみ窯跡未確認           |
| 12月3日 | 朝倉郡東峰村 | 釜床1号窯跡 天照太神宮 一本杉窯跡<br>陶神(石碑)など | 第2回委員会時の視察              |
| 1月28日 | 朝倉市    | 浄満寺窯跡 野鳥窯跡                     | 野鳥窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集     |
| 2月25日 | 田川郡香春町 | 田香焼窯跡 陶工の墓 香春町歴史資料館            | 窯跡と関連遺跡の確認              |

令和4年度

| 日時     | 市町村名    | 調査地                           | 備考                                    |
|--------|---------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 4月8日   | 筑後市     | 赤坂焼窯跡 赤坂神社 坂東寺焼窯跡             | 坂東寺焼窯跡のみ未確認だが、石碑を確認                   |
| 4月22日  | 朝倉郡東峰村  | 釜床2号窯跡 中野上の原窯跡<br>火口谷1号窯跡     | 釜床2号窯跡の場所と高取八山夫妻の墓を確認                 |
| 4月27日  | 八女市     | 星野十籠焼窯跡 鹿子生焼窯跡 池の本焼窯跡         | 星野十籠窯跡の場所と鹿子生焼窯跡の消滅を確認<br>池の本焼窯跡のみ未確認 |
| 5月17日  | 田川郡福智町  | 釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 永満寺宅間窯跡<br>岩屋高麗窯跡 | 第3回委員会時の視察                            |
| 5月27日  | 朝倉郡東峰村  | 池の谷窯跡 大明神窯跡<br>旧上組・旧下組窯跡      | 大明神窯跡と旧上組・旧下組窯跡は未確認                   |
| 6月9日   | 京都郡みやこ町 | 乙子焼窯跡 錦原皿山窯跡                  | 窯跡未確認                                 |
| 6月15日  | 八女市     | 本星野焼窯跡 枳形焼窯跡<br>(再調査) 池の本焼窯跡  | 窯跡の確認                                 |
| 7月1日   | 朝倉郡東峰村  | (再調査) 大明神窯跡 旧上組・旧下組窯跡         | 大明神窯跡のみ未確認                            |
| 12月4日  | みやま市    | 二川焼窯跡 [富重窯・角窯]                | 窯跡の確認                                 |
| 12月14日 | 嘉麻市     | 黒田窯跡                          | 窯跡の確認                                 |
| 12月27日 | みやま市    | 二川焼窯跡 [富重窯・角窯]                | 第4回委員会時の視察                            |
| 2月14日  | 朝倉郡東峰村  | 金敷様裏窯跡                        | 3号窯跡のみ確認し、1・2号窯跡は未確認                  |
| 2月20日  | 築上郡上毛町  | 唐原焼窯跡                         | 窯跡の確認                                 |
| 3月17日  | みやま市    | (再調査) 二川焼窯跡 [角窯]              | 窯跡の確認                                 |

令和5年度

| 日時     | 市町村名          | 調査地                       | 備考                  |
|--------|---------------|---------------------------|---------------------|
| 4月12日  | 朝倉郡東峰村        | 奥畑瓦窯跡                     | 窯跡の確認               |
| 4月21日  | 嘉麻市           | 黒田窯跡 野口窯跡                 | 野口窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集 |
| 5月2日   | 福岡市<br>糟屋郡須恵町 | 野間焼窯跡 山王神社 陶工の墓<br>役所畑新窯跡 | 窯跡と関連遺跡の確認          |
| 6月14日  | 京都郡みやこ町       | 乙子焼窯跡                     | 窯跡の確認               |
| 8月17日  | 大牟田市          | 黒崎焼窯跡                     | 窯跡の確認               |
| 11月10日 | 糟屋郡須恵町        | 須恵焼窯跡 [福岡藩御用窯跡]<br>役所畑新窯跡 | 第5回委員会時の視察          |
| 11月29日 | 八女市           | 男ノ子焼窯跡                    | 窯跡の確認               |

### 3. 調査の組織

福岡県窯業関係遺跡調査指導委員会では委員を3人に委嘱した。また、4か年の窯業遺跡に関する調査において、市町村の文化財担当者のみならず、関係諸機関、土地所有者など実に多くの方々に御協力・御支援をいただいた。関係者を含めて下記に列記し、深く感謝いたします。

○福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会

委員長：大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問）

委員：辻田淳一郎（九州大学大学院人文科学研究院准教授）

宮地英敏（九州大学附属図書館記録資料館准教授）

〔事務局〕

|              | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度                             | 令和5年度 |
|--------------|-------|-------|-----------------------------------|-------|
| 〔福岡県教育委員会〕   |       |       |                                   |       |
| 教育長          | 城戸秀明  | 吉田法稔  | 吉田法稔                              | 吉田法稔  |
| 副教育長         | 木原 茂  | 寺崎雅巳  | 上田哲子                              | 上田哲子  |
| 教育監          | 寺崎雅巳  | 合屋伸一  | 深瀬信也                              | 山本博康  |
| 教育総務部長       | 上田哲子  | 上田哲子  | 松永一雄                              | 松永一雄  |
| 文化財保護課長      | 綾部耕士  | 明永好弘  | 明永好弘                              | 比山裕隆  |
| 同 参事         |       |       | 田上 稔                              |       |
| 同 参事兼課長技術補佐  | 田上 稔  | 田上 稔  |                                   | 杉原敏之  |
| 同 課長技術補佐     |       |       | 杉原敏之 <small>（企画埋蔵文化財係長兼務）</small> |       |
| 同 企画・埋蔵文化財係長 | 杉原敏之  | 杉原敏之  |                                   | 大庭孝夫  |
| 同 企画・埋蔵文化財係  | 宮地聡一郎 | 宮地聡一郎 | 大庭孝夫                              | 岡田 諭  |
|              | 大庭孝夫  | 大庭孝夫  | 城門義廣                              | 城門義廣  |
|              | 城門義廣  | 城門義廣  | 出見優人                              | 出見優人  |
| 〔九州歴史資料館〕    |       |       |                                   |       |
| 館長           | 吉田法稔  | 城戸秀明  | 城戸秀明                              | 城戸秀明  |
| 副館長          | 安永千里  | 安永千里  | 吉村靖徳 <small>（埋蔵文化財係長兼務）</small>   | 吉村靖徳  |
| 学芸調査室学芸研究班   |       | 酒井芳司  | 酒井芳司                              | 酒井芳司  |
|              |       | 遠藤啓介  | 遠藤啓介                              | 遠藤啓介  |
| 文化財調査室長      | 吉村靖徳  |       |                                   |       |
| 埋蔵文化財調査室長    |       | 吉村靖徳  |                                   | 吉田東明  |
| 文化財調査室室長補佐   | 伊崎俊秋  |       |                                   |       |
| 同 文化財調査班長    | 森井啓次  | 森井啓次  | 森井啓次                              | 進村真之  |
| 同 文化財調査班     |       | 小川泰樹  | 小川泰樹                              | 岸本 圭  |
|              | 坂本真一  | 坂本真一  | 坂本真一                              | 坂本真一  |

現地調査その他でお世話になった方々（敬称略：順不同）

中島圭（朝倉市教育委員会）、嶋田光一（飯塚市教育委員会）、大津諒太（うきは市教育委員会）、中村渉・宮本博喜・前崎智行（大牟田市）、朝原泰介（岡垣町教育委員会）、尾方禎莉・舌間悟（嘉麻市教育委員会）、野村憲一・是石嵩伸（香春町教育委員会）、福永将大（九州大学総合研究博物館）、水原道範・小澤太郎（久留米市）、矢野和昭（上毛町教育委員会）、山下啓之（須恵町教育委員会）、日高正幸（元東峰村教育委員会）、内野嗣昭（東峰村教育委員会）、太田富隆、高取焼宗家、高取八仙、柳瀬眞一、田村悟（直方市教育委員会）、佐々木四十臣・佐藤好英（福岡県文化財保護指導委員）田上勇一郎（福岡市）、井上勇也・小池史哲（福智町教育委員会）、木村達美・中尾克則（みやこ町教育委員会）、猿渡真弓・瓜生建（みやま市教育委員会）、角弘恵、伊崎俊秋（八女市岩戸山歴史文化交流館）、壇佳克・江頭俊介（八女市教育委員会）、谷川雅啓、平岡邦幸

## II 福岡県の近世窯業遺跡に関する調査

### 1. 福岡県の近世窯業の概要

福岡県は明治9年(1876)に筑前国・筑後国・豊前国6郡をもって成立した。この三国には、それぞれ藩によって経営された、あるいは藩への献上品を焼いた窯がある。筑前福岡藩の高取焼、豊前小倉藩の上野焼、筑後久留米藩の坂東寺焼等、筑後柳河藩の蒲池焼が該当する。以下に旧国単位で近世窯業を概観する。

日本の近世窯業の発端は、文禄・慶長の役によってもたらされた陶工の技術にある。本県では筑前の高取焼と豊前の上野焼がそれに該当し、文献上で高取焼が八山、上野焼が尊楷の手によるものとされる。高取焼については、永満寺宅間窯に始まり、内ヶ磯窯で本格的な操業が行われる。八山が帰国を願い出たことにより、藩主から蟄居を命ぜられ山田窯に移るが、その後、許しを得て白旗山窯で生産を行う。後に、窯を小石原鼓の釜床窯に移し、更には現在の福岡市へ移し大鋸谷窯、東皿山窯で幕末の廃藩置県まで操業を続ける。これら高取焼は陶器を焼くものであったが、白旗山窯では試験的に磁器焼成がなされている。なお、永満寺宅間窯に近い黎明期のものとして上畑窯・千石窯が挙げられるが、操業期間は短期間の可能性が高い。

筑前秋月藩では18世紀以降に城下の浄満寺窯・野鳥窯で陶器生産が行われた。

筑前の民窯としては、高取家の中から小石原地区で主に日用品を焼く系譜が成立し、この延長に現在の小石原焼がある。一番古く位置付けられるのが一本杉窯であり、その後、中野上の原窯、火口谷窯、金敷様裏窯へと続く。大分県日田市の小鹿田焼もまた18世紀初頭に小石原から技術が伝えられたものである。中野上の原窯では肥前陶工を招き、磁器生産に着手するが、材料の問題で生産は続かなかった。その後の筑前における磁器生産は、須恵焼窯で宝暦年間に本格的な窯が築かれ、以後藩窯と民窯を繰り返し変遷しながら、かなりの生産量を誇ったとみられる。

筑前の福岡地区にも18世紀以降に高取焼の流れを汲む西皿山窯のほか、能古焼や野間焼等の民窯が営まれた。また、遠賀川上流域の嘉穂地域にも黒田焼等の民窯が複数営まれた。

豊前上野焼が本格的に焼かれた最初の窯は釜ノ口窯である。開窯年代は明らかでないが、細川氏が小倉城に入城した慶長8年(1603)以降とされる。釜ノ口窯は細川氏の肥後転封により閉窯したとされ、その後は皿山本窯に移り、小笠原氏の下、幕末の廃藩置県までの長期に渡り操業された。小倉藩のお楽

しみ窯として小倉城下に菜園場窯が営まれた。上野焼の陶工は田香焼等の多くの民窯に移った記録が残されている。

豊前豊津地域にも乙子焼窯・錦原皿山窯等がみられるが、藩の奨励策に基づくものと考えられる。

筑後国では田中吉政が入国後、蒲池焼を開かせたと伝えられる。元和6年(1620)の田中家改易後、柳河藩は立花宗茂が復歸、久留米藩には有馬豊氏が転封される。久留米藩は坂東寺焼を開窯した。久留米藩のお楽しみ窯としては、柳原焼と東野亭焼がある。18世紀前半には朝妻窯で磁器が本格的に焼かれるようになった。19世紀になると陶器生産は赤坂焼が中心となったようである。

筑後の特色として、茶の生産との関係で茶壺が多く焼かれた点が挙げられる。寛永9年(1632)や正保4年(1647)の記録に「黒木の焼き物」とあり、釈形焼の可能性もある。矢部川を境として北は久留米藩、南は柳河藩に分かれるが、八女地域の山中では本星野焼・星野焼・男ノ子焼等、茶の貯蔵器を中心に陶器生産が継続された。

また筑後地域では、肥前陶工により始められた二川焼、磁器・陶器の両者を焼いた一の瀬焼・黒崎焼等、民窯も多く営まれた。

県内の近世窯業は廃藩置県により藩の支援が失われた段階で、廃窯に追い込まれたものが多い。しかし、休止期間をおかず再興された地区も少なくない。特に大正～昭和期に展開した柳宗悦らによる民藝運動によって小石原焼や二川焼が注目されるようになり、多くの人々の関心を得ることとなったことは有名である。小石原焼と上野焼は、前者は昭和50年(1975)、後者は昭和58年(1983)に経済産業大臣による伝統的工芸品の指定を受け、福岡県を代表する焼物と位置付けられている。

## 2. 福岡県の近世陶磁の把握

福岡県内の焼物や窯跡についてどのように把握されていたか、数多くある文献の中で『陶器講座』所収「日本諸国窯一覧」・『原色陶器大辞典』・『福岡県百科事典』及び『近世窯業遺跡データ集成』の4件について見ると、かなり多くの事例のあることがわかる。なかには鹿原を鹿原と間違えているものや、誤植・誤認のいずれとも不明の焼物名・窯名も見られ、現時点で確認できないものも幾つかある。しかしながら、今回の悉皆調査の調査表は、これらを参考にして作成した(市町村名は当時のまま記載)。

「日本諸国窯一覧」(『陶器講座』第7巻)(横河民輔;1935年12月:雄山閣)

筑前:石崎焼(筑前)、内ヶ磯窯(筑前内ヶ磯)、糟尾焼(筑前)、小石原焼(筑前小石原)、鹿原焼(筑前鹿原)、白旗山焼(筑前合屋)、須恵焼(筑前須恵)、宗七焼(筑前博多)、高取焼(筑前高取)、中野焼(筑前)、西皿山焼(筑前西新町)、野間焼(筑前野間)、博多瓦町窯(筑前博多)、東山窯(筑前)

筑後:赤石焼(筑後)、朝妻焼(筑後朝妻)、蔵敷焼(筑後)、久留米焼(筑後)、二川焼(筑後渡瀬)、星野焼(筑後久留米)、水田焼(筑後)、柳川焼(筑後柳川)、柳原焼(筑後久留米)

豊前:上野焼(豊前上野)、鳩軒焼(豊前)、常山焼(豊前)、太郎助焼(豊前)、田香焼(豊前)、水町焼(豊前)

『原色陶器大辞典』(加藤藤九郎編;1972年10月:淡交社)

筑前:内ヶ磯窯・永満寺窯(直方市)、折尾窯(北九州市)、小石原焼[中野焼]・鼓村窯(小石原村)、鷺谷焼・鹿原窯・宗七焼[博多焼]・茶屋の山窯・西新町窯・西皿山窯・残島高取・野間焼・博多人形・東皿山・(福岡市)、白旗山窯(飯塚市)、須恵焼(須恵町)、高取焼、遠州高取、遠州七

窯、古高取、高取腰篋、高取大海、高取松風・高取耳付、高取面茶碗、博多文琳、五十嵐次左衛門・新九郎・高取善十郎・八蔵 [八山] (高取焼陶工)、岡平蔵 (博多人形陶工)、新藤安平 (須恵焼)  
筑後：青木窯・朝妻焼・久留米焼・十三部焼・野中窯・日渡窯・柳原焼 (久留米市)、赤坂窯・野町窯・坂東寺焼・水田窯 (筑後市)、朝田窯 (浮羽町)、今村窯・長岡窯 [鹿子生焼]・釈形焼 (黒木町)、蒲池焼 [柳川焼] (柳川市)、黒崎焼 (大牟田市)、姥ヶ懐窯・二川焼 (高田町)、星野焼 (星野村)、家長彦三郎 (柳川焼陶工)、中尾米吉 (二川焼陶工)

豊前：上野焼 (赤池町)、香春窯 (香春町)、鳩軒、小倉焼・水町焼 (北九州市)、太郎介焼・田香焼 (大任町)、豊前焼、上野喜蔵・十時甫快・十時甫紹・十時孫左衛門・渡久左衛門 (上野焼陶工)

上記のほかに、小林賢一郎・黒田政憲、牟田久次・立花実山 (南方録) といった福岡県の出身者もしくは所縁のある人などもみられる。

『福岡県百科事典』(1982年11月：西日本新聞社)

筑前：内ヶ磯窯跡 (直方市)、小石原焼 (朝倉郡小石原村)、須恵焼 (糟屋郡須恵町)、千石焼 (鞍手郡宮田町)、宗七焼 (福岡市博多区)、高取焼、津屋崎人形 (宗像郡津屋崎町)、博多人形 (福岡市博多)、野間焼 (福岡市南区)。なお、高取焼についてはその解説の中で上畑窯跡 (遠賀郡岡垣町)、永満寺宅間窯跡 (直方市)、内ヶ磯窯跡 (直方市)、山田窯跡 (山田市)、白旗山窯跡 (飯塚市)、小石原鼓窯跡・小石原中野窯跡 (朝倉郡小石原村)、大鋸谷窯跡 (早良郡田嶋村)、麓原窯跡 (早良郡麓原村) に触れられている。

筑後：赤坂人形 (筑後市)、赤坂焼 (筑後市赤坂)、朝田焼 (浮羽郡浮羽町)、朝妻焼 (久留米市)、一ノ瀬焼 (浮羽郡浮羽町)、蒲池焼 (柳川市)、坂東寺焼 (筑後市)、二川焼 (三池郡高田町)、星野焼 (八女郡星野村)、水田焼 (筑後市)、柳原焼 (久留米市)

豊前：上野焼 (田川郡赤池町)、豊前焼

これ以外にも、上野喜蔵や高取八蔵・小島与一・中ノ子タミなどの個人及び窯道具・陶土・登窯といった用語についても取り上げられている。

『近世窯業遺跡データ集成』[福岡県] (1997年3月：国立歴史民俗博物館研究報告 第73集)

(福岡県の地名表は副島邦弘が作成)

筑前：能古窯・西皿山窯・東皿山窯・今川高取窯・大鋸谷窯・宗七窯・野間窯・友泉亭窯 (福岡市)、須恵窯 (須恵町)、上畑窯 (岡垣町)、犬鳴窯・朝谷窯 (若宮町)、千石窯 (宮田町)、白旗山窯 (飯塚市)、内ヶ磯窯・永満寺宅間窯 (直方市)、山田窯 (山田市)、浄満寺窯・野鳥窯 (甘木市)、小石原中野窯・鼓窯 (小石原村)

筑後：柳原窯・朝妻窯・東野亭窯 (久留米市)、田川窯 (三潞町)、坂東寺窯・赤坂 (三原) 窯・水田窯・野町窯 (筑後市)、蒲池 (柳河) 窯 (柳川市)、男ノ子窯 (立花町)、黒崎窯 (大牟田市)、二川窯 (高田町)、今村窯・鹿子生窯・釈形窯 (黒木町)、星野 (十籠) 窯 (星野村)、朝田 (一の瀬) 窯 (浮羽町)

豊前：菜園場窯 (北九州市)、釜ノ口窯・皿山本窯 (赤池町)、岩谷高麗窯 (方城町)、田香窯 (香春町)、田香窯 (大任町)

なお、『角川日本地名大辞典 40 福岡県』(1988年3月：角川書店) には、皿山の地名として福岡市南区があり、ほかに皿山公園 (須恵町)・皿山町 (北九州市小倉北区) が示され、また各地の地域産業

として次のようなことが掲載されている。

筑前：福岡市早良区の「御国焼と高取焼」に大鋸谷・麓原東皿山窯・西皿山窯

直方市の「芸能と文化」の項に高取焼の窯跡

小石原村の「小石原焼の生産」

須恵町の「皿山焼」

筑後：筑後市の「水田焼・坂東寺焼・赤坂焼」

星野村の「茶・金山・星野焼」

豊前：赤池町の「細川氏と上野焼」

大任町の「田香焼」

### 3. 福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査

#### a. 埋蔵文化財の把握

福岡県では、昭和 51 ～ 55 年度（1976 年 4 月～ 1981 年 3 月）に『福岡県遺跡等分布地図』16 冊を刊行した。それは北九州市・福岡市の両政令市を除く地域について、当時の福岡県教育庁の 16 か所の教育出張所の管轄範囲ごとに取りまとめたものであり、この時にリストアップされた遺跡数は、一部に天然記念物や社寺等を含む 17,169 か所であった。

遺跡の把握は埋蔵文化財の保護の基本であり、各地方自治体の根幹である市町村が主体となって、その後も鋭意遺跡の把握に努めており、当然のことながら遺跡数は増加傾向にある。これらの遺跡数は、その大半が中世までの遺跡であり、近世、近代の遺跡は少ないものの、最近は少しずつ増加している。

現時点で福岡県の近世、近代の窯業関係遺跡として遺跡地図に掲載されている箇所（周知の埋蔵文化財包蔵地）は下記のとおりである。

#### 筑前

| 市町村名   | 窯跡名     | 包蔵地名及び番号   |
|--------|---------|--|
| 直方市    | 永満寺宅間窯跡 | 県番号 050117「高取焼窯跡（宅間窯）」 市番号 94「永満寺宅間窯跡」                                   |
| 直方市    | 内ヶ磯窯跡   | 県番号 050118「高取焼窯跡（内ヶ磯窯跡）」 市番号 55「内ヶ磯窯跡」                                   |
| 遠賀郡岡垣町 | 上畑窯跡    | 県番号 390163「上畑窯跡」 町番号 390163「上畑窯跡」  |
| 宮若市    | 千石窯跡    | 県番号 410348「千石窯跡」   |
| 宮若市    | 犬鳴窯跡    | 県番号 440255「犬鳴窯跡」   |
| 飯塚市    | 白旗山窯跡   | 県番号 070335「高取焼白旗窯跡」<br>市番号 414「白旗山窯跡」丘陵先端に 3 基                           |
| 飯塚市    | 高取八山墓跡  | 市番号 431「高取八山墓跡」[消滅]  |
| 嘉麻市    | 山田窯跡    | 県番号 090013「古高取山田窯跡」 市番号 2078「古高取山田窯跡」<br>※昭和 10（1935）年に一部、発掘。現在、ボタ山の下に埋没 |
| 嘉麻市    | 猪之鼻窯跡   | 市番号 2076「猪之鼻窯跡」  |
| 嘉麻市    | 大庭夫婦の墓  | 県番号 090014「大庭源太夫、夫婦の墓」   |

|        |           |  |
|--------|-----------|--|
| 嘉麻市    | 黒田窯跡      | 市番号 2036   |
| 嘉麻市    | 野口窯跡      | 市番号 2169   |
| 糟屋郡須恵町 | 福岡藩磁器御用窯跡 | 町番号 290154   |
| 糟屋郡須恵町 | 役所畑新窯跡    | 町番号 290161   |
| 朝倉郡東峰村 | 皿山古窯跡     | 県番号 550015 「皿山古窯跡」   |
| 朝倉郡東峰村 | 奥畑瓦古窯跡    | 県番号 550015 「皿山古窯跡」 村番号 15 「奥畑瓦古窯跡」                             |
| 朝倉郡東峰村 | 一本杉古窯跡    | 1号県番号 550061 村番号 44<br>2号県番号 550062 村番号 45                     |
| 朝倉郡東峰村 | 十文字古窯跡    | 県番号 550058 村番号 46  |
| 朝倉郡東峰村 | 金敷様裏古窯跡   | 1号県番号 550058 村番号 54 2号県番号 550059 村番号 55<br>3号県番号 550060 村番号 56 |
| 朝倉郡東峰村 | 旧下組古窯跡    | 県番号 550055 村番号 59 [昭和32年頃まで操業した共同窯]                            |
| 朝倉郡東峰村 | 大明神古窯跡    | 県番号 550056 村番号 68 [19世紀代と推定される窯]                               |
| 朝倉郡東峰村 | 池ノ谷古窯跡    | 村番号 72   |
| 朝倉郡東峰村 | 旧上組古窯跡    | 県番号 550057 村番号 73  |
| 朝倉郡東峰村 | 火口谷古窯跡    | 1号県番号 550053 村番号 77<br>2号県番号 550054 村番号 78                     |
| 朝倉郡東峰村 | 中野上の原古窯跡  | 県番号 550052 村番号 80  |
| 朝倉郡東峰村 | 釜床古窯跡     | 1号県番号 550050 村番号 95<br>2号県番号 550051 村番号 96                     |
| 朝倉郡東峰村 | 採土場跡      | 村番号 42 ※陶土を採掘時に出た石などを円墳状に盛ったもので8か所ほどある                         |
| 朝倉郡東峰村 | 陶神        | 村番号 76 ※祭日は10月10日。自然石で高さ133cm、幅60cm、厚さ46cm。小石原工芸館跡地にあり         |
| 朝倉郡東峰村 | 火の神様      | 村番号 84 [石祠に祀られる]   |
| 福岡市    | 今川高取窯跡    | 市番号 2146 解除  |

#### 筑後

| 市町村名 | 窯跡名    | 包蔵地名及び番号  |
|------|--------|---|
| 久留米市 | 朝妻焼窯跡  | 県番号 030253 「朝妻焼窯跡」  |
| うきは市 | 一ノ瀬焼窯跡 | 県番号 620024 「一ノ瀬焼古窯跡」 市番号 076<br>「隈上・朝田原遺跡群」の中に「一ノ瀬窯跡」あり           |
| 八女市  | 男ノ子焼窯跡 | 県番号 720146 「男ノ子焼窯跡」   |
| 柳川市  | 蒲池焼窯跡  | 県番号 080082 「蒲池焼窯跡」  |
| みやま市 | 姥ヶ懐窯跡  | 県番号 800001 「姥ヶ懐窯跡」 市番号 0172 「姥ヶ懐窯跡」<br>※窯は現存せず                    |
| みやま市 | 二川焼窯跡  | 県番号 800005 ～ 800008 「二川焼窯跡」<br>市番号 0148 ①～④ 「二川焼窯跡」 [①②は消滅、③④は現存] |
| 大牟田市 | 黒崎焼窯跡  | 市番号 452 「黒崎窯跡」  |

豊前

| 市町村名    | 窯跡名             | 包蔵地名及び番号   |
|---------|-----------------|--|
| 田川郡福智町  | 上野皿山窯跡          | 県番号 890014 「上野皿山窯跡」  |
| 田川郡福智町  | 釜ノ口窯跡           | 県番号 890015 「釜の口窯跡」   |
| 田川郡福智町  | 岩屋高麗窯跡          | 県番号 840002 「岩屋高麗窯跡」  |
| 田川郡香春町  | 田香焼窯跡           | 町番号 225 「田香焼窯跡」  |
| 京都郡みやこ町 | 乙子焼窯跡           | 町番号 910226 「乙子焼窯跡」   |
| 京都郡みやこ町 | 錦原皿山窯跡          | 県番号追加 920140 「石走り南遺跡」 町番号 920112 「石走り南遺跡」<br>※帝釈天山麓に所在。近世の操業免許の記録あり。遺物出土 |
| 北九州市    | 菜園場窯跡<br>〔愛宕遺跡〕 | 市番号 2023 「愛宕遺跡」  |

b. 埋蔵文化財としての近世窯跡の調査

近世の窯跡等の遺跡として、これまでに埋蔵文化財としての調査対象となった事例は下記のとおりである。なお、明治・大正・昭和 20 年までの戦前期のみならず、文化財保護法が施行された昭和 25 年以降においても資料採集などの目的で個人的に調査された事例や発掘は無数にあったと思われるが、それらに関しては十分な把握はできていない。

筑前

| 窯跡名     | 所在地    | 調査期間  | 調査主体                     |
|---------|--------|---|--------------------------|
| 内ヶ磯窯跡   | 直方市    | 〈第 1 次〉 1979 年 9 月 17 日～ 12 月 6 日<br>〈第 2 次〉 1980 年 9 月 10 日～ 11 月 20 日<br>〈第 3 次〉 1981 年 5 月 19 日～ 6 月 23 日<br>〈第 4 次〉 1995 年 8 月 24 日～ 10 月 30 日<br>〈第 5 次〉 1997 年 2 月～ 3 月 31 日<br>〈第 6 次〉 1997 年 5 月 6 日～ 10 月 18 日<br>〈第 7 次〉 1998 年 5 月 12 日～ 1999 年 3 月 19 日<br>〈第 8 次〉 1999 年 6 月 18 日～ 2000 年 3 月 13 日 | 直方市教育委員会<br><br>福岡県教育委員会 |
| 永満寺宅間窯跡 | 直方市    | 1982 年 11 月 15 日～ 12 月 11 日   | 直方市教育委員会                 |
| 犬鳴窯跡    | 宮若市    | 〔1 号窯〕 〈第 1 次〉 1986 年 9 月 30 日～ 11 月 15 日<br>〈第 2 次〉 1987 年 4 月 14 日～ 5 月 19 日<br>〔2 号窯〕 1987 年 5 月～ 7 月  | 福岡県教育委員会                 |
| 中野上の原窯跡 | 朝倉郡東峰村 | 〈第 1 次〉 1987 年 6 月 15 日～ 7 月 18 日<br>〈第 2 次〉 1989 年 9 月 22 日～ 12 月 12 日   | 小石原村教育委員会                |
| 白旗山窯跡   | 飯塚市    | 〔1 号窯〕 1987 年 8 月 1 日～ 9 月 2 日<br>1990 年 1 月 10 日～ 3 月 22 日<br>〔2 号窯〕 1988 年 8 月 1 日～ 9 月 9 日<br>1990 年 1 月 10 日～ 3 月 22 日<br>〔3 号窯〕 1988 年 8 月 1 日～ 9 月 9 日  | 飯塚市教育委員会                 |
| 火口谷窯跡   | 朝倉郡東峰村 | 〔1 号窯〕 〈試掘〉 1988 年 9 月 5 日～ 10 月 1 日<br>〈第 1 次〉 1993 年 8 月 2 日～ 12 月 21 日<br>〔2 号窯〕 1995 年 9 月 20 日～ 11 月 30 日  | 小石原村教育委員会                |
| 能古焼窯跡   | 福岡市西区  | 1988 年 10 月 24 日～ 12 月 2 日  | 九州大学                     |

|                         |        |   |           |
|-------------------------|--------|---|-----------|
| 釜床1号窯跡                  | 朝倉郡東峰村 | 〈試掘〉1990年12月14日～1991年2月2日<br>〈第1次〉1991年9月1日～10月14日  | 小石原村教育委員会 |
| 金敷様裏3号窯跡                | 朝倉郡東峰村 | 1992年10月20日～11月27日  | 小石原村教育委員会 |
| 一本杉窯跡                   | 朝倉郡東峰村 | [1号窯] 1992年10月20日～11月27日<br>[2号窯] 1994年9月6日～12月19日  | 小石原村教育委員会 |
| 上畑窯跡                    | 遠賀郡岡垣町 | 1994年1月8日～2月5日  | 岡垣町教育委員会  |
| 千石窯跡                    | 宮若市    | 1994年11月24日～12月28日  | 宮田町教育委員会  |
| 西皿山窯跡                   | 福岡市早良区 | 2005年2月17日～2005年5月17日   | 福岡市教育委員会  |
| 須恵焼窯<br>[福岡藩磁器御用<br>窯跡] | 糟屋郡須恵町 | 〈第1次〉2006年12月1日～2007年3月30日<br>〈第2次〉2007年12月4日～2008年3月31日<br>〈第3次〉2008年4月22日～2009年3月31日<br>〈第4次〉2009年7月1日～2010年3月31日 | 須恵町教育委員会  |

#### 筑後

| 窯跡名   | 所在地  | 調査期間                                       | 調査主体      |
|-------|------|--|-----------|
| 朝妻焼窯跡 | 久留米市 | 〈第1次〉1992年1月下旬～3月<br>〈第2次〉2015年2月12日～3月31日 | 久留米市教育委員会 |
| 東野亭焼窯 | 久留米市 | 1998年10月14日～12月28日                         | 久留米市教育委員会 |

#### 豊前

| 窯跡名   | 所在地      | 調査期間                  | 調査主体        |
|-------|----------|-----------------------|-------------|
| 釜ノ口窯跡 | 田川郡福智町   | 1955年5月6日～5月15日       | 日本陶磁協会      |
| 菜園場窯跡 | 北九州市小倉北区 | 1982年12月9日～1983年9月30日 | 北九州市教育文化事業団 |

## 4. 近世窯業遺跡の史跡指定等

### a. 福岡県内の事例

福岡県においてこれまでに、近世の窯跡等の遺跡として史跡等に指定されている事例は次のとおりである。

#### (福岡県) 市町村指定史跡

| 窯跡名     | 所在地    | 指定日               |
|---------|--------|-------------------|
| 唐原焼窯跡   | 築上郡上毛町 | 昭和49年(1974)11月25日 |
| 田香焼窯跡   | 田川郡大任町 | 昭和51年(1976)10月1日  |
| 永満寺宅間窯跡 | 直方市    | 昭和63年(1988)3月15日  |
| 能古焼古窯跡  | 福岡市    | 平成2年(1990)3月29日   |

#### 福岡県指定史跡

| 窯跡名                         | 所在地    | 指定日             |
|-----------------------------|--------|-----------------|
| 福岡藩磁器御用窯跡                   | 糟屋郡須恵町 | 昭和55年(1980)3月1日 |
| 小石原窯跡群<br>釜床1号窯跡<br>一本杉2号窯跡 | 朝倉郡東峰村 | 平成8年(1996)5月31日 |

福岡県指定有形文化財（考古資料）

| 窯跡名          | 所在地  | 指定日                  |
|--------------|------|----------------------|
| 菜園場窯跡 附 出土遺物 | 北九州市 | 昭和 62 年（1987）5 月 9 日 |

b. 全国の事例

文化庁国指定文化財等データベースに拠ると、安土桃山時代末期から江戸時代に及ぶ窯跡等の国指定史跡の事例は次のとおりである。

| 窯跡名   | 所在地                   | 指定日   |
|---|-----------------------|---|
| 肥前陶器窯跡  | 佐賀県唐津市・武雄市・多久市        | 昭和 15 年（1940）2 月 10 日 /<br>追加 平成 17 年（2005）7 月 14 日                               |
| 備前陶器窯跡<br>伊部南大窯跡<br>伊部西大窯跡<br>伊部北大窯跡<br>医王山窯跡               | 岡山県備前市                | 昭和 34 年（1959）5 月 13 日 /<br>追加 平成 21 年（2009）2 月 12 日                               |
| 元屋敷陶器窯跡   | 岐阜県土岐市                | 昭和 42 年（1967）12 月 11 日  |
| 瀬戸窯跡<br>小長曾陶器窯跡<br>瓶子陶器窯跡                                   | 愛知県瀬戸市                | 昭和 46 年（1971）7 月 13 日 /<br>追加 平成 27 年（2015）10 月 7 日                               |
| 九谷磁器窯跡  | 石川県加賀市                | 昭和 54 年（1979）10 月 23 日 /<br>追加 平成 17 年（2005）3 月 2 日 /<br>追加 平成 18 年（2006）7 月 28 日 |
| 肥前磁器窯跡<br>天狗谷窯跡<br>山辺田窯跡<br>原明窯跡<br>百間窯跡<br>泉山磁石場跡<br>不動山窯跡 | 佐賀県西松浦郡有田町<br>武雄市・嬉野市 | 昭和 55 年（1980）3 月 24 日 /<br>追加 昭和 56 年（1981）2 月 25 日                               |
| 柿右衛門窯跡  | 佐賀県西松浦郡有田町            | 平成元年（1989）9 月 22 日  |
| 肥前波佐見陶磁器窯跡  | 長崎県東彼杵郡波佐見町           | 平成 12 年（2000）9 月 6 日  |
| 大川内鍋島窯跡   | 佐賀県伊万里市               | 平成 15 年（2003）9 月 16 日   |

## 5. 皿山の地名

福岡県においては焼物が作られていた所を皿山と称する事例が多数存在する。

皿山の地名については、『皿山』という言い方は肥前有田系統の窯で使われる」（須恵町 2003・大橋 2010）とされている。福岡県内（筑前・筑後・豊前）の皿山地名が全て肥前の影響下に生じたものか否かは俄かに判断できないが、窯や焼物がある所の多くが、下記に示すように皿山と称されていたことは間違いないといえる。

江戸期の事例として、明和 4 年（1767）11 月の『近国焼物大概帳』には「筑前領焼物山三ヶ所」として、須恵皿山・西町皿山・山口皿山が示されているという（須恵町 2003）。

また、寛政 8 年（1796）9 月の『近国焼物山大概書上帳』（肥后天草の庄屋・上田家に伝わる文書）で、「柳川領皿山之分」として黒崎皿山・星野皿山、「筑前領皿山之分」として須恵皿山・西町皿山、「豊前領皿山之分」として天野皿山・藤原皿山・添田皿山・今藤皿山・漆尾皿山・清水皿山・小石原皿山が挙げられている。なお、豊前の天野は上野、藤原は道（堂）原 [どうばる]、今藤の今任とともに田香焼、漆尾は漆生で、上黒田の漆生を指すか。漆生と小石原は筑前だが、豊前の項に記されている。

### 【福岡県の皿山地名】

現時点で以下の場所が把握される。

| 所在地                         | 窯名      |
|-----------------------------|---------|
| 福岡市南区皿山 1～4 丁目              | 野間焼窯    |
| 福岡市早良区西新 5 丁目               | 東皿山窯    |
| 福岡市早良区高取 1～2 丁目 西皿山         | 西皿山窯    |
| 糟屋郡須恵町上須恵 皿山                | 須恵焼窯    |
| 朝倉郡東峰村大字小石原字中野 皿山           | 小石原焼    |
| 宮若市大字宮田 千石皿山（宮田町 1995）      | 千石窯     |
| 宮若市山口 皿山（若宮町誌 2005）         | 浅ヶ谷窯    |
| 宮若市犬鳴 皿山（若宮町誌 2005）         | 犬鳴窯     |
| 飯塚市野間の高宮西側の小谷の通称（中山 1915.6） | 白旗山窯    |
| 久留米市合川町隈山 皿山（水原 1992）       | 朝妻焼窯    |
| 久留米市城南町十三部 皿山               | 柳原焼窯？   |
| 八女郡広川町大字広川 皿山（佐々木 2006）     | 川瀬焼窯    |
| 八女市萩尾字池ノ窪 皿山（佐々木 2006）      | 枳形焼窯？   |
| 八女市黒木町鹿子生谷 皿山（浅野 1935）      | 鹿子生焼窯   |
| 大牟田市岬 黒崎皿山                  | 黒崎焼窯    |
| 北九州市小倉北区皿山町                 | 小倉清水焼窯？ |
| 北九州市小倉北区木町皿山                | 高保窯     |

|                       |        |
|-----------------------|--------|
| 田川郡福智町上野 皿山           | 上野焼    |
| 田川郡大任町今任原 皿山          | 今任田香焼窯 |
| 田川郡香春町高野 → 昔、皿山と言っていた | 高野田香焼窯 |
| 築上郡上毛町上唐原 皿山          | 唐原焼窯   |
| 嘉麻市上黒田 漆生皿山           | 黒田窯    |
| 嘉麻市上山田 皿山             | 猪之鼻窯跡  |
| 田川郡添田町 添田皿山           | 不明     |
| 京都郡みやこ町豊津 錦原皿山        | 錦原皿山窯  |

※その他に、「甕焼山」「巢焼平」などの地名がある。

「甕焼山」は釈形焼窯跡の原料の白土を採集した山を指す。また、「甕焼殿」の墓などもある。

「巢焼平」については、八女市星野村の地名にあり、「巢焼」は「素焼」の転化した地名である。

男ノ子焼窯跡の推定地では「窯所」、周辺には「甕（瓶）焼・亀（窯）床・白岩・砥石場・崩竈（くえがま）・二竈（ふたかま）」などの小字名がある。

### Ⅲ 福岡県近世窯業関係遺跡調査

#### 1. 第一次調査（悉皆調査）

まず事務局において、県内の近世窯業遺跡に関する基礎的な情報を集めるために、p8 に先に記した文献以外にも巻末に掲載した参考文献より調査表を作成した。

調査表1は名称、読み、市町村名、所在地、現況（調査表記載時の現在の状況を記載する。例：現地保存、荒地・宅地・畑地など）、旧藩名（福岡藩・秋月藩・久留米藩・柳河藩・三池藩・小倉藩・豊津藩・中津藩など）、経営（藩によるものを藩窯、それ以外を民窯）、調査歴（発掘調査などが行われた年月日）、焼物名、製品（窯跡の出土遺物や表採遺物の器種名）、窯の状況（調査時や表面観察による窯本体の状況）、規模・傾斜角度（窯の計測値）、推定年代（出土遺物等による窯のおおよその操業年代）、備考（窯の特色や史料等による時代背景、窯に関する事柄等を記載する）、参考文献の15項目に設定した。地域は筑前、筑後、豊前の旧国に大別し、対象時代は江戸時代～明治4年（1871）の廃藩置県までを基本とするが、広く情報を集めるために昭和20年頃まで広げた。そのため、近世窯跡の表の後に、参考として明治時代～昭和時代にかけての窯業関係情報を記載している。

調査表2では、近世窯業遺跡に関わるもので、遺構などが現存又は地域の伝承により、現在もその場所が特定できるものを対象とした。以下、5つの種別について情報を収集した。

- 1 陶土の採取地・磁石場など原料の採集地や集積地
- 2 陶磁生産に関わる作業場所や砕石場・水碓小屋など、陶磁生産に関わる施設等
- 3 問屋跡・代官所・番所などの陶磁生産・販売・製陶管理などに係る施設
- 4 古陶磁生産に関連する神社・記念碑・墓地（墓碑）など
- 5 その他、上記以外の陶磁生産に関連する遺構・施設など

さらに表には、名称、読み、所在地、現況、種別、推定年代、備考の7項目に分け、ここでも調査表1と同様に旧国の3地域ごとに掲載した。

作成した調査表1と2は、県内60市町村に令和2年9月24日付「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」で照会し、令和2年11月30日付を締切として各物件の情報の確認を依頼した。照会で得られた情報を反映させ、令和3年1月19日開催の第1回福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会では「福岡県近世窯業関係遺跡調査表1（窯跡）、調査表2（関係遺構）」として、窯跡103件、関連遺跡25件を掲示した。

その後、報告書刊行に向けて最後の内容確認及び追補訂正について、令和5年9月13日付で各市町村へ再度照会を行い、各物件の情報の確認をお願いした。それらの情報を事務局で再整理し、窯跡106件、関係遺跡で56件を把握した。

#### 2. 第二次調査（重点調査）

第二次調査（重点調査）にあたり、(1) 福岡という地域の特質を示す遺跡、(2) 遺構の残りが極めて良く保存して価値を伝えるのに適した遺跡という二つの基準の下、調査指導委員会に諮り、対象とすべき窯跡25件を設定した。設定する上で、基本的に調査報告書が刊行されたものや所在不明なものについては除外した。調査では遺跡の位置の特定と現状の把握を行い、写真撮影等の記録作成を行った。

福岡県を代表する焼き物の窯跡として、高取焼の釜床1号窯跡、上野焼の釜ノ口窯跡、皿山本窯跡、岩屋高麗窯跡を調査した。

次に旧三国での地方窯として、筑前では小石原焼関連で一本杉窯跡、大明神窯跡、池の谷窯跡、金敷様裏窯跡、十文字窯跡、野間焼関連で福岡市南区にある野間焼窯跡、焼物名は不明であるが嘉麻市にある黒田窯跡を調査した。

筑後では枳形焼窯跡、鹿子生焼窯跡、池の本焼窯跡、文献史料に詳細に記述のあった筑後市の赤坂焼窯跡、みやま市の二川焼窯跡、焼物名は不明であるが朝倉市にある浄満寺窯跡、野鳥窯跡も対象とした。なお、重点調査時に新たな情報を得た八女市本星野焼窯跡、星野十籠焼窯跡も追加調査した。

豊前では、調査報告書に遺物のみ掲載されたみやこ町乙子焼窯跡と上毛町の唐原焼窯跡、香春町教育委員会から情報のあった香春町田香焼窯跡を対象とした。

また、調査指導委員会において陶器・磁器窯跡以外の窯跡を調査対象とする必要があるとの指摘を受け、筑前で東峰村奥畑瓦窯跡、豊前でみやこ町の錦原皿山窯跡の瓦窯跡も追加した。

なお、報告書作成途中で嘉麻市野口窯跡、大牟田市黒崎焼窯跡、八女市男ノ子焼窯跡についての新しい情報を得たので、追加調査として令和5年度に調査を行った。最終的には28件を調査した。

### 3. 各遺跡の詳細

第二次調査（重点調査）の対象とした窯跡については、調査表と別に p48 以降に掲載した。各窯跡については所在地、経営（藩又は民間）、焼物名、年代、現況、備考を列記し、当該窯跡の概要を記載した。また、位置図（国土地理院発行 1/25,000 地形図）、現況の写真、窯跡実測図、今回調査時に採集した遺物又は市町村所蔵の未報告資料の実測図（1/3 又は 1/4）を掲載した。実測図中の「陶」は陶器、「磁」は磁器であることを指す。それ以外のものは窯道具である。各窯跡の名称の横に付した番号は調査表1の番号に一致する。

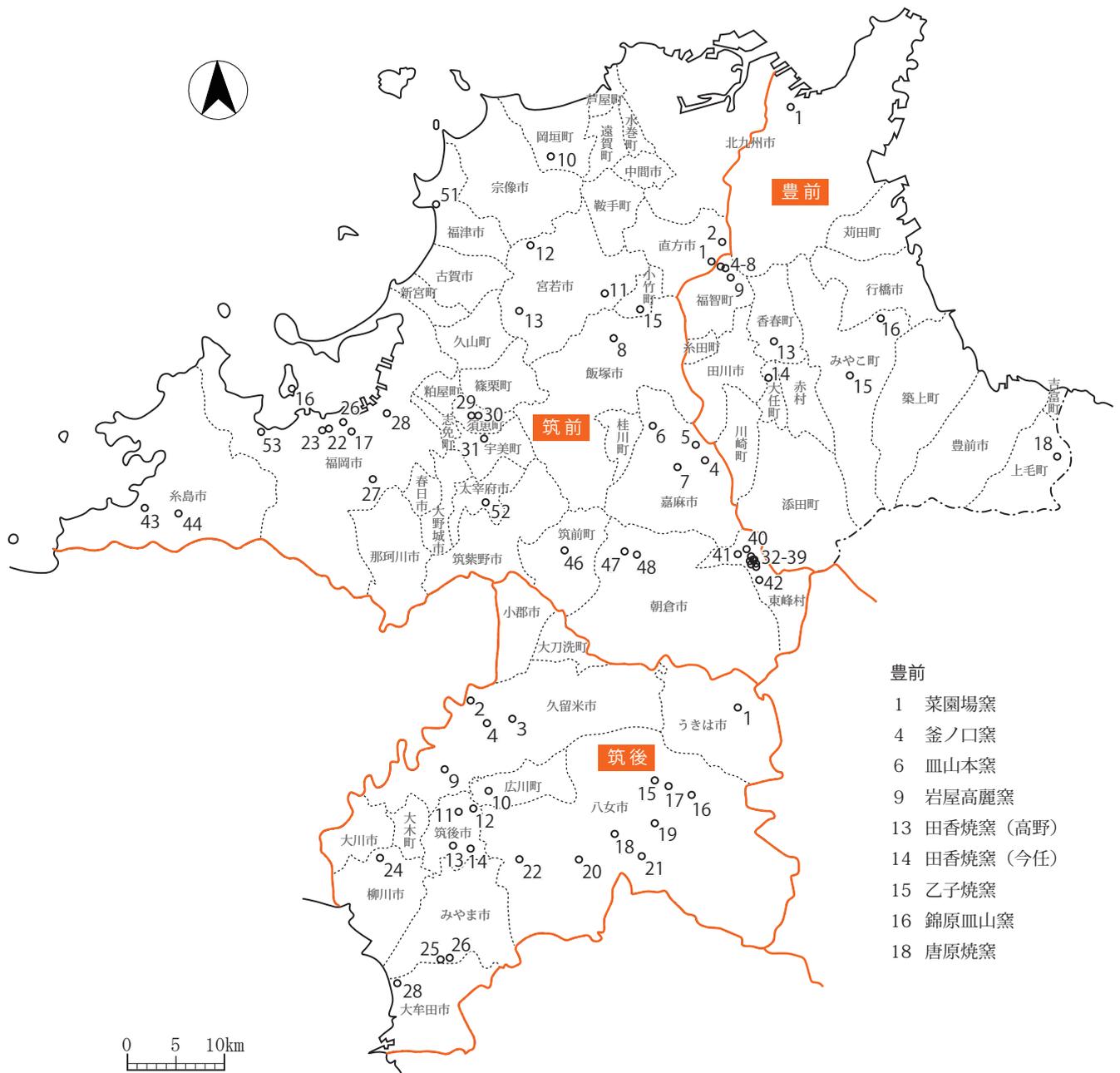
なお、第二次調査（重点調査）の対象以外にも、発掘調査による調査報告書が刊行されている窯跡について、数頁程に要約し掲載した。



第2回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



豊前

- 1 菜園場窯
- 4 釜ノ口窯
- 6 皿山本窯
- 9 岩屋高麗窯
- 13 田香焼窯 (高野)
- 14 田香焼窯 (今任)
- 15 乙子焼窯
- 16 錦原皿山窯
- 18 唐原焼窯

筑前

- |          |           |           |
|----------|-----------|-----------|
| 1 永満寺宅間窯 | 17 大鋸谷窯   | 38 金敷様裏窯  |
| 2 内ヶ磯窯   | 22 東皿山窯   | 39 一本杉窯   |
| 4 山田窯    | 23 西皿山窯   | 40 十文字窯   |
| 5 猪之鼻窯   | 26 今川高取窯  | 41 奥畑瓦窯   |
| 6 黒田窯    | 29 須恵焼窯   | 42 釜床窯    |
| 7 野口窯    | 30 役所畑新窯  | 43 鎌研窯    |
| 8 白旗山窯   | 31 宇美障子岳窯 | 44 雷山窯    |
| 10 上畑窯   | 32 中野上の原窯 | 46 三並ヒエデ窯 |
| 11 千石窯   | 33 火口谷窯   | 47 浄満寺窯   |
| 12 浅ヶ谷窯  | 34 大明神窯   | 48 野鳥窯    |
| 13 犬鳴窯   | 35 田下組窯   | 51 津屋崎人形  |
| 15 勝野峰畑窯 | 36 旧上組窯   |           |
| 16 能古焼窯  | 37 池の谷窯   |           |

筑後

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 一の瀬窯    | 18 今村焼窯   |
| 2 柳原焼窯    | 19 枳形焼窯   |
| 3 朝妻焼窯    | 20 鹿子生焼窯  |
| 4 東野亭焼窯   | 21 池の本焼窯  |
| 9 田川焼窯    | 22 男ノ子焼窯  |
| 10 川瀬焼窯   | 24 蒲池焼窯   |
| 11 坂東寺焼窯  | 25 二川焼窯   |
| 12 赤坂焼窯   | 26 バカツクラ窯 |
| 13 水田焼窯   | 27 黒崎焼窯   |
| 14 野町焼窯   |           |
| 15 本星野焼窯  |           |
| 16 星野十籠焼窯 |           |
| 17 田の原焼窯  |           |

福岡県の近世窯業遺跡分布図

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

| 筑前 |           |          |      |                  |            |     |     |   |               |
|----|-----------|----------|------|------------------|------------|-----|-----|---|---------------|
|    | 名称        | 読み       | 市町村名 | 所在地              | 現況         | 旧藩名 | 経営  | 調査歴   | 焼物名           |
| 1  | 永満寺宅間窯跡   | えいまんじたくま | 直方市  | 直方市大字永満寺         | 山林<br>現地保存 | 福岡  | 藩窯？ | 調査済み<br>1914 中山平次郎<br>直方市教育委員会<br>1982.11.15 ~ 12.11<br>1988.3.15 市史跡指定   | 高取焼           |
| 2  | 内ヶ磯窯跡     | うちがそ     | 直方市  | 直方市大字頓野          | 水中保存       | 福岡  | 藩窯  | 調査済み<br>1914 中山平次郎<br>直方市教育委員会<br>(第1次)1979.9.17 ~ 12.6<br>(第2次)1980.9.10 ~ 11.20<br>(第3次)1981.5.19 ~ 6.23<br>福岡県教育委員会<br>(第4次)1995.8.24 ~ 10.30<br>(第5次)1997.2.? ~ 3.31<br>(第6次)1997.5.6 ~ 10.18<br>(第7次)1998.5.12 ~ 1999.3.19<br>(第8次)1999.6.18 ~ 2000.3.13 | 高取焼           |
| 3  | 山部窯       | やまべ      | 直方市  | 直方市山部<br>多賀神社の西方 | 未特定        | 福岡  |     | 未調査   |               |
| 4  | 山田窯跡      | やまだ      | 嘉麻市  | 嘉麻市上山田           | 山林<br>ボタ山  | 福岡  | 民窯  | 採集<br>1935 栃内禮次   | 高取焼           |
| 5  | 猪之鼻窯跡     | いのはな     | 嘉麻市  | 嘉麻市上山田           | 山林         | 福岡  | 民窯  | 調査済み<br>1967 山田市教育委員会<br>1968.4.3<br>1980 再調査   | 高取焼<br>(上野系?) |
| 6  | 黒田窯跡      | くろた      | 嘉麻市  | 嘉麻市上黒田(漆生)       | 竹林         | 福岡  | 民窯  | 未調査   | 黒田焼           |
| 7  | 野口窯跡      | のぐち      | 嘉麻市  | 嘉麻市大隈町           | 山林         | 福岡  | 民窯  | 未調査   | 上野系?          |
| 8  | 白旗山窯跡     | しらはたやま   | 飯塚市  | 飯塚市中字野間          | 山林         | 福岡  | 藩窯  | 調査済み<br>1914 中山平次郎<br>飯塚市教育委員会<br>[1号窯]<br>1987.8.1 ~ 9.2<br>[2号窯]<br>1988.8.1 ~ 9.9<br>[3号窯]1990.1.10 ~ 3.22   | 高取焼<br>(遠州高取) |
| 9  | 相田窯跡      | あいだ      | 飯塚市  | 飯塚市相田            | 未特定        | 福岡  |     | 未調査   | 高取焼           |
| 10 | 上畑窯跡      | じょうばた    | 岡垣町  | 遠賀郡岡垣町大字上畑字唐人山   | 果樹園        | 福岡  |     | 一部、調査<br>1936以前 栃内禮次<br>1994.1.8~2.5 岡垣町教育委員会   | 高取焼           |
| 11 | 千石窯跡      | せんごく     | 宮若市  | 宮若市宮田字唐人町(千石皿山)  | 消滅         | 福岡  |     | 調査済み<br>宮若市教育委員会<br>1994.11.24 ~ 12.28  | 高取焼           |
| 12 | 浅ヶ谷[朝谷]窯跡 | あさがたに    | 宮若市  | 宮若市山口字浅ヶ谷        | 山林<br>削早   | 福岡  | 民窯  | 採集  |               |
| 13 | 犬鳴窯跡      | いぬなき     | 宮若市  | 宮若市大字犬鳴字皿山       | 水没         | 福岡  |     | 調査済み<br>1914 中山平次郎<br>福岡県教育委員会<br>[1号窯]<br>(第1次)1986.9.30 ~ 11.15<br>(第2次)1987.4.14 ~ 5.19<br>[2号窯]1987.5. ~ 7.   | 高取焼           |
| 14 | 上野窯       |          | 宮若市  | 宮若市宮田            | 未特定        | 福岡  |     | 未調査   |               |
| 15 | 勝野峰畑窯跡    | かつのみねはた  | 小竹町  | 小竹町大字勝野          | 消滅?        | 福岡  |     | 未調査   |               |

| 製品  | 窯の状況   | 規模・傾斜角度  | 推定年代   | 備考   | 参考文献  |
|---|--|--|--|--|---|
| 陶器<br>皿・鉢・壺・播鉢・片口・壺・茶碗・水指・瓶・窯道具(トチン・ハマ)   | 割竹式登窯<br>焼成室6・焚口   | 全長16.6m<br>幅3.45～3.6m<br>11度   | 慶長5年(1600)～寛永元年(1624)？<br>※慶長11～19年(1606～1614)(副島1997) | 黒田長政が文禄・慶長の役の際に、朝鮮半島から渡来した陶工八山らが焼く。階段状連房式登窯より前段階の窯で、李朝初期の特徴を持つ。考古地磁気年代法では1595±15年代の結果が出ている。直方市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土地産:現地周辺及び朝鮮半島(高取歴代記録)  | 高取歴代記録<br>福岡県史<br>尾崎直人1987西日本文化 233<br>直方市第5集<br>副島邦弘1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集近世家業遺跡データ集                    |
| 陶器<br>茶碗・茶入・水指・壺・瓶・連水・皿・鉢・播鉢・壺・片口・壺・碗・徳利・陶人形・漁具・筆立・水滴・香炉・花生・陶人形・手捏製品・窯道具(シッタ・焼台・トチン)                      | 階段状連房式登窯<br>焼成室14・焚口・物原<br>上屋柱穴<br>工房跡<br>祭祀遺構             | 残存長46.5m<br>幅2.18～3.23m<br>19度   | 慶長19年(1614)～寛永元年(1624)<br>(高取歴代記録)                     | 黒田長政が文禄・慶長の役の際に、朝鮮半島から渡来した陶工八山らが焼く。山田窯に移るまでの間焼くか。考古地磁気年代法では1590±30～1700±50年代の結果が出ており、少なくとも1600年頃から50年ほど使用か。直方市教育委員会・九州歴史資料館にて遺物を保管<br>陶土地産:直方市大字感田(推定)(※高取歴代記録、直方市上巻) 灰釉・薬釉:直方市大字上頓野杵ノ木(推定)(直方市上巻)   | 高取歴代記録<br>福岡県史<br>尾崎1987西日本文化 233<br>直方市第4集<br>福岡県第163集<br>福岡県第170集<br>福岡県第181集                         |
|   |  |  | 内ヶ磯窯以後か  | 鞍手郡にて1年間、山部窯(直方市多賀神社の西方)に開窯との口碑の記載あり。  | 奥村次郎1936福岡NO.62   |
| 茶碗・皿・鉢・徳利・壺・壺・瓶・片口<br>[※小山富士夫が1939年11月に高崎正戸宅で発見する]  | 階段状連房式登窯<br>埋没し不明  | 全長約22.7m<br>幅約2.7m<br>約15度<br>『横幅は壁の外側に<br>て九尺余、縦七十五<br>尺ありて、大約十五<br>度位の緩傾斜をな<br>す。』枅内1936 | 寛永元年(1624)～寛永7年(1630)(高取歴代記録)                          | 高取八山が親子は2代藩主黒田忠之の怒りにふれ、寛永元年(1624)に山田村へ跽居し、開窯。窯跡は戦時中の炭鉱のボタ山になり、埋没、昭和42年(1967)に山田市教育委員会が調査した。大庭源太夫の墓所出土茶碗2点が現存し、平成5年(1993)1.19に(旧)山田市文化財第1号として指定された。   | 枅内禮次1936古高取山田窯<br>高取歴代記録<br>福岡県史<br>山田町誌<br>山田市誌  |
| 壺・茶碗・鉢・播鉢・灯明<br>皿・トチン等  | 側壁・底部が残存していた。(旧山田市教委の調査カードによる)                             |  | 元文年間(1736～1741)～                                       | 高取八山の弟子が作陶した伝承。『筑前国統風土記拾遺』に「猪之鼻に陶工二戸ありて、元文の頃より陶器を製せしも近年絶えたり」との記載あり。1967年調査では、窯の位置、規模等が判明し、多数の遺物が出土した。  | 嘉穂郡志<br>山田町誌<br>山田市誌<br>福岡県第195集<br>嘉麻市第4集  |
| 花立・花瓶・播鉢・壺着した播鉢・片口、トチン、トンバイ、焼土片等  | 窯1基 焼成室5・6<br>陶器片、癒着した播鉢片、トチン、トンバイ等が幅10m程に高密度で散乱           |  | 江戸時代末期～明治20年(1887)頃？                                   | 漆尾(うるしお)皿山の記載あり。『筑前国統風土記拾遺』嘉麻郡下 漆生の項に「田中に陶工二戸有。其製猪鼻焼に類す。豊前國上野の流なり。」の記載あり。  | 大橋康二2010東洋陶磁 第39号<br>稲葉明誌1959.1973<br>筑前国統風土記拾遺 中巻  |
| 茶碗・鉢・タコハマ等  |  |  |  | 平成20～23年度(2008～2011)の分布調査で窯道具・製品の散布を確認し採集した。   | 現時点で記載なし  |
| 陶器・一部磁器か<br>茶碗・茶入・水指・瓶・皿・鉢・壺・壺・播鉢・花生・香炉・窯道具(匣鉢・トチン・焼台)  | 窯3基<br>階段状連房式登窯<br>[1号窯] 焼成室7<br>[2号窯] 焼成室1・焚口<br>[3号窯] 焚口 | [1号窯]<br>残存長17.4m(推定<br>長25m前後)、<br>幅2.05～2.3m<br>19度                                      | 寛永7年(1630)～17世紀後半頃                                     | 2代藩主黒田忠之の許しを得、白旗山に窯を開く。「遠州高取」の名で知られる。撃鼓(げつこ)神社の境内脇の用水池を挟んだ対岸にあり。高取八山(八蔵重貞)は承応3(1654)年にここで死去。<br>2・3号窯は一部のみ調査。2号窯焼成室で3号窯焚口を検出する。考古地磁気年代法では[1号窯]1630±20、[2号窯]1660±30、[3号窯]1660±50年代の結果が出ている。<br>窯跡の切り合い関係や構造の特徴、出土遺物の比較から2号窯→3号窯→1号窯への変遷が推定されている。(飯塚市史中巻2016)<br>飯塚市教育委員会にて遺物を保管 | 高取歴代記録<br>福岡県史<br>尾崎1987西日本文化 233<br>飯塚市第16集<br>幸袋町誌<br>原色陶器大辞典<br>飯塚市史 中巻2016<br>枅内1936古高取山田窯<br>福岡の陶磁 |
| 播鉢・窯道具(トチン)(二瀬町誌)   |  |  | 時期不明 17世紀後半？   | 二瀬町誌に窯についての記載があるが、詳細不明である。   | 二瀬町誌  |
| 茶碗・皿・鉢・小壺・窯道具(トチン・ハマ)<br>[製品(採集品)は宗像大社・宗像高校にも收藏される]<br>[※小山富士夫が昭和14年(1939)11月に高崎正戸宅で発見する]                 | 焼成室1を調査  | 6度   | 江戸前期頃か。<br>※17世紀初頃か                                    | 近くに唐人墓あり。<br>上畑唐人窯跡として周知化。(岡垣町第16集)<br>岡垣町調査以前に発掘したことを記載する。調査内容については記述なし。(枅内1936)<br>製品は永満寺窯に近く、高取焼の中でも古い窯に位置する。(福岡の陶磁)  | 岡垣町史<br>図録岡垣町の文化財<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>岡垣町第16集<br>枅内1936古高取山田窯<br>九州陶磁文化館1992福岡の陶磁             |
| 陶器<br>皿・碗・播鉢・瓶・窯道具(トチン・ハマ)<br>[※小山富士夫が1939年11月に高崎正戸宅で発見する]  | 階段状連房式登窯？<br>焼成室1のみ検出                                      | 残存長2.8m  | 寛永元年(1624)以降<br>※17世紀初頃か                               | 焼成室の構造が内ヶ磯に近い。<br>考古地磁気年代法では1640±20年代の結果が出る。<br>宮若市教育委員会にて遺物を保管  | 宮田町第5集  |
| 磁器<br>表探資料 徳利・花生・小皿・茶碗・窯道具(トチン)   |  |  | 明和4年(1767)～  | 『年代記』明和4年(1767)の条にあり。百姓惣兵衛との関連は不明。藩の御用窯になる前に成立か。公民館建設時の整地により窯跡破壊か。   | 若宮町誌上巻<br>福岡県第94集<br>副島邦弘1999九州歴史資料館研究論集24  |
| 陶器<br>[1号窯]茶碗・徳利・鉢・播鉢・壺・壺・瓶・陶板・置台・窯道具(トチン・ハマ・トンバイ)<br>[2号窯]茶碗・皿・播鉢・片口・瓶・壺・火入・水指・香炉・花生・置台・窯道具(トンバイ・ハマ・トチン) | 窯2基<br>[1号窯]<br>割竹式登窯<br>焼成室8残存<br>[2号窯]不明                 | [1号窯]<br>残存長18.5m(推定<br>長25m前後か)<br>幅2.4～2.95m<br>12度<br>[2号窯]不明                           | 寛永(1661)～貞享4年(1687)か<br>(1660年代後半～1680年代)              | 犬鳴皿山に住む新四郎が始める。廃絶時期は福岡藩の命令による。<br>考古地磁気年代法では1650±20年代の結果が出る。   | 福岡県第94集   |
|   |  |  |  | 黒田(筑前鞍手郡宮田)上野窯と記載する。市が副島氏に確認し、窯の存在はないか。  | 井上圓蔵1943豊前上野焼研究   |
| 陶器？<br>壺・窯道具(陶枕)・壺  | 灰原2か所  |  | 江戸時代後期   | 江戸後期の近世陶器を焼いた雑器窯で、土物を中心に焼く。  | 小竹町史  |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称           | 読み  | 市町村名 | 所在地                  | 現況   | 旧藩名 | 経営        | 調査歴  | 焼物名                            |
|----|--------------|---|------|----------------------|------|-----|-----------|--|--------------------------------|
| 16 | 能古焼窯跡        | のこ  | 福岡市  | 福岡市西区能古寺坂            | 現地保存 | 福岡  | 民窯        | 調査済み<br>1914 中山平次郎<br>福岡市教育委員会<br>1988.10.24 ~ 12.2<br>1990.3.29 市史跡指定 | 能古焼<br>(姪の浜焼)                  |
| 17 | 大鑑谷窯跡        | おがたん<br>おおがんに<br>おおがたに<br>おがのたに<br>おおのこだに<br>おおのこぎりだ<br>に | 福岡市  | 福岡市中央区輝国1丁目          | 宅地   | 福岡  | 藩窯        | 採集<br>昭和の初め 中山平次郎  | 高取焼<br>(友泉亭高取<br>又は絵高取)        |
| 18 | 友泉亭窯跡        | ゆうせんてい  | 福岡市  | 福岡市中央区友泉亭付近          |      | 福岡  | 藩窯        | 未調査  | 高取焼?                           |
| 19 | 荒戸山窯         | あらどやま   | 福岡市  | 福岡市中央区荒戸新町(湊町)・荒戸上ノ山 |      | 福岡  | 藩窯        | 未調査  | 高取焼<br>(奥村1979で<br>は荒戸高取)      |
| 20 | 東松山窯         | ひがしまつや<br>ま?  | 福岡市  | 福岡市城南区東松山? 田島光松?     | 宅地   | 福岡  | 藩窯        | 未調査  | 高取焼<br>(田島高取)                  |
| 21 | 田嶋窯          | たじま   | 福岡市  | 福岡市早良区田島             | 宅地   | 福岡  |           | 未調査  | 高取焼                            |
| 22 | 東山窯跡(俵原窯)    | ひがしさらやま<br>(そはら)  | 福岡市  | 福岡市早良区西新5丁目          | 宅地   | 福岡  | 藩窯        | 採集   | 高取焼<br>(東山高取)                  |
|    | 東山窯          | ひがしやま   |      |                      |      | 福岡  |           | 未調査  |                                |
| 23 | 西血山窯跡(西新窯跡)  | にしさらやま  | 福岡市  | 福岡市早良区高取2丁目          | 宅地   | 福岡  | 藩窯→<br>民窯 | 一部、調査<br>福岡市教育委員会<br>2005. 2.17 ~ 2005. 5.17                           | 高取焼<br>(西山高取)                  |
| 24 | 不明           | ふめい   | 福岡市  | 福岡市早良区西新町藤崎          | 宅地   | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 高取焼<br>(森長(永)高<br>取又は藤崎<br>高取) |
|    | 不明           | ふめい   | 福岡市  | 福岡市早良区西新町字血山         | 宅地   | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 高取焼                            |
|    | 英一窯          | えいいち?   | 福岡市  |                      | 宅地   | 福岡  | 民窯        | 未調査  |                                |
| 25 | 鳥飼茶屋窯(茶屋の山窯) | とりかいちゃや   | 福岡市  | 福岡市城南区鳥飼茶屋           | 宅地   | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 高取焼<br>(森長(永)高<br>取又は藤崎<br>高取) |

| 製品   | 窯の状況                             | 規模・傾斜角度            | 推定年代   | 備考   | 参考文献   |
|--|----------------------------------|--------------------|--|--|--|
| 陶器・磁器<br>碗・皿・蓋・窯道具(トテン・ハマ)<br>茶碗・香炉・花瓶・向付・皿<br>壺・徳利(原色陶器大辞典)   | 階段状連房式登窯<br>焼成室7・焚口<br>窯尻には馬蹄形の溝 | 全長22m              | 明和～天明年間(1764～1787)<br>※大橋2010では1770～90年代   | 市指定史跡で、永福寺の裏山、能古博物館敷地内にて現地保存する。筑前国続風土記附録によれば「明和の比より比島にて陶器を製す」という記事あり。姪の浜港より出荷されたので「姪の浜焼」とも呼ばれたことがある。<br>陶土：能古島 釉薬：天草   | 筑前国続風土記附録<br>福岡市第354集<br>大橋2010東洋陶磁第39号<br>九州陶磁文化館1992福岡の陶磁<br>原色陶器大辞典<br>菅波正人2016新修福岡市史史料<br>編考古1   |
| 陶器<br>ほとんど茶入れ若干の茶碗<br>(尾崎2013)   |                                  |                    | 貞享年間(1684～1688)～元禄17年(1704)<br>※奥村武説では貞享2年か。<br>※奥村次八郎説では貞享3年か。<br>※陶磁用語辞典は貞享3年      | 貞享年間(1684～1688)又は元禄年間(1688～1704)に御陶所を移す。<br>『友泉亭御庭焼』とも呼ばれる。(福岡市第916集)  | 奥村1936福岡NO.62<br>奥村武1979大塚業報No.322<br>高取歴代記録<br>福岡市第916集<br>陶磁用語辞典<br>尾崎2013筑前高取焼の研究   |
|  |                                  |                    |  | 有泉亭とも表記あり。   |  |
|  |                                  |                    | 宝永5年(1708)～享保元年(1716)  | 試し焼程度か。<br>宝永元年(1704)に福岡城下の侍屋敷に窯を開く。(奥村1979)<br>高取焼の窯で宝永5年(1708)、福岡市荒戸新町(湊町)に開窯した記録があり、享保元年に止む。窯止、作品は不明。(陶磁用語辞典)   | 奥村1979大塚業報 No.322<br>陶磁用語辞典  |
|  |                                  |                    | 寛永7年(1630)?<br>宝永(1704～1711)の数年間?  | 「頃年(寛永7年)福岡城の南田嶋村の東の松山にて製す」との記載あり。<br>宝永年間工人福岡城南の田島村の東松山に於いて、新たに窯を開き陶器を製す。鼓村の巧を伝ふるなり。鼓村、東松山の二名の工人今に至って業を伝ふ。(黒瀬1974)<br>九州陶磁では荒戸や田島光松等にも開窯との記載あり。(筑紫1938)   | 筑前国続風土記<br>副島2014福岡地方史研究 52<br>黒瀬真頼1974東洋文庫 254 増訂<br>工芸志料<br>筑紫頼定1938九州陶磁   |
|  |                                  |                    | 享保6年(1721)の前後  | 朝倉市指定有形文化財(工芸品)の「陶製狛犬」(S49.1.10指定)に刻まれた銘に「奉寄進 享保六年 辛丑歳 夜須郡甘木七町住人、早良郡田嶋島越山ニテ尾藤孫七之造」とあり、享保年間に高取窯が田島に存在したことがわかる。  | 甘木市教育委員会1996   |
| 陶器<br>茶入・茶碗・水指・建水・花入・香炉・香合・茶壺・皿・鉢・碗・床置・壺・徳利・水盤・陶硯  | 焼成室8<br>※御陶所の見取図から               | 全長24m<br>幅2.5～6.3m | 享保元年(1716)～明治4年(1871)<br>開始が宝永5年(1708)説あり(奥村1979・副島1986)<br>享保元年(1716)<br>明治4年(1871) | 民家が建ち並び、古窯跡は壊滅状態か。窯は旧街道近くに作られたか。藩主黒田綱政の時に開窯し、藩庁に皿山奉行を置く。文政6年(1823)5月以降には献上品に高取焼の烙印をする。<br>御焼物所が仕立てられ、藩の窯業が再開する。<br>高取焼の窯で享保元年、福岡市早良区西新町鹿原に開窯。御用窯として明治4年(1871)に消窯したが、民窯として残り、大壺土管などをその後も焼いている。(陶磁用語辞典)<br>陶土 御笠郡向佐野村(大宰府市)、穂波郡合屋郷中村の高宮 筑前東山(東山高取)及び西山(西山高取)の陶窯を鹿原窯と記した書が尠くないが、鹿原窯は誤り、正しくは鹿原窯である。(陶器大辞典)<br>もとの高取の鉄釜と呼んだもので、のち、筑前国(福岡県)上座郡鹿原村に移り、この名を称した。(陶磁用語辞典)<br>※福岡県内では高取焼の説明で、鹿原村と記載する。<br>※「鹿原」を「鹿原」と誤認した結果が一部に流布したものであり、「鹿原窯」は存在しない。(横河1935) | 皿山役所記録<br>筑前国続風土記拾遺<br>福岡県史<br>奥村1979大塚業報No.322<br>副島1986地方史ふくおか 54<br>原色陶器大辞典<br>横河民輔1935日本諸国窯一覽<br>福岡市第916集<br>塩田力蔵1922日本近世窯業史<br>陶磁用語辞典<br>博多研究会誌第3号<br>尾崎2013筑前高取焼の研究<br>陶器大辞典 |
|  |                                  |                    | 享保元年(1716)   | 松山窯から移る。(横河1935)<br>享保元年、福岡市早良区西新町皿山より分かれ、東山へ移したものである。日用雑器を主として焼く。(陶磁用語辞典)   | 横河1935日本諸国窯一覽<br>陶磁用語辞典  |
| 陶器<br>小皿・小鉢・托・向付・鉢・盤・盥・振出・蓋・猪口・吸出茶碗・碗・井・把手付片口碗・水注・急須・徳利・銚子・油德利・瓶・燈臺・乗櫛・油差・合子・置物・水滴・陶硯・瓶子・高杯・香炉・花入・漁鐘・壺・火入・植木鉢・手培・福荷杜・襦鉢・鍋・壺・井戸ポンプ・不明容器 | 窯2基 焼成室30(大橋2010)<br>窯3基         | 14度                | 寛保元年(1741)～明治36年(1903)や明治末年まで<br>※日本諸国窯一覽・副島説では享保3(1718)年                            | 藤崎遺跡35次調査では窯本体の検出なし。整地層と埋納遺構あり。亀井味楽窯1軒が操業を続け、登窯1基が保存される。<br>西町皿山の記載あり。(大橋2010)<br>藩主黒田宣政が小石原陶工数人(柳瀬三右衛門)を移す。明治に森長三郎等が新窯を起して、高取英一等に茶器を焼かせる。(横河1935)<br>早良郡鹿原村の柳瀬甚平(先代勤兵衛)、同郡西新町の中山武平、同町早川嘉平らの先代が享保元年に移窯する。また享保3年(1718)、小石原村の陶工数人が西新町に移る。(塩田1991)<br>陶土 早良郡七隈村 同郡鹿原村<br>釉薬 金武村 長尾村   | 幸袋町誌<br>福岡県西新9<br>福岡市第916集<br>福岡市史<br>大橋2010東洋陶磁第39号<br>副島1986地方史ふくおか 54<br>横河民輔1935日本諸国窯一覽<br>塩田1991日本近世窯業史<br>力武2016新修福岡市史資料編考古1   |
|  |                                  |                    | 明治22年(1889)～明治25年(1892)  | 東山山の陶工高取英一、同重記、同和三郎等が横田利兵衛、牛尾量蔵、森長三郎を出資者として窯を作る。(幸袋町誌)<br>明治年代、森長三郎が高取英一を起して再興せしめたりし新窯は、セーゲル十三番の火度なりといふと記載あり。(塩田1922)<br>陶土 御笠郡吉松村 早良郡七隈村 上座郡小石原村<br>天草石(熊本県)<br>釉薬 早良郡有田村 上座郡赤谷 穂波郡中村 他に早良郡金武石 筑紫郡高宮 (塩田1922)   | 幸袋町誌<br>塩田1922日本近世窯業史  |
|  |                                  |                    | 明治32年(1899)  | 北村彌一郎が大正2年(1913)3月に調査見聞。製造業者は早川嘉平・樺島某・亀井源太郎(子息の弥太郎が営業)。茶器・菓子器その他上品を高取焼とし、植木鉢・水瓶などの下等品は高取焼と称せず<br>陶土 七隈・吉松・茶山・天草・対州石。釉原料は赤谷石・対州石・天草石・網代石・長尾石  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929   |
|  |                                  |                    | 明治26年(1893)～10年間   | 明治32年(1899)4、5年の間当時の名工高取英一によって開窯される。御用窯の作風による製品が作られる。<br>森長(永)三郎が独力で開く。<br>明治26年、福岡市鳥飼が開窯された高取焼。明治36年に閉じた。このころの作品には黒田侯の藤八卦紋章が捺されている。(陶磁用語辞典)   | 筑紫1938九州陶磁<br>幸袋町誌<br>陶磁用語辞典<br>原色陶器大辞典  |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|      | 名称                       | 読み                    | 市町村名      | 所在地                    | 現況         | 旧藩名 | 経営  | 調査歴   | 焼物名           |
|------|--------------------------|-----------------------|-----------|------------------------|------------|-----|---|---|---------------|
| 26   | 今川高取窯跡                   | いまがわとかとり              | 福岡市       | 福岡市中央区今川               | 宅地         | 福岡  | 民窯  | 一部調査 福岡市教育委員会<br>1981.5.18～1981.6.2   |               |
| 27   | 野間焼窯跡                    | のま                    | 福岡市       | 福岡市南区皿山2丁目             | 宅地<br>神社   | 福岡  | (藩窯→)<br>民窯                                       | 未調査   | 野間焼           |
| 28   | 宗七焼窯跡                    | そうしち                  | 福岡市       | 福岡市博多区祇園町              | ビル         | 福岡  | 民窯<br>(藩御用窯)                                      | 発掘調査済   | 宗(惣)七焼<br>博多焼 |
|      | 博多 素焼きもの                 | はかた すやきもの             |           | 福岡市博多区祇園町              | ビル         | 福岡  | 民窯  | 未調査   | 名無し           |
|      | 博多 瓦                     | はかた かわら               |           | 福岡市博多区祇園町              | ビル         | 福岡  | 民窯<br>(藩御用窯)                                      | 未調査   | 名無し           |
|      | 覇台焼                      | はたい                   | 福岡市       | 福岡市博多区祇園町              | ビル         | 福岡  | 民窯  | 一部調査 博多遺跡群第213次<br>福岡市教育委員会 2017.6.5～<br>2018.6.5<br>※旧工房の西端(登窯部分)は隣地<br>のため未調査   | 覇台焼           |
| 博多人形 | はかたにんぎょう                 | 福岡市                   | 福岡市博多区祇園町 | ビル                     | 福岡         | 民窯  | 一部調査 博多遺跡群第213次<br>福岡市教育委員会 2017.6.5～<br>2018.6.5 | ※江戸期に<br>おいては特<br>定の名はな<br>い。運上帳に<br>は「素焼人<br>形」とある。<br>近代以降は<br>「博多素焼人<br>形」「博多細<br>工人形」から<br>「博多人形」<br>に遷移  |               |
| 29   | 須恵焼窯跡<br>〔福岡藩磁器御用窯<br>跡〕 | すえ<br>ふくおかはんじき<br>ごよう | 須恵町       | 糟屋郡須恵町大字上須恵字東原(皿<br>山) | 3基現地<br>保存 | 福岡  | 藩窯→<br>民窯   | 調査済み<br>1974 須恵町教育委員会<br>〈第1次〉2006.12.1～2007.3.30<br>〈第2次〉2007.12.4～2008.3.31<br>〈第3次〉2008.4.22～2009.3.31<br>〈第4次〉2009.7.1～2010.3.31<br>1980.3.1 県史跡指定<br>須恵焼の町指定有形文化財(工芸<br>品)として「釈迦像台座」・「花立(仏花<br>器)(1978.4.1)」「染付鉢」・「御酒器徳<br>利」2-「御供鉢」(1982.4.1)」「金鎖染<br>付山水文花生」・「金鎖染付酒注」<br>(2005.7.19) | 須恵焼<br>〔金鎖焼〕  |

| 製品  | 窯の状況   | 規模・傾斜角度                           | 推定年代   | 備考   | 参考文献  |
|---|--|-----------------------------------|--|--|---|
|   |  |                                   |  | 今川高取窯跡 包蔵地解除   | 福岡市文化財分布地図  |
| 磁器<br>徳利、罫子<br>陶器<br>土瓶(山水、イッテン)、行平、焙烙、平仄、鉄道茶瓶(徳利形と急須形の新旧2種あり)                      | 澤田隣山まで登り窯(山王神社境内西側)<br>他は空吹窯5地点が遺構として確認。<br>記録では戦前の昭和最盛期には15件の窯元があり、2つの工房が登り窯を採用していたが、終戦後解体され空吹き窯のみとなった。   |                                   | 安政2年(1855)～明治3年(1870)<br>※安政3年(1856)? 安政4年(1857)?  | 陶工佐々木与三郎・横田与七に京焼を作らせる。その後、澤田隣山が明治8(1875)年に復興。初期の藩窯時代は磁器も生産。鉄道茶瓶が主体。大正12(1923)年頃に野間工業組合でき国鉄門司鉄道局と契約して全九州の鉄道茶瓶を受注。戦前の昭和最盛期には15件の窯元があった。京焼の類で、土瓶、急須、茶碗等を作る。<br>陶土 野間村柳河内(野間2丁目東側)、血山2丁目、御島山(若久5丁目付近)、長住。1960年代前半に長住が団地化したことで原土採掘が終了し廃業した事業者が多い。   | 横河1935日本諸国窯一覽<br>筑紫1938九州陶磁<br>塩田1922日本近世窯業史<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>南区ふるさと<br>西花畑郷土史研究会2017郷土西花畑<br>山村1992大町遺跡 大宰府市<br>西花畑郷土史研究会2019郷土西花畑<br>山村信榮氏聞き取り調査          |
| 陶器<br>風炉、手炉、香炉、火鉢、焔炉、床置物、文鏡、狂言人形、能楽面<br>面、風炉、台七輪、植木鉢、香炉、香合、煎茶道具、根付、火舎、手焙り炉、仏像、頂像、人形 | 博多遺跡群173次調査地点が宗七家の地所。調査時は中世の面から調査。近世の土坑(攪乱土坑と記載)などが検出されるも報告書には詳細な記載がない。遺物も人形類などがあるとされているが割愛されている。  |                                   | 明和3年(1766)以前～明治初期  | 初代惣七(1768年没)は博多瓦町にあった藩の御用瓦師正木家の3代から分派し傍系家として独立した陶工師で、祇園町下丁に工房を構えそこで幕末の6代まで操業した。2代から「御用御焼物所」の看板を掲げ、4代から「宗七」銘を使用。近代になり県の仲介により「宗七」の落款は中ノ子家に譲渡された。<br>原土は比重の異なる在地系の褐色土と京都系の白色土を混ぜて使用。京都系の白土が無くなったため廃絶したとされている。<br>畑による光沢のある黒焼や鉄錆を表現した抽肌錆地焼など焼成による色調に特色があり、色材を原土に混ぜた色土の技法も見られる。人形ものなど絵付けに蒔絵師による彩色の作もあるとされる。   | 横河1935日本諸国窯一覽<br>筑前国統風土記<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>塩田1922日本近世窯業史<br>陶磁用語辞典<br>『博多人形沿革史』博多人形沿革史編集委員会2001<br>梅林新市 1977 稿本古博多人形史  |
| 土器、灯火具、七輪、涼炉、急須、火桶、焙烙、玩具(ままごと道具、箱庭道具、おはじき他)、鈴                                       | 博多遺跡群117次調査において、高尾家関係の素焼きもの出土。<br>高尾家の傍系は近代以降に野間血山に工房を構え、博多人形と兼業で空吹き窯を操業   |                                   | 江戸初期～近代  | 瓦町の成立に伴って火を扱う陶工が瓦町やそこに近い社家町や祇園町で工房を展開。江戸中期で6.7軒であったが、幕末頃には30軒程の同業者で棟仲間を形成。正木、岡、今井、高尾家などが知られる。岡は中世の宇美八幡宮のかわらけ生産につながるとされ「平蔵」の名を継いで生産を現代まで続けた。人形師の中ノ子家は化政期頃までは七輪を主製品とする陶師であった。今井家は藩の儀礼用のかわらけを生産する御用役として小倉村(春日市)での原土の採掘を公役として行っていた。  | 山村1993近世都市における窯業生産(福岡・博多のケースについて)はかた第6号   |
| 丸類  |  |                                   | 江戸初期～幕末  | 黒田家が筑前に移封された際に博多の南郊に瓦町を設け、城普請に必要な瓦を調達するため瓦町を設け播州からの瓦師を住まわせた。江戸初期から幕末まで大凡11軒の瓦屋が操業。長子が家を継ぎ傍系は本家の家業を避け、陶工になるものや今宿、宰府、江辻など博多近郊に出て瓦師を続ける者があつた。宗七焼は江戸中期以降の傍系の陶工によるもの。瓦師には山崎、正木、喜多村、田中、千胡などの名が知られ、同業者で瓦座を形成していた。   | 山村1993近世都市における窯業生産(福岡・博多のケースについて)はかた第6号   |
| 花器、供膳具、床置物、面<br>吉三郎作には白磁人形(武者もの)があり市兵衛は罫子の生産も行った。                                   | 博多祇園町の工房で吉三郎期はロスト倒炎式の小型窯で市兵衛は登り窯を採用。   |                                   | 江戸末～   | 覇台焼は祇園町にあった中ノ子家の製陶業の部分を示し、藩の勲業製陶所に出仕して須恵焼の工房で作陶していた。中ノ子吉兵衛の子吉三郎が焼いて居り、その後、市兵衛、勝美と長子が継いできた。技法は傍系の市兵衛の妹タミの系統にも伝えられる。須恵の金錆、高取焼、宗七焼の作風等が見られ、窯印には覇山と銘が捺されている。「浪手焼」とされる釉に亀裂を入れる独自の技法が知られる。また、素焼人形等に焼成前に鉱物系の色材で彩色して焼成で焼き付ける「中ノ子焼」の技法も伝承している。市兵衛の窯場は祇園町の他に野間血山、雑餉隈、平尾又は高宮などにもあつた。勝美以前のどの世代から「覇台焼」を称していたか明確ではない。  | 筑紫1938九州陶磁<br>梅林新市 1976 稿本古博多人形史<br>『博多人形沿革史』博多人形沿革史編集委員会2001<br>山村信榮氏聞き取り調査  |
| 素焼人形・人形型・火鉢・七輪・窯道具・玩具(ままごと、おはじき、箱庭道具)、土鈴  | 博多遺跡群213次調査(中ノ子工房跡)において、1面目で江戸時代末～明治初期にかけての窯跡7基を検出。江戸後期から明治初期に位置付けられ、ロスト倒炎式の小型窯と空吹き窯の2種があつたと考えられる。ロスト窯は薪の他石炭が使用された。中ノ子以外の他工房の窯は焼成が容易な空吹き窯が採用された。 |                                   | 中ノ子家 文化5年(1808)～   | 福岡市博多区産の土人形。江戸後期に宗七焼の四代正木宗七、中ノ子吉兵衛らが始めた。(日本陶磁大辞典)<br>山村信榮は博多人形の始原について宗七焼より伏見人形と関わりを指摘している。(山村1988)人形師の師承関係の系統から宗七焼は博多人形との繋がりがなく、博多人形はほぼ中ノ子系統と白水系統からなる。白水家は細工師の技術系統で、江戸期に博多祇園山笠を製作していた小堀家系の技術を継承する。慶応2年(1866)の段階で博多市中で23件の素焼人形師がいた。江戸期に同業者組織があつたか不明だが、明治7年(1874)に組合が組織された(嘉永3年(1850)の別説あり)。<br>江戸期まで原土は花崗岩風化土の褐色系粘土と第4紀のローム層の青い粘土(妻野土＝八女ローム)の2種が使用され、大正末期以降に七隈、田島の花崗岩風化土の白色系粘土が主流になった。江戸期の中ノ子家の土型の一部が「博多人形祖型」として福岡県の有形民俗文化財に指定されている。<br>原土のうち、白土は野間土・七隈土。黒土は雑餉隈付近の小松原土ほか(北村)<br>商工省「全国工場通覧」には小島人形工場(明治33年(1900)5月開業)と博多人形製作工場(大正6年(1917)6月開業)が掲載される                           | 日本陶磁大辞典<br>山村1988<br>博多人形沿革史<br>工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929<br>全国工場通覧<br>梅林新市 1976 稿本古博多人形史<br>山村1993近世都市における窯業生産(福岡・博多のケースについて)はかた第6号<br>『博多人形沿革史』博多人形沿革史編集委員会2001<br>博多192 2023 福岡市教育委員会 |
| 磁器<br>皿・碗・鉢・壺・瓶・水指・風炉・水注・香炉・花生・蓋・神佛具・置物・窯道具(トンバイ・ハマ・トテン)                            | 本窯(41室)、新窯(明治期)、試験窯<br>建物跡<br>土坑<br>大橋2010では窯2基 焼成室31<br>※筑前国統風土記拾遺の文政年間血山の様子では、登窯2基、焼成室22、13  | 本窯、新窯、試験窯<br>本窯<br>長さ100m<br>幅10m | 宝暦(1751～1764)～明治35年(1902)<br>※宝暦8年(1758)・宝暦14年(1764)の説もあり(高山1991・1992)<br>久我記念館2003では宝暦14年(1764)窯築 | 寺社司の下吏、新藤安平が須恵村金山開掘で白土発見する。焼き物に詳しいものを肥前南河原山で指導を受けさせ、始まる。<br>享和元年(1801)～文政12年(1829)に血山奉行所設置。<br>文政12年～安政末(1860)年には民窯へ移行するが、安政年(1860)～明治3年(1870)には再度、血山奉行所設置する。その後、井上伊作・松永吉蔵・金森嘉助により引き継がれる。明治20年(1887)には株式会社組織され、金錆焼を製作する。(高山1991・1992)<br>明治30年(1897)頃数年の間、朝倉郡甘木の玉ノ井藩一御、藩窯を再興し金錆焼の雑器を製造して居る。(筑紫1938)<br>慶應3年(1867)3月24日「七脚在西日誌」東京世通請に「乗馬、午後、須恵は血山陶所見物。宇美社参拝し憩う。暮夜帰す。所々藤花盛開。」(伊東尾四郎編)<br>文化初年には窯41、水碓65を設ける。<br>筑前国統風土記附録(平岡本)須恵血山陶器所の図によると、本窯、試験窯、陶器所のほかに新小屋、水碓施設、瓦葺建物(製品を保管する蔵と想定される)、一宇一石塔(創始者新藤安平の50回忌を供養して孫が建立)、その他建物(付属施設や工人の住居)等が描かれている<br>須恵町教育委員会にて遺物を保管<br>陶土は地元と天草石 | 大橋2010東洋陶磁 第39号<br>原色陶器大辞典<br>高山慶太郎1991ふるさと自然と歴史 227<br>高山1992福岡県地域史研究 第10号<br>須恵町誌<br>須恵町第9集<br>塩田1922日本近世窯業史<br>筑紫1938九州陶磁<br>福岡県史料第3輯「五脚在筑資料」<br>久我記念館2003筑前の磁器須恵焼資料集2003        |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称      | 読み         | 市町村名 | 所在地                | 現況         | 旧藩名 | 経営        | 調査歴  | 焼物名          |
|----|---------|------------|------|--------------------|------------|-----|-----------|--|--------------|
| 30 | 役所畑新窯跡  | やくしょばた     | 須恵町  | 糟屋郡須恵町大字上須恵字東原(皿山) | 山林         | 福岡  | 藩窯        | 未調査  | 須恵焼<br>〔金錆焼〕 |
| 31 | 宇美障子岳窯跡 | うみしょうじだけ   | 宇美町  | 糟屋郡宇美町障子岳2丁目       | 山林         | 福岡  | 民窯        | 昭和56年(1981)に、遺物(須恵焼の破片)が表採され、聞き取り調査等により、窯跡があると推測された。平成30(2018)年1月に現地踏査を行い、須恵焼の破片と窯跡に伴う遺物を表採した。   | 須恵焼<br>〔金錆焼〕 |
| 32 | 中野上の原窯跡 | なかの かみの はる | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 現地保存       | 福岡  | 藩窯<br>※民窯 | 調査済み<br>1989 小石原村教育委員会<br><第1次>1987. 6.15 ~ 7.18<br><第2次>1989. 9.22 ~ 12.12  | 小石原焼<br>中野焼  |
| 33 | 火口谷窯跡   | ひぐちだに      | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 山林         | 福岡  |           | [1号窯]<br>調査済み<br>小石原村教育委員会<br><試掘>1988. 9. 5 ~ 10. 1<br><調査>1993. 8. 2 ~ 12.21<br>[2号窯]<br>調査済み<br>小石原村教育委員会<br><調査>1995. 9.20 ~ 11.30<br><試掘>1996.10.21~1997.2.24 | 小石原焼         |
| 34 | 大明神窯跡   | だいみょうじん    | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 宅地         | 福岡  |           | 未調査  | 小石原焼         |
| 35 | 旧下組窯跡   | きゅうしもぐみ    | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 倉庫<br>畑地   | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 小石原焼         |
| 36 | 旧上組窯跡   | きゅううえぐみ    | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 窯          | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 小石原焼         |
| 37 | 池の谷窯跡   | いけのたに      | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 宅地         | 福岡  |           | 未調査  |              |
| 38 | 金敷様裏窯跡  | かなしきさまうら   | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 神社<br>山林   | 福岡  | 民窯        | [1・2号窯]未調査<br>[3号窯]調査済み<br>小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27  |              |
| 39 | 一本杉窯跡   | いっぼんすぎ     | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中野(皿山) | 現地保存<br>山林 | 福岡  |           | [1号窯]試掘調査 小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27<br>[2号窯]調査済み 小石原村教育委員会 1994.9.6 ~ 12.19<br>1996.5.31 県史跡指定  | 高取焼系?        |
| 40 | 十文字窯跡   | じゅうもんじ     | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字中山     | 山林         | 福岡  |           | 未調査  |              |
| 41 | 奥畑瓦窯跡   | おくはた       | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字小石原字奥畑     | 山林         | 福岡  | 民窯        | 未調査  | 近代の工業<br>製品? |
| 42 | 釜床窯跡    | かまとこ       | 東峰村  | 朝倉郡東峰村大字鼓          | 現地保存       | 福岡  | 藩窯        | [1号窯]<br>調査済み<br>小石原村教育委員会<br><試掘> 1990.12.14 ~ 1991. 2. 2<br><第1次>1991. 9. 1 ~ 10.14<br>1996.5.31 県史跡指定<br>[2号窯]未調査   | 高取焼          |
| 43 | 鎌研窯跡    | かまとぎ       | 糸島市  | 糸島市二丈深江            |            | 中津  |           | 未調査<br>土地の所有者が発見   |              |

| 製品  | 窯の状況  | 規模・傾斜角度  | 推定年代  | 備考   | 参考文献  |
|---|---|--|---|--|---|
| 磁器  |   |  | 江戸時代  | 窯道具が散布する。<br>平坦地に「役所畑」の地名が残り、隣接地水碓が残る。筑前国続風土記附録(平岡本)須恵血山陶器所の図では「平原陶瓦」と記載。隣接する村山家は「新窯」の屋号を持つ。   | 須恵町第9集  |
| 磁器・燈明皿・金錆焼(仏花器)など   |   |  | 明治期   | 標高約80mの丘陵裾に位置する。昭和56年5月に宇美町立歴史民俗資料館が遺物表採・聞き取り調査を行う。表採遺物は、明治期と考えられる須恵焼(金錆焼)であり、須恵焼血山窯跡と関連が深いと考えられる。<br>採集品は、宇美町立歴史民俗資料館にて保管。  | 須恵町誌<br>須恵町立歴史民俗資料館1981<br>新修宇美町誌   |
| 陶器・半磁器・磁器<br>碗・鉢・皿・壺・甕・瓶・水指・風炉・水注・香炉・仏飯具・播鉢・陶管・火入れ・合子・手捏ね製品・ひょうそく・筆立て・壺・花入れ・窯道具(トッチミ・チャツ・ダンゴ・焼成台・シノハマ・サヤ鉢・トンバイ)               | 階段状連房式登窯<br>焼成室10(3・5・10室と3回増築) 礎石あり(窯の上の屋根を作る)                               | 残存長38.7m<br>幅3.9~4.8m<br>幅4~4.5m<br>12度                                  | 天和2年(1682)~享保7年(1722)<br>1736年頃に再興された記述あり『筑前国続風土記附録』(大橋2010)                              | 藩主黒田光之が天和2年(1682)に肥前伊万里から陶工を呼ぶ。小石原焼草創期の窯。享保7(1722)年銘の最後に焼かれた土管類あり。<br>考古地磁気年代法では1680~1750年代の結果が出る。<br>※『近国焼物山大概書上帳』で小石原血山の記載あり(大橋2010)。どの窯が該当するかは不明。<br>東峰村教育委員会にて遺物を保管<br>泉山の陶石を使用※蛍光X線分析による  | 筑前国続風土記<br>児玉1993東洋陶磁 第20・21号<br>小石原村第1集<br>小石原村第3集<br>小石原村第5集<br>東峰村第5集<br>大橋2010『近国焼物山大概書上帳』<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集 |
| [1号窯]<br>陶器・磁器<br>碗・皿・鉢・植木鉢・徳利・片口・播鉢・瓶・火入・灯火具・仏飯器・壺・水滴・陶管・窯道具(チャツ・ハマ・ダゴ・トッチミ・火唐・トンバイ)<br>[2号窯]<br>陶器・磁器<br>碗・皿・火入・窯道具(ハマ・チャツ) | 窯2基<br>[1号窯]<br>階段状連房式登窯<br>焼成室10<br>上屋柱穴20<br>排水溝<br>[2号窯]<br>焼成室1のみ残存       | [1号窯]<br>全長約42m<br>幅2.85~4.9m<br>11度<br>[2号窯]<br>残存長2.6m<br>幅2.6m<br>10度 | [1号窯]18世紀前半~18世紀中頃<br>[2号窯]1号窯よりわずかに先行するが。  | [1号窯]<br>中野上の原窯に少し遅れてつくられるか。<br>[2号窯]<br>昭和30年頃に掘られた目砂採りにより、窯の大半は削平される。<br>東峰村教育委員会にて遺物を保管   | 小石原村第2集<br>小石原村第4集<br>東峰村第5集  |
| 窯道具(トチン)  |   |  | 19世紀代か  | 窯は天井が低く、腰をかめてしかは入れない。横壁・天井にトンバイ使用。クサビ形のトンバイや磁器があったようである。個人宅地内にあったが、現在は確認できない。  | 小石原村誌<br>小石原村第3集<br>東峰村第5集  |
|   |   |  | 昭和36年(1961)まで操業   | 現在は壊され、畑になる。4窯元の共同窯であった。<br>昭和36年まで操業した共同窯   | 小石原村誌<br>東峰村第5集   |
|   |   |  | 昭和32(1957)年まで操業   | 廃窯後に新しく築窯されている。4窯元の共同窯であった。<br>昭和32年まで操業した共同窯  | 小石原村誌<br>東峰村第5集   |
| 染付?   |   |  | 18世紀前半か   | 平成6(1994)年6月に合併浄化槽建設中に大量の陶片が出土する。現在の宅地部分に窯があったか。出土品には染付けがあり、上の原窯と同時期か。   | 小石原村誌<br>東峰村第5集   |
| [3号窯]<br>碗・皿・鉢・徳利・窯道具(ハマ・トッチミ・トンバイ・火唐)  | 窯3基<br>[3号窯]焼成室4  | [3号窯]<br>全長約15m<br>幅2.6~3.4m   | [1・2号窯]18世紀後半~19世紀代か<br>[3号窯]18世紀中~後半に開始か。  | [1・2号窯]<br>金数様裏1・2号窯周辺で19世紀以降の徳利を表採。物原・窯本体もかなり破壊されている。<br>[3号窯]<br>中野上の原窯跡より古い時期か。<br>18世紀代の皿・鉢類の窯<br>東峰村教育委員会にて遺物を保管  | 小石原村第3集<br>小石原村第4集<br>東峰村第5集  |
| [1号窯]<br>播鉢・捏鉢・壺・甕・水盤・団子状目・窯道具(トッチミ・トンバイ)<br>[2号窯]<br>水指・片口・小壺・捏鉢・水盤・播鉢・壺がある。窯道具(トッチミ・チャツ・クサビ形焼成台)                            | 窯2基<br>[1号窯]<br>胴木間と焼成室4<br>[2号窯]<br>階段状連房式登窯<br>胴木間と焼成室6<br>排水溝<br>柱穴        | [1号窯]<br>残存長13m<br>幅2.4~2.6m<br>[2号窯]<br>残存長20m<br>幅2.4~3.6m<br>10度      | [1号窯]17世紀後半<br>[2号窯]寛文9年(1669)~   | [1号窯]<br>奥壁だけにトンバイを使用し、天井・壁を粘土で構築する。他の窯跡とは異なる陶土を使用か。窯幅が狭く、奥壁にだけトンバイを使用することから中野上の原窯跡より古い窯跡か。<br>[2号窯]<br>トンバイを奥壁のみ使用し、天井・壁を粘土で構築する。肥前の影響がなく、高取焼の系譜を受け継いだものか。『高取歴史記録』による「寛文9年(1669)に小石原村の中野と云う所に新血山が出来しより、高取八之丞が移り住む」に該当する窯か。<br>奥壁での考古地磁気年代法では1680±30年代の結果が出ている。<br>東峰村教育委員会にて遺物を保管                               | 小石原村第4集<br>小石原村第7集<br>東峰村第5集<br>小石原村誌   |
|   |   |  | 18世紀中頃~後半   | 梨畑にあり。梨園造成中に陶片を表採するが、窯本体については不明。   | 小石原村誌<br>小石原村第3集<br>東峰村第5集  |
|   |   |  | 明治?   | 陶器瓦の窯跡。  | 小石原村誌<br>東峰村第5集   |
| [1号窯]<br>陶器・磁器<br>茶入・蓋・蓋置・水指・碗・皿・鉢・香炉・水盤・花入・窯道具(サヤ・トンバイ・焼成台・トンバイ)   | 窯2基<br>[1号窯]<br>窯3か所? 焼成室5以上<br>階段状連房式登窯<br>焼成室6以上<br>上屋柱穴左右に6~7<br>排水溝<br>土坑 | [1号窯]<br>残存長11m<br>残存幅1.9~2.6m<br>11度<br>[2号窯]<br>不明                     | [1号窯]<br>開始は寛文5年(1665)・寛文7年(1667)か。閉窯は元禄17年(1704)。17世紀後半~18世紀初頭<br>[2号窯]<br>天保6年(1835)~明治 | [1号窯]<br>次男八蔵貞明(2代目)が白旗山窯より移って活動する。戦前、高取家が木材搬出路を掘削した際に窯跡を確認する。多量の陶器片とレンガを採集。<br>考古地磁気年代法によると最終焼成は1710±30年という結果がでる。<br>[2号窯]<br>八郎常保が天保6年に認可を願い出したものと思われ、19世紀中頃と推定される窯。現状では確認できないが、長さ20m、幅6mの平坦な場所を確認する。東側斜面からは陶器片が散乱する。現在は昭和43年(1968)に白旗山から移築された高取八山と志らと、12代の墓になる。<br>窯跡周辺には天照太神宮や高取家累代墓地がある。<br>東峰村教育委員会にて遺物を保管 | 福岡県史<br>高取家文書<br>小石原村誌<br>小石原村第3集<br>小石原村第5集<br>東峰村第5集  |
| 磁器<br>碗・窯道具(ハマ・タコハマ・トチン)  |   |  | 出土遺物から19世紀代   | 糸島地方唯一、磁器を焼いた窯跡。土地の所有者が発見する。   | 二丈町誌平成版   |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称      | 読み         | 市町村名 | 所在地        | 現況  | 旧藩名            | 経営  | 調査歴 | 焼物名  |
|----|---------|------------|------|------------|-----|----------------|-----|-----|------|
| 44 | 日明窯跡    | ひあけ        | 糸島市  | 糸島市大字飯原    |     | 唐津<br>幕府<br>中津 |     | 未調査 |      |
| 45 | 雷山窯跡    | らいざん       | 糸島市  | 糸島市        |     | 福岡             |     | 未調査 |      |
| 46 | 三並ヒエデ窯跡 | みなみひえで     | 筑前町  | 朝倉郡筑前町大字三並 | 宅地  | 秋月             | 民窯? | 未調査 |      |
| 47 | 浄満寺窯跡   | じょうまんじ     | 朝倉市  | 朝倉市長谷山     | 山林  | 秋月             | 藩窯  | 採集  |      |
| 48 | 野鳥窯跡    | のとり        | 朝倉市  | 朝倉市秋月野鳥    | 山林  | 秋月             | 藩窯  | 採集  |      |
| 49 | 石崎焼     | いしざき       | 筑紫野市 | 筑紫野市石崎     | 未特定 | 福岡             | 民窯  | 未調査 |      |
| 50 | 糟尾焼     | かすお        | 不明   |            | 未特定 |                |     | 未調査 |      |
| 51 | 津屋崎人形   | つやざきにんぎょう  | 福津市  | 福津市        | 宅地  | 福岡             | 民窯  | 未調査 |      |
| 52 | 宰府 瓦    | さいふ かわら    | 太宰府市 | 太宰府市五条1丁目  | 民家  | 福岡             | 民窯  | 未調査 |      |
| 53 | 今宿人形    | いまじゆくにんぎょう | 福岡市  | 福岡市西区今宿1丁目 | ビル  | 福岡             | 民窯  | 未調査 | 今宿人形 |

筑後

|   |            |            |      |                   |    |     |             |  |           |
|---|------------|------------|------|-------------------|----|-----|-------------|--|-----------|
| 1 | 一の瀬[朝田]窯跡  | いちのせ[あさだ]  | うきは市 | うきは市朝田橋           | 山林 | 久留米 | 民窯          | 採集   | 一の瀬焼(朝田焼) |
| 2 | 柳原焼窯跡      | やなぎはら      | 久留米市 | 久留米市篠山町(久留米城内三の丸) | 工場 | 久留米 | お楽しみ窯・藩窯    | 未調査  | 柳原焼       |
| 3 | 朝妻焼窯跡      | あさづま       | 久留米市 | 久留米市合川町           | 山林 | 久留米 | 藩窯          | 調査済み<br>久留米市教育委員会<br>(第1次)1992.1月下旬 ~ 3月<br>(第2次)2015. 2.12 ~ 3.31 | 朝妻焼       |
| 4 | 東野亭[野中]焼窯跡 | とうやてい[のなか] | 久留米市 | 久留米市野中町           | 消滅 | 久留米 | お楽しみ窯・藩窯・民窯 | 調査済み<br>久留米市教育委員会 1998.10.14 ~ 12.28                               | 東野亭(野中焼)  |
| 5 | 十三部焼窯跡     | じゅうさんぶ     | 久留米市 | 久留米市合川町十三部        | 消滅 | 久留米 | 民窯          | 2011年度に旧従業員の聞き取り調査を実施(未報告)   | 十三部焼      |

| 製品                 | 窯の状況         | 規模・傾斜角度 | 推定年代               | 備考   | 参考文献                                       |
|--------------------|--------------|---------|--------------------|--|--|
|                    |              |         |                    | 糸島郡雷山に開窯の記述あり。<br>糸島郡誌では長糸村の中に雉子琴神社の側に、製陶所址の記載あり。  | 船木長造1933大日本窯業協会雑誌 41巻490号<br>糸島郡誌          |
|                    |              |         |                    | 雷山に於て製陶した事ありと、記載する。<br>糸島郡雷山に開窯の記述あり。(船木1933)  | 中山1915考古学雑誌 5-6<br>船木1933大日本窯業協会雑誌 41巻490号 |
|                    |              |         | 19世紀               | 窯道具のみ確認  | 伊崎俊秋1999甘木歴史資料館報 第1集                       |
| 陶器 トチン・ハマ          | 登窯?<br>3室以上か |         | 18世紀中葉～18世紀後半      | レンガ状の壁体が見いだせる。現地踏査では、尾根の頂上付近に長さ約14m、幅約3mの範囲で窯跡を確認した。周辺は削平を受けていて、露出した土層断面から厚さ約0.5m床面が、階段状に見える。南側の斜面からは遺物が点在する。  | 望春随筆<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集            |
|                    |              |         | 18世紀後半～19世紀初めか     | 旧八丁峠にいたる旧道沿いにあり、窯は完全に埋没し、僅かに壁体がのぞける。副島邦弘による平成18年(2006)の現地踏査や今回の調査でも窯自体は確認できない。   | 望春随筆<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集            |
|                    |              |         | 明治                 | 明治18年(1885)の調査によれば、御笠郡石崎村にも陶窯あり。土器及び瓦等に涉りては、更に窯場も少なからざるべし。殊に明治末年には、此地方の瓦は全く石炭焼成となれるを見る。(塩田1922)  | 横河1935日本諸国窯一覽<br>塩田1922日本近世窯業史             |
|                    |              |         |                    | 筑前国(福岡県)に産するやきもの。詳細不明。(陶磁用語辞典)   | 横河1935日本諸国窯一覽<br>陶磁用語辞典                    |
| 土人形                |              |         | 明和～安永年間(1764～1781) | 江戸後期の明和～安永年間に始まったとされる。博多土人形と同系の土人形。最初は火鉢や甕などをつくっていたが、人形や動物などを製作するようになった。原田家の人形型(通称加藤清正像)に安政6年(1859)4月の銘がある(津屋崎町史)  | 福岡県百科事典<br>津屋崎町史通史編                        |
| 瓦                  |              | ダルマ型瓦窯  | 江戸～昭和34年(1959)まで   | 中世宰府「六座」のうち金屋(鑄造)の平井家が瓦を製造。平井家の瓦生産は平安時代に遡る。江戸期は太宰府天満宮の管絃で瓦を供給している。江戸後期には博多瓦町の瓦師の山崎家系統の「忠七」が宰府で操業し、親世音寺に供給している。平井家は昭和34年に親世音寺宝蔵の屋瓦を一括して生産したのを最後に廃業した。瓦製作道具一式は太宰府市指定文化財。   | 太宰府市広報2023.9月号                             |
| 土人形<br>節句人形、面、おはじき |              | 空吹き窯    | 平成まで               | 「九州では博多人形が津屋崎を成立させたが、さらに明治になって今宿(福岡市)、弓野(佐賀県武雄市)を派生させた」(石沢1984)<br>明治末頃に初代大橋清助が明治38年(1905)に福岡市西公園の「みつや」から型を買い受けて博多中ノ千系の節句人形を中心に製作を開始。昭和に入り茂雄が家業を継ぎ、一時生産を縮小したが平成の初め頃まで製作を続け廃業。姪の佐藤由美子氏が平成に復興し今に至る。清助の工房の至近には江戸期以来の「今宿瓦」の生産工房(博多の瓦師正木家の傍系工房)が複数あった。「今宿三右衛門」銘瓦は福岡城跡でも出土している。窯業起業の背景に連関する可能性はある。 | 石沢1984<br>※山村聞き取り調査を加味                     |

|   |  |                                 |   |  |   |
|---|--|---------------------------------|---|--|---|
| 磁器・陶磁器<br>茶碗・皿・徳利・瓶・壺・火鉢<br>など  | 46年前にはすでに消失<br>2基の内1基現存か<br>階段状連房式登窯<br>焼成室13室 | 口伝では全長50m<br>程度                 | 元和6年(1620)説あり<br>文化元年(1804)～文政12年(1829)<br>天保元年(1830)～短期間<br>安政年間(1854～1860)又は慶応元年<br>(1865)～明治初期 | 祥瑞が朝妻に窯を開き、次に朝田窯を開く。久留米藩御内用錦山方が朝妻焼開窯前に朝田で陶器の試焼を行う(西原家文書)。慶應元年3月[安政年間(1854～1860)とも]朝田村庄屋足立後平の子壽平が再興して製陶したが、同3年9月に消滅した。<br>明治維新後廃窯。昭和34年(1959)に再興して5軒あり。<br>陶土 窯場近く 袖葉 天草  | 浅野陽吉1935筑後陶窯考<br>陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>久留米市368集2016<br>浮羽町史上巻・下巻<br>浮羽郡誌<br>久留米市史13                           |
| 茶陶、碗・水注・花器  | 消滅   | 不明                              | 天保3年(1832)～天保12年(1841)<br>天保年間<br>天保3年より7年まで(陶器大辞典)   | 6代藩主有馬則維が陶工祥瑞を伊万里より招く。<br>昭和9年(1934)に福岡県が設置した標示板について記載あり。(御井町誌)<br>日本諸国窯一覽にも元和2年、「一説に瑞祥五郎大夫この窯で染付を創めたと傳へらる」と記載する。(横河1935)<br>県地誌030253<br>「石原家記」には、有田・伊万里から陶工を招き、朝妻で水唐臼を突いた記事あり。当時は「十三部血山」と呼ばれ、城下町の豪商、山崎屋、戸坂屋資本が実質経営か(旧家由緒書)。血屋・竹屋・田中家が販売権を持つ。(田中家資料)<br>久留米市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 天草産と窯の所在付近の隈山産 | 陶器大辞典<br>浅野1935筑後陶窯考<br>御井町誌<br>横河1935日本諸国窯一覽<br>久留米市誌(下)<br>久留米市史19<br>久留米市368集<br>久留米市368集<br>久留米藩土器司田中家資料1979<br>久留米市史13 |
| 陶器・磁器(色絵磁器)<br>皿・蓋付碗・瓶・猪口・鉢・香<br>炉窯道具(トチン・ハマ・チャ<br>ツ・ナンキン・サヤ鉢・チャ<br>ニ・シノ)   | 階段状連房式登窯<br>焼成室3(推定9室)・物原<br>排水溝               | 推定長40m                          | 正徳元年(1711)又は同4年(1714)～<br>享保10年(1725)又は同13年(1728)<br>(元和2年(1616)説あり;御井町誌、陶<br>器大辞典)               | 11代藩主有馬頼威が赤坂焼の緒方宗市に命じて作させたお楽しみ窯。藩の収入強化のため成産方の管理となり、日用雑器を中心に製作するが、磁器も少量製作する。廃藩後、民間会社に引き継がれるが長くは続かなかつた。<br>久留米市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 うきは市田籠(旧姫治村)妹川谷?   | 浅野1935筑後陶窯考<br>久留米市第150・404集<br>原色陶器大辞典<br>久留米市史13  |
| 陶器・磁器<br>急須・土瓶・湯罐(とうかん)・<br>行平鍋・水注・銚子・燗徳利<br>碗・皿・壺・鉢・火入れ・灯火<br>具・播鉢・片口鉢・大鉢・瓶・<br>壺・壺・植木鉢・籠・鉢型・そ<br>の他、窯道具(輪トチン・ダン<br>ゴ・逆台形ハマ・蓋・ハマ・足<br>付ハマ・環状焼台・冠状焼<br>台・ツク・匣鉢・支脚・焼台・<br>支柱・トンバイ) | 階段状連房式登窯<br>焼成室2～3(4～5室以上)<br>胴木間・物原           | 全長15.8m以上<br>最大幅5m<br>16度       | 慶應元年(1865)～明治8年(1875)   | 11代藩主有馬頼威が緒方宗市に命じて作させたお楽しみ窯。藩の収入強化のため成産方の管理となり、日用雑器を中心に製作するが、磁器も少量製作する。赤坂焼の緒方宗市が陶業に従事する。廃藩後、民間会社に引き継がれるが長くは続かなかつた。<br>久留米市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 うきは市田籠(旧姫治村)妹川谷   | 浅野1935筑後陶窯考<br>久留米市第150・404集<br>原色陶器大辞典<br>久留米市史13  |
| 食器・茶器・植木鉢・便器・土<br>管・火鉢・七輪等  | 階段状連房式登窯6室                                     | 焚口は幅1尺、高さ1<br>尺5寸、各室は2～3<br>間は幅 | 明治32年(1899)～昭和50年(1975)10<br>月  | 豊田信吉が開く。<br>日常雑器を焼き近來では茶器も製出。高取焼に似る傾向がある(原色陶器大辞典)。火鉢や七輪から始まり、小鹿田の職人が参加。「朝妻」角印、「大辻」橋印を押印(証言)。豊田経営の合川町の十三部焼が64年の歴史を閉じる(西日本新聞)<br>陶土 久留米市合川町の福聚寺門前の水田   | 浅野1935筑後陶窯考<br>原色陶器大辞典<br>久留米市史第6巻年表編   |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称          | 読み            | 市町村名 | 所在地                | 現況       | 旧藩名 | 経営    | 調査歴  | 焼物名       |
|----|-------------|---------------|------|--------------------|----------|-----|-------|--|-----------|
| 6  | 日渡焼窯跡       | ひわたり<br>ひわたし? | 久留米市 | 久留米市国分町日渡          | 未特定      | 久留米 | 民窯    | 未調査  | 日渡焼       |
| 7  | 青木焼窯跡       | あおき           | 久留米市 | 久留米市通外町上口屋         | 未特定      | 久留米 | 民窯    | 未調査  | 青木焼       |
| 8  | 久留米焼        | くるめ           | 久留米市 | 久留米近辺              | 未特定      | 久留米 | 民窯    | 未調査  | 久留米焼      |
| 9  | 田川焼窯跡       | たがわ           | 久留米市 | 久留米市三瀬町田川          | 未特定      | 久留米 | 民窯    | 採集   | 田川焼       |
| 10 | 川瀬焼         | かわぜやき         | 広川町  | 八女郡広川町大字広川         | 宅地       | 久留米 | 民窯    | 未調査  | 川瀬焼       |
| 11 | 坂東寺焼窯跡[熊野焼] | ばんどうじ(くまの)    | 筑後市  | 筑後市大字熊野            | 宅地       | 久留米 | 藩窯    | 採集   | 坂東寺焼(熊野焼) |
| 12 | 赤坂焼[三原]窯跡   | あかさか[みはら]     | 筑後市  | 筑後市蔵数字赤坂赤坂神社(三原窯跡) | 神社<br>宅地 | 久留米 | 藩窯    | 採集   | 赤坂焼       |
| 13 | 水田焼窯跡       | みずた           | 筑後市  | 筑後市大字水田            | 宅地       | 久留米 | 藩窯    | 採集   | 水田焼       |
| 14 | 野町焼窯跡       | のまち           | 筑後市  | 筑後市大字野町            | 継続       | 久留米 | 藩窯    | 採集   | 水田焼       |
| 15 | 本星野焼窯跡      | ほんほしの         | 八女市  | 八女市星野村大字本星野        | 畑地       | 久留米 | 藩窯→民窯 | 未調査  | 星野焼       |
| 16 | 星野十籠焼窯跡     | ほしのじゅうごもり     | 八女市  | 八女市星野村麻生・十籠        | 畑地<br>道路 | 久留米 | 藩窯    | 採集<br>「星野焼灯笼 一对」1994.12.22 村指定有形文化財(工芸品)→市指定 | 星野焼       |
| 17 | 田の原焼        | たのはら          | 八女市  | 八女市星野村田の原          | 未特定      | 久留米 |       | 未調査  | 田の原焼      |
| 18 | 今村焼窯跡       | いまむら          | 八女市  | 八女市黒木町今            | 未特定      | 久留米 | 民窯    | 採集   | 今村焼       |

| 製品                      | 窯の状況             | 規模・傾斜角度 | 推定年代  | 備考  | 参考文献  |
|-------------------------|------------------|---------|---|---|---|
|                         |                  |         | 明治25年(1892)～ 不明   | 水田焼近藤氏が開く。(浅野1935)<br>明治25年頃水田焼の陶工近藤某が築窯して製陶したものである。(陶器大辞典)   | 浅野1935筑後陶器考<br>陶器大辞典<br>原色陶器大辞典   |
|                         |                  |         | 明治10～20年(1877～1887)頃                                    | 青木喜四郎、紺屋嘉七らが作る。青木家の窯で焼いたが、思ったものができず、赤坂窯に依頼して二度焼する。二度焼のため、釉は変化し、器の多くが歪んでいる。<br>陶土 久留米東郊外の正源寺山  | 浅野1935筑後陶器考<br>陶器大辞典<br>原色陶器大辞典   |
|                         |                  |         | 万延元年(1860)～ 不明  | 万延年間筑後久留米町の傍に於て藩主の命に因て開窯す。(好陶会1918)<br>久留米近辺に藩主の命令で開窯。朝鮮御本および瀬瀬戸・黒瀬戸を模した。   | 好陶会編1918陶器<br>原色陶器大辞典<br>横河1935日本諸国窯一覧  |
| 風炉・火鉢・水甕                |                  |         | 江戸中期?   | 「三浦郡田川村の産風爐、火鉢、水甕等の製大に民用に利あり」と筑後志(安永6年)に記載あり。<br>昭和51年(1976)頃町道側改修時に素焼き水甕・風炉の破片出土・宇田川野屋敷付近に素焼ドンがいたと伝わる。<br>陶土 三浦町田川   | 副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>浅野1976増補筑後陶器考<br>堤1982三浦路今昔  |
| 土管・火鉢・七輪・火消壺・芋焼窯ほか      |                  |         | 明治初期～   | 九鐵福島線沿道に窯あり(筑後陶器考)。<br>起源は詳らかではないが、明治の初めにには窯があったという。地元へ血山(現在の工業団地北側)と呼ばれる場所があり、そこから採土していた。薪を焚く単窯で、土管・火鉢・七輪・火消壺・芋焼窯等を主に製造していた。昭和60年(1985)当時、3業者の工場があった。消費者ニーズの変化から、従来の作品は需要が無くなっていることから、神山窯では電気窯を使用し、花瓶・茶碗・壺などを作陶(焼き締めを基調としているが、釉薬を使う)。宮本窯は、薪を焚く窯で、蘭鉢・風炉等の趣味物を作陶していた。もう一つの窯はオートメ化した工場で、素焼きの植木鉢を生産していた。令和2年(2020)現在も続いているのは、「神山窯」のみであるが、作陶量は極めて少なくなっている。<br>陶土 血山(現在の広川工業団地北側、丘陵北側) | 浅野1935筑後陶器考   |
| 酒器・爐具・茶器・花瓶・火鉢・瓦・手焙     |                  |         | 元和9年(1623)～明治維新まで                                       | 窯元は田中家(俗にドケ屋)と呼ぶ、風爐前土器との記載あり。家永彦三郎方親の次男藤兵衛方次が、田中五郎左衛門の養嗣となるので、蒲池焼の支流か。元和9年(1623)3月に田中平兵衛が久留米藩初代藩主有馬豊氏の御用土器師となる。<br>「筑後地鑑」(天和2年:1682)に「……(坂東寺の)東の大門口二、居民アリテ陶ヲ善クス、……」とある。9代藩主の時期の「御旧制調書」に熊野村土器師1人とあり、白米五石・白一人扶持を給されている。   | 陶器大辞典<br>浅野1935筑後陶器考<br>原色陶器大辞典<br>久留米藩土器司田中資料<br>久留米市史13<br>水田の半田土鍋焼<br>久留米市史8                       |
| 食器・土鍋・植木鉢・土管等・赤坂人形      |                  |         | 文政7(1824)年～ 三原富次<br>文化9年(1812)～昭和初期まで続く                 | 文化9年(1812)、水田窯の次郎吉が窯を開くが、その後文政7年に三原富次が再興する。文政10(1827)年には久留米藩御用焼立役となる。<br>文政11年(1828)の頃、筑後赤坂焼の陶工が、肥前国田代の代官より招かれ、同所瓜生野血山を創設。また、肥後国正代村の瀬上某に類まれて正代焼を創始する、とされる(筑後市1977)が、対馬藩田代領においては「文政9年(1826)に、代官吉川弾九郎は血山仕法を計画し、焼物師・陶工・絵師などの手配をおこない、血山仕法を実施した。・文政12年(1829)ごろに事業は打ち切られている。」(p469-470)とあるのみで、そこに赤坂焼の陶工は出てこない(烏栖市1973)<br>陶土 赤坂原池 釉薬 天草   | 浅野1935筑後陶器考<br>九州陶磁文化館1992福岡の陶磁<br>筑後赤坂焼<br>久留米市史13   |
| 甕・鉢・土管・土鍋・水田人形・半田土鍋・水田瓦 |                  |         | 伝・天正年間(1573～1592)                                       | 「筑後地鑑」(天和2年:1682)の下妻郡水田村天原山天満宮の記述として「……土師ノ流アリテ陶ヲ善クシ、半田土鍋ヲ作ル、……」とある。本田能登より数代経て、安永5年(1776)に有馬御用窯となる。本田武兵衛で分家して近藤姓を名乗り、昭和10年(1935)時点ではその系統の近藤虎蔵家のみが営業する(筑後陶器考)。「御旧制調書」では9代藩主の時代に、水田土鍋師一人 白米五石・白一人扶持を給されている。(久留米市史)水田人形は虎蔵氏の祖父善平の叔父・近藤又一が伏見人形・京人形の製法を体得して始めたという。<br>陶土 水田周辺か  | 浅野1935筑後陶器考<br>原色陶器大辞典<br>水田の半田土鍋焼<br>久留米市史8  |
| 甕・鉢・土鍋・植木鉢・土管・屋根瓦など     |                  |         | 正徳年間(1711～1716)   | 水田の焼物師・近藤源八が正徳年間(1711～1716)に野町の近藤家の養子となり、野町において窯業を始めた。現在は近藤四郎家のみ(「水田の半田土鍋焼」)<br>陶土 伊万里・武雄など(昭和46年記述)  | 浅野1935筑後陶器考<br>水田校区郷土史<br>水田の半田土鍋焼  |
| 陶器片 焼土片                 |                  |         | 享保元年(1716)～宝暦年間<br>明治20年(1887)～明治27年(1894)              | 「山方小物成方格帳」によると、本星野の御用窯が認可されたのは元文2年(1737)である。星野焼の十六葉菊向附六人揃の箱中に享保9年(1724)とあり。本星野にある星野焼は享保元年(1716)～同9年(1724)の間に開窯したと思われる。室山熊野神社の陶製灯籠に元文3年(1738)の紀年あり(星野村史)。「御旧制調書」では9代藩主の頃に、星野陶細工師一人 白三人扶持とある(久留米市史)<br>焼土や陶片があり。明治に肥前血山の職人や小石原陶工池上清一、十籠の陶工森松勢蔵によって焼かれる。   | 浅野1935筑後陶器考<br>陶器大辞典<br>原色陶器大辞典1972<br>星野村史<br>佐々木四十臣2006星野焼<br>久留米市史8                                |
| 茶器類・食器・片口・茶葉壺           | 窯1基 焼成室6(大橋2010) |         | 宝暦年間(1751～1763)～<br>(伝・正徳年間(1711～1716)～)<br>※16世紀末～19世紀 | 宝暦年間(1751～1763)の初頭に窯が本星野から十籠へ移った。陶工の良八は久留米藩9代藩主有馬頼徳の御庭焼(柳原焼)の窯にも陶工として召し出されている。この窯で作陶していた森松安次・勢蔵父子が明治6年(1873)に黒木に移住して今村焼をおこすが、のちに勢蔵は再び十籠や本星野でも窯を築いていたが、明治27年には窯の火が消える(星野村史)。<br>正徳年間に復活し、元文以降個人経営に移る(浅野1935)。約30年前の道路拡幅時に遺物を確認した。今回の現地踏査では、窯は確認できなかったが、物原推定地周辺で焼土片や陶器片を採集した。<br>遺物は八女市教育委員会にて保管  | 浅野1935筑後陶器考<br>大橋2010東洋陶磁 第39号<br>原色陶器大辞典<br>星野村史<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>佐々木2006星野焼<br>久留米市史13 |
| 壺・瓶・瓦・小物                |                  |         | 大正年間、短期間操業  | 石川市蔵開窯。瓦を中心とするが、粘土の質が悪く短期間のみ  | 星野村史産業編   |
| 葉茶壺                     |                  |         | 明治6年～明治13年(7年間ほど)<br>19世紀(副島1997)                       | 十籠の星野焼で作陶していた森松安次・勢蔵父子が明治6年に黒木(豊岡村)に移住して今村焼をおこす(星野村史)。カメヤキダニ地名あり。星野焼系統か。初めは隣村の豊岡村で製陶していたが、のちにこの地に移築。作品陶技については明らかではない。(陶磁用語辞典)<br>陶土 豊焼谷の続く豊岡の山の根  | 浅野1935筑後陶器考<br>黒木町史<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>陶磁用語辞典<br>佐々木2006<br>久留米市史13             |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称           | 読み             | 市町村名 | 所在地              | 現況       | 旧藩名 | 経営       | 調査歴                       | 焼物名     |
|----|--------------|----------------|------|------------------|----------|-----|----------|---------------------------|---------|
| 19 | 釈形焼窯跡        | しゃかた<br>※しゃくがた | 八女市  | 八女市黒木町笠原字釈形      | 山林       | 久留米 | 藩窯       | 採集<br>昭和9年(1934) 浅野陽吉窯跡見学 | 釈形焼     |
| 20 | 鹿子生焼窯跡       | かこお            | 八女市  | 八女市黒木町鹿子生        | 消滅       | 柳河  | 民窯       | 採集                        | 鹿子生焼    |
| 21 | 池の本焼窯跡       | いけのもと          | 八女市  | 八女市黒木町木屋         | 山林       | 柳河  | 藩窯       | 採集                        | 池の本焼    |
| 22 | 男ノ子焼窯跡       | おのこ            | 八女市  | 八女市立花町北山男ノ子      | 山林       | 柳河  | 民窯<br>藩窯 | 採集                        | 男ノ子焼    |
| 23 | 浜口〔小保〕焼      | はまぐち〔おぼ〕       | 大川市  | 大川市小保            |          | 柳河  | 藩窯       |                           | 浜口(小保)焼 |
| 24 | 蒲池〔柳河〕焼窯跡    | かまち〔やながわ〕      | 柳川市  | 柳川市蒲池            | 水田<br>宅地 | 柳河  | 藩窯       | 採集                        | 蒲池(柳河)焼 |
| 25 | 二川〔後田〕焼窯跡    | ふたがわ〔うしろだ〕     | みやま市 | みやま市高田町大字下楠田、上楠田 | 山林       | 柳河  | 民窯       | 採集<br>未調査                 | 二川焼     |
| 26 | ハカツクラ〔姥ヶ楼〕窯跡 | はかつくら〔うばがふところ〕 | みやま市 | みやま市高田町上楠田字垣田    | 未特定      | 柳河  |          | 田中儀三郎による調査<br>採集          |         |
| 27 | 伏部焼窯跡        | ふすべ            | 大牟田市 | 大牟田市伏部           | 未特定      | 柳河  |          | 未調査                       |         |
| 28 | 黒崎焼窯跡        | くろさき           | 大牟田市 | 大牟田市岬字黒崎         | 山林       | 柳河  | 民窯       | 採集                        |         |
| 29 | 赤石焼          | あかいし           |      |                  |          |     |          | 未調査                       |         |
| 30 | 鶴東焼          |                |      |                  |          |     |          | 未調査                       |         |
| 31 | 縄山〔水縄〕焼      |                |      |                  |          |     |          | 未調査                       |         |
| 32 | 建山焼          |                |      |                  |          |     |          | 未調査                       |         |

豊前

|   |       |             |      |                                 |      |    |           |  |          |
|---|-------|-------------|------|---------------------------------|------|----|-----------|--|----------|
| 1 | 菜園場窯跡 | さえんば(さいえんば) | 北九州市 | 北九州市小倉北区菜園場2丁目                  | 移設保存 | 小倉 | 藩窯(お楽しみ窯) | 調査済み<br>財団法人北九州市教育文化事業団<br>埋蔵文化財調査室<br>1982.12.9 ~ 1983.9.30<br>1987.5.9県指定有形文化財(考古資料) | 上野焼(小倉焼) |
| 2 | 小倉清水焼 | こくらきよみず     | 北九州市 | 北九州市小倉北区清水皿山<br>※他にも高田2丁目、原町2丁目 | 未特定  | 小倉 | 藩窯        | 未調査  | 上野焼      |

| 製品  | 窯の状況                          | 規模・傾斜角度  | 推定年代   | 備考   | 参考文献   |
|---|-------------------------------|--|--|--|--|
| 甕・壺<br>陶器片、ハマ、焼土片                               |                               |  | 17世紀～18世紀前半頃                                   | 有馬豊氏が元和6年(1620)に久留米に入封した後の寛永年間(1624～1643)の書状に黒木の焼物が出てくる。これが釈形焼の可能性ある。「石原家記」の正徳4年(1714)12月に「釈形焼」の記事あり(星野村史)。個人蔵の茶壺の木製容器箱蓋に元禄11年(1698)銘あり。豊徳殿の墓の東南の傾斜地面の地に、窯は築かれていた。附近に集土や陶具や窯を築いた煉瓦が存在していた。豊徳山から原料白土を採る(陶器大辞典)<br>八女市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 豊徳山   | 浅野1935築後陶器考<br>陶器大辞典<br>黒木町史<br>星野村史<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>佐々木2006<br>久留米市史13                |
| 陶器・磁器<br>食器・茶器・壺・壺・食器・酒器・神佛具など                  | 窯3                            |  | 天保6年(1835)<br>19世紀中頃(副島1997)                   | 長岡鳳鳴が窯を開く。持田山の真下に窯と周囲から焼土・陶片などある。血山地名ある。<br>平成6(1994)年の周辺の圃場整備の試掘調査の折に、民家の石垣にトンバイを使用した痕跡を確認した。<br>今回の現地踏査ではその痕跡は確認できなかった。地元の方の話では、平成24年(2012)九州北部豪雨によって斜面が崩落して無くなった。また地元の方から、周辺の畑で採集したトンバイ片を頂いた。<br>八女市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 持田山から下辺巻へ下る地点  | 浅野1935築後陶器考<br>立花町史<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>陶磁用語辞典                                  |
| 陶器片 焼土片   |                               |  | 17世紀か  | グリーンピア造成時に発見し、久留米の人たち?に調査を依頼し、窯を発掘した。遺物はその時持ち帰った模様。窯跡は残存か。<br>平成6年(1994)頃に窯跡があった場所に、木柱があったが今回の調査では木柱を確認できなかった。<br>八女市教育委員会にて遺物を保管  | 黒木町史   |
| 陶器<br>茶壺・茶壺・茶碗                                  | 直径60cmの穴あり、周囲には焼土・陶片・陶具が散見する。 |  |  | 窯跡は松尾神社西方「カマドコ(窯所)」にある。<br>他にも周辺には壺(瓶)焼・亀(窯)床・白岩・砥石場・崩産(くえがま)・二籠(ふたかま)地名あり。窯跡推定地に山本源太氏が建てた石柱があったが、今回の調査では確認できなかった。   | 浅野1935築後陶器考<br>陶器大辞典<br>立花町史   |
|   |                               |  | 17世紀か  | 立花宗茂が「慶長の役のあと朝鮮より伴った陶工を三浦郡浜口村(大川市小保)において窯を築かせ陶器を焼かせ」たが「間もなく製陶材料が乏しいため妻郡北山村(立花町北山)男ノ子に居を移し、製陶に従事した」という(立花町史上巻)  | 立花町史上巻   |
| 手焙、風炉、火鉢、灰器など                                   | 近年再興の蒲池焼窯西部の水田に干場の地域伝承        |  | 少なくとも慶長9年(1604)～明治40年(1907)頃までには絶える。           | 田中吉政が家永彦三郎を筑後国焼物司役とする。また続く柳川藩より領内焼物司役を許される。  | 浅野1935築後陶器考  |
| 陶器<br>鉢・壺・壺・皿・徳利・蘭鉢・捏鉢・骨壺・鹽壺(しお?)・半胴壺・土管・耐酸瓶・茶器 | 階段状連房式登窯 2基                   | 富重窯:4室残存で19m(さらに7m程、延びる可能性あり)、幅4.2 m、一室内寸で幅2.9m、高さ約2 m<br>角窯:6室は残存で、7室 長さ22.6m(さらに10m以上の平坦地あり)、幅9.4m、入り口部分は幅1m、高さ1.3m 1室高さ2.6～2.8m、幅7.6×3.5m | 明治10年(1877)～昭和19年(1944)に廃絶か                    | 肥前から丑之助が来て始める。肥前弓野から中尾米作が来て、弓野焼の手法を伝え、二川松絵半胴壺の元祖になる。角無五郎氏談による明治頃の二川焼(後田・中尾山・楠田東山・楠田西山・天狗山窯場)についての記載あり。(高田町誌)<br>4か所について記載し、2か所は消滅、残り2ヶ所は現存する。(みやま市第10集)<br>大正8年(1919)の頃に開かれた下楠田字後田の富重窯(とみしががま)の産には銘印を見る。此の窯は小代の陶工葛城と云ふ人を招き焼き始めたものと聞く。(原色陶器大辞典)<br>陶器業として、壺土管を産出し、営業戸数は4戸、としている(三池郡誌1926)<br>浅野1938では、うどん用の捏鉢や木蠟用の蠟皿がおおいに売れたとされる。(浅野1938)<br>みやま市教育委員会にて遺物を保管<br>陶土 上楠田の椎原山の麓、姥ヶ懐付近 | 浅野1935築後陶器考<br>三島格・村松正一1966須恵器の窯址・小代焼と二川焼<br>みやま市史通史編下巻<br>高田町誌<br>みやま市第10集<br>原色陶器大辞典<br>浅野1938九州陶磁 |
| 布目瓦・須恵器壺  | 登窯1基 2～3基                     | 楕円形<br>長さ2丈<br>窯室内5尺余り<br>(上記の規模は浅野1938)<br>12度  |  | 瓦陶兼用窯か。<br>赤味のある硬い素焼きで、布目瓦・壺(原色陶器大辞典)<br>窯は現存せず  | 浅野1935築後陶器考<br>浅野1938九州陶磁<br>高田町誌<br>原色陶器大辞典<br>みやま市資料編上巻  |
|   |                               |  |  | 二川焼に似る。<br>「銀水村伏部にも陶器業を営むものがある」(三池郡誌1926)  | 浅野1935築後陶器考<br>三池郡誌1926  |
| 磁器<br>茶器・食器                                     | 窯1基 焼成室11                     | 推定長さ 5m以上<br>推定幅3.6m以上   | 天明年間(1781～1789)～江戸末期?<br>※天明元～明治元年頃(1781～1868) | 陶器に嘉作銘のものあり。<br>黒崎血山の記述あり。染付を中心とした日常雑器を焼いていた民窯、数基現存する。(浅野1935・大橋2010)<br>窯跡は榎木山カマドコ(窯所)の玉室宮境内にある。(陶器大辞典)<br>陶土 肥前・地元と天草  | 浅野1935築後陶器考<br>大橋2010東洋陶磁 第39号<br>大牟田市第59集<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集<br>陶器大辞典<br>大牟田市史上巻 |
|   |                               |  |  |  | 横河1935日本諸窯一覽   |
|   |                               |  |  |  | 金子文夫1955築後史学 第3号   |
|   |                               |  |  |  | 金子1955築後史学 第3号   |
| 茶器  |                               |  |  |  | 久留米市誌(中)1933   |

|                                 |                               |                          |   |  |   |
|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------|---|--|---|
| 陶器・磁器<br>茶碗・茶入・向付・水盤・灰器、水指・蓋・焼台 | 割竹式登窯<br>焼成室4・焚口<br>煙道<br>排水溝 | 全長約16.6m<br>幅約2m<br>約15度 | 1640年代には建物が作られ削平する。<br>※副島説では慶長7～元和7(1602～21) | 三齋公たのしみ窯とされ(井上1943)、藩主細川忠興が尊楷(喜蔵)を召し、開窯したとされてきたが、藩主忠利時代のもので上野陶工により作られたとの説もある。<br>考古地磁気年代法では1630±25の年代結果が出る。これは窯が閉窯後、1640年代の建物が作られるなど2次的に比熱を受けた可能性により、考古学的な所見と時期が異なる。(北九州市埋文第40集) | 井上圓蔵1943豊前上野焼研究<br>上村佳吉1985開館十周年記念特別展 小倉藩創始 細川家の歴史展<br>北九州市埋文第40集<br>永尾正剛1990『近世近代史論集』<br>永尾正剛2002研究紀要 10<br>原色陶器大辞典<br>副島1997国立歴史民俗博物館研究報告第73集 |
| 陶器<br>鉢壺                        | 平窯                            |                          | 文化年間(1804～1817)～幕末                            | 『豊国名所』に小倉名物三館館の容器が描かれる。小倉藩御膳元の御用窯。<br>清水血山の記載あり。(大橋2010)<br>上野庭三氏が改書した文書に水野村(水野窯)より製立ストの記載あり。この水野は清水血山を指すか。(井上1943)  | 『近国焼物山大概書上帳』<br>佐藤浩司2000研究紀要 第14号<br>佐藤浩司2011江戸時代の名産品と商標<br>大橋2010東洋陶磁 第39号<br>井上1943豊前上野焼研究  |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称       | 読み        | 市町村名 | 所在地          | 現況       | 旧藩名       | 経営  | 調査歴  | 焼物名   |
|----|----------|-----------|------|--------------|----------|-----------|-----|--|-------|
| 3  | 高保窯      |           | 北九州市 | 北九州市小倉北区木町皿山 | 未特定      |           | 民窯  | 未調査  | 上野焼   |
| 4  | 釜ノ口窯跡    | かまのくち     | 福智町  | 田川郡福智町上野     | 山林       | 小倉        | 藩窯  | 調査済み<br>上野焼組合、田川郷土史会、日本陶磁協会による発掘調査が1955.5.6～5.15に行われる。   | 上野焼   |
| 5  | カンバ窯跡    | かんば       | 福智町  | 田川郡福智町上野     | 未特定      | 小倉        |     | 未調査<br>昭和12(1937)年2月に柄内禮次が発見   | 上野焼   |
| 6  | 皿山本窯跡    | さらやまほんがま  | 福智町  | 田川郡福智町上野字皿山  | 竹林       | 小倉        | 藩窯  | 一部、調査 ※測量図あり<br>上野焼組合、田川郷土史会、日本陶磁協会による発掘調査が1955.5.10～5.15に行われる。  | 上野焼   |
| 7  | 山ノ神森ノ下窯跡 |           | 福智町  | 田川郡福智町上野字皿山  | 未特定      | 小倉        |     | 表探?  | 上野焼   |
| 8  | かくし窯跡    | かくし       | 福智町  | 田川郡福智町上野皿山   | 未特定      | 小倉        |     | 未調査  | 上野焼   |
| 9  | 岩屋高麗窯跡   | いわやこうらい   | 福智町  | 田川郡福智町大字弁城岩屋 | 山林<br>道路 | 小倉        |     | 一部、調査<br>上野焼組合上野焼組合及び学生<br>1955.5.5～5.6  | 上野焼   |
| 10 | 吉右衛門谷窯跡  | きちえもんだに   | 福智町  | 田川郡福智町大字弁城   | 未特定      | 小倉        | 民窯? | 未調査  |       |
| 11 | 甲賀焼[幸賀窯] |           | 福智町  | 田川郡福智町       | 未特定      | 小倉        | 民窯  | 未調査  |       |
| 12 | 鳩軒       | きゅうけん     | 香春町  | 田川郡香春町       | 未特定      | 小倉        |     | 未調査  |       |
| 13 | 田香焼窯跡    | でんこう      | 香春町  | 田川郡香春町高野字常安  | 竹林       | 小倉        | 藩窯  | 未調査  | 高野田香焼 |
| 14 | 田香焼窯跡    | でんこう      | 大任町  | 田川郡大任町堂原     | 山林       | 小倉        | 藩窯  | 調査済み<br>大任町教育委員会<br>[1号窯]1994.1.17～1997.3.31<br>[2号窯]1994.1.17～1997.3.31<br>1976.10.1 町史跡指定 / 「田香焼花筒」1976.10.1 町指定有形文化財(工芸品) | 今任田香焼 |
| 15 | 乙子焼窯跡    | おとご       | みやこ町 | 京都府みやこ町大字上高屋 | 山林       | 小倉        | 民窯  | 未調査  | 乙子焼   |
| 16 | 錦原皿山窯跡   | にしきばるさらやま | みやこ町 | 京都府みやこ町大字豊津  | 竹林       | 小倉→<br>豊津 | 民窯  | 未調査  |       |

| 製品  | 窯の状況  | 規模・傾斜角度  | 推定年代   | 備考  | 参考文献  |
|---|---|--|--|---|---|
|   |   |  | 明治10年～30年頃?  | 小倉木町皿山、高保窯を記載する。吉田藤右衛門に依り焼造されたか。  | 井上1943豊前上野焼研究   |
| 陶器<br>播鉢・壺・片口・德利・土瓶・小皿・鉢・水指・茶碗・茶入・花入・杓立・灰器・建水・型物        | 階段状連房式登窯<br>焼成室15・胴木間(焚口)煙道                 | 全長41m<br>幅2.5～3m<br>10～18度   | 慶長7年(1602)に尊楷一族により、開窯。※慶長6年～寛永9年(1601～1632)説あり。(九州陶磁文化館2010) | 上野焼窯跡(田川郡赤池町上野)として昭和30年(1955.5.27)昭和32年(1957.8.13)に史跡の仮指定がなされたが、結局指定には至らなかった。調査履歴は(佐藤1955)による。<br>佐藤によると、昭和4年(1929)に金原京一(陶片)、昭和11年(1936)に柄内禮次、昭和13年(1938)に井上國藏・美和弥之助・佐藤進三(井上・美和は皿山窯を主に掘る)、昭和14年(1939)に鈴木恵一・坂東貴山・佐藤進三・出口繁数、昭和17年(1942)に末松主税が調査する。(佐藤1955)  | 佐藤進三1955陶説28<br>佐藤ほか1955上野古窯調査報告書<br>小林春吾2006県史だより第124号九州陶磁文化館2010珠玉の九州陶磁展                                      |
| 茶碗・皿・片口・鉢・播鉢・瓶  |   |  |  | 里の人が五ッ窯と昔から言い伝えている。<br>佐藤進三によると 昭和30年(1955)時には窯跡はなく、陶片の散布もほとんどない。   | 井上1943豊前上野焼研究<br>佐藤ほか1955上野古窯調査報告書<br>赤池町史1977  |
| 物原から德利・打皿・油壺・油皿・碗・播鉢・瓶・土瓶(井上1943)                       |   |  | 元和8年(1622)～寛永元年(1624)から明治4年(1871)                            | 井上國藏・美和弥之助らが外郭及び物原3か所を掘る。上野皿山の記載あり。(大橋2010)<br>主に小笠原藩時代に操業した窯。<br>※窯跡北側に香月氏の出城があり、そこを地元が城山と呼び、そこから城山窯という名称が生まれる。<br>この調査より前に、昭和4年(1929)に金原京一(陶片)、昭和11年(1936)に柄内禮次、昭和13年(1938)に井上國藏・美和弥之助・佐藤進三(井上・美和は皿山窯を主に掘る)、昭和14年(1939)に鈴木恵一・坂東貴山・佐藤進三・出口繁数、昭和17年(1942)に末松主税が調査する。(佐藤1955)                    | 佐藤1955陶説28<br>佐藤ほか1955上野古窯調査報告書<br>小林2006県史だより 第124号<br>大橋2010東洋陶磁 第39号<br>福岡市2017豊前小倉藩窯上野焼展図録<br>井上1943豊前上野焼研究 |
| 碗・播鉢・瓶・片口・花生・筒花生  |   |  | 文政12年(1829)～天保(1831～1845)                                    | 渡家文書に「山の神森之下小釜練かへ年號書」に記載あり。   | 井上1943豊前上野焼研究<br>小林2006県史だより第124号   |
| 浅鉢  |   |  |  | 土地は十時氏所有、十時器八郎甫春の一人娘で十時フサノ氏の話では、急に御用を仰せつかった場合のために築いた窯とのこと。  | 井上1943豊前上野焼研究<br>赤池町史1977   |
| 表探?で瓶・播鉢・壺・皿・碗・德利か(井上1943)                              |   |  | 慶長12年(1607)～元和8年(1622)から寛永年間(1624～1644)                      | 別名唐人窯。井上が窯跡をつきとめ、上野焼組合及び学生らにより、物原の一部、発掘を行う。開窯後から藩主細川氏が肥後に移るまでの間に操業した窯。<br>元和8年「田川郡家人畜御改帳」には、辨城村焼物山に「焼物師五人。同賈子十一人」と記載する。(井上1943)<br>※1955年の調査より前の昭和4年(1929)に金原京一(陶片)、昭和11年(1936)に柄内禮次、昭和13年(1938)に井上國藏・美和弥之助・佐藤進三(井上・美和は皿山窯を主に掘る)、昭和14年(1939)に鈴木恵一・坂東貴山・佐藤進三・出口繁数、昭和17年(1942)に末松主税が調査する。(佐藤1955) | 佐藤1955陶説28<br>佐藤ほか1955上野古窯調査報告書<br>小林2006県史だより第124号<br>福岡市2017豊前小倉藩窯上野焼展図録<br>井上1943豊前上野焼研究                     |
|   |   |  |  | 吉之衛門窯とし、唐人窯(岩谷高麗窯)が廃絶後のものか。(横山1958)<br>昭和24・5年(1949・1950)頃に高鶴窯で学び、京都の朝日焼で修業した永末博美が創めた窯。(福岡市観光課1973)   | 横山群1958郷土田川No.13<br>小林2006県史だより第124号<br>福岡市観光課1973福岡市の史話と観光 はかた   |
|   |   |  | 明治末～大正元年(1912)   | 辨城村畑、幸賀窯を記す。(井上1943)<br>一代窯で、皆川小一郎が経営する。作風は上野を模倣とする。<br>※幸賀窯と甲賀焼との関連ありか?  | 井上1943豊前上野焼研究<br>横山1958郷土田川 No.13   |
|   |   |  | 寛政年間(1789～1801)<br>享和年間(1801～1804)(横河1935)                   | 銘款。エドワード・モースがこの銘款のある深皿を寛政の作とし、豊前国香春村産とする。   | 原色陶器大辞典<br>横河1935日本諸国窯一覧  |
| 陶器?<br>碗・皿・德利・水壺・花筒・茶碗・湯呑・駒次                            | 窯跡 1基・物原                                    |  | 天保年間(1831～1845)～明治   | 物原が一部残るのみで、窯本体は消滅する。<br>奥田儀三郎が分家して、天保5年(1835)にはすでに開窯か。田香焼が廃窯後は山岡徹山親子が香春焼を築業する。(香春町郷土史会1996・2003)<br>『豊国名所』に田香焼の花器・鉢・水注が描かれている。<br>現地踏査では、長さ約22m、幅約7mの緩斜面を確認した。南西側の下の急斜面や池が物原にあたり、遺物片が散在する。周辺の墓地には奥田儀三郎の墓がある。  | 大任町第6集<br>香春町第12集<br>香春町郷土史会1996・2003郷土史話かわら第44・56集<br>原色陶器大辞典  |
| 陶器・半磁器・磁器<br>碗・皿・鉢・花生・壺・德利・片口・播鉢・灯明台・おろし・瓦・植木鉢・急須・水指・花器 | 階段状連房式登窯 2基<br>各窯1基 焼成室6・7<br>物原2ヶ所(大橋2010) | 1号窯 全長12～15m、幅1.95～3.4m、胴木間、焼成室4～5、13度、造り替えあり<br>2号窯 全長10.5m、幅2.6～3.1m、胴木間、焚口、焼成室3、11度 | 寛政年間(1789～1801)～明治維新頃  | 地磁気年代測定により、1号窯1810年±25、2号窯1820年±35という結果が出る。従来、今任田香焼は上野焼の十時甫春の弟子、啓吉が文政11(1828)年に開窯したとされてきたが、寛政8年(1796)成立の『近国焼物山大概書上巻』に記載があるので、寛政年間に遡るか。なお焼物には窯印が入れられる。<br>今藤(今任)皿山・藤原(道原・堂原)皿山の記載あり。(大橋2010)<br>『豊国名所』に田香焼の花器・鉢・水注が描かれる。   | 大任町誌上巻<br>大任町第6集<br>大橋2010東洋陶磁第39号<br>原色陶器大辞典   |
| 陶器・磁器<br>茶碗・鉢・窯道具<br>碗・鉢・ハマ・トレン                         | 階段状連房式登窯?<br>※焚口は削平されるが数室・物原残存か             |  | 江戸時代   | 帝釈天山麓に所在し、遺物の出土がある。近世の操業免許記録あり。<br>藩の奨励策に応じた開窯か(国作手永大庄屋日記 安政5年(1858)。9.21条)<br>みやこ町歴史民俗博物館にて遺物を保管   | 犀川町誌<br>犀川町第3集<br>犀川町第8集<br>みやこ町第6集<br>郷土誌さいがわ創刊号   |
| 瓦散在   |   |  | 江戸後期?～明治   | 昭和30(1955)年、豊津町遺跡調査で発見。錦町と石走り西山麓に所在とするが遺存は錦町のみ。<br>石走り南遺跡として周知化。<br>明治2年(1869)豊津開府の需要で瓦を焼いたようで小片散布。   | 豊津町誌<br>豊津町第25集<br>みやこ町第6集<br>豊津町史  |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称    | 読み     | 市町村名 | 所在地        | 現況  | 旧藩名 | 経営 | 調査歴   | 焼物名 |
|----|-------|--------|------|------------|-----|-----|----|---|-----|
| 17 | 添田皿山  |        | 添田町  | 田川郡添田町     | 未特定 | 小倉  |    | 未調査   |     |
| 18 | 唐原焼窯跡 | とうばる   | 上毛町  | 築上郡上毛町上唐原  | 池   | 中津  |    | 大正15年(1926)8月1日 玉泉大梁<br>昭和11年(1936)5月31日<br>玉泉大梁・高崎正戸・野村道治ら<br>1974.11.25 町史跡指定 | 唐原焼 |
| 19 | 常山焼   | じょうざん  |      |            | 未特定 |     |    | 未調査   |     |
| 20 | 太郎助楽焼 | たろすけらく | 北九州市 | 北九州市       | 未特定 | 小倉  |    | 未調査   |     |
| 21 | 水町焼   | みずまち   | 北九州市 | 北九州市小倉南区水町 | 未特定 | 小倉  | 民窯 | 未調査   |     |

【参考】  
筑前

|    | 名称             | 読み   | 市町村名  | 所在地        | 現況 | 旧藩名 | 経営 | 調査歴 | 焼物名 |
|----|----------------|------|-------|------------|----|-----|----|-----|-----|
| 1  | 樟島製陶所          |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 2  | 亀井陶器製造工場       |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 3  | 山村製陶所          |      | 福岡市   | 福岡市南区野間皿山  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 4  | 藤野製陶工場         |      | 福岡市   | 福岡市南区野間皿山  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 5  | 原製陶所           |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 6  | 岡本素焼物製造所       |      | 福岡市   | 福岡市南区野間皿山  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 7  | 高尾素焼物製造所       |      | 福岡市   | 福岡市南区野間皿山  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 8  | 七輪ほか           |      | 福岡市   | 福岡市中央区住吉   |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 9  | 鷺谷焼            | さぎたに | 福岡市   | 福岡市中央区伊崎浦  |    | 福岡  | 民窯 | 未調査 |     |
| 10 | 土器             | かわらけ | 福岡市   | 福岡市早良区飯盛   |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 11 | 土器             | かわらけ | 福岡市   | 福岡市博多区     |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 12 | 西新陶管製造所        |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 13 | 伊佐陶管製造所        |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 14 | 高取土管           |      | 福岡市   | 福岡市早良区西新町  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 15 | 〔土管窯〕          |      | 古賀市   | 古賀市古賀停車場附近 |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 16 | 〔土管窯〕          |      | 筑紫野市  | 筑紫野市二日市    |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 17 | 〔土管窯〕          |      | 糸島市   | 糸島市        |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 18 | 折尾窯            | おりお  | 北九州市  | 北九州市八幡西区   |    | 福岡  | 民窯 | 未調査 |     |
| 19 | 土器             | かわらけ | 朝倉市   | 朝倉市甘木      |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 20 | 土器             | かわらけ | 古賀市   | 古賀市花鶴      |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 21 | 土器田            | かわらけ | 宗像市   | 宗像市大井      |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 22 | 日本耐火煉瓦株式会社戸畑工場 |      | 北九州市  | 北九州市戸畑区都島通 |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 23 | 黒崎窯業株式会社       |      | 北九州市  | 北九州市八幡西区藤田 |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 24 | 東筑煉瓦工場         |      | 北九州市？ | 北九州市若松区中川  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |

| 製品 | 窯の状況      | 規模・傾斜角度 | 推定年代   | 備考  | 参考文献  |
|----|-----------|---------|--|---|---|
|    |           |         |  |   | 大橋2010東洋陶磁第39号  |
|    | 階段状連房式登窯? |         | 江戸前期?<br>幕末頃(佐藤1955)                               | 上唐原と下唐原の境の大池(ランボ池)の東方を皿山とい<br>い、登窯あり。高取八山の最初の窯跡か。付近一帯は皿<br>山と呼ばれる。<br>『百留居屋敷遺跡』に唐原焼窯跡の遺物を掲載する。<br>長さ約9m以上、幅2m以上の窯跡の痕跡あり<br>九州大学玉泉館資料として遺物を保管<br>九州歴史資料館にて遺物を保管  | 築上郡史下巻<br>大平村の文化財<br>大平村誌<br>福岡日日新聞(S11.6.2)<br>佐藤1955陶説 28<br>『上唐原稲本屋敷遺跡』<br>『百留居屋敷遺跡』 |
|    |           |         | 天保頃  | 上野焼の影響を受けた窯、銘常山と日本諸国窯一覧に記<br>載する。   | 横河1935日本諸国窯一覧   |
|    |           |         | 慶長年間(1596~1615)~寛永年間<br>(1624~1644)<br>寛永頃(横河1935) | 太郎介が製した茶器。太郎介は上野の工人甫久の弟子。<br>世間では太郎介焼といって賞讃。<br>細川三齋侯家臣向井太郎助の楽焼。(横河1935)<br>『三齋侯の詩向太郎介と申茶人有之』とあって菜園場窯の<br>ことか?(本朝陶器叢書)<br>元和寛永のころ、豊前の人・向井太郎助が、小倉窯で領主・<br>細川三齋公の命によりもつばら風炉、水指を焼いた。そば<br>系の褐黄釉を得意としたのでこの釉を太郎助釉といった。<br>(陶磁用語辞典) | 原色陶器大辞典<br>横河1935日本諸国窯一覧<br>陶器類集<br>本朝陶器叢書<br>陶磁用語辞典                                    |
|    |           |         | 明治8年(1875)~(原色陶器大辞典)                               | 吉田彦六が創業(原色陶器大辞典)<br>「企救郡水町村の吉田彦六は、同村高坊の土と同郡上城<br>村の白土を取り、少許の砂土を混じて、黒釉の陶器を製<br>す。」(塩田1922)   | 横河1935日本諸国窯一覧<br>原色陶器大辞典<br>塩田1922日本近世窯業史   |

| 製品   | 窯の状況 | 規模・傾斜角度 | 推定年代             | 備考  | 参考文献   |
|--|------|---------|------------------|---|--|
| 植木鉢  |      |         | 慶長元年(1595)開業     | 代表者は榊島喜三郎   | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 享保4年(1719)開業     | 代表者は亀井源太郎   | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 明治28年(1895)10月開業 | 代表者は小林義雄  | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 明治33年(1900)8月開業  | 代表者は藤野新三郎   | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 大正元年(1912)9月開業   | 代表者は原幸六   | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 大正2年(1913)11月開業  | 代表者は岡本金蔵  | 全国工場通覧   |
| 植木鉢  |      |         | 大正12年(1923)3月開業  | 代表者は高尾茂吉  | 全国工場通覧   |
| 七輪・土瓶・土鍋・貯金瓶・ゴ<br>マイリ(手炮烙)・火消壺・茶<br>風呂・火鉢・土管・米搗臼・瓶<br>掛・水瓶 |      |         |                  | 原土は別府産を主とし、その他に野間土・五十川土、麦野<br>土を使用。福田工場登窯は巢焼室をあわせて5室あり  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929                         |
| 煎茶器・花器   |      |         | 明治末~大正初め         | 平田賢谷のつくった陶器。賢谷は元伊予国の、二六焼室<br>で陶法を学び、福岡に来て陶器を製した。病を得て窯を廃し<br>たのちは山口県に去った。当時の弟子2・3人がその後陶器<br>を作っている。  | 原色陶器大辞典  |
|  |      |         |                  | 「早良郡飯盛村にて作る所の土器尤よし」との記載あり(筑<br>前国統風土記)。<br>「本編に早良郡飯盛村の製佳品なるよし見え侍れども、今<br>は製せず。かはらけ屋敷といふ名のみ残れる」(筑前国統<br>風土記附録)                             | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録下巻                           |
|  |      |         |                  | 「博多及夜須郡甘木村にも作るといへども、飯盛の製に及<br>はず」との記載あり(筑前国統風土記)。   | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録下巻                           |
| 陶管   |      |         | 明治40年(1907)2月開業  | 代表者は榊島喜三郎   | 全国工場通覧   |
| 陶管   |      |         | 明治43年(1910)3月開業  | 代表者は伊佐理之吉   | 全国工場通覧   |
| 高取土管   |      |         |                  | 北村彌一郎が大正2年(1913)3月に調査見聞。製造業者は<br>6戸で、西新町土管製造所(明治20年(1887)7月創始)・亀<br>井・早川・榊島・伊佐・原。窯は登窯と角形石炭窯の2種あ<br>り。登窯は原のみで他は石炭窯。石炭窯は明治44年末に<br>常滑より伝習した | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929                         |
| 土管   |      |         |                  | 北村彌一郎が大正2年(1913)3月に高取土管を調査見聞し<br>た際の記録  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929                         |
| 土管   |      |         |                  | 北村彌一郎が大正2年(1913)3月に高取土管を調査見聞し<br>た際の記録  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929                         |
| 土管   |      |         |                  | 北村彌一郎が大正2年(1913)3月に高取土管を調査見聞し<br>た際の記録  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929                         |
| 土管   |      |         | 明治30年(1897)~明治末年 | 土管を焼いていた窯。大正初年(1912)に汽用用の粗土瓶<br>を焼成する。  | 陶器大辞典<br>原色陶器大辞典1972<br>工学博士北村彌一郎窯業全集第3<br>巻1929 |
|  |      |         |                  | 「博多及夜須郡甘木村にも作るといへども、飯盛の製に及<br>はず」(筑前国統風土記)<br>「近年裏精屋郡古賀村の内花津留及夜須郡甘木町にて多<br>く製す。就中花津留村の産好し。」(筑前国統風土記附録)<br>陶土 鹿部村の内ほり川という所(筑前国統風土記附録)      | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録下巻                           |
|  |      |         |                  | 「土器田(カハラケ)と云地也。宗像社の祭の土器を製せし<br>所也と云。」(筑前国統風土記拾遺)<br>村ノ北一町餘二アル田字ナリ。宗像神社の祭禮二用ル土<br>器ヲ製セン所ト云。※福岡懸宗像郡誌上巻に記載あり。                                | 筑前国統風土記拾遺<br>福岡県地理全誌<br>福岡懸宗像郡誌上巻                |
| 耐火煉瓦   |      |         | 大正5年(1916)12月開業  | 代表者は吉武小三郎   | 全国工場通覧   |
| 磚子・耐火煉瓦  |      |         | 大正8年(1919)6月開業   | 代表者は高良淳   | 全国工場通覧   |
| 煉瓦   |      |         | 大正11年(1922)3月開業  | 代表者は松崎フサ  | 全国工場通覧   |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称        | 読み                | 市町村名 | 所在地                 | 現況 | 旧藩名 | 経営 | 調査歴          | 焼物名 |
|----|-----------|-------------------|------|---------------------|----|-----|----|--------------|-----|
| 25 | 戸畑煉瓦製造所   |                   | 北九州市 | 北九州市戸畑区戸畑           |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 26 | 長者原煉瓦製造所  | ちようじゃばるれんがせいぞうしよ? | 粕屋町  | 糟屋郡粕屋町仲原            |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 27 | 亀山煉瓦工場    | かめやまれんが           | 志免町  | 糟屋郡志免町(糟屋郡志免村別府)    |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 28 | 松隈煉瓦工場    |                   | 嘉麻市  | 嘉穂郡碓井村              |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 29 | 田藤赤煉瓦工場   |                   | 飯塚市  | 嘉穂郡穂波村              |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 30 | 中川煉瓦工場    |                   | 若宮市  | 鞍手郡宮田町              |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 31 | 電気興業所名島工場 |                   | 福岡市  | 糟屋郡多々良村             |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 32 | 瓦[芦屋瓦]    | かわら(あしやがわら)       | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 33 | 佐々木瓦製造工場  | ささきかわらせいぞうこうじよう   | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 34 | 濱野瓦製造工場   | はまのかわらせいぞうこうじよう   | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 35 | 佐多瓦製造工場   | さたかわらせいぞうこうじよう    | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 36 | 井澤瓦製造工場   | いざわかかわらせいぞうこうじよう  | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 37 | 岡村瓦製造工場   | おかむらかかわらせいぞうこうじよう | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 38 | 和田瓦製造工場   | わだかわらせいぞうこうじよう    | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 39 | 矢野瓦製造工場   | やのかわらせいぞうこうじよう    | 芦屋町  | 遠賀郡芦屋町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 40 | 瓦         | かわら               | 太宰府市 | 太宰府市五条              | 宅地 | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 41 | 瓦         | かわら               | 太宰府市 | 太宰府市五条              | 宅地 | 福岡  | 民窯 | 大宰府条坊跡100次調査 |     |
| 42 | 瓦         | かわら               | 太宰府市 | 太宰府市宰府1丁目           | 宅地 | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 43 | 瓦         | かわら               | 太宰府市 | 太宰府市国分1丁目           | 宅地 | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 44 | 瓦         | かわら               | 太宰府市 | 太宰府市五条?             |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 45 | 瓦焼窯       | かわらやきかま           | 遠賀町  | 遠賀郡遠賀町大字別府、浅木       |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 46 | 瓦焼窯       | かわらやきかま           | 遠賀町  | 遠賀郡遠賀町              |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 47 | 瓦焼窯       | かわらやきかま           | 遠賀町  | 遠賀郡遠賀町浅木            |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 48 | 瓦焼窯       | かわらやきかま           | 遠賀町  | 遠賀郡遠賀町大字鬼津、島津、別府、木守 |    | 福岡  | 民窯 | 未調査          |     |
| 49 | 瓦         | かわら               | 福岡市  | 福岡市博多区              |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 50 | 瓦         | かわら               | 福岡市  | 福岡市早良区西新町           |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 51 | 瓦         | かわら               | 福岡市  | 福岡市東区浜男             |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 52 | 瓦町陶       |                   | 福岡市  | 福岡市博多区祇園町           |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 53 | 瓦         | かわら               | 福岡市  | 福岡市西区今宿             |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 54 | 瓦町陶       |                   | 福岡市  | 福岡市東区浜男             |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 55 | 箕原瓦製造所    |                   | 福岡市  | 福岡市東区多々良            |    | 福岡  |    |              |     |
| 56 | 副田瓦工場     | そえだかわらこうじよう       | 水巻町  | 遠賀郡水巻町吉田            |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 57 | 瓦工場       | かわらこうじよう          | 水巻町  | 遠賀郡水巻町猪熊            |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 58 | 瓦工場       | かわらこうじよう          | 水巻町  | 遠賀郡水巻町杵             |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 59 | 瓦工場       | かわらこうじよう          | 水巻町  | 遠賀郡水巻町下二            |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 60 | 瓦         | かわら               | 朝倉市  | 朝倉市甘木               |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 61 | 瓦         | かわら               | 朝倉市  | 朝倉市久喜宮              |    | 福岡  |    | 未調査          |     |
| 62 | 瓦町陶       |                   | 朝倉市  | 朝倉市甘木               |    | 福岡  |    | 未調査          |     |

| 製品    | 窯の状況   | 規模・傾斜角度 | 推定年代            | 備考   | 参考文献                                |
|-------|--------|---------|-----------------|--|-------------------------------------|
| 耐火煉瓦  |        |         | 明治36年(1903)5月開業 | 代表者は林幸男  | 全国工場通覧                              |
| 煉瓦    |        |         |                 | 持主は井上理三。創業は明治30年(1897)4月(農商務省「工場通覧」)   | 農商務省1904工場通覧                        |
| 煉瓦    |        |         |                 | 持主は中村参一。創業は明治26年(1893)9月(農商務省「工場通覧」)   | 農商務省1904工場通覧                        |
| 煉瓦    |        |         | 明治28年(1895)5月開業 | 代表者は松隈重兵衛  | 全国工場通覧                              |
| 煉瓦    |        |         | 明治30年(1897)3月開業 | 代表者は田中藤兵衛  | 全国工場通覧                              |
| 煉瓦・瓦  |        |         | 明治42年(1909)3月開業 | 代表者は中川初太郎  | 全国工場通覧                              |
| 煉瓦    |        |         | 大正10年(1921)4月開業 | 代表者は無記名  | 全国工場通覧                              |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦製造業は大正11年(1922)度に13工場を数え、生産高は25,000坪  | 刀根為次郎『北九州の名物 芦屋の浜』                  |
| 屋根瓦   |        |         | 明治35年(1902)8月開業 | 代表者は佐々木熊市  | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 明治38年(1905)1月開業 | 代表者は濱野庄次郎  | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 大正4年(1915)10月開業 | 代表者は佐多房太郎  | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 大正6年(1917)1月開業  | 代表者は井澤次郎吉  | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 大正9年(1920)12月開業 | 代表者は岡村口市   | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 大正15年(1926)4月開業 | 代表者は和田乙作   | 全国工場通覧                              |
| 屋根瓦   |        |         | 昭和2年(1927)4月開業  | 代表者は矢野清  | 全国工場通覧                              |
| 瓦     |        |         | 江戸～昭和30年代       | 平井家経営の瓦窯   | 筑前国統風土記附録上巻<br>平井家文書(六座文書目録)        |
| 瓦     | 窯の廃棄土坑 | 未報告     | 江戸後期            | 平井家経営の関連瓦窯施設   |                                     |
| 瓦     |        |         | 江戸～近代?          | 太宰府天満宮関連施設の所用瓦「太宰府/れんがや町/石川琢磨」銘瓦   | 「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会            |
|       |        |         | 近現代             | 「洗出市川製」銘瓦  | 「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会            |
|       |        |         | 江戸              | 「宰府忠七」銘瓦   | 「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会            |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦の生産量と所在地、製作者のみ記され詳細は不明別府[瓦10,700枚・別府 森大四郎製] 下底井野[瓦120,000枚 下底井野 柳井勝次郎製]   | 福岡県地理全誌<br>遠賀町誌                     |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦職人の戸数、人員、一人又は一戸の労働日数、総日数、一人又は一戸の賃金、賃金高のみ記載され、他の詳細は不明。<br>「瓦製造 10戸 34人 1人226日 7700日 450円 3,465,000円」                                 | 島門村は明治40年(1907)                     |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦職人の戸数、労働日数、労働総日数、賃金、賃金高の記載のみ記載され、他は詳細は不明。「瓦職 三戸 200日 600日 750円 450,000円」  | 浅木村は明治45年(1912)                     |
| 瓦     |        |         |                 | 昭和15年(1940)頃の「北九州地方瓦工業組合名簿」に鬼津2軒、島津8軒、別府7軒、木守1軒の瓦工場があったと記され、主に炭釜住宅の屋根瓦の製造を行っていた。   | 遠賀町誌<br>ふるさと                        |
| 瓦     |        |         |                 | 「博多に瓦町とて、瓦工の集り住る町一坊あり。屋瓦及もろもろの瓦器を作る」(筑前国統風土記)。   | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録                |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦師ありとの記載   | 筑前国統風土記附録下巻                         |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦師ありとの記載   | 筑前国統風土記附録下巻                         |
|       |        |         |                 | 「瓦器【炮轆師といふ】を製する家六七戸あり。火鉢・火ちりん・手爐等数品を製す。就中宗七と云者良工なり。京都深草の製にも勝れりと云」(筑前国統風土記附録)   | 筑前国統風土記附録下巻                         |
| 瓦     |        |         |                 | 「夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬など所々に作る。又近年志摩郡今宿にて作る」(筑前国統風土記)<br>「又瓦工三戸あり。其製殊に佳なり」(筑前国統風土記拾遺)   | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録下巻<br>筑前国統風土記拾遺 |
| 瓦     |        |         |                 | 「瓦器類を製すれども、博多の瓦器に及はず」(筑前国統風土記附録)   | 筑前国統風土記附録下巻                         |
| 瓦     |        |         | 明治29年(1896)12月  | 持主は裏原甚作。創業は明治29年12月(農商務省「工場通覧」)  | 農商務省1904工場通覧                        |
| 黒色素焼瓦 |        |         | 嘉永4年(1851)4月開業  | 代表者は副田口<br>「瓦五千枚添田伊平製」と水巻の産物としてあげている。幕末から明治初年の操業で吉田御輪地で石炭を利用して始めたものらしく、後に吉田宇新吾山の付近でもはじめたが、現在(昭和30年代)でも工場があるとの記載がありこの瓦工場を差している可能性がある。 | 全国工場通覧<br>水巻町誌<br>福岡県地理全誌           |
| 瓦     |        |         |                 |  | 水巻町誌                                |
| 瓦     |        |         |                 |  | 水巻町誌                                |
| 瓦     |        |         |                 |  | 水巻町誌                                |
| 瓦     |        |         |                 | 「夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬など所々に作る。又近年志摩郡今宿にて作る」(筑前国統風土記)   | 筑前国統風土記<br>筑前国統風土記附録下巻              |
| 瓦     |        |         |                 | 瓦師ありとの記載   | 筑前国統風土記附録下巻                         |
| 瓦     |        |         |                 | 「瓦器類を製すれども、博多の瓦器に及はず」(筑前国統風土記附録)   | 筑前国統風土記附録下巻                         |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称     | 読み  | 市町村名 | 所在地         | 現況 | 旧藩名 | 経営 | 調査歴 | 焼物名 |
|----|--------|-----|------|-------------|----|-----|----|-----|-----|
| 63 | 瓦      | かわら | 古賀市  | 古賀市青柳       |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 64 | 瓦      | かわら | 古賀市  | 古賀市古賀       |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 65 | 仲原製瓦工場 |     | 糸島市  | 糸島市前原       |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 66 | 甲山製瓦工場 |     | 糸島市  | 糸島市波多江      |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 67 | 瓦      | かわら | 飯塚市  | 飯塚市飯塚       |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 68 | 瓦      | かわら | 宗像市  | 宗像市赤馬       |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 69 | 瓦      | かわら | 粕屋町  | 糟屋郡粕屋町仲原・大川 |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 70 | 長瓦製造工場 |     | 久山町  | 糟屋郡久山町山田    |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 71 | 瓦      | かわら | 北九州市 | 北九州市八幡西区折尾  |    | 福岡  |    | 未調査 |     |
| 72 | 瓦      | かわら | 大野城市 | 大野城市白木原     |    | 福岡  | 民窯 | 未調査 |     |

筑後

|    |                   |                 |       |           |     |      |    |     |  |
|----|-------------------|-----------------|-------|-----------|-----|------|----|-----|--|
| 1  | 巢焼平               |                 | 八女市   | 八女市星野村巢焼平 |     | 久留米  |    | 未調査 |  |
| 2  | 小野陶管製造所           |                 | 久留米市? | 久留米市小森野?  |     |      |    | 未調査 |  |
| 3  | 三池製錬所耐火煉瓦工場       |                 | 大牟田市  | 大牟田市新町    |     |      |    | 未調査 |  |
| 4  | 松田煉瓦製造所           | まつだれんがせいぞうしよ    | 久留米市  | 久留米市梅満町   |     | 久留米  |    | 未調査 |  |
| 5  | 荒木窯業株式会社          | あらきようぎよう        | 久留米市  | 久留米市荒木町   | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 6  | 荒木煉瓦株式会社          | あらきれんががふしきかいしや  | 久留米市  | 久留米市荒木町   | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 7  | 東亜窯業株式会社          | とうあようぎよう        | 久留米市  | 久留米市荒木町   | 消滅  | 久留米市 | 民窯 | 未調査 |  |
| 8  | 安徳煉瓦工場            | あんどく            | 久留米市  | 久留米市中町    | 消滅? | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 9  | 九州窯業株式会社荒木工業      | きゅうしゅうようぎよう あらき | 久留米市  | 久留米市荒木町   | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 10 | 肥筑窯業株式会社          | ひちくようぎよう        | 久留米市  | 久留米市城島町青木 |     | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 11 | 藤木煉瓦工場            |                 | 柳川市   | 柳川市三橋町    |     | 柳河   |    | 未調査 |  |
| 12 | 昭和窯業合資会社煉瓦工場      |                 | みやま市  | みやま市瀬高町   |     | 柳河   |    | 未調査 |  |
| 13 | 高橋煉瓦工場            |                 | みやま市  | みやま市瀬高町   |     | 柳河   |    | 未調査 |  |
| 14 | 早鐘煉瓦工場            |                 | 大牟田市  | 大牟田市駿馬    |     | 柳河   |    | 未調査 |  |
| 15 | 三井鉱山株式会社三池製陶所煉瓦工場 |                 | 大牟田市  | 大牟田市新開町   |     | 柳河   |    | 未調査 |  |
| 16 | 久留米藩御用瓦窯          | くるめはんごようかわらかま   | 久留米市  | 久留米市瀬ノ下町  | 消滅  | 久留米  | 藩窯 | 未調査 |  |
| 17 | 日渡瓦窯跡             | ひわたしかわらかまあと     | 久留米市  | 久留米市国分町日渡 | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 18 | 善導寺瓦窯(鬼塚家)        | ぜんどうじがわら(おにつかけ) | 久留米市  | 久留米市善導寺町  | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 19 | 善導寺瓦窯(久保山家)       | ぜんどうじがわら(くぼやまけ) | 久留米市  | 久留米市善導寺町  | 消滅  | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 20 | 吉田瓦製造所            | よしだかわらせいぞうしよ    | 久留米市  | 久留米市善導寺町  |     | 久留米  |    | 未調査 |  |
| 21 | 梯瓦製造工場            | はしごかわらせいぞうしよ    | 久留米市  | 久留米市犬塚    |     | 久留米  |    | 未調査 |  |
| 22 | 城島瓦               | じょうじまかわら        | 久留米市  | 久留米市城島町   |     | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |
| 23 | 荒巻瓦工場(瓦製造所)       | あらまきかわらこうしよ     | 久留米市  | 久留米市城島町城島 |     | 久留米  | 民窯 | 未調査 |  |

| 製品        | 窯の状況 | 規模・傾斜角度 | 推定年代            | 備考  | 参考文献   |
|-----------|------|---------|-----------------|---|--|
| 瓦         |      |         |                 | 「夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬などと所々にて作る。又近年志摩郡今宿にて作る」(筑前国続風土記)  | 筑前国続風土記  |
| 瓦         |      |         |                 | 森與三瓦屋・森七助瓦屋・長崎兵三郎瓦屋・姫路屋瓦屋・三輪瓦屋・長峯瓦屋・渡源一郎瓦屋・古賀合資会社瓦屋・山片瓦屋など  | 洪田喬2009近代化に翔けた人間模様   |
| 黒色素焼瓦     |      |         | 明治23年(1890)3月開業 | 代表者は仲原又次郎   | 全国工場通覧   |
| 唐草瓦・平瓦・丸瓦 |      |         | 明治27年(1894)2月開業 | 代表者は甲山一男  | 全国工場通覧   |
| 瓦         |      |         |                 | 瓦師ありとの記載  | 筑前国続風土記附録下巻  |
| 瓦         |      |         |                 | 「夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬などと所々にて作る。又近年志摩郡今宿にて作る」(筑前国続風土記)  | 筑前国続風土記<br>筑前国続風土記附録下巻                                     |
| 瓦         |      |         |                 | 「仲原・大川両村は、むかしから良質の粘土が産出し瓦製造業がさかんでした。・仲原村では、・瓦屋親方(製造業者)が十数軒あり、・大川村でも、・瓦、煉瓦工場がさかんでしたが現在はその跡さえみることができません。」として、大川村の8軒の概要が示されている(粕屋町誌) | 粕屋町誌   |
| 屋根瓦       |      |         | 明治40年(1907)4月開業 | 代表者は長熊吉   | 全国工場通覧   |
| 瓦         |      |         |                 | 窯は煉瓦をもってつくる。窯数3基。燃料は石炭  | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929                                       |
| 瓦         | 不明   |         | 近代(明治～大正)       | 「大野城市史」の中に、聞き取り調査の結果、大正時代に白木原村に瓦屋があったという記述あり。後原遺跡4次調査SP03出土遺物の中に「白木原村新七製造」銘の棧瓦あり。   | 大野城市1990『大野城市史 民俗編』、大野城市教育委員会1998『後原遺跡Ⅰ』(大野城市文化財調査報告書第53集) |

|           |         |  |  |   |   |
|-----------|---------|--|--|---|---|
|           |         |  |  | 「巢焼」は「素焼」の転化か   | 浅野1935筑後陶窯考<br>陶磁大辞典                            |
| 陶管        |         |  | 大正13年(1924)8月開業                                  | 代表者は大塚作次  | 全国工場通覧  |
| 磁管        |         |  | 大正7年(1918)2月開業                                   | 代表者は小田清   | 全国工場通覧  |
| 煉瓦        |         |  | 大正13年(1924)12月開業                                 | 代表者は松田卯太郎   | 全国工場通覧  |
| 煉瓦・瓦その他   |         |  | 大正9年(1920)1月26日～<br>全国工場通覧では大正9年2月開業とする          | 資本金30万円 職工38名<br>戦後、嘉麻市山田に工場を設置 平成26年(2014)3月28日に営業停止し自己破産  | 福岡県三潁郡誌<br>全国工場通覧                               |
| 煉瓦        |         |  | 大正6年(1917)7月～                                    | 資本金1万円 大正10年(1921)には80万個を製造   | 福岡県三潁郡誌   |
| 煉瓦        |         |  | 大正9年(1920)1月26日～                                 | 資本金3万5千円<br>全国工場通覧では東垂窯業大運工場とし、代表者は古賀駒次とする  | 福岡県三潁郡誌<br>全国工場通覧                               |
| 煉瓦と瓦      |         |  | 大正時代?  | 大正13年(1924)時点で生産額13,840円。資本金10,000円   | 梅崎次義1924 久留米市編入当時の国分町                           |
| 煉瓦その他     |         |  | 大正7年(1918)8月1日～                                  | 職工45名   | 福岡県三潁郡誌   |
| 煉瓦        |         |  | 大正7年(1918)12月30日設立                               | 資本金5万円  | 福岡県三潁郡誌   |
| 普通煉瓦      |         |  | 大正12年(1923)11月開業                                 | 代表者は藤木村男  | 全国工場通覧  |
| 普通煉瓦      |         |  | 大正13年(1924)11月開業                                 | 代表者は藪田亀太郎   | 全国工場通覧  |
| 普通煉瓦      |         |  | 大正15年(1926)3月開業                                  | 代表者は高橋周造  | 全国工場通覧  |
| 煉瓦        |         |  | 大正12年(1923)3月開業                                  | 代表者は江口政平  | 全国工場通覧  |
| 耐火煉瓦      |         |  | 大正7年(1918)11月開業                                  | 代表者は山田清   | 全国工場通覧  |
| 瓦類        |         |  | 元和7(1621)年～不明                                    | 丹波の瓦職人三牧吉右衛門が有馬家に随伴し久留米へ移住。御用瓦師として京ノ隈小松原に瓦焼場所を与えられ蔵米25石支給。享保5年(1720)より三人扶持、銀150目支給。久留米市教委が保存する久留米城多門櫓石段出土の文政6年(1823)4月製釘抜瓦鬼瓦の銘文によれば、三牧七左衛門が野中村「御用瓦場」で制作。      | 古賀幸雄1975  |
| 鬼瓦        |         |  | 江戸時代後期?  | 三柏文鬼瓦銘に「安政五年八月上旬 国分村日渡江淵嘉衛門」と銘文あり。江淵家は御用瓦師三牧家の分家筋。江淵家が営む瓦窯?   | 久留米市教委蔵三柏文鬼瓦銘文                                  |
| 丸瓦        |         |  | 不明～明治末廃業   | 善道寺近辺に窯場・主に大本山善道寺用の瓦を製造。製品の一部には「善道寺鬼塚」楕円印文瓦あり。  | 善道寺修理報告書(大庫裏・金屋編)2011                           |
|           |         |  | 明治33年(1900)以後～昭和13年(1938)頃                       | 鬼塚家が廃業したため、弟子の久保山惣太郎が跡を継ぐ。市立善道寺保育園の南駐車場に窯場があった。製品の軒瓦には瓦当面に「久保山」印を押印するものあり。  | 大本山善道寺報告書(大庫裏・金屋編)2011                          |
| 瓦         |         |  |  | 持主は吉田恒吉。創業は慶応元年(1865)3月(農商務省「工場通覧」)   | 農商務省1904工場通覧                                    |
| 瓦(黒色素焼物)  |         |  | 大正12年(1923)7月開業                                  | 代表者は楠潔  | 全国工場通覧  |
|           | 近代以降石炭窯 |  | 江戸時代～  | 江戸時代は大庄屋大石家、内野村庄屋後藤家が製造を許可され生産。大石家が宝暦一揆の処分により追放されると荒巻家が跡を継ぐ。田地の粘土採取規制が消滅した明治以降に業者が増加し、大正8年(1919)には1186軒の製造業者が1500万枚を製造、69万円の販売額であった。                          | 福岡県三潁郡誌<br>城島町誌                                 |
| 瓦類(黒色素焼物) |         |  | 天保2年(1831)3月～<br>〔北村彌一郎窯業全集第3巻では天保11年(1840)3月創業〕 | 大正10年(1921)には13名の職工を擁し、31万枚の瓦を生産。北村彌一郎窯業全集第3巻では原土は生岩(三潁)、福土(大木)、大依(城島)及び佐賀県の迎島(千代田)・東津(三根)。持主は荒巻貞次郎。創業は明治23年(1890)7月(農商務省「工場通覧」)城島町<br>陶土 北村彌一郎窯業全集第3巻では5か所ほど | 福岡県三潁郡誌<br>工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929<br>農商務省1904工場通覧 |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|    | 名称        | 読み                 | 市町村名 | 所在地         | 現況 | 旧藩名 | 経営 | 調査歴 | 焼物名 |
|----|-----------|--------------------|------|-------------|----|-----|----|-----|-----|
| 24 | 二ノ宮瓦製造所   | にのみやかわらせいぞうじょう     | 久留米市 | 久留米市城島町大字内野 |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 25 | 市川清製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 26 | 池田製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 27 | 的場瓦製造工場   | まどばかわらせいぞうこうじょう    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 28 | 田中瓦製造工場   | たなかかわらせいぞうこうじょう    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 29 | 今村幾瓦製造工場  |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 30 | 中村瓦製造工場   | なかむらかわらせいぞうこうじょう   | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 31 | 今村津瓦製造工場  |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 32 | 堀江瓦製造工場   | ほりえかわらせいぞうこうじょう    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 33 | 田中虎製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 34 | 今村作瓦製造工場  |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 35 | 今村栄瓦製造工場  |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 36 | 権藤製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 37 | 今村甚瓦製造工場  |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 38 | 坂井勝瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 39 | 原倉瓦製造工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 40 | 楢林製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 41 | 田所筆瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町江上   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 42 | 坂井種瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 43 | 池田瓦工場     | いけだかわらせいぞうじょう      | 久留米市 | 久留米市城島町江上   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 44 | 市川卯製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 45 | 江藤鹿製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 46 | 古賀菊製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 47 | 古賀米製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 48 | 古賀市製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 49 | 原市製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 50 | 緒方製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 51 | 印(御)船製瓦工場 |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 52 | 下坂瓦製造工場   | しもさかかわらせいぞうこうじょう   | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 53 | 中村勘製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 54 | 田中製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 55 | 森山瓦製造工場   | もりやまかわらせいぞうこうじょう   | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 56 | 島瓦製造工場    | しまかわらせいぞうこうじょう     | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 57 | 原志製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 58 | 今村亀製瓦工場   |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 59 | 濫田末瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町江上   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 60 | 田中熊瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町江上   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 61 | 中園製瓦工場    |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 62 | 田中商店瓦工場   | たなかしょうてんかわらせいぞうじょう | 久留米市 | 久留米市城島町江上   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 63 | 中村善八      |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 64 | 今村嘉次郎     |                    | 久留米市 | 久留米市城島町     |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 65 | 中村新八      |                    | 久留米市 | 久留米市城島町江島   |    | 久留米 |    | 未調査 |     |
| 66 | 金田瓦製造工場   |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 67 | 萬瓦製造工場    |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 68 | 久瓦製造工場    |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 69 | 清瓦製造工場    |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 70 | 伍瓦製造工場    |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 71 | 森國瓦製造工場   |                    | 大木町  | 三潞郡大木町大溝    |    | 久留米 |    |     |     |
| 72 | 瓦         |                    | 柳川市  | 柳川市佃町ほか     |    | 柳河  |    | 未調査 |     |
| 73 | 瓦         |                    | 柳川市  | 柳川市大和町明野ほか  |    | 柳河  |    | 未調査 |     |
| 74 | 瓦         |                    | 柳川市  | 柳川市三橋町柳河ほか  |    | 柳河  |    | 未調査 |     |
| 75 | 村田瓦製造場    |                    | 柳川市  | 柳川市三橋町      |    | 柳河  |    |     |     |
| 76 | 甲斐田製瓦工場   |                    | 柳川市  | 柳川市東宮永      |    | 柳河  |    |     |     |
| 77 | 古賀瓦工場     |                    | 柳川市  | 柳川市東宮永      |    | 柳河  |    |     |     |

| 製品        | 窯の状況 | 規模・傾斜角度 | 推定年代             | 備考   | 参考文献                            |
|-----------|------|---------|------------------|--|---------------------------------|
| 瓦         |      |         |                  | 持主は二ノ宮周助。創業は明治31年(1898)5月(農商務省「工場通覧」)                | 農商務省1904工場通覧                    |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治5年(1872)4月開業   | 代表者は市川清太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治9年(1876)10月開業  | 代表者は池田雨太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治14年(1881)1月開業  | 代表者は的場勘次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治14年(1881)2月開業  | 代表者は田中常次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治14年(1881)3月開業  | 代表者は今村幾次   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治20年(1887)4月開業  | 代表者は中村鶴松   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治20年(1887)8月開業  | 代表者は今村津太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治28年(1895)6月開業  | 代表者は堀江虎吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治30年(1897)1月開業  | 代表者は田中虎吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治30年(1897)4月開業  | 代表者は今村作太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治30年(1897)10月開業 | 代表者は今村栄  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治31年(1898)1月開業  | 代表者は口橋喜久次  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治32年(1899)5月開業  | 代表者は今村甚太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治33年(1900)2月開業  | 代表者は坂井勝造   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治34年(1901)2月開業  | 代表者は原倉次  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治36年(1903)10月開業 | 代表者は楢林種吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治37年(1904)1月開業  | 代表者は田所筆吉、久留米市十間屋敷遺跡第5次調査で「筑後城口(島)／特製／田所製」スタンプがある平瓦出土 | 全国工場通覧<br>久留米市文化財調査報告書第366集2016 |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治37年(1904)12月開業 | 代表者は坂井種次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治41年(1908)1月開業  | 代表者は池田正信   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治42年(1909)8月開業  | 代表者は市川卯太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治43年(1910)3月開業  | 代表者は江藤鹿太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治43年(1910)8月開業  | 代表者は古賀菊次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治43年(1910)12月開業 | 代表者は古賀米蔵   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治44年(1911)2月開業  | 代表者は古賀市太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治44年(1911)4月開業  | 代表者は原市次  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 明治45年(1912)2月開業  | 代表者は緒方梅蔵   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正1年(1912)9月開業   | 代表者は御船重太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正2年(1913)9月開業   | 代表者は下坂藤吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正3年(1914)8月開業   | 代表者は中村勘助   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正3年(1914)8月開業   | 代表者は田中末吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正4年(1915)12月開業  | 代表者は森山茂太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正7年(1918)2月開業   | 代表者は島重喜  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正7年(1918)8月開業   | 代表者は原志末吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正9年(1920)12月開業  | 代表者は今村龜吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正10年(1921)1月開業  | 代表者は濹田末吉   | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 大正12年(1923)3月開業  | 代表者は田中熊太郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 昭和2年(1927)3月開業   | 代表者は中國佐野吉  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類(黒色素焼物) |      |         | 昭和3年(1928)10月開業  | 代表者は田中理三郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦類        |      |         |                  | 久留米市京隈侍屋敷遺跡第20次調査で「特別改良筑後江島／中村善八」「城島製」スタンプがある棧瓦出土    | 久留米市第323集                       |
| 瓦類        |      |         |                  | 久留米市十間屋敷遺跡第5次調査で「筑後城島／特製／今村嘉次郎」スタンプがある平瓦出土           | 久留米市第366集                       |
| 瓦類        |      |         |                  | 久留米市十間屋敷遺跡第5次調査で「城島瓦／製造中村新八／筑後江島」スタンプがある平瓦出土         | 久留米市第366集                       |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 明治33年(1900)1月開業  | 代表者は田中秀次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 明治34年(1901)5月開業  | 代表者は森山萬蔵   | 全国工場通覧                          |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 明治36年(1903)1月開業  | 代表者は野口久次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 大正2年(1913)2月開業   | 代表者は坂井清  | 全国工場通覧                          |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 大正2年(1913)12月開業  | 代表者は森山伍次郎  | 全国工場通覧                          |
| 瓦(黒色素焼物)  |      |         | 大正11年(1922)3月開業  | 代表者は森山國太郎  | 全国工場通覧                          |
|           |      |         |                  | 塩塚川沿岸  |                                 |
|           |      |         |                  | 矢部川・塩塚川沿岸  |                                 |
|           |      |         |                  | 沖端川<br>江崎洋瓦店前身、文久2年創業(史料)                            |                                 |
| 黒色瓦       |      |         | 明治45年(1912)5月開業  | 代表者は村田新太郎  | 全国工場通覧                          |
| 黒色瓦       |      |         | 明治30年(1897)3月開業  | 代表者は甲斐田徳良  | 全国工場通覧                          |
| 黒色瓦       |      |         | 大正7年(1918)2月開業   | 代表者は古賀昌  | 全国工場通覧                          |

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

|     | 名称     | 読み           | 市町村名 | 所在地      | 現況 | 旧藩名 | 経営 | 調査歴 | 焼物名 |
|-----|--------|--------------|------|----------|----|-----|----|-----|-----|
| 78  | 瓦      |              | 柳川市  | 柳川市大和町中島 |    | 柳河  |    |     |     |
| 79  | 瓦      |              | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 80  | 瓦      |              | みやま市 | みやま市高田町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 81  | 瓦      |              | みやま市 | みやま市     |    | 柳河  |    |     |     |
| 82  | 田中瓦工場  | たなかかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 83  | 末吉瓦工場  | すえよしかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 84  | 小宮瓦工場  | こみやかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 85  | 大津瓦工場  | おおつかかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 86  | 高田瓦工場  | たかだかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 87  | 西田瓦工場  | にしだかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 88  | 平川瓦工場  | ひらかわかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 89  | 大津瓦工場  | おおつかかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 90  | 大木瓦工場  | おおきかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 91  | 末吉瓦工場  | すえよしかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 92  | 武末瓦工場  | たけすえかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 93  | 石橋瓦工場  | いしばしかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 94  | 松藤瓦工場  | まつふじかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 95  | 監塚瓦工場  | とくつかかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 96  | 重富瓦工場  | しげとみかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 97  | 佐藤瓦工場  | さとうかわらこうじょう  | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 98  | 大橋瓦工場  | おおはしかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 99  | 齋藤瓦工場  | さいとうかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |
| 100 | 牟田口瓦工場 | むたぐちかわらこうじょう | みやま市 | みやま市瀬高町  |    | 柳河  |    |     |     |

豊前

|   |           |         |      |                    |    |    |    |     |  |
|---|-----------|---------|------|--------------------|----|----|----|-----|--|
| 1 | 東洋陶器株式会社  |         | 北九州市 | 北九州市小倉区篠崎          |    | 小倉 |    | 未調査 |  |
| 2 | 門司硬化煉瓦製造所 |         | 北九州市 | 北九州市門司区小森江         |    | 小倉 |    | 未調査 |  |
| 3 | 文化木炭工場    |         | 北九州市 | 北九州市門司区大里門瀬町       |    | 小倉 |    | 未調査 |  |
| 4 | 辻村商店煉瓦部   |         | 北九州市 | 北九州市門司区大里          |    | 小倉 |    | 未調査 |  |
| 5 | 大里窯業所     |         | 北九州市 | 北九州市門司区大黒町         |    | 小倉 | 民窯 | 未調査 |  |
| 6 | 小袋煉瓦工場    | おぶくろれんが | 大任町  | 田川郡大任町             | 宅地 | 小倉 | 民窯 | 未調査 |  |
| 7 | 川西煉瓦工場    |         | 糸田町  | 田川郡糸田町             |    |    |    |     |  |
| 8 | 瓦         |         | 豊前市  | 豊前市大村・鳥越(記録には境とある) |    | 小倉 | 民窯 | 未調査 |  |
| 9 | 瓦         |         | 豊前市  | 豊前市吉木              | 道路 | 小倉 | 民窯 | 未調査 |  |

| 製品       | 窯の状況 | 規模・傾斜角度 | 推定年代            | 備考  | 参考文献                 |
|----------|------|---------|-----------------|---|----------------------|
|          |      |         |                 |   | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929 |
|          |      |         |                 |   | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929 |
|          |      |         |                 |   | 工学博士北村彌一郎窯業全集第3巻1929 |
|          |      |         |                 | 「瓦業に従事せるものは、江浦、開地方を主とし、郡内瓦製造戸数16戸、1ヶ年の産額7万余円で販路は郡内及隣郡である。」とある(三池郡誌1926) | 三池郡誌1926             |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治13年(1880)3月開業 | 代表者は田中久次郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治25年(1892)3月開業 | 代表者は末吉辰次郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治35年(1902)2月開業 | 代表者は小宮留太郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治35年(1902)2月開業 | 代表者は大津鶴松  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治35年(1902)2月開業 | 代表者は高田三太郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治35年(1902)3月開業 | 代表者は西田荘吉  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治40年(1907)3月開業 | 代表者は平川正太郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治41年(1908)6月開業 | 代表者は大津末松  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 明治45年(1912)3月開業 | 代表者は大木  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正2年(1913)2月開業  | 代表者は末吉進   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正7年(1918)9月開業  | 代表者は武末勇三郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正10年(1921)2月開業 | 代表者は石橋栄太郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正12年(1923)3月開業 | 代表者は松藤連人  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正12年(1923)3月開業 | 代表者は壁塚正巳  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正13年(1924)3月開業 | 代表者は重富福松  | 全国工場通覧               |
| 黒色瓦      |      |         | 大正13年(1924)3月開業 | 代表者は佐藤新太郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正13年(1924)3月開業 | 代表者は大橋梅次郎   | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 大正14年(1925)7月開業 | 代表者は齋藤福松  | 全国工場通覧               |
| 瓦(黒色素焼物) |      |         | 昭和2年(1927)3月開業  | 代表者は牟田口虎次   | 全国工場通覧               |

|        |  |  |                  |   |              |
|--------|--|--|------------------|---|--------------|
| 衛生器    |  |  | 大正6年(1917)5月開業   | 代表者は無記名   | 全国工場通覧       |
| 煉瓦     |  |  | 昭和3年(1928)6月開業   | 代表者は無記名   | 全国工場通覧       |
| 耐火煉瓦   |  |  | 大正14年(1925)12月開業 | 代表者は高山始   | 全国工場通覧       |
| 耐火煉瓦   |  |  | 大正12年(1923)12月開業 | 代表者は辻村良衛  | 全国工場通覧       |
|        |  |  | 大正7年(1918)10月～   | 商工省の「全国工場通覧」には飲食用陶磁器製造業の代表者として久富藤九郎が掲載される   | 全国工場通覧       |
| 煉瓦・屋根瓦 |  |  | 明治38年(1905)4月開業  | 代表者は小袋半   | 全国工場通覧       |
| 煉瓦     |  |  | 明治37年(1904)3月開業  | 代表者は川西亀吉  | 全国工場通覧       |
| 瓦      |  |  | 明治2年(1869)～昭和中期  | 明治二年六月巳年諸願書控「願い奉る口上の覚」「一瓦焼き御免礼巻枚」に農業で手のすいた時間、瓦焼きを行いたい旨の願出が願主・大村村長・鳥越村長3人連名で提出されている。いこの記録にある瓦焼きの原料供給地が大村天神林遺跡2区と推定される。県指定史跡藤春園(求湊倉)の瓦は大村で制作されたもの。陶土 豊前市大村? | 友枝文書史料集(一)商業 |
| 瓦      |  |  | 近世～近代            | 近代まで瓦屋が操業された場所と伝えられ、調査では近代頃と推定される大型掘立柱建物が検出された。この大型建物が瓦工房の可能性がある。   |              |

表2 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 関係遺跡

| 筑前 |                   |                       |    |  |               |                  |   |   |
|----|-------------------|-----------------------|----|--|---------------|------------------|---|---|
| 番号 | 名称                | 読み                    | 種別 | 所在地  | 現況            | 推定年代             | 備考  | 参考文献  |
| 1  | 土取り跡              | どとりあと                 | 1  | 太宰府市観世音寺1丁目  | 駐車場           |                  |   |   |
| 2  | 土取り跡              | どとりあと                 | 1  | 太宰府市向佐野2丁目   | 店舗            | 江戸末～近代           | 早良高取焼の原土採取地〔西皿山〕  | 『佐野を掘る1向佐野原口遺跡』山村信策『都府楼』第6号<br>1988古都大宰府保存協会<br>日本近世窯業史 |
| 3  | 土取り跡              | どとりあと                 | 1  | 太宰府市吉松3丁目  | 宅地            | 江戸末～近現代          | 中の子家の博多素焼、古博多人形の原土採取地   | 『博多人形沿革史』博多人形沿革史編集委員会<br>日本近世窯業史                        |
| 4  | 焼物用の土             |                       | 1  | 須恵町大字上須恵   |               |                  | 文献記録<br>須恵焼の創始者新藤安平が藩の鉱山にかかわっていた際に「須恵村逢谷」(現、須恵町大字須恵字ヨムギと思われる)で焼物用の土を発見したとされる。(都府楼6号)  | 『佐野を掘る1向佐野原口遺跡』山村信策『都府楼』第6号<br>1988古都大宰府保存協会            |
| 5  | 釉薬用の原料の土          |                       | 1  | 須恵町大字植木  |               |                  | 聞き取り記録<br>「甲植木切通付近より、釉薬用の原料の土を採掘し、粕屋町原町から天草などに送り出していた」(博多人形沿革史)   | 『博多人形沿革史』博多人形沿革史編集委員会                                   |
| 6  | 釉薬土採土場            |                       | 1  | 朝倉市杷木赤谷  |               |                  | 「村ノ東杉添と云處より陶器の薬に用る白土を出す」(筑前国統風土記拾遺)   | 筑前国統風土記拾遺<br>日本近世窯業史                                    |
| 7  | 釉薬土採土場            |                       | 1  | 直方市感田  |               |                  | 「薬土 行常と云處の松山の下より白土を出す。早良郡西皿山の焼物に用ゆる薬土也。毎年福岡へ出す。」(筑前国統風土記拾遺)   | 筑前国統風土記拾遺   |
| 8  | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市城南区七隈   | 宅地            | 明治～              | 高取焼の花瓶・置物・茶器・猪口<br>現在も博多人形・津屋崎人形の原料として採掘中   | 日本近世窯業史<br>市史だよりFukuoka16                               |
| 9  | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区野間  | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 10 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区柳河内   | 宅地            | 明治～              | 野間焼   | 日本近世窯業史   |
| 11 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区若久  | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 12 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区高宮  | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 13 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区横手  | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 14 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区五十川   | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 15 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市中央区島崎   | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 16 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市博多区青木   | 宅地            | 江戸～              | 瓦町焼   | 日本近世窯業史   |
| 17 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市博多区麦野   | 宅地            | 江戸～              | 博多人形  | 日本近世窯業史   |
| 18 | 釉料(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市早良区有田   | 宅地            | 明治～              | 高取焼・褐鉄鉢   | 日本近世窯業史   |
| 19 | 釉料(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市南区多賀  | 宅地            | 明治～              | 野間焼   | 日本近世窯業史   |
| 20 | 釉石(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市西区金武  |               | 江戸～              | 西皿山   | 日本近世窯業史   |
| 21 | 釉石(採掘地)           |                       | 1  | 福岡市城南区长尾   | 宅地            | 江戸～              | 西皿山   | 日本近世窯業史   |
| 22 | 原土(採掘地)           |                       | 1  | 朝倉郡東峰村   |               | 江戸～              | 小石原焼  | 日本近世窯業史   |
| 23 | 薬石採土場             |                       | 1  | 飯塚市  |               | 江戸～              | 西皿山の高取焼の薬石  | 日本近世窯業史   |
| 24 | 高取焼発祥乃地永満寺宅間窯跡〔碑〕 | えいまんじたくまかまあと          | 4  | 直方市  | 原野            | 平成19年(2007)1月    |   |   |
| 25 | 高取焼内ヶ磯窯記念碑        | たかとりやきうちがそかまきねんひ      | 4  | 直方市  | 山林            | 平成22年(2010)4月    |   |   |
| 26 | 高取八山墓跡〔碑〕         | たかとりはちざんはかあと          | 4  | 飯塚市庄司宇白旗<br>〔筑紫1938によると、「墓は嘉穂郡仲村白旗山の麓にあって墓碑はなく、朝鮮式の土饅頭型の柄である。先年高崎正戸氏の発見によって……」〕とある | 宅地            | 昭和41年(1966)頃に建立か | 初代八山を含め八山一統の墓地については、昭和41年(1966)に市営白旗団地造成のために改葬された。現在はその場所に記念碑が建つ。移転に関して「分骨移転、白旗山(幸袋町)より小石原(朝倉郡)へ 埋葬供養式 昭和43年 左側 八山 右側 妻しらと 名碑寄進 黒田長成」と柄内1936に写真と手書きの書き込みが残されていることから、墓は東峰村に在るものと考えられる。 | 筑紫頼定1938高取焼その他  |
| 27 | 古高取山田窯跡記念碑        | こたかとりやまだかまあと<br>きねんひ  | 4  | 嘉麻市上山田   | 山林            | 昭和11年(1936)      | 福岡日日新聞 昭和11年(1936)8月19日   |   |
| 28 | 仮称・高取八仙慰霊碑        | たかとりはちざんいれいひ          | 4  | 嘉麻市上山田   | 山林            | 昭和54年(1979)      | 高取焼13代窯元高取八仙建立  |   |
| 29 | 大庭源太夫、夫婦の墓        | おおばげんだゆうふうの<br>のはか    | 4  | 嘉麻市上山田   | 山林            |                  | 山田窯に面した小高い丘のふもとに並んで立つ。墓碑銘は「心浄源信士(大庭源太夫・明暦3年(1657)6月22日没)「光譽妙雪禪尼(同妻寛永21年(1645)11月2日没)」通称「殿の墓」と呼ばれる。1967年(1968年?)にこの墓所から抹茶碗2個が発見された   | 秋月街道  |
| 30 | 神武天皇社 式日献燈        | じんむてんのうしやしき<br>じつげんとう | 4  | 遠賀郡芦屋町正門町  | 神武天皇社境内入り口に現存 | 嘉永2年(1849)5月     | 二基一対の石灯籠 基壇まで入れた高さ5m 台石には発起人・土工などの氏名が彫られる。  |   |
| 31 | 岡湊神社 式日献燈         | おかみなとじんじやしき<br>じつげんとう | 4  | 遠賀郡芦屋町船頭町  | 岡湊神社境内に現存     | 天保3年(1832)9月     | 伊万里と芦屋の商人とが共同して献納した一対の式日献燈  |   |
| 32 | 岡湊神社 式日献燈         | おかみなとじんじやしき<br>じつげんとう | 4  | 遠賀郡芦屋町船頭町  | 岡湊神社境内に現存     | 天保10年(1839)8月    | 伊万里と芦屋の商人とが共同して献納した一基の式日献燈  |   |

| 番号 | 名称       | 読み            | 種別 | 所在地         | 現況                                   | 推定年代         | 備考  | 参考文献        |
|----|----------|---------------|----|-------------|--------------------------------------|--------------|---|-------------|
| 33 | 陶工小山田家墓跡 | とうこうおやまだけはおかと | 4  | 須恵町大字上須恵    | 須恵南幼稚園西側の共同墓地。整備され、現存せず。1981年墓碑銘調査実施 | 天明2年(1782)以降 | 歴史民俗資料館に当時の調査記録及び副葬品(須恵焼)収蔵                                 |             |
| 34 | 松永吉右衛門の墓 | まつながきちえもんのはか  | 4  | 糟屋郡須恵町大字上須恵 | 共同墓地の中に位置する                          |              | 須恵町から天草に渡った陶工松永家の墓  | 須恵町誌p1140   |
| 35 | 採土場跡     |               | 1  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              | 「陶土を採掘時に出た石などを円墳状に盛ったもので8か所ほどある」とする。『日本近世窯業史』のものと同じか否か不明    | 東峰村第5集      |
| 36 | 陶神       |               | 4  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              | 「祭日は10月10日。自然石で高さ133cm、幅60cm、厚さ46cm。小石原工芸館内にあり」とする          | 東峰村第6集      |
| 37 | 火の神様     |               | 4  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              | 村地図84で、「石祠に祀られる」とある   |             |
| 38 | 土神様      |               | 4  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              |   | 小石原村史東峰村第3集 |
| 39 | 高取家累代墓地  |               | 4  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              | 災害のため不明   | 高取家文書       |
| 40 | 天照太神宮    |               | 4  | 朝倉郡東峰村      |                                      |              | 延宝9年(1681)に高取八蔵貞明が高取家がこの地に移り住むまでに嘗てきた所の神を勧請して建立。※八郎重房が勧進した。 | 小石原村史高取家文書  |
| 41 | 皿山山王神社   |               | 4  |             |                                      |              | 佐々木与七 澤田舜山の窯があったとされる神社                                      |             |
| 42 | 澤田舜山の墓   |               | 4  |             |                                      |              |   | 須恵町誌p1139   |

#### 筑後

| 番号 | 名称         | 読み                 | 種別 | 所在地        | 現況   | 推定年代            | 備考                                      | 参考文献            |
|----|------------|--------------------|----|------------|------|-----------------|---|-----------------|
| 1  | 赤坂神社境内 狛犬台 | あかさかじんじゃけいだいこまいぬだい | 4  | 筑後市大字蔵敷    | 現地保存 | 大正10年(1921)     | 三原窯跡に建立された赤坂神社境内の狛犬台の銘に「百年祭記念 大正十年」とある。 |                 |
| 2  | 坂東寺焼窯元記念碑  | ばんとうじやきかまもときねんひ    | 4  | 筑後市大字熊野    | 現地保存 | 昭和48年(1973)5月5日 | 坂東寺東大門の傍らに建立された平吾窯の窯元記念碑。近隣に十二代元生の碑がある。 | 筑後市神社仏閣調査書 坂東寺篇 |
| 3  | 水田焼記念碑     | みずたやきねんひ           | 4  | 筑後市大字水田    | 現地保存 | 昭和48年(1973)8月   | 本田能登が水田焼を始めた場所の石碑。筑後郷土史研究会によって建設される。    |                 |
| 4  | 男ノ子焼窯跡〔石柱〕 | おのこやきかまあと          | 4  | 八女市立花町北山   |      |                 | 星野の山本源太氏が建てた石柱に「男ノ子焼窯跡」とある(立花町史 上巻p452) |                 |
| 5  | カメヤキドンの墓   | かめやきどんのはか          | 4  | 八女市黒木町笠原   |      |                 | 八女郡笠原村字釈形山中のウゲイシゴエ池の窪にあり、「豊焼殿の墓」とのこと    | 浅野1935筑後陶藝考     |
| 6  | 池の本窯跡      |                    | 4  |            |      |                 | 木製の標柱 消滅                                |                 |
| 7  | 名陶二川焼登窯〔碑〕 | めいとうふたかわやきのぼりがま    | 4  | みやま市高田町下楠田 |      |                 | 富重窯と角窯にある。                              |                 |
| 8  | 森松家之墓      | もりまつけのはか           | 4  | 八女市星野村     | 墓地   |                 | 森松家之墓の横に、「森松勢蔵墓記」の碑がある。                 |                 |

#### 豊前

| 番号 | 名称         | 読み                | 種別 | 所在地        | 現況 | 推定年代             | 備考                                    | 参考文献  |
|----|------------|-------------------|----|------------|----|------------------|---------------------------------------|---|
| 1  | 上野本窯跡碑     | あがのほんがまあとひ        | 4  | 福智町皿山      | 山林 | 平成14年(2002)10月吉日 | 12代熊谷無造により開窯400年を記念し建立                |   |
| 2  | 古墓         |                   | 4  | 福智町釜蓋?     | 山林 | 江戸期              | 地元では大友宗麟の焼き討ち犠牲者の墓と伝えられる。釜の口より数m東の尾根上 |   |
| 3  | 岩屋高麗窯発祥の地碑 | いわやこうらいがまはっしょうのちひ | 4  | 福智町岩屋      | 山林 | 平成21年(2009)8月21日 |                                       |   |
| 4  | 奥田儀三郎夫妻の墓  | おくだぎさぶろうさいのはか     | 4  | 田川郡香春町大字高野 | 墓地 | 慶応元年(1865)8月     | 「田香」銘の陶工と考えられる奥田儀三郎とその妻の墓碑。           |   |
| 5  | 原土(採掘地)    |                   | 1  | 田川市?       |    | 江戸~              | 上野焼                                   | 日本近世窯業史   |
| 6  | 原土(採掘地)    |                   | 1  | 田川市夏吉      |    | 江戸~              | 上野焼                                   | 日本近世窯業史<br>小林省吾「豊前国焼窯上野焼の発祥とその背景」郷土田川44号 p25『萬之代控』本登御用目録控「夏吉工 煎茶茶碗、一輪立」 |

## 筑前1 永満寺宅間窯跡

所在地：直方市大字永満寺

経 営：福岡藩

焼物名：高取焼

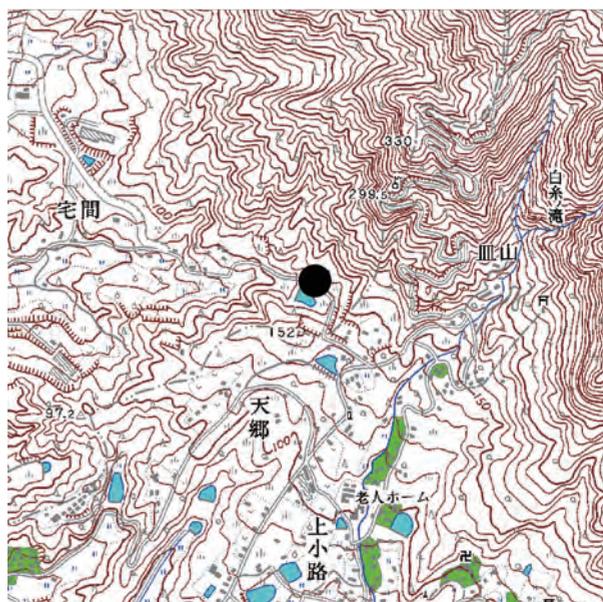
年 代：慶長 11 年 (1606) ～慶長 19 年 (1614)

現 況：山林

備 考：市 94、県 050117 として周知化

『高取歴代記録』には慶長 5 年 (1600) の黒田長政入国後、文禄・慶長の役により朝鮮半島から日本へ渡来した八山により鷹取山の麓で製作をはじめたとあり、これが永満寺宅間窯とされる。すなわち高取焼の起源となる窯と評されるが、具体的な開窯年代には慶長 11 年 (1606) や慶長 9 年 (1604) 等の諸説がある。慶長 19 年 (1614) の一国一城令による鷹取城廃城により閉窯し、内ヶ磯窯に移ったとされる。

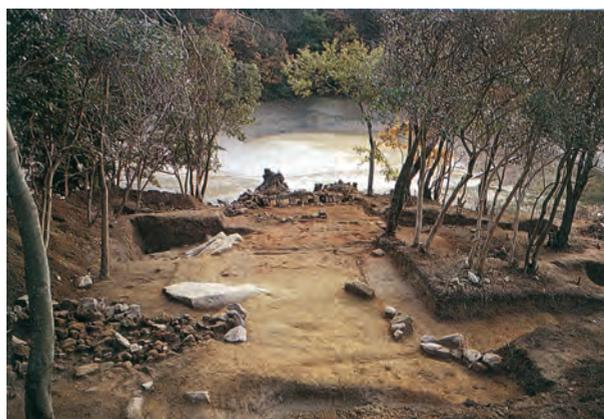
窯は鷹取山南麓に位置する。豊前国境に近い地にあり、豊前上野焼の皿山本窯とはおよそ 750m しか離れていない。昭和 57 年 (1982) に直方市教育委員会による発掘調査が行われ、全長 16.6 m の焚口と焼成室 6 室からなる割竹式登窯が検出された。小皿や碗、瓶など日常製品が多く、茶陶は発掘調査資料には含まれない。釉薬は藁灰、土灰、褐釉が多く、海鼠釉となるものが目立つ。窯道具にはハマとトチンがある。



窯跡位置図 『金田』 (1/25,000)

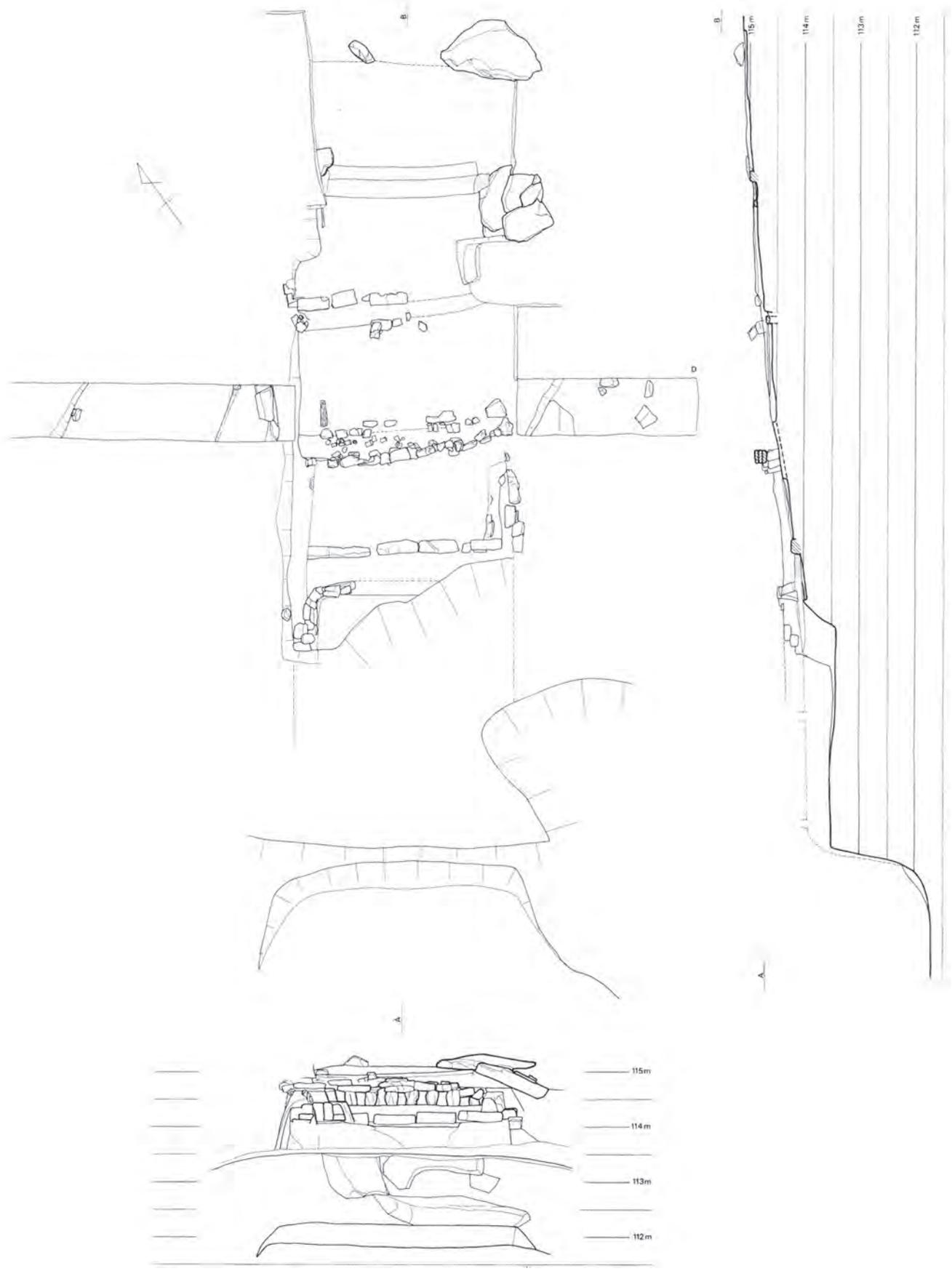


窯跡現況 (近景)



窯跡 (調査時)

直方市教育委員会提供



永満寺宅間窠跡実測図（1/100）

## 筑前2 内ヶ磯窯跡

所在地：直方市大字頓野

経 営：福岡藩

焼物名：高取焼

年 代：慶長 19 年（1614）～寛永元年（1624）

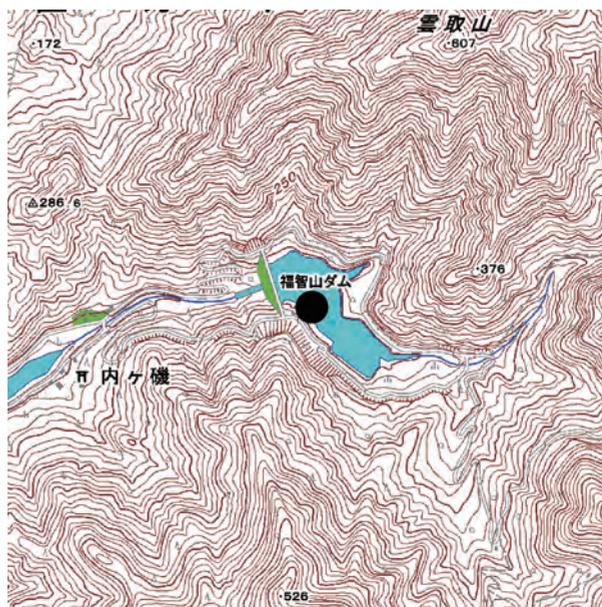
現 況：ダム水没

備 考：市 55、県 050118 として周知化

『筑前国続風土記』によると朝鮮出兵により渡来した八山により慶長 19 年（1614）に開窯。『高取家文書』は寛永元年（1624）に、八山父子の帰国願いが二代藩主黒田忠之の勘気に触れ、山田村へ蟄居させられたとある。『筑前国続風土記』には寛永 7 年（1630）に白旗山に移ったとあることから、その時期まで続いたとする説もある。

窯跡は鷹取山北麓の比較的狭い谷に位置する。昭和 54 年（1979）から 56 年（1981）、平成 7 年（1995）から平成 11 年（1999）に計 8 次の発掘調査が行われ、全長 46.5 m の焚口と焼成室 14 室からなる階段状連房式登窯が検出され、前面域を中心に工房跡もまた検出された。窯の両脇には厚い物原が形成される。皿や播鉢など日常製品が多く生産されたが、茶入・茶碗・水指・向付など多様な茶陶もまた生産された。藁灰釉、アメ釉を中心に、多種多様な釉薬が用いられ、掛け分け・イッチン掛け等の技法もみられた。

窯本体は調査後に保存措置が講じられた上で、福智山ダムの湖底に水没している。



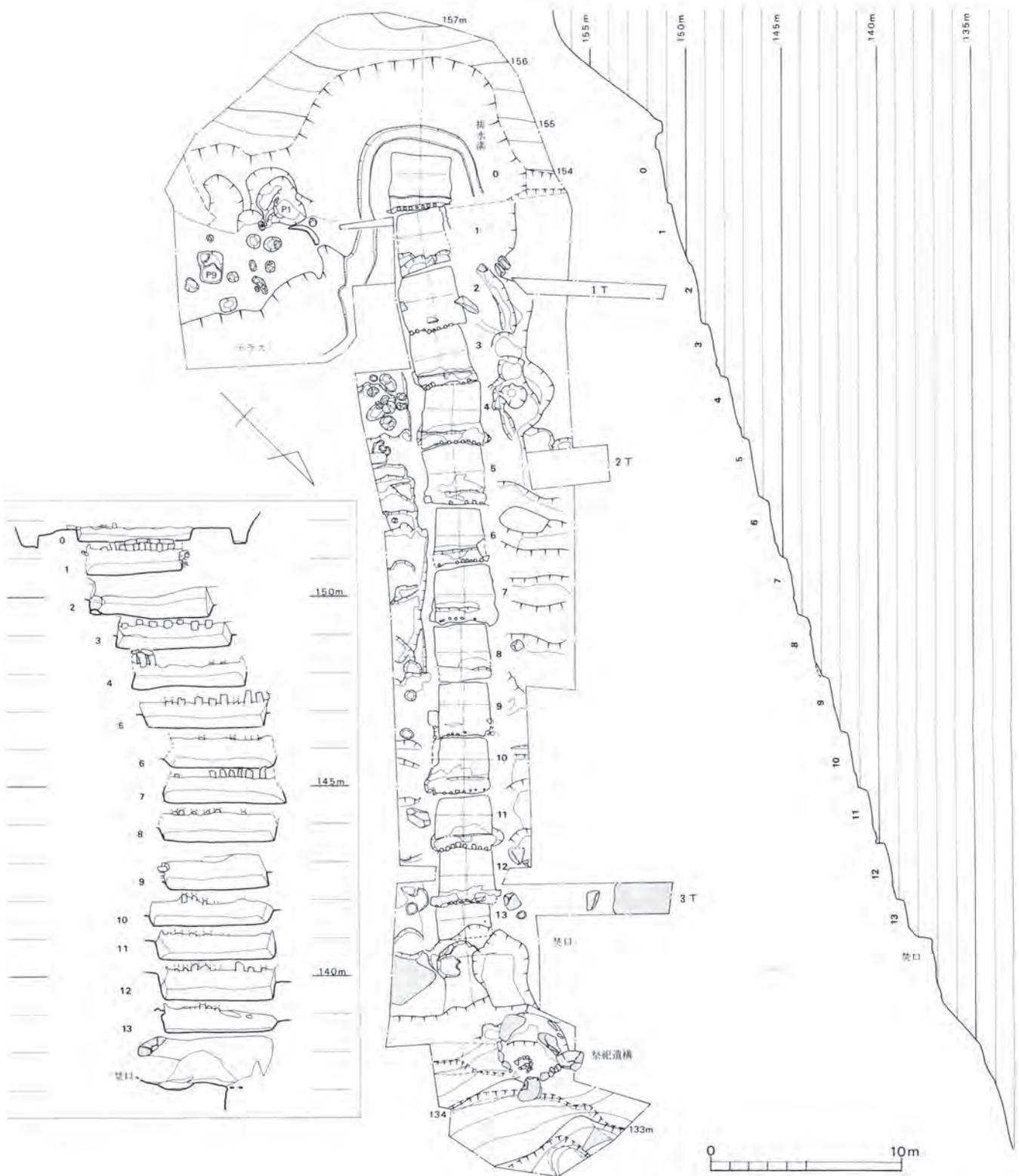
窯跡位置図 『徳力』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡遠景（調査時）



内ヶ磯窯跡実測図 (1/150・1/300)

## 筑前4 山田窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：寛永元年(1624)～寛永7年(1630)

現況：山林、ボタ山埋没

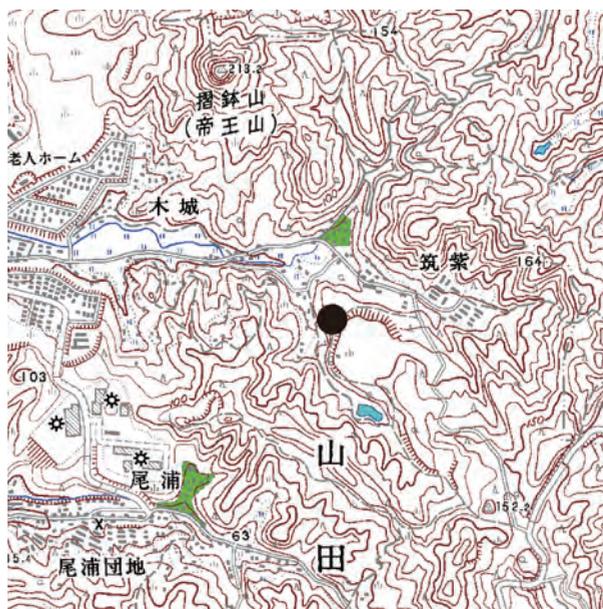
備考：市 2078、県 090013 として周知化

高取焼初代八山が、黒田忠之が二代藩主になったことを機に帰国を願い出たところ、その怒りに触れて蟄居を命じられ、山田に住むことになり（『高取家文書』）、製陶した窯である。皿・壺・鉢・片口等の日用雑器を焼いたとされる。

筑前と豊前を分ける低い丘陵が続く地にあり、谷の奥部に築かれる。現在はボタ山の堆積下にあり窯跡を確認することはできないが、現地近くには八山の慰霊碑と調査後の昭和11年(1936)に建立された古高取山田窯跡碑が立つ。

昭和10年(1935)に地元有志により発掘調査が行われ、枋内禮次氏により調査成果がまとめられた。陶器の皿や碗、瓶等が出土している。側壁と思われる高まりが残る状況であったとされるが、発掘調査当時の聞き取りでは、かつては1尺程度の側壁と幅2～3尺程度の焚口が残り、窯床は階段状をなしていたとされる。

現在知られている出土品は少ないが、一部は根津美術館に所蔵されている。また近隣にある大庭源太夫の墓所から出土した碗は山田窯で焼かれた可能性が高く、嘉麻市指定文化財(工芸品)に指定されている。



窯跡位置図 『金田』(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



窯跡現況(古高取山田窯跡碑)

## 筑前5 猪之鼻窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：元文年間～

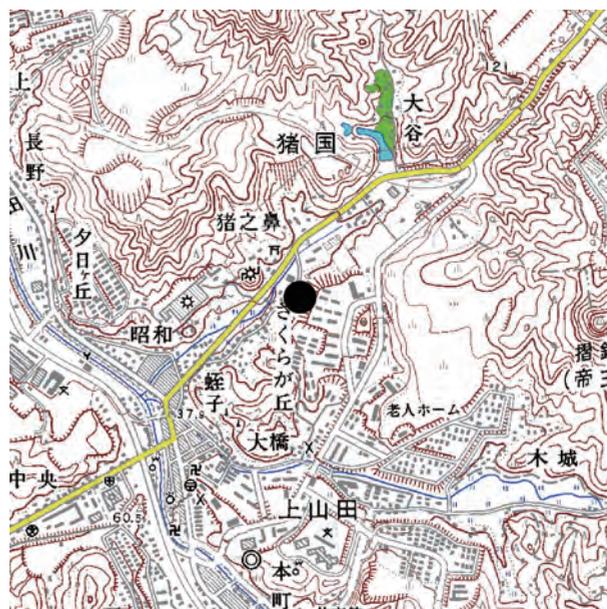
現況：山林

備考：市 2076 として周知化

『筑前国続風土記拾遺』には「猪之鼻に陶工二戸ありて元文の頃より陶器を製せしも近年絶えたり」とある。付近の土地は皿山と呼ばれている。

山田川に近い標高約45mの丘陵裾に位置する。昭和42年(1967)3月に山田市教育委員会(現、嘉麻市教育委員会)により調査がなされ、窯の位置や規模が判明したとされるが、その具体的な内容は今回の調査では確認出来なかった。また、大師堂付近の山林が想定される地点と考えられるが、窯跡を示す状況は確認出来なかった。

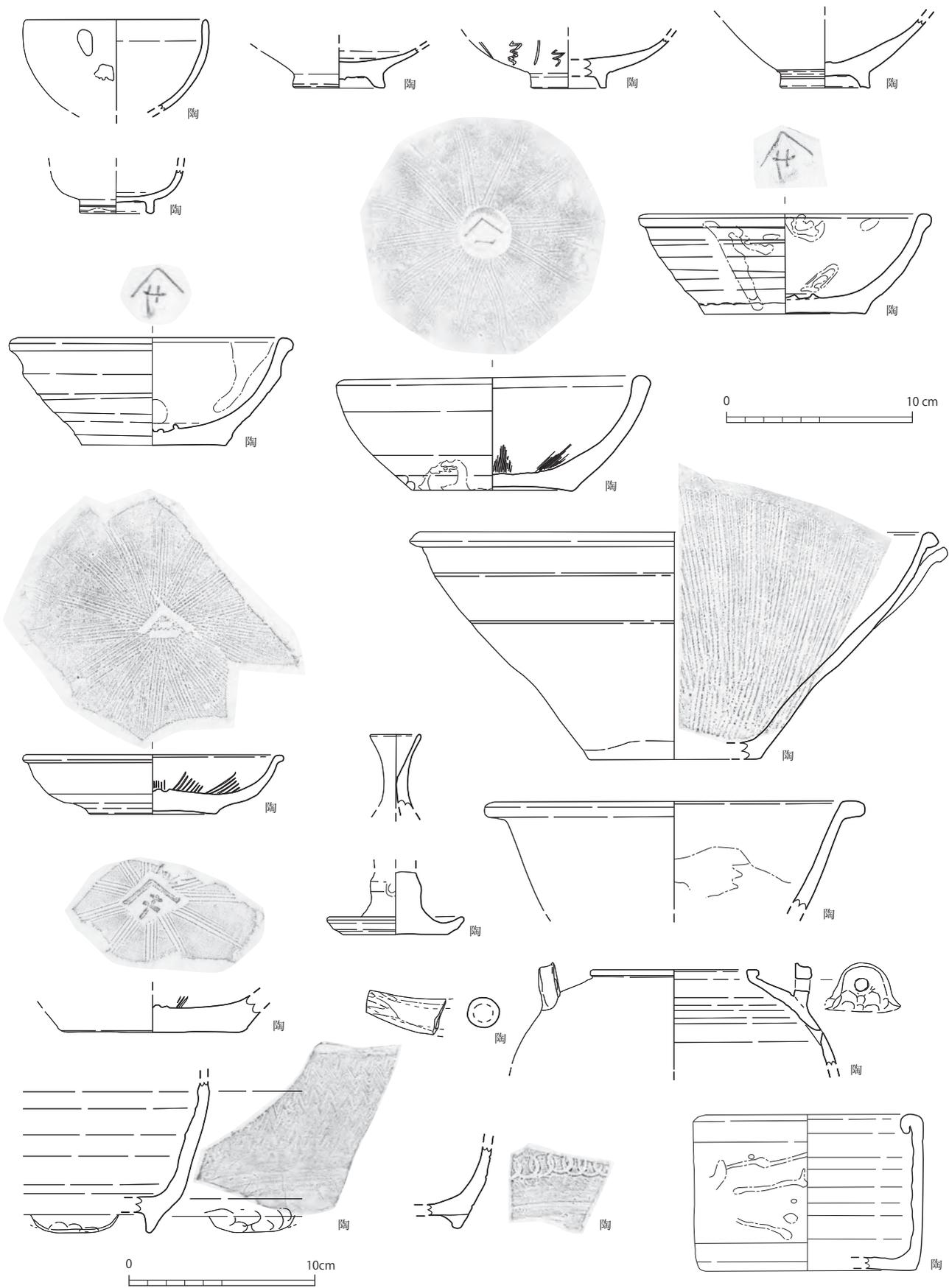
出土品は嘉麻市教育委員会で保管されている。鉢・すり鉢が最も多く、小皿・碗・土瓶・ひょうそく・土管が含まれている。屋号の陽刻・陰刻がある小形の鉢・すり鉢が特徴的である。またトチンやタコハマ等の窯道具が出土している。



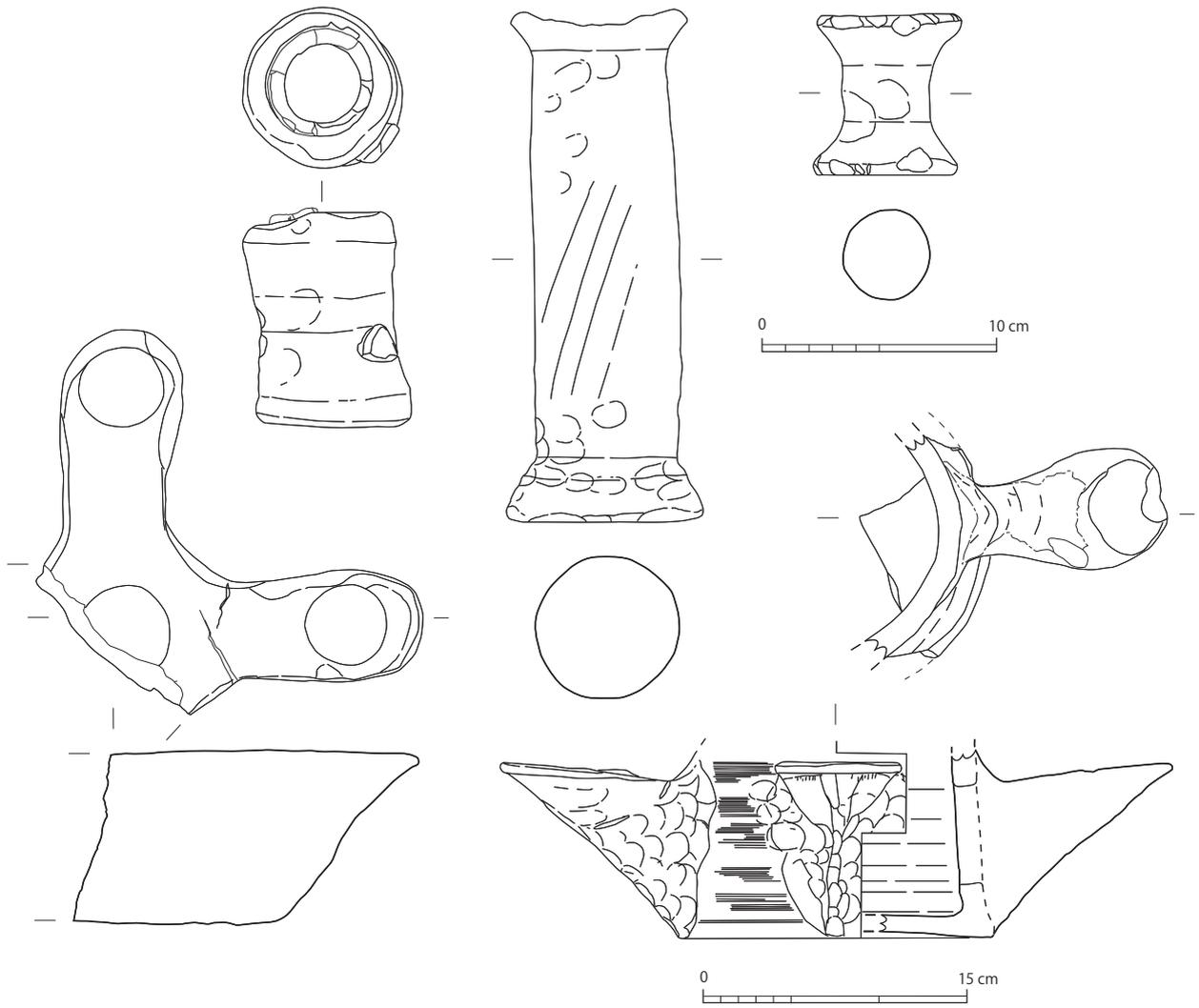
窯跡位置図 『筑前山田』(1/25,000)



窯跡現況(推定地遠景)



猪之鼻窯跡出土遺物実測図1 (1/3・1/4) 嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窯跡遺物実測図2 (1/3・1/4)

嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窯跡出土遺物

## 筑前6 黒田窯跡

所在地：嘉麻市上黒田（漆生）

経営：民窯

焼物名：黒田焼

年代：江戸時代末期～明治20年(1887)頃

現況：竹林

備考：市2036として周知化

1979年刊行の『稲築町誌』に江戸時代末期開窯、明治20年(1887)頃閉窯の記載があるが、詳細を追うことはできなかった。

遠賀川に近い標高約49mの尾根先端部に位置する。尾根先端の斜面中段に平坦面があり、窯壁や窯道具、陶片が散乱する。尾根方向と直交する東西方向に0.5～1m程度の比高差で3面が連続して観察されることから、東側を焚口とする窯本体を想定したが、『稲築町誌』では、「上り窯で9個あったという」との記述があり、窯の向きや室数は現状では正確に判断できないと考える。平坦面は南北（幅）3.3～3.6m、東西（奥行）4.5m程度の規模を測る。窯本体推定位置から南に向かった斜面には碗・皿等の陶器片や窯道具（足付サヤ・トチン）、焼土が多量に堆積し、物原を形成している。製品には「黒」の刻印があるとされるが、採集資料では確認できなかった。



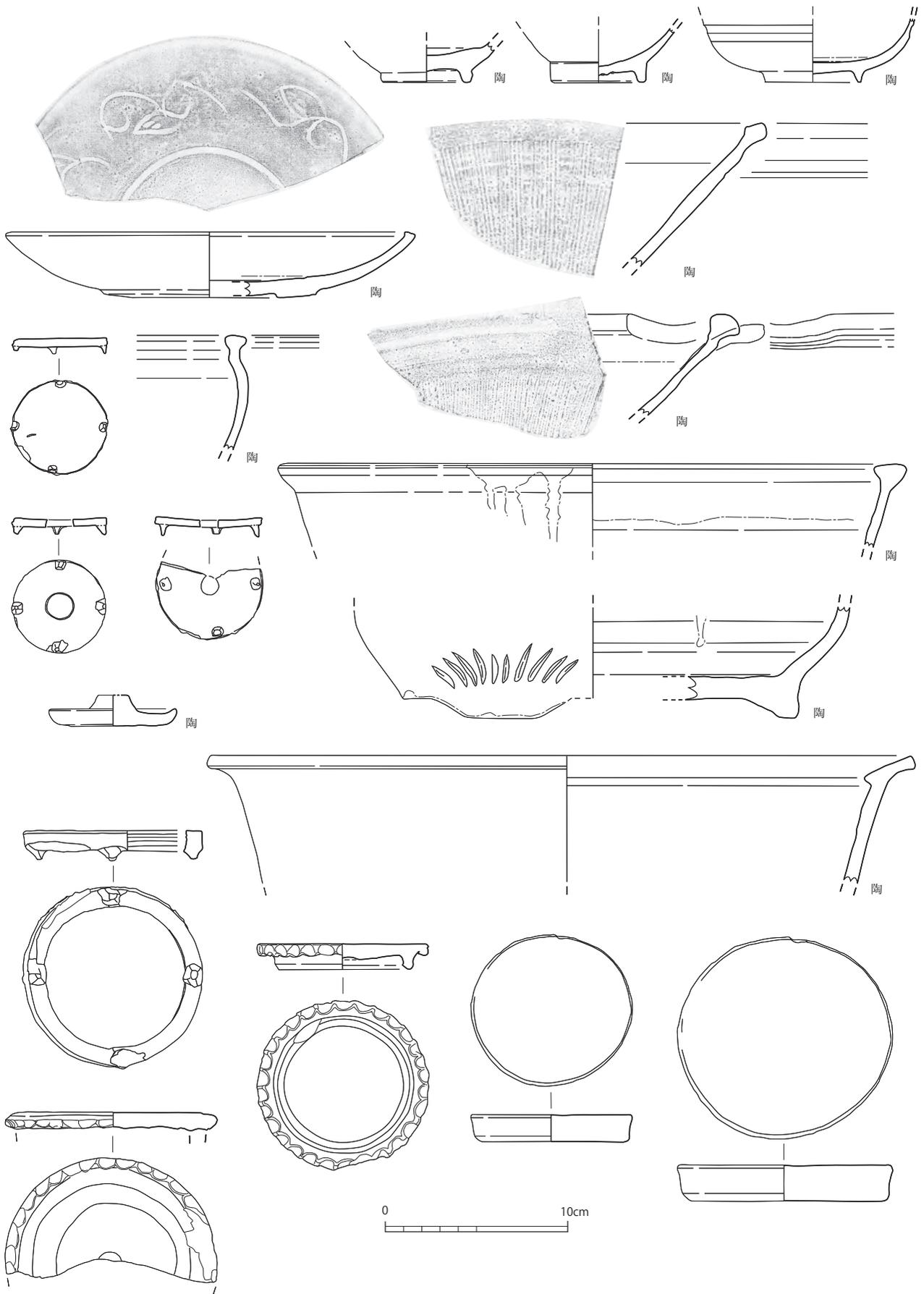
窯跡位置図 『飯塚・大隈』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

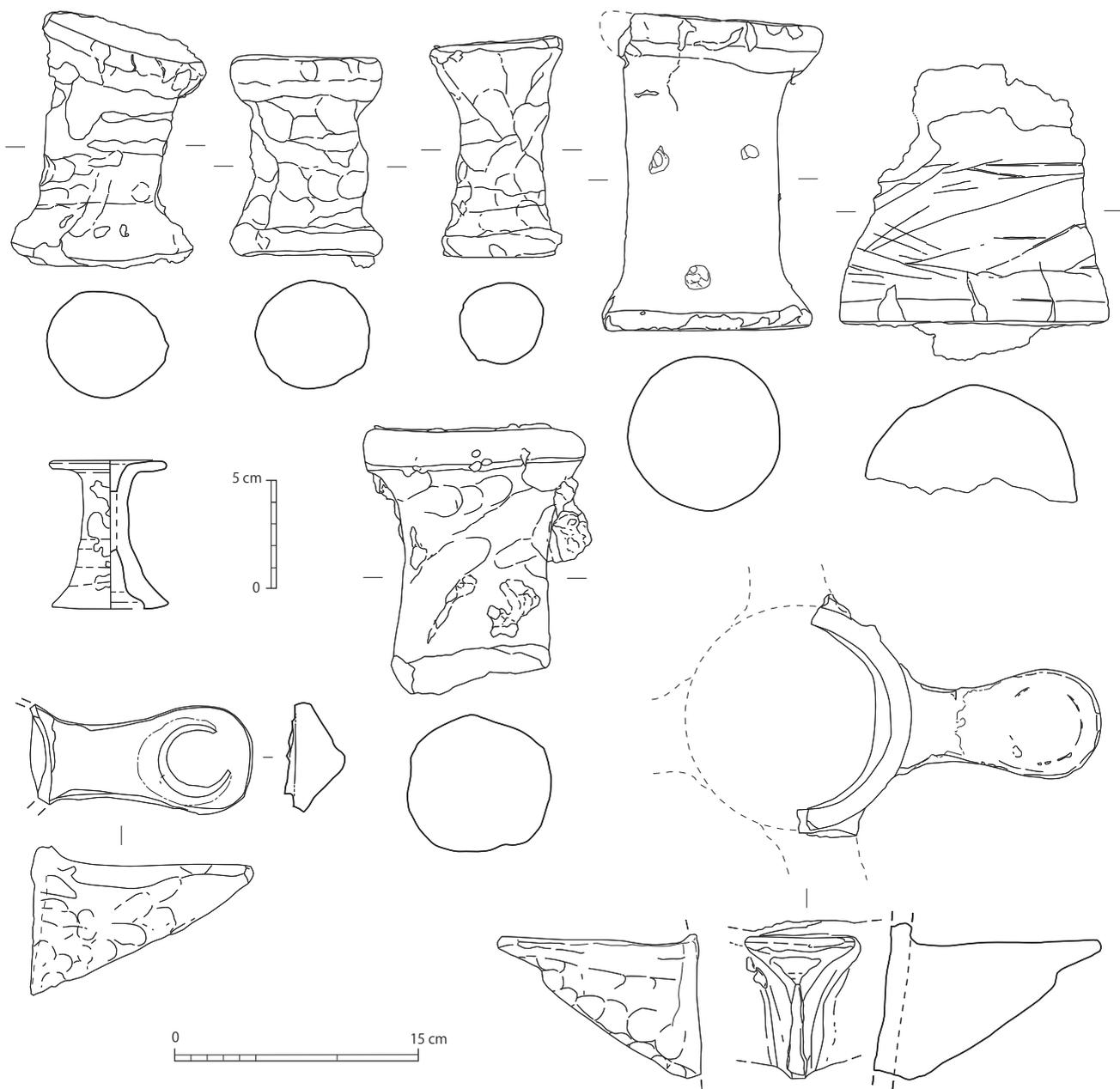


窯跡現況（近景）



黒田窯跡出土遺物実測図1 (1/3)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡遺物実測図2 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡出土遺物

## 筑前7 野口窯跡

所在地：嘉麻市大隈町

経営：民窯

焼物名：

年代：19 世代？

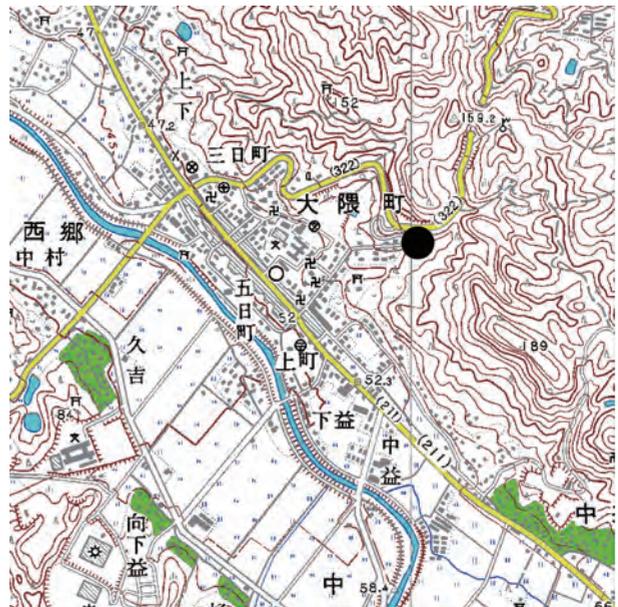
現況：山林

備考：市 2169 として周知化

文献等の記録類にあらわれない窯跡。

大隈集落を外れた丘陵斜面に位置し、旧山田市へ抜ける旧道に近い場所にある。急傾斜地を斜めに登る幅約 4m の古道があり、標高約 90m の地点において道に沿って石垣が築かれている。石垣の上面は狭い平坦面をなしており、南側は急傾斜地となる。窯道具は、この古道の周辺に散布しており、石垣を含む造成地に窯を築いていた可能性があるが、現状で窯の構造は確認できない。散布する量は少量で、小規模な窯であった可能性がある。散布地の北側斜面上にも平坦面は見られるが、窯に伴うであろう遺物の散布はみられなかった。

嘉穂市教育委員会に採集資料がパンケース 1 箱保管されている。



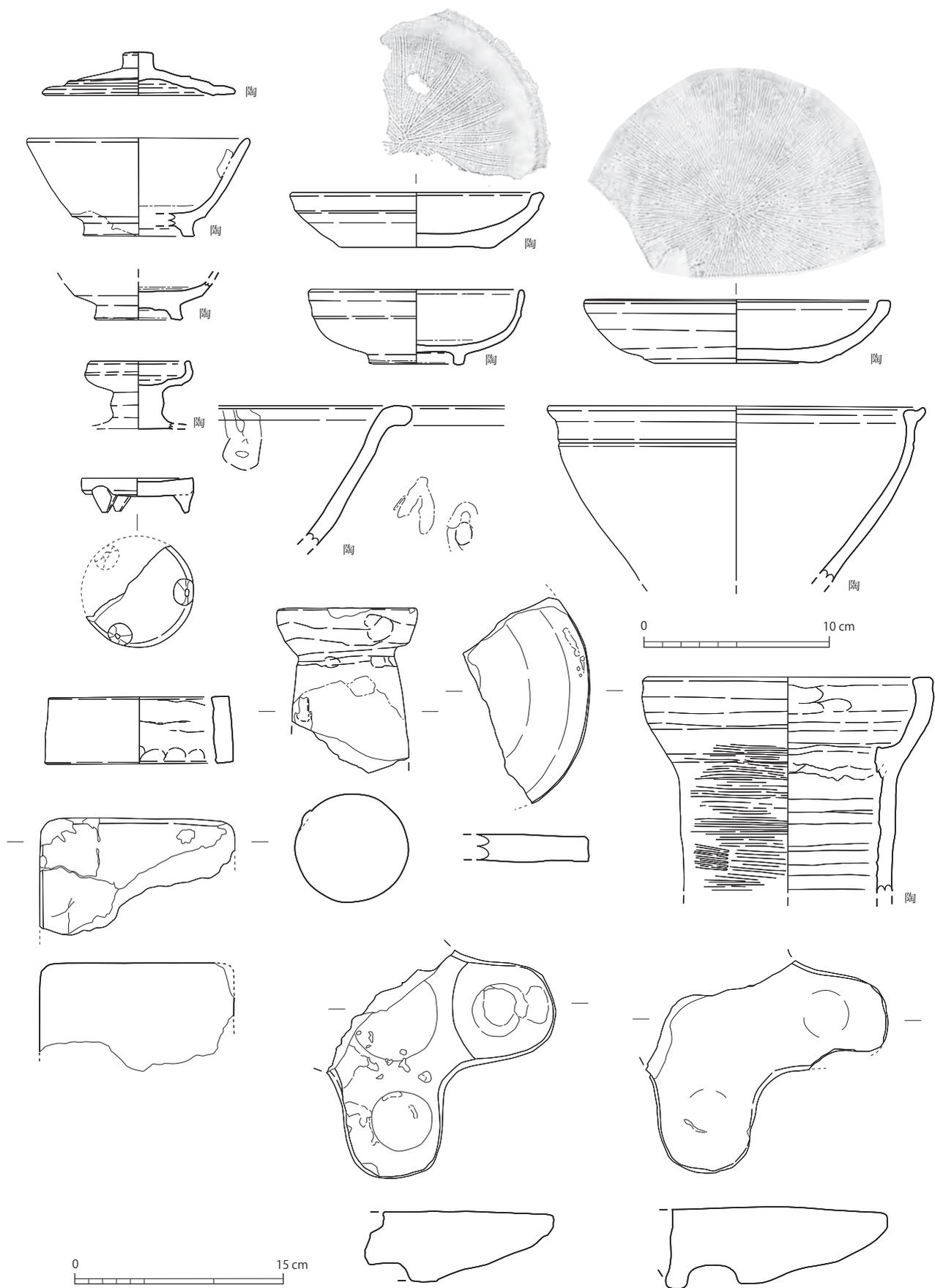
窯跡位置図 『大隈・筑前山田』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



野口窯跡遺物実測図 (1/3・1/4)

嘉麻市教育委員会所蔵

## 筑前8 白旗山窯跡

所在地：飯塚市中字野間

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：寛永7年(1630)～寛文5年(1665)

現況：山林

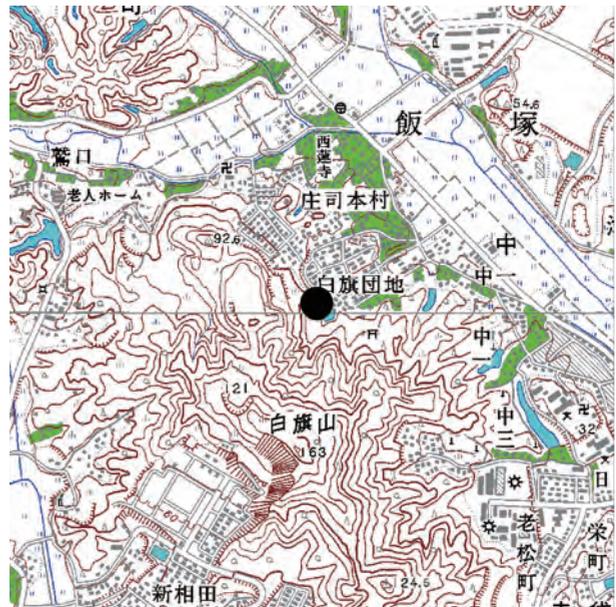
備考：市414、県070335として周知化

『高取歴代記録』によると、寛永7年(1630)、山田へ蟄居させられていた八山父子の帰参が許され開窯したとされる。寛文5年(1665)に上座郡鼓村に移るまでの間、操業された。その間、八山父子は小堀遠州のもとへ派遣され、指導を受け、遠州好みの茶陶を制作した。

窯は白旗山北麓の東斜面に位置する。昭和62・63年(1987・88)、平成2年(1990)に発掘調査が行われ、3基の窯跡が発見された。1号窯は階段状連房式登窯で、住宅造成のため消滅している部分もあり焼成室7室を検出したが、本来は10室前後と推定され、25mほどの全長に復元される。2・3号窯は1号窯の南約70mに位置し、重複するような形で検出された。2号窯は1室、胴木間、焚口のみ検出され、1号窯と同規模同式の窯と推測される。

1号窯は物原が失われており、出土遺物は少ない。多くがサヤ鉢を中心とした窯道具である。製品はすり鉢等の雑器が多く、茶入・碗等の茶陶もみられる。2号窯からもサヤ鉢を中心に窯道具が多く出土している。すり鉢等の雑器の他、茶入・水指等の茶陶が出土している。また、少数ながら磁器(青磁)片が出土している点は、本県の磁器生産の開始を考える上で重要である。

なお、八山は承応3年(1654)にこの地で没し、近隣に葬られた。八山夫妻、長男の八郎衛門夫妻、孫の善七夫妻の墓所は昭和42年(1967)に改葬されたが、その折に出土した28点の陶磁器は飯塚市指定有形文化財となっている。



窯跡位置図 『直方・飯塚』(1/25,000)

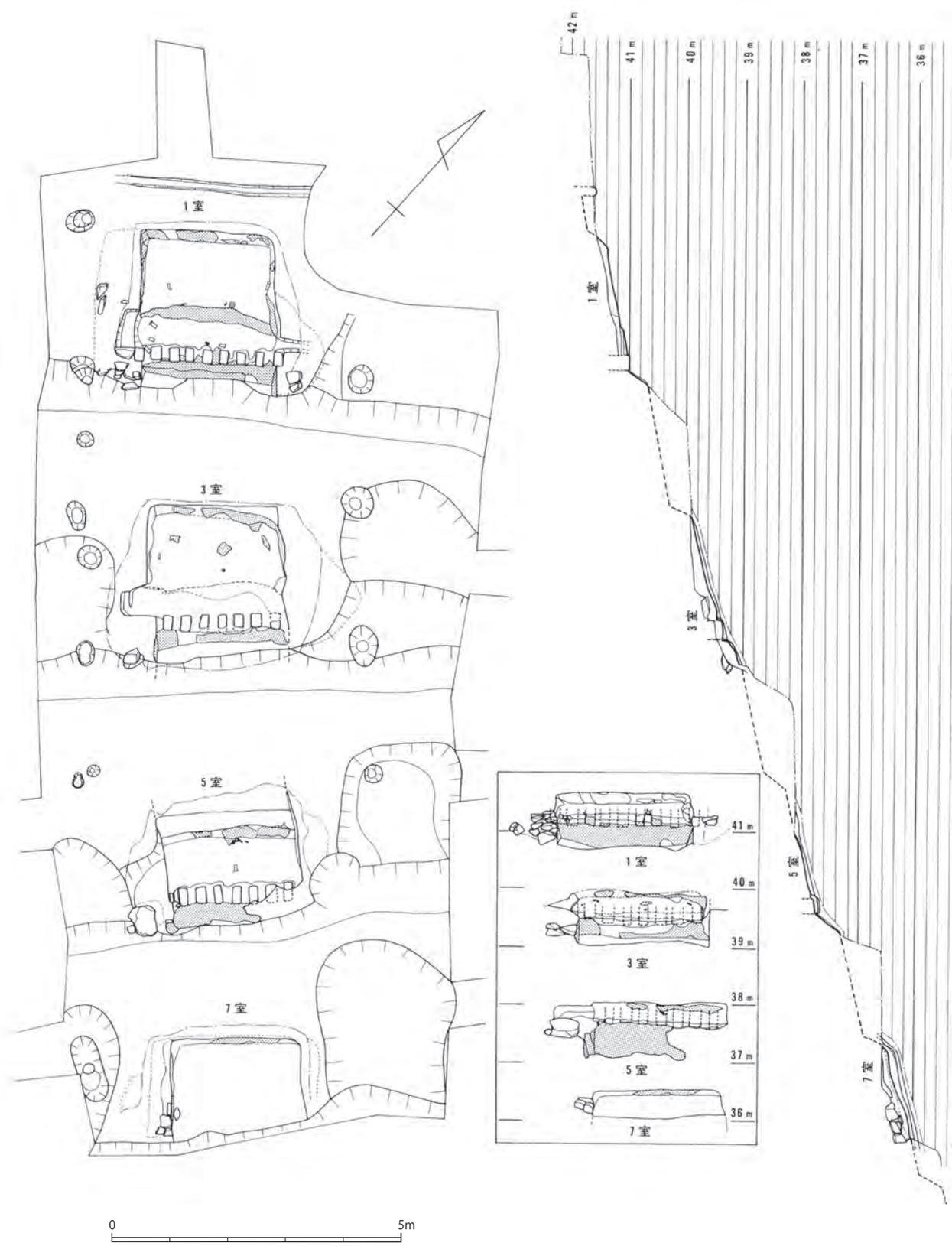


窯跡現況(遠景)



1号窯跡(調査時)

飯塚市教育委員会提供



白旗山1号窑跡実測図 (1/100)

## 筑前 10 上畑窯跡

所在地：遠賀郡岡垣町大字上畑字唐人山

経営：

焼物名：高取焼

年代：17世紀初頭か

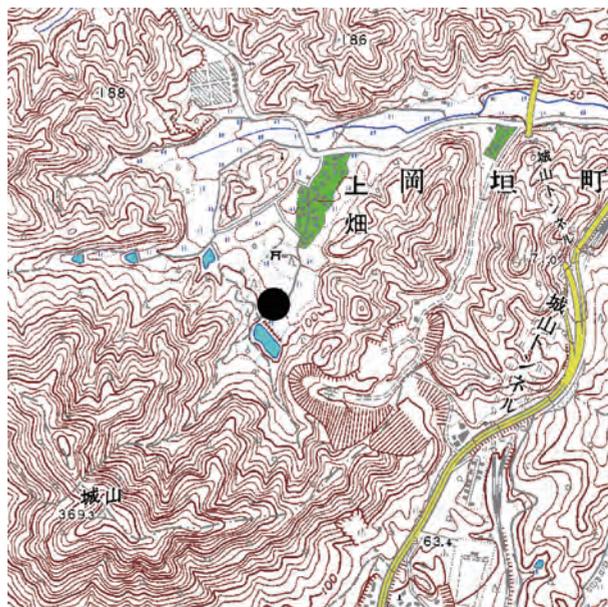
現況：果樹園

備考：町 390163、県 390163 として周知化

記録類にはあらわれないが、『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。この記事は慶長12年(1607)頃と考えられ、陶片は高取焼の中でも古式の要素が多く、永満寺宅間窯・千石窯と近い時期に位置付けられる。

窯跡は城山(標高369m)から北東に延びる尾根が緩斜面となる標高約100mの地点に位置する。窯がある土地の字名は唐人山であり、周辺には土取や灰ヶ谷、火渡といった字名が残る。唐人墓があったとされるが、踏査では確認できなかった。

平成6年(1994)に岡垣町教育委員会により確認調査が実施され、焼成室1室を検出した。縦長形で傾斜角約6度を測る。陶器の碗・皿・鉢・小壺が出土。窯道具にはトチンとハマがある。



窯跡位置図 『筑前東郷』(1/25,000)

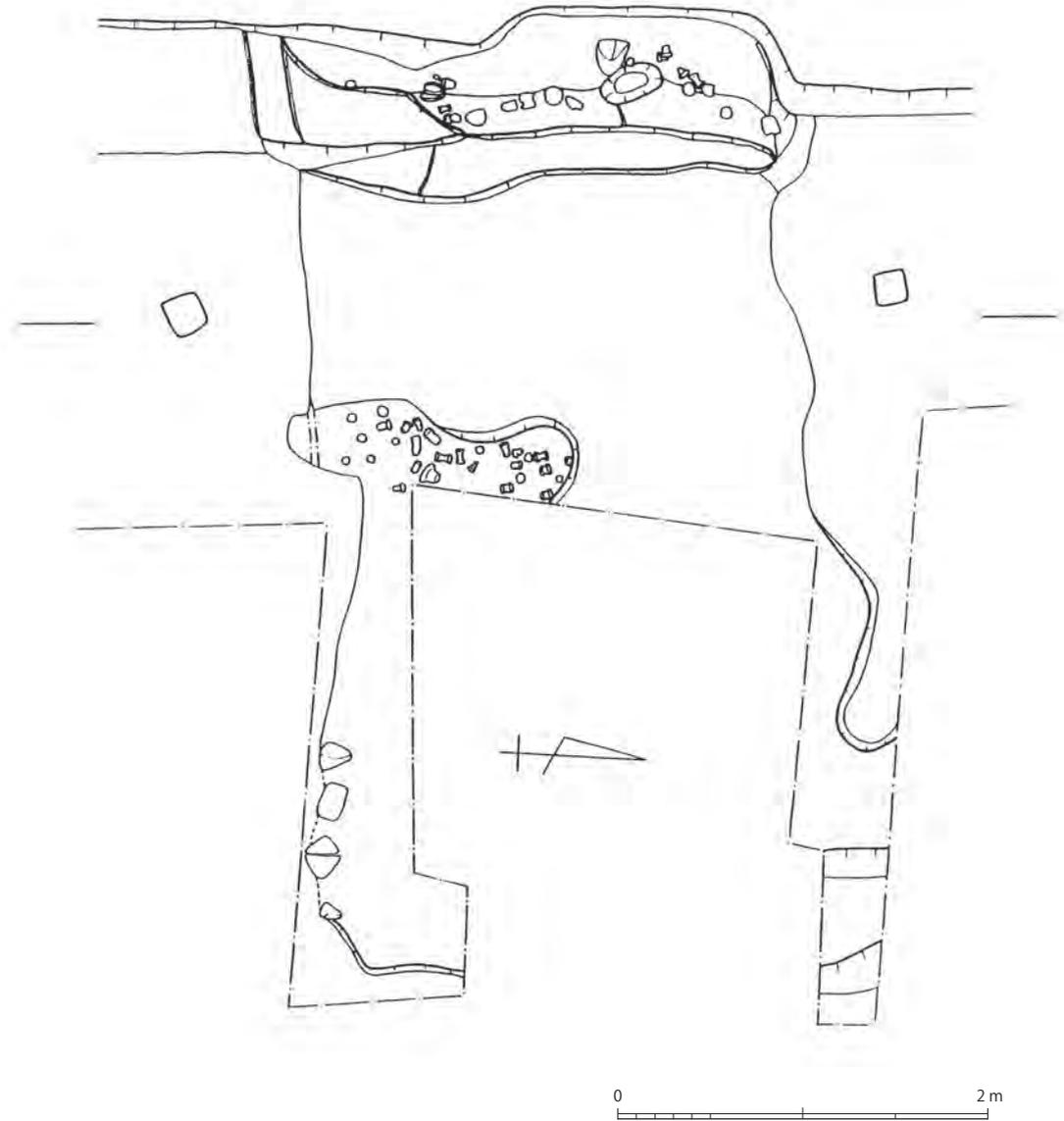
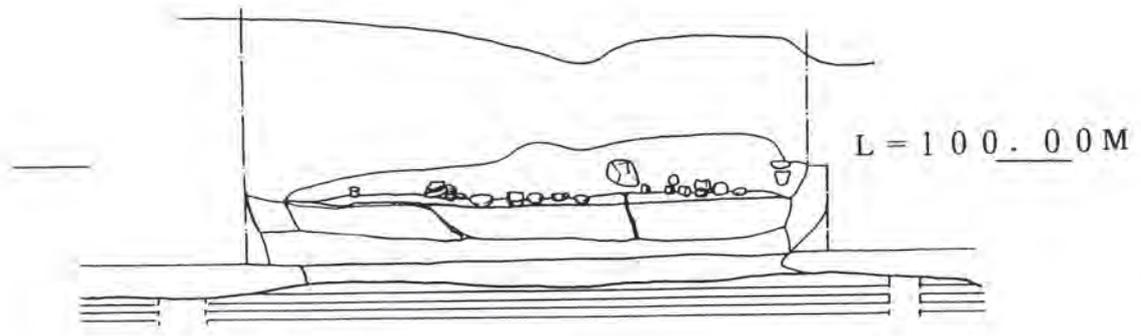


窯跡近景



窯跡(調査時)

岡垣町教育委員会提供



上畑窯跡実測図 (1/40)

## 筑前 11 千石窯跡

所在地：宮若市宮田字唐人町（千石皿山）

経営：

焼物名：高取焼

年代：17世紀初頭か

現況：消滅

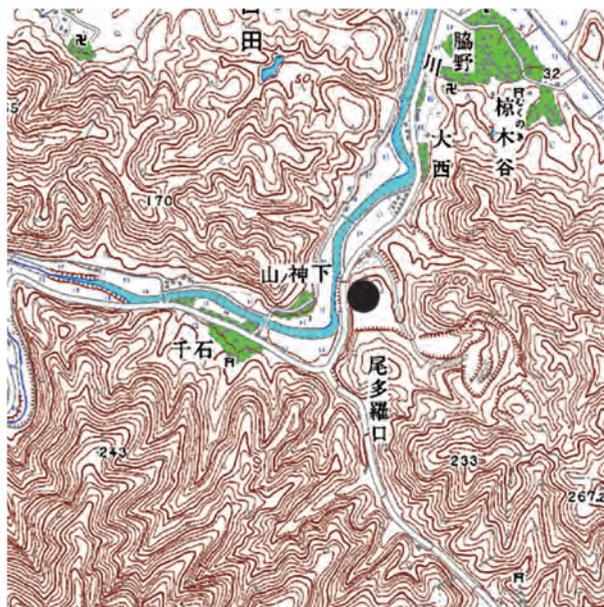
備考：県 410348 として周知化

記録類にはあらわれないが、上畑窯と同様に『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。初期に位置付けられる窯として注目されてきた。

窯跡は八木山川右岸の標高約 33m の地点で、背後や周辺に急峻な山塊が点在する狭い谷に位置する。

平成 6 年 (1994) に宮田町教育委員会（現 宮若市教育委員会）により確認調査が実施され、ほぼ正方形プランの焼成室 1 室を検出した。陶器の碗・皿・すり鉢等が出土。窯道具にはトチンとハマがある。陶器の皿はイッチン掛けを多用する点に特徴がある。

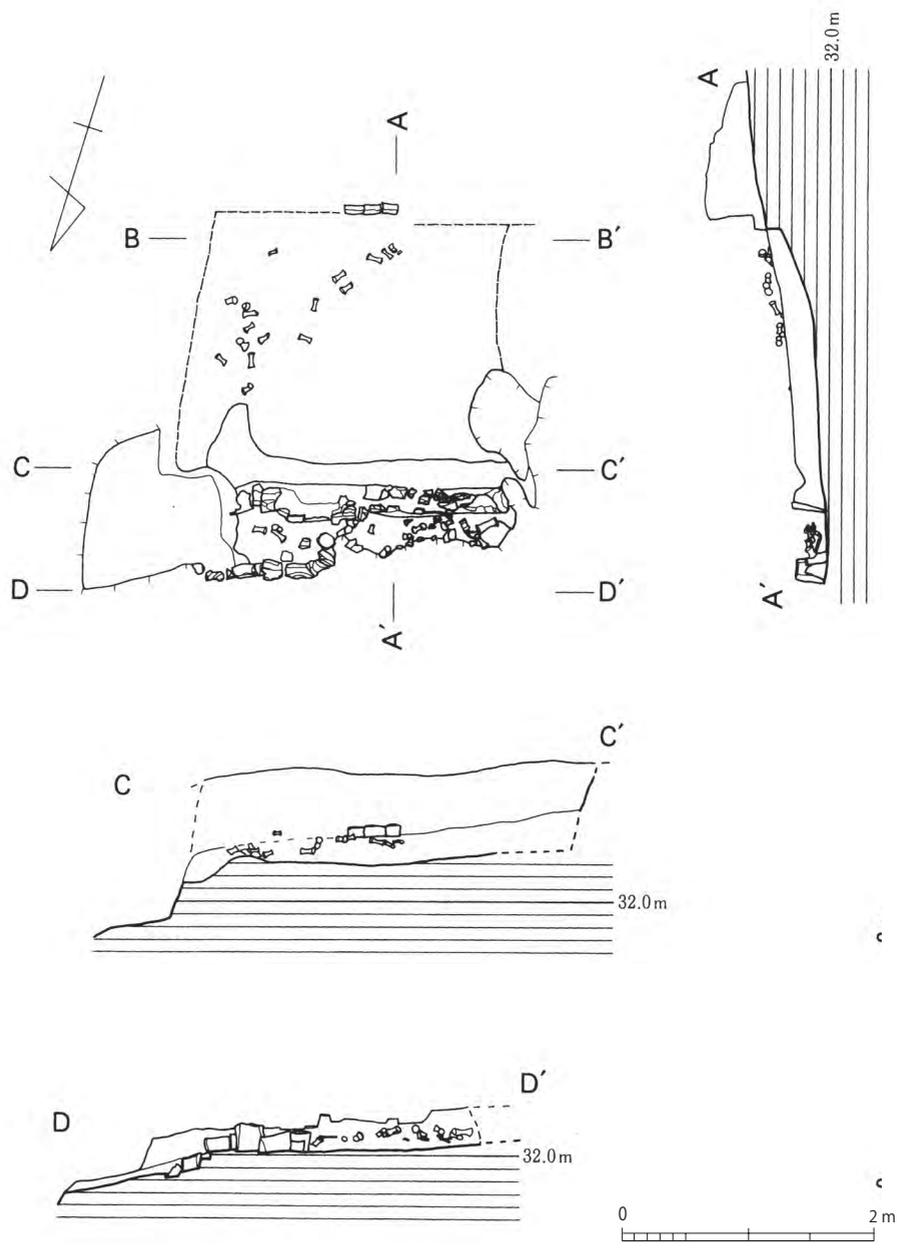
かつては残存が良いとされたが、周辺の採石が進み、窯跡は消滅している。



窯跡位置図 『直方』 (1/25,000)



窯跡遠景



千石窯跡実測図 (1/60)



窯跡 (調査時)

宮若市教育委員会提供

## 筑前 12 浅ヶ谷 [朝谷] 窯跡

所在地：宮若市山口字浅ヶ谷

経 営：民窯

焼物名：

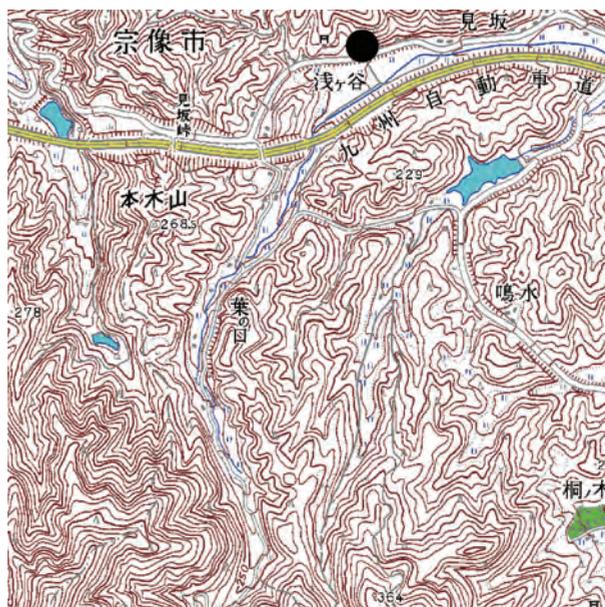
年 代：明和4年(1767)～

現 況：山林・削平

中村伝五郎編『年代記』（桑野家文書 文政8年(1825)）によれば、明和4年(1767)の条に、鞍手郡山口村（宮若市若宮大字山口）で百姓惣兵衛が屋敷内に窯を造り伊万里焼風の焼き物を焼成したとある。

窯跡は「皿山」と呼ばれ、三坂峠に近い標高約170mの南斜面に位置する。公民館建設により破壊を受けるが、奥壁の一部が残るとされる。表採遺物には、染付の皿、徳利などが見える。高台内面に「山」の文字が書かれた碗が知られる。また、窯道具にトチン、ハマがある。

須恵焼創始とほぼ同時期であるが、短期間の操業とみられる。



窯跡位置図 『脇田』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景

## 筑前 13 犬鳴窯跡

所在地：宮若市大字犬鳴字皿山

経営：

焼物名：高取焼

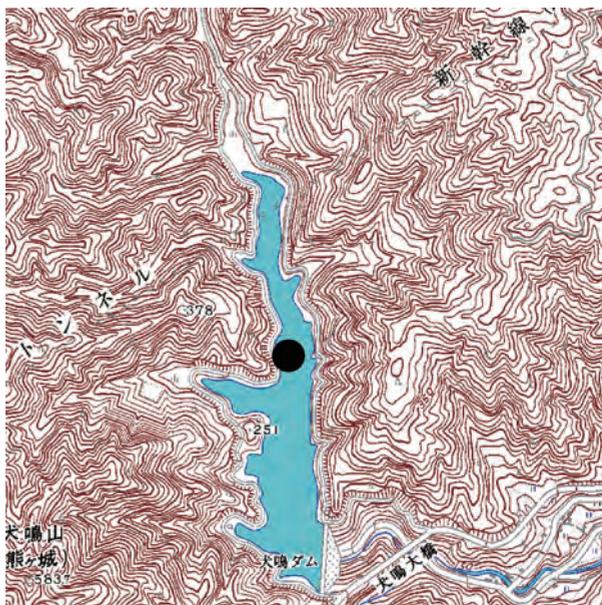
年代：寛文年間～貞享年間

現況：ダム水没

備考：県 440255 として周知化

貝原益軒『筑前国続風土記』（1710）に犬鳴山にて陶器を生産するとの記述があり、『犬鳴山古実』（1729）には「皿山の新四郎」という人物が開窯したと記される。

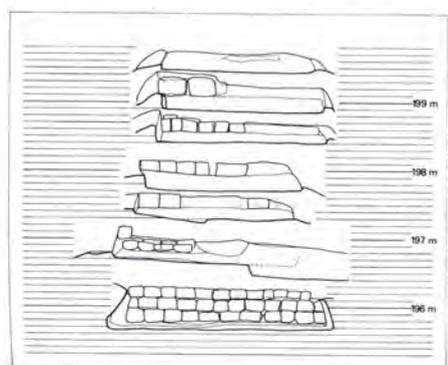
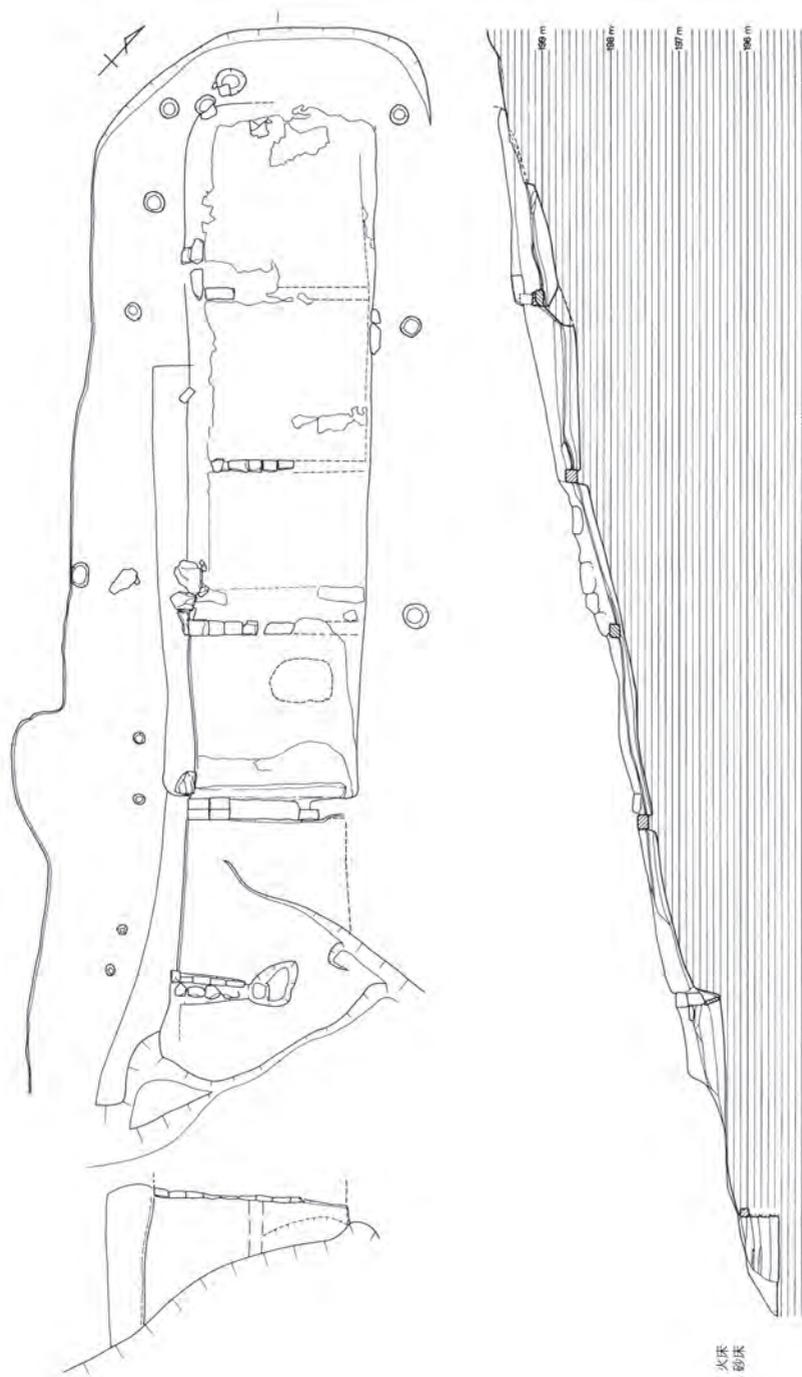
西山山系から発する犬鳴川の溪谷にあり、川を挟んだ東西に2基築かれた。昭和61～62年（1986～87）に犬鳴ダム建設に係り福岡県教育委員会により発掘調査が行われた。削平や自然崩壊により全長は明らかでないが、1号窯は焚口と焼成室8室+ $\alpha$ からなる割竹式登窯で、残存長18.5mを測る。2号窯は焼成室5室+ $\alpha$ からなり、残存長13mを測る。いずれも1660～80年代の短い期間に、陶器の碗やすり鉢、甕等の日常製品などを焼いた。窯道具ではトチン、ハマが見られ、サヤ鉢も少ないながら確認された。



窯跡位置図 『脇田』（1/25,000）



1号窯跡（調査時）



犬鳴1号窯跡実測図 (1/100)

## 筑前 16 能古焼窯跡

所在地：福岡市西区能古

経営：民窯

焼物名：能古焼

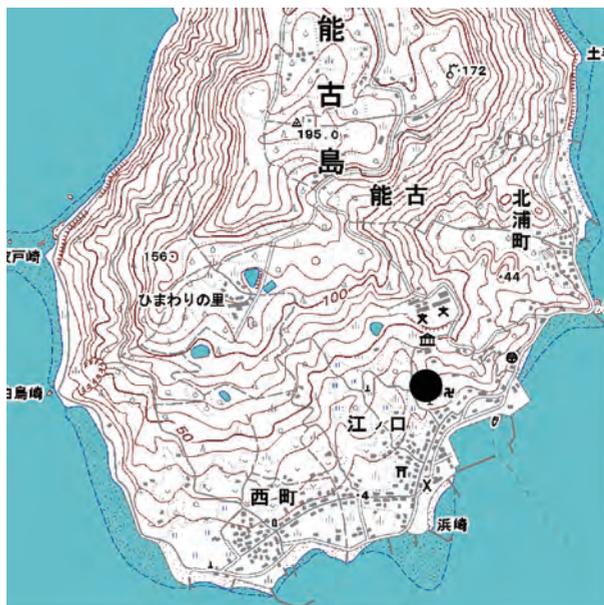
年代：明和年間～天明年間

現況：現地保存

『筑前国続風土記附録』に明和の頃から陶器がつくられていた旨の記述がある。また、有田の工人・佐十郎が磁器生産を始めたが、天明7年(1787)頃に逮捕のために役人が赴くとすでに本人は逃亡していたという記録が有田の『皿山代官旧記覚書』に記される。これらの記録から、明和・天明頃(18世紀後半)の一時기에操業した期間の短い窯だと推測できる。

窯は博多湾に浮かぶ能古島の南東の緩斜面に位置する。昭和63年(1988)に発掘調査が行われており、焚口と焼成室7室からなる全長22mの階段状連房式登窯が検出された。各室のしきりにトンバイが用いられる。肥前系磁器の碗・皿・蓋や高取系陶器の碗などが出土しているが、出土品の大半は窯道具である。

平成2年(1990)に市史跡に指定され、覆屋がかげられた上で保存されている。



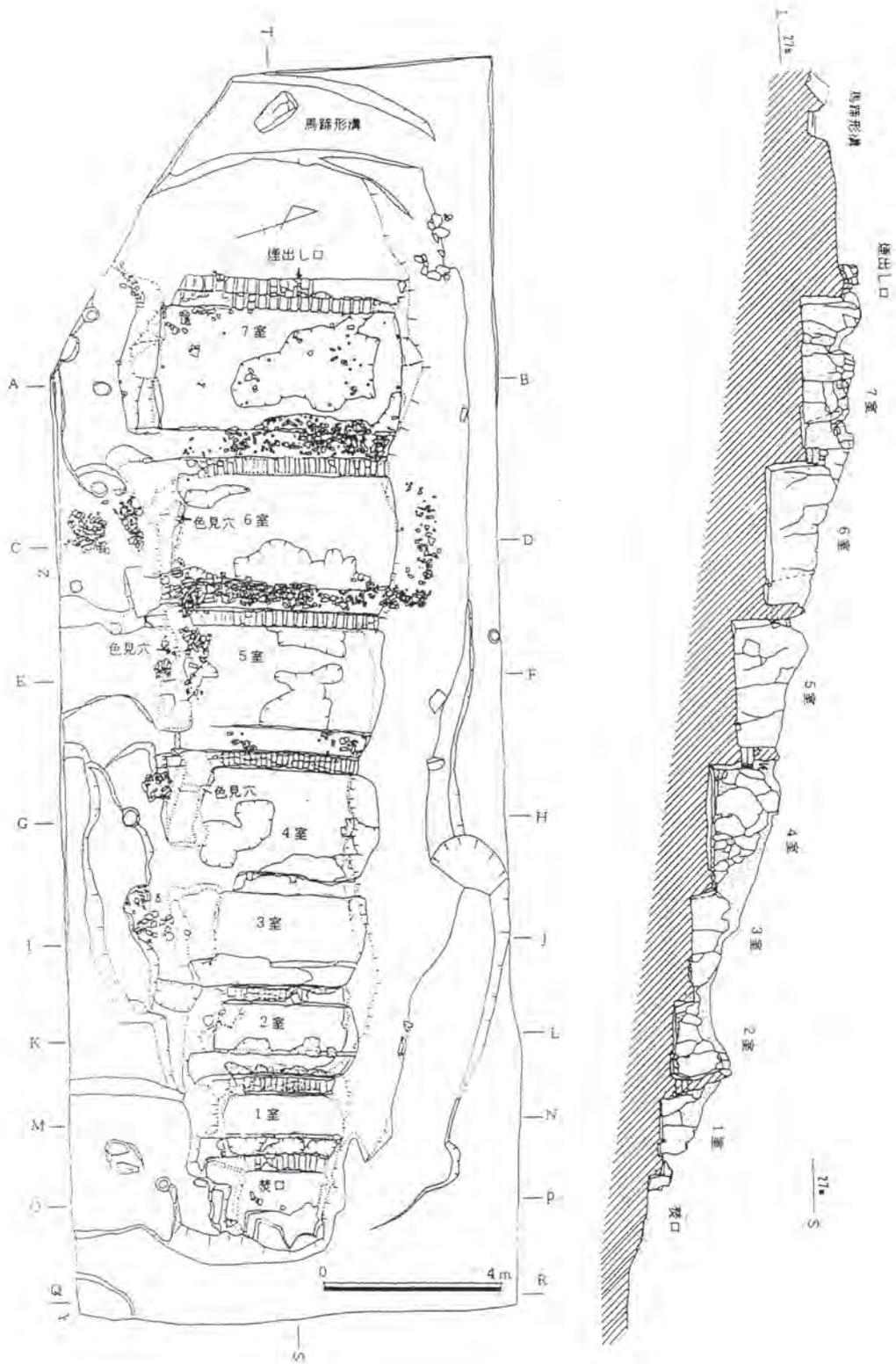
窯跡位置図 『福岡西部』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景



能古焼窯跡実測図 (1/150)

## 筑前 22 東皿山窯跡

所在地：福岡市早良区西新 5 丁目

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：享保元年 (1716) ～明治 4 年 (1871)

現況：宅地

享保元年 (1716) に開窯した。明治 4 年 (1871) の廃藩置県まで続き、高取焼の諸窯のなかでは一番操業期間が長く、150 年の歴史がある。文化 13 年 (1816) に描かれた見取図から、焼成室 8 室からなる全長 24 m の規模であったことがわかる。藩窯であり、茶入・碗・水指・香炉といった茶陶のほか生活全般にわたる多種多様な器種を焼き、贈答用の置物もみられる。文政 6 年 (1823) 以降、「高」銘が義務付けられ、藤巴の印文もある。

窯は博多湾沿岸の標高約 21 m の独立丘陵に位置するが、宅地化しており窯跡は確認されず、陶片や窯道具が採取されるのみである。北に近隣する西新町遺跡から福岡県教育委員会による発掘調査で窯道具が多量に出土しており、東皿山窯に関係するものと考えられる。



窯跡位置図 『福岡西南部』 (1/25,000)



窯跡近景

## 筑前 23 西皿山窯跡

所在地：福岡市早良区高取 2 丁目

経 営：藩窯→民窯

焼物名：高取焼

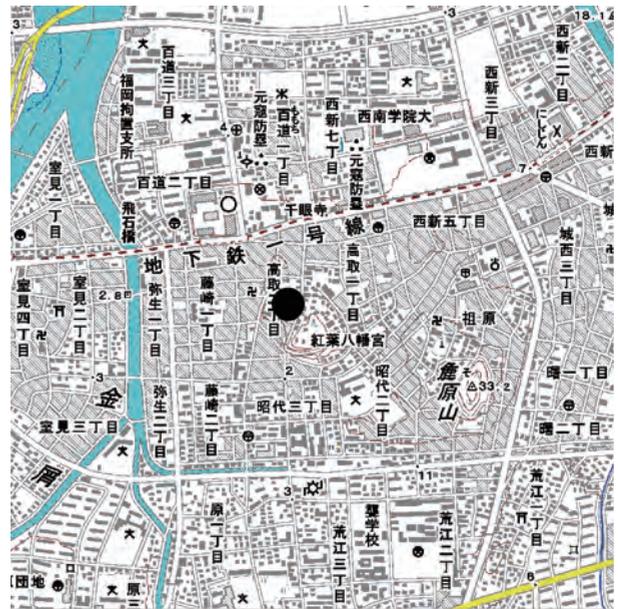
年 代：寛保元年 (1741) ～

現 況：宅地

西新窯ともいい、寛保元年 (1741) に開窯した。東皿山窯が茶陶を主とする御用窯だったのに対して、本窯では日常製品を焼いており、殖産興業的側面が強い。東皿山窯が大破した際には御用品を焼いていたとされる。『近国焼物山大概書上帳』には「西町皿山 窯二登 此数参拾間」とあり、200 人に及ぶ陶業者が従事し、御道具焼物師として知行を受けていた。廃藩置県後には民間窯として存続し、現在は亀井味楽窯が操業を続け、登窯 1 基が保存されている。

博多湾沿岸の独立丘陵である紅葉山の北麓に位置する。周辺は大規模に開発され、旧地形が大きく損なわれている。

平成 17 年 (2005) の福岡市教育委員会による発掘調査 (藤崎遺跡 35 次) で、物原を掘削した整地面が確認され、多量の陶器が出土した。碗・皿・鉢・瓶・德利・仏具・灯明皿・甕等、日用雑器が主であるが、高級食器も少量ながら出土した。文政 11 年 (1828) や天保 9 年 (1838) の年号を刻むものもあり、当地点については 19 世紀前半に位置付けられる。



窯跡位置図 『福岡西南部』 (1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景

## 筑前 27 野間焼窯跡

所在地：福岡市南区皿山

経営：

焼物名：野間焼

年代：安政2年(1855)～明和3年(1870)

現況：宅地・神社境内

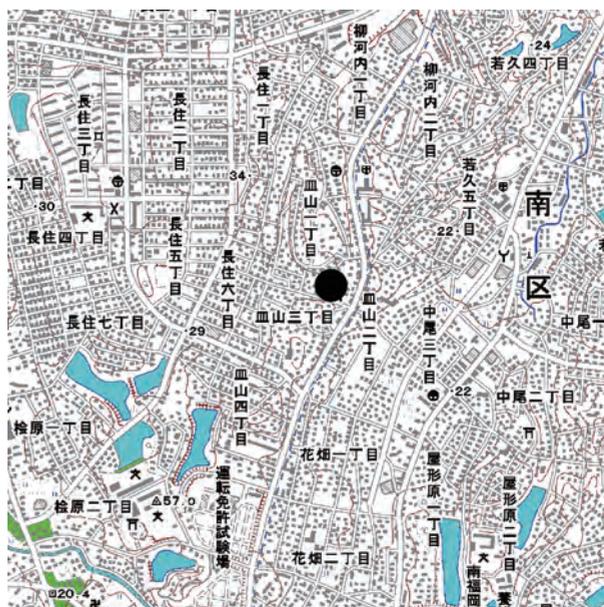
福岡藩の殖産興業政策に基づき、安政3年(1856)年には京都の陶工であった佐々木与三らを招致し、陶土を柳河内で採集し、野間皿山に開窯した。明治8年(1875)、京都から須恵に来た名工の澤田舜山を招致し、傾きかけた窯を立て直した。京焼に似た土瓶・急須・茶碗などの日用雑器や汽車土瓶は需要が大きく、生産が拡大した。

しかし、生活様式の変化に伴い規模が縮小し、近年まで存続したものの現在は操業されていない。窯跡は複数箇所にわたるとされるが、トンバイによる窯壁が残る地点を確認した。また山王神社は陶工が大山昨神と火産霊神を京都から勧請して建てたものであるが、境内で筑前野間焼の銘がある縁起物の土鈴やトンバイ等が採取され、窯の存在が想定された。

なお、澤田舜山の墓は野間窯から近い南区野間2丁目の野間墓地にある。



澤田舜山の墓



窯跡位置図 『福岡南部』(1/25,000)



窯跡現況(窯壁残存地)



窯跡現況(山王神社)



## 筑前 29 須恵焼窯跡 [福岡藩磁器御用窯跡]

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経 営：藩窯（福岡藩）→民窯

焼物名：須恵焼

年 代：宝暦年間（1751～64）～明治 35 年（1902）

現 況：3 基現地保存

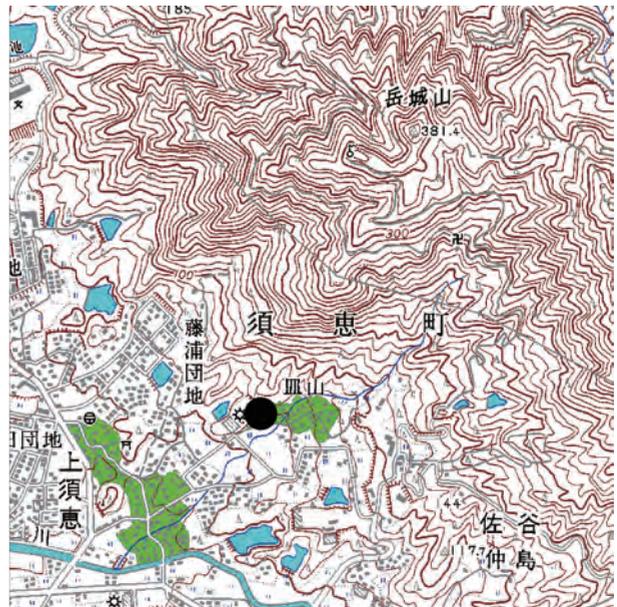
備 考：町 290154 として周知化

福岡藩寺社司の下吏、新藤安平が須恵村金山間堀で白土を発見し、焼き物に詳しいものを肥前南川原山で陶法の指導を受けさせて始まったとされる。福岡藩より皿山奉行所が置かれるが、文政 12 年（1829）に藩の保護が中断した。安政 7 年（1860）までは民窯へ移行するが、その後、明治 3 年（1870）までは再度藩窯となり、皿山奉行が設置された。廃藩後は井上伊作・松永吉蔵・金森嘉助により引き継がれる。明治 20 年（1887）には株式会社が組織され、金錆焼を製作する。明治 30 年（1897）頃数年の間、朝倉郡甘木の玉ノ井騰一郎、藩窯を再興し金錆釉の雑器を製造するが、明治 35 年（1902）には終焉したかとみられる。

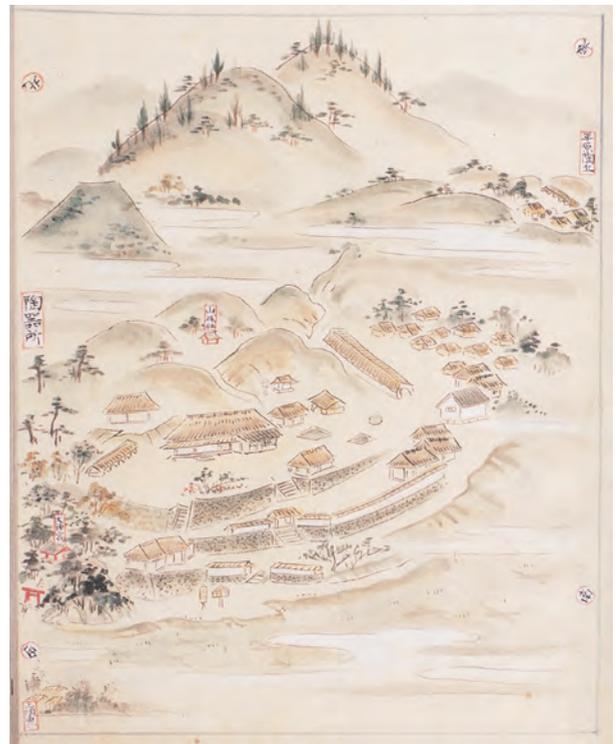
窯は若杉山の南西山麓に位置する。幅が広く長大な窯が残り、上層には 7 室からなる明治期の窯が築かれた窯が残る。

筑前国続風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では、本窯、試験窯、陶器所のほかに薪小屋、水簸施設、瓦葺建物（製品を保管する蔵と想定される）、一字一石塔（創始者新藤安平の 50 回忌を供養して孫が建立）、その他建物（付属施設や工人の住居）等が描かれる。

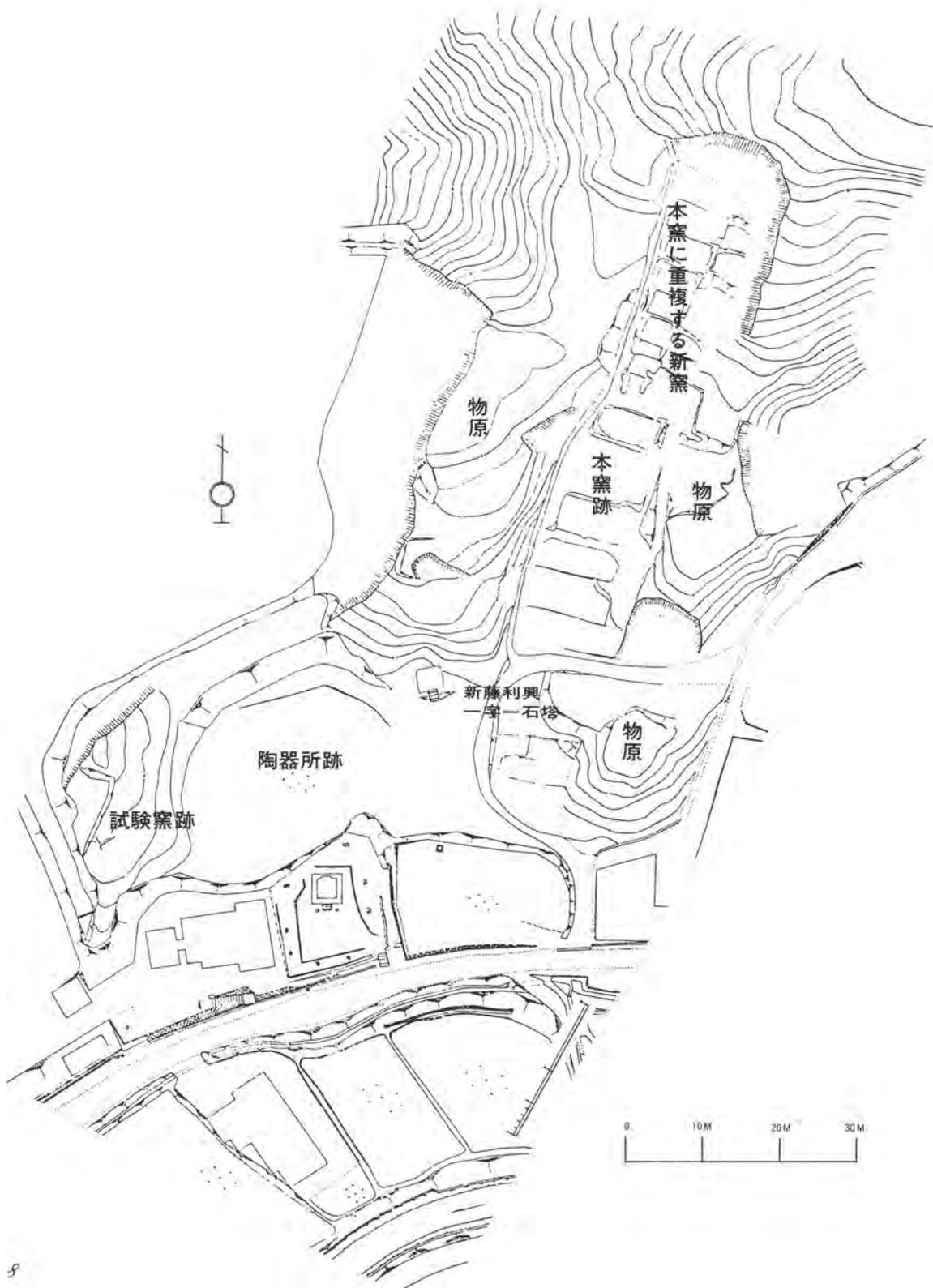
本窯跡は、昭和 56 年（1981）に県指定史跡に、また町指定有形文化財（工芸品）として「釈迦像台座」・「花立（仏花器）（1978 年 4 月 1 日指定）/「染付鉢」・「御酒器徳利」2 点・「御供鉢」（1982 年 4 月 1 日指定）/「金錆染付山水文花生」・「金錆染付酒注」（2005 年 7 月 19 日指定）が指定されている。



窯跡位置図 『篠栗』 (1/25,000)



須恵陶器所圖（筑前国続風土記附録 平岡本）



須恵焼窯跡遺構配置図 (1/800)

## 筑前 30 役所畑新窯跡

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経営：福岡藩

焼物名：須恵焼

年代：江戸時代

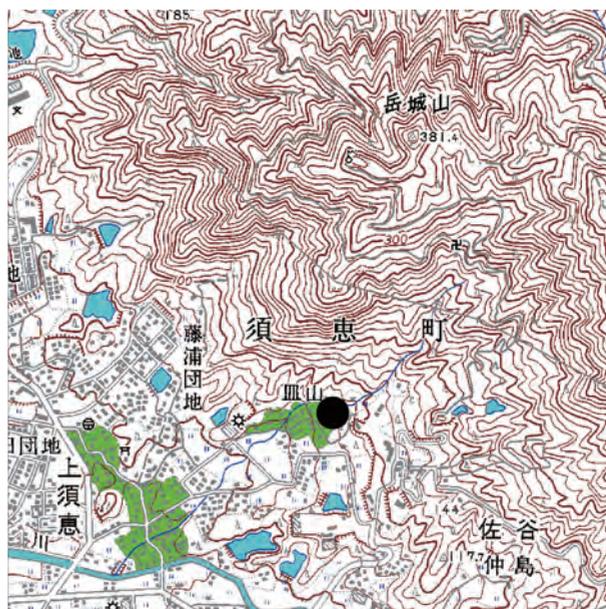
現況：山林

備考：町 290161 として周知化

「役所畑」の地名が残り、隣接する村山家は「新窯」の屋号を持つ。筑前国続風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では「平原陶丘」と記載がある。

若杉山から西に延びる丘陵裾にあり、福岡藩磁器御用窯から皿山川を挟む対岸に位置する。西斜面が幅広い段々に造成されており、福岡藩磁器御用窯と類する構造とみられる。西に隣接地する平坦地には水碓が残る。

周辺には焼き損じた磁器や窯道具が散布する。採集した窯道具のタコハマやトチンには、「役」「山井」の字が陰刻されていた。



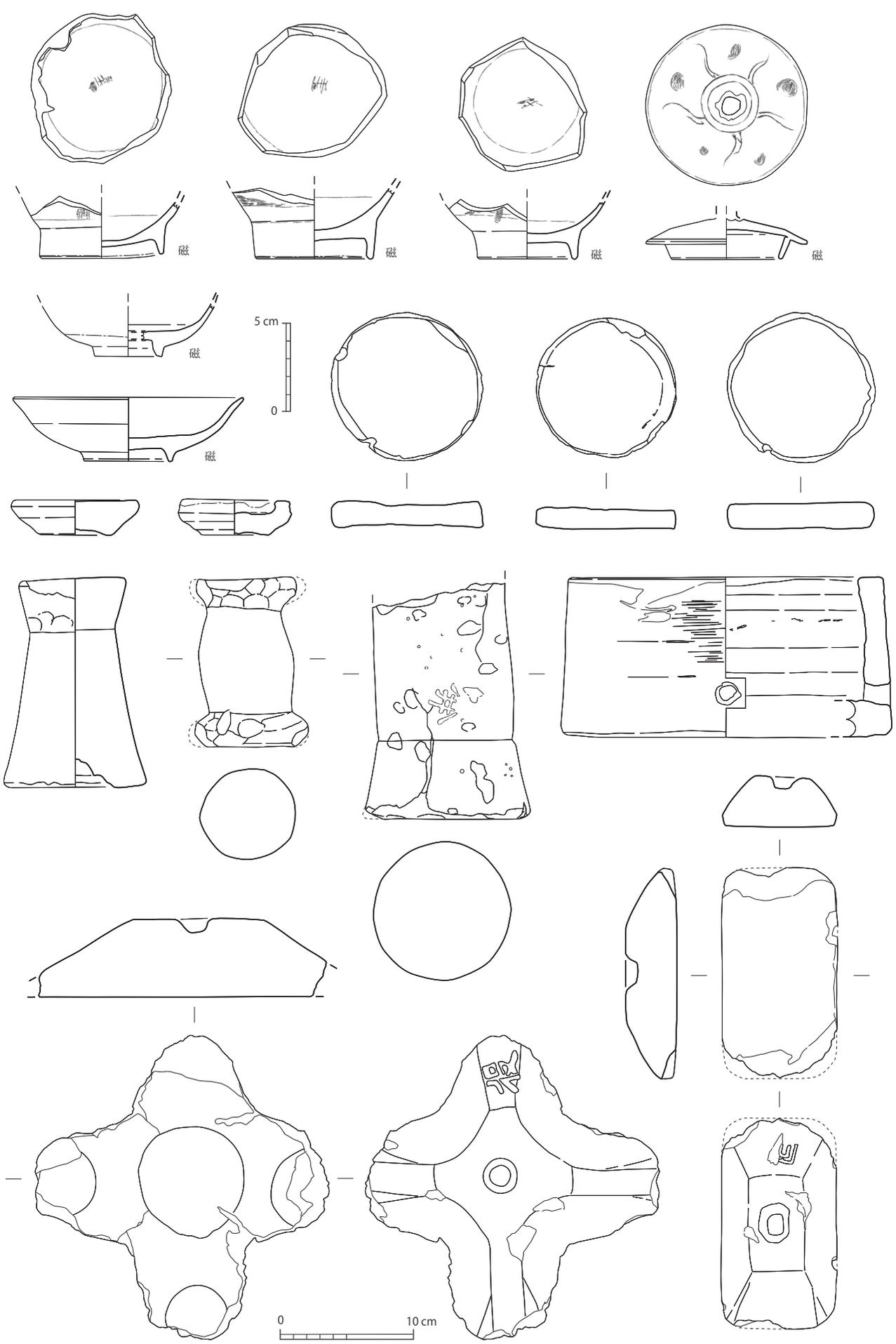
窯跡位置図 『篠栗』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



役所畑窯跡遺物実測図 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵

## 筑前 31 宇美障子岳窯跡

所在地：糟屋郡宇美町障子岳

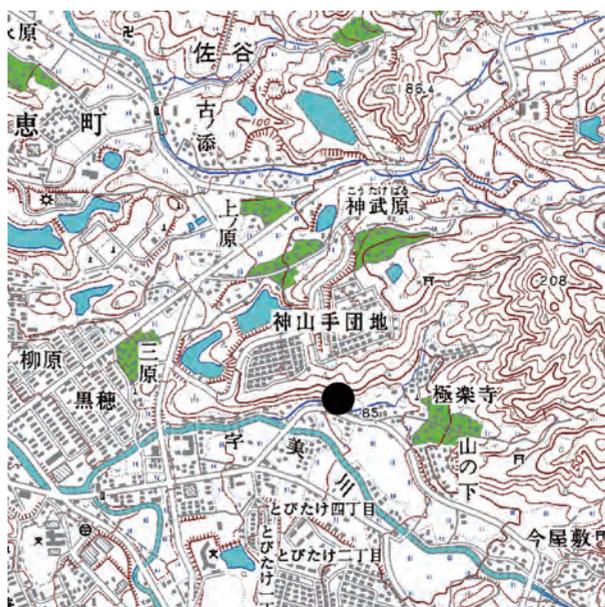
経 営：民窯

焼物名：須恵焼

年 代：明治期

現 況：山林

三郡山系から西に長く伸びた丘陵の裾（標高約 80 m）に位置する。昭和 56 年（1981）の宇美町歴史民俗資料館の踏査により磁器（碗・皿）片や窯道具が表採され、同館に所蔵されている。明治期の須恵焼と共通する特徴をもつ。この地は須恵焼きの登窯に使うための薪山として安永 3 年（1774）に藩から認められたとされており、須恵焼との関係が深い地域であった。



窯跡位置図 『篠栗』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

## 筑前 32 中野上の原窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：

焼物名：小石原焼・中野焼

年 代：天和 2 年 (1682) ～享保 7 年 (1722)

現 況：現地保存

備 考：村 80、県 550052 として周知化

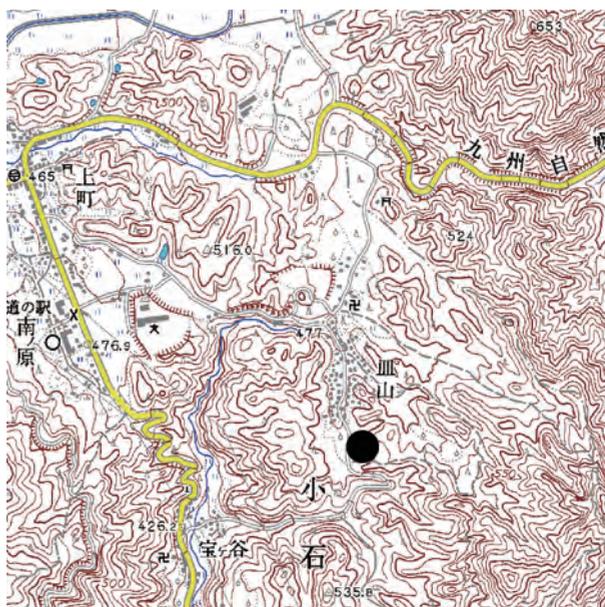
『筑前国続風土記』の記述に、天和 2 年 (1682) に伊万里から陶工を小石原中野に呼び磁器を焼成したとある。昭和 62 年 (1987) から平成元年 (1989) に小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により行われた中野上の原窯の発掘調査で多量の磁器が出土し、記録を裏付ける形となった。

窯は残存長 38.7m の階段状連房式登窯（推定全長：45 m 程）で、焚口のほか燃烧室 10 室が検出された。出土遺物は陶器の他に白磁、染付、色絵がある。陶器は碗・皿・鉢が大部分を占め、他に杯・壺・甕・瓶・水注・香炉・仏飯具・すり鉢・陶管等がある。窯道具にはサヤ鉢、トチン、ハマ、チャツ、シノ（ナンキン）が見られる。特に享保 7 年 (1722) 紀年銘のある陶管が出土しており、閉窯時期を考える資料となっている。



窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



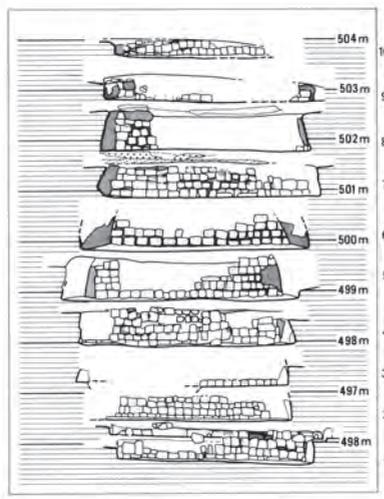
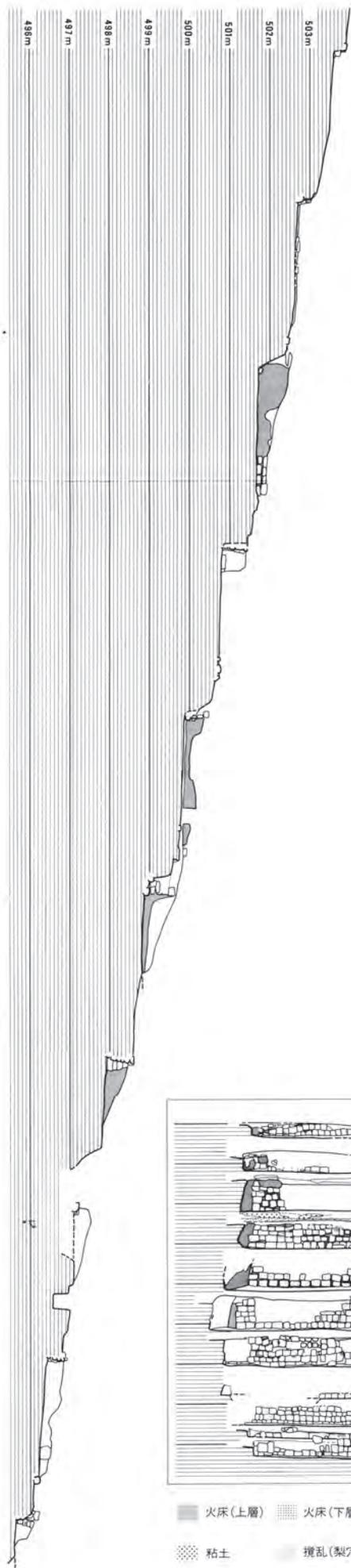
窯跡位置図 『小石原』（1/25,000）



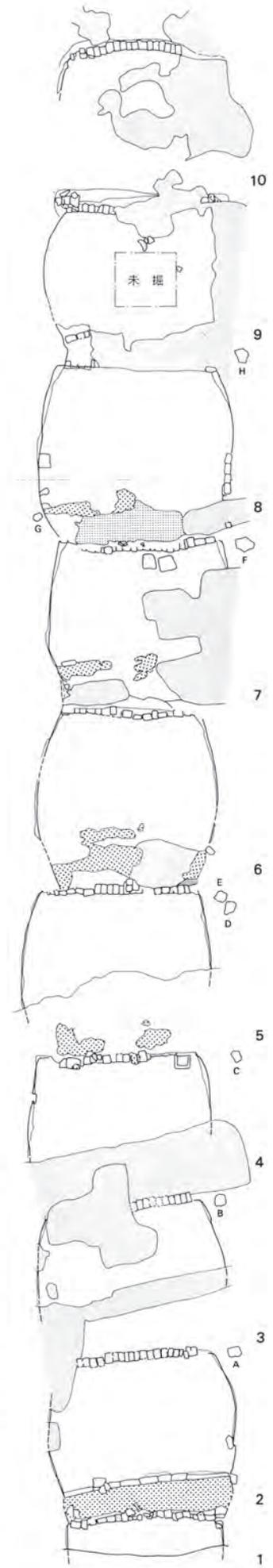
窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



■ 火床(上層)    ▨ 火床(下層)    ■ 焼けた壁面  
 ▨ 粘土    ▨ 攪乱(裂穴)



中野上の原窯跡実測図 (1/150)

## 筑前 33 火口谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：

焼物名：小石原焼

年 代：〔1号窯〕18世紀前半～中頃

〔2号窯〕1号窯より僅かに先行するか。

現 況：山林

備 考：〔1号窯〕村 77、県 550053 として周知化

〔2号窯〕村 78、県 550054 として周知化

中野上の原窯の西に谷を挟んで位置する。1号窯と2号窯は小さい谷を挟み南北に築かれる。小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により、1号窯は平成5年（1993）、2号窯は平成7年（1995）に調査が行われた。

〔1号窯〕

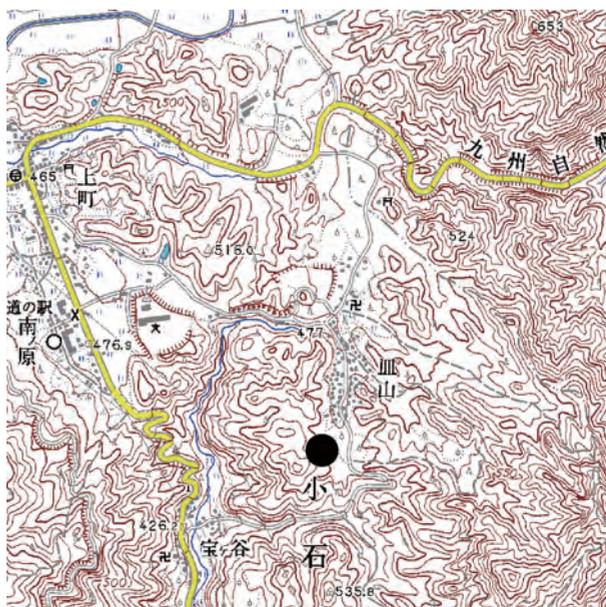
胴木間と10の焼成室からなる全長約42mの階段状連房式登窯。各室の奥壁には2～3段のトンバイが残る。出土品は皿・碗・鉢・すり鉢・仏飯具等で、中野上の原窯の製品に近似する。しかし磁器が含まれないことから、中野上の原窯で磁器焼成を止めてから操業されたものと想定される。

〔2号窯〕

昭和30年（1955）頃に掘られた目砂採りにより、窯の大半は削平される。京焼風の陶器碗の出土が知られる。



窯跡現況（近景）

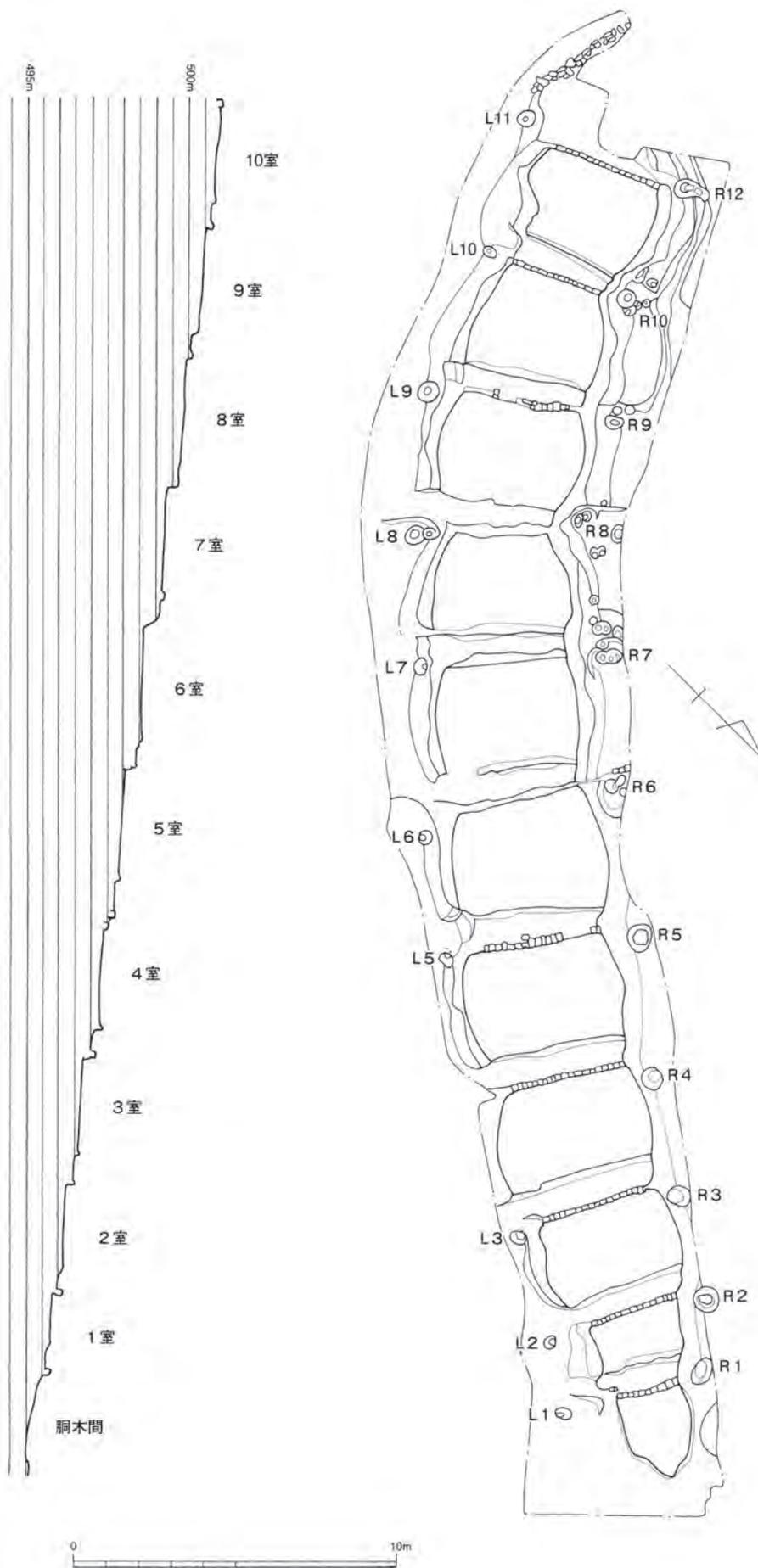


窯跡位置図 『小石原』（1/25,000）



窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



火口谷1号窯跡実測図 (1/200)

## 筑前 34 大明神窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：民窯

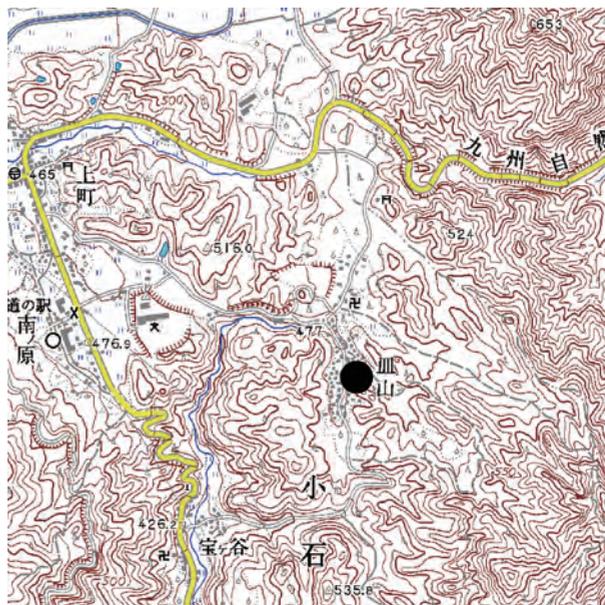
焼物名：小石原焼

年 代：19世紀代か

現 況：宅地

備 考：村 68、県 550056 として周知化

旧下組窯に近い丘陵西斜面に位置する。個人宅地内にあり、聞き取りにより窯は横壁・天井にトンバイを使用したとされる。今回の調査では、小石原村誌に記述される位置や大明神が祀られる周辺を踏査したが、窯道具が散布する状況は確認されるものの、窯本体に関する情報は得られなかった。



窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡推定地（近景）



窯跡推定地（近景）

## 筑前 35 旧下組窯跡

## 筑前 36 旧上組窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

焼物名：小石原焼

年代：〔旧下組〕～昭和36年(1961)

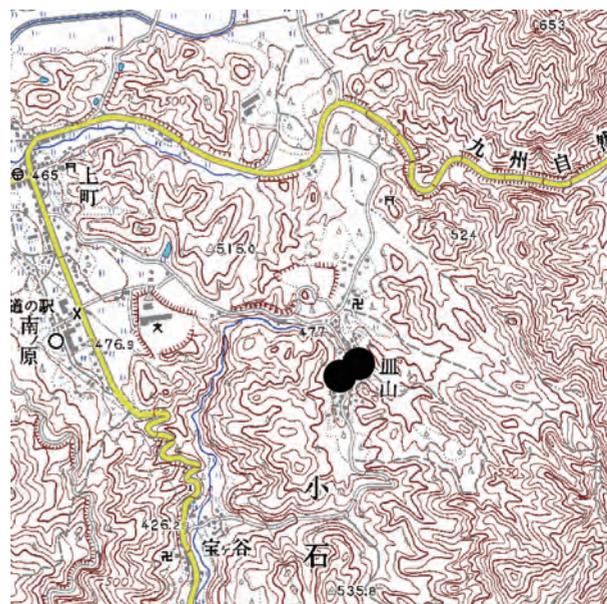
〔旧上組〕～昭和32年(1957)

現況：〔旧下組〕倉庫・畑地

〔旧上組〕窯

備考：〔旧下組〕県：550055・村59

〔旧上組〕県：550057・村73



窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)

開窯年代は不明だが、かなり古くから操業していたと考えられる。上の原窯等が位置する谷を挟み対峙する位置にある。いずれも焼成室4室からなり、それぞれ4軒で管理運営された共同窯である。昭和30年代まで使用されていた。

〔旧下組〕倉庫や畑地となり、窯跡は確認できない。

〔旧上組〕現在、個人宅に窯があった。



旧下組窯 小石原村誌



旧下組窯跡現況（近景）



旧上組窯 小石原村誌

## 筑前 37 池の谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：民窯

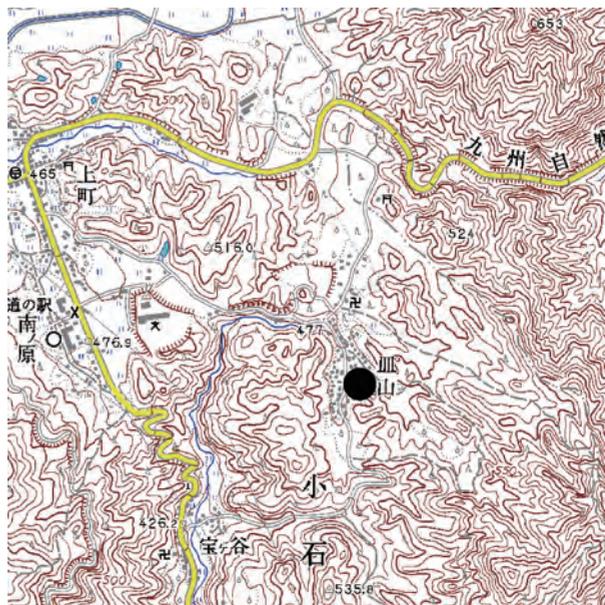
焼物名：小石原焼

年 代：18世紀前半か

現 況：宅地

備 考：村 72

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵に南接する斜面に位置する。平成6年(1994)6月合併浄化槽建設中に大量の陶片が出土した。現在の宅地部分に窯があったかと考えられ、現状で窯体に関する情報は得られない。出土品は陶器が多く、火口谷窯と同時期に位置づけられる可能性がある。



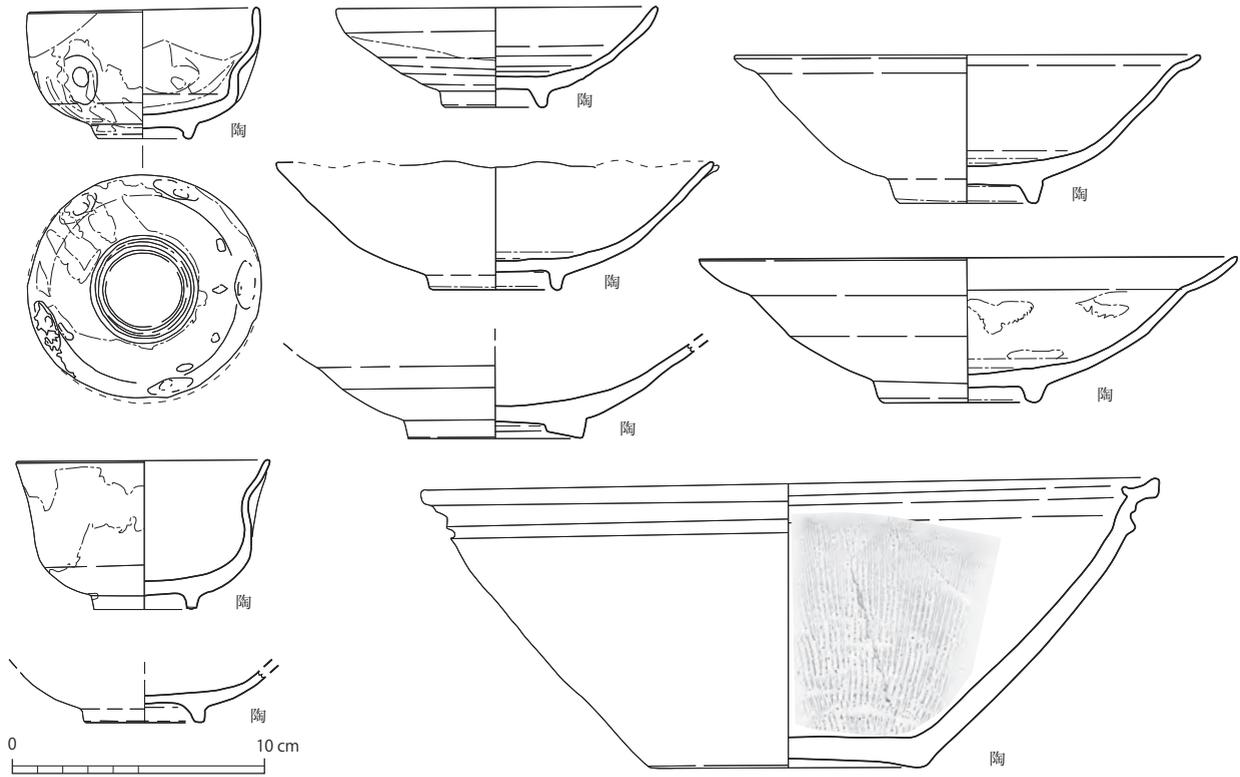
窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

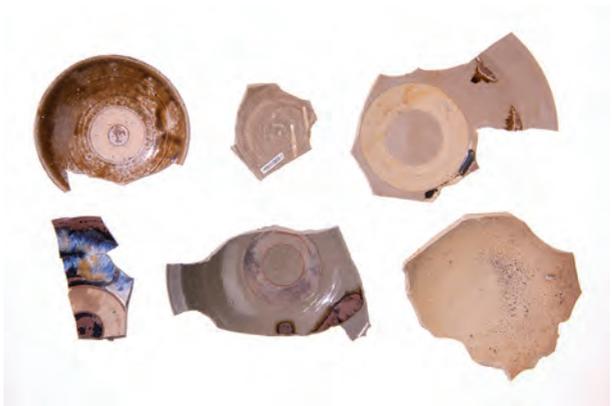


窯跡現況（近景）



池の谷窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

東峰村教育委員会所蔵



池の谷窯跡出土遺物

## 筑前 38 金敷様裏窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：民窯

焼物名：小石原焼

年 代：18世紀～幕末

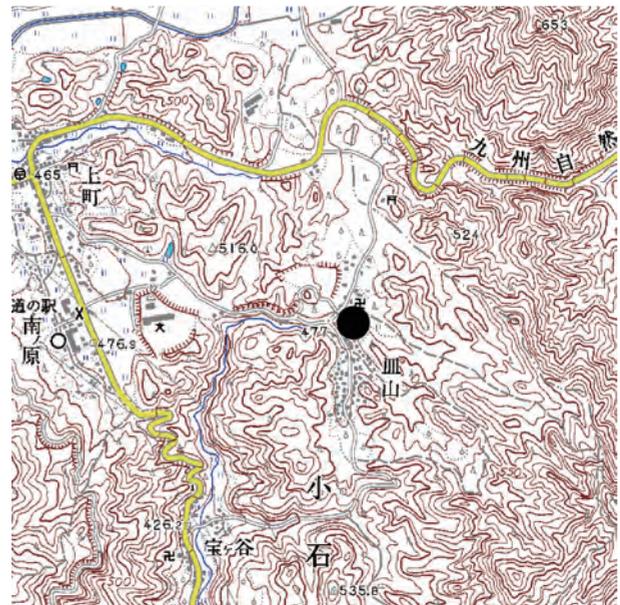
現 況：神社・山林

備 考：村 54～56、県 550058～550060 として周知化

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵の北側に小さい谷を挟んで位置し、窯跡が集中する皿山地区の北端にあたる。丘陵頂部には火の神を祭神とする金敷大明神が祀られている。

3基の窯が約50m間隔で位置するとされ、一番北側の3号窯の確認調査が平成5年(1993)度に小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により行われている。4室の焼成室をもつ全長約15mの連房式登窯が検出されている。物原は形成されておらず出土品の量は少ないが、陶器の碗・皿・鉢や窯道具が含まれる。

1・2号窯は藪となっており、踏査で陶片の散布は確認できるものの窯跡は特定できなかったが、かつて採集された陶片が東峰村教育委員会に保管されている。



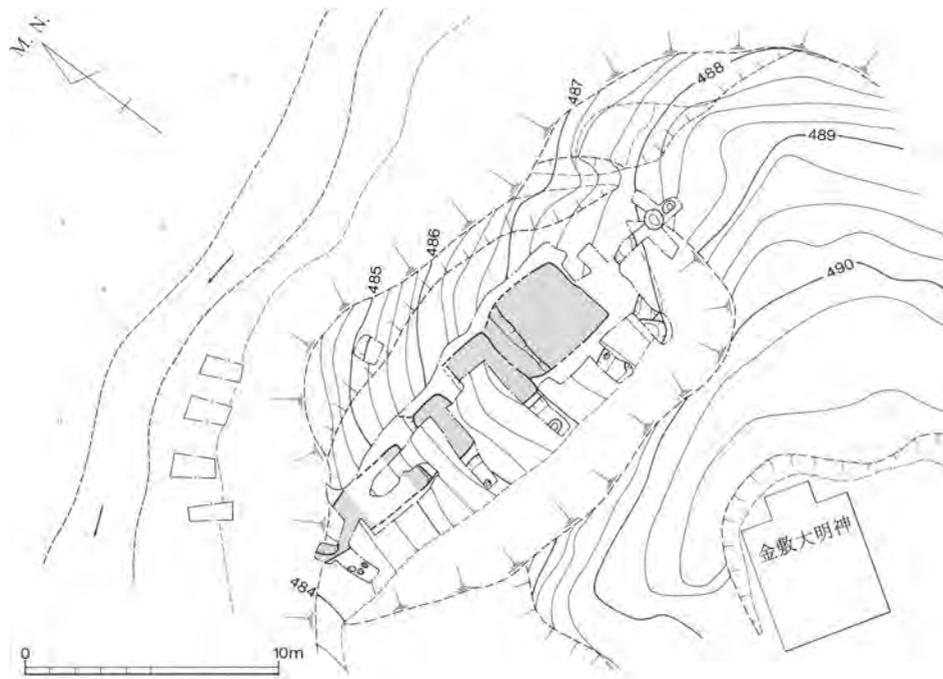
窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



3号窯跡現況（近景）



金敷様裏3号窯跡実測図 (1/300)



金敷様裏2号窯跡出土遺物実測図 (1/3)

東峰村教育委員会所蔵

## 筑前 39 一本杉窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：

焼物名：小石原焼

年 代：〔1号窯〕17世紀後半

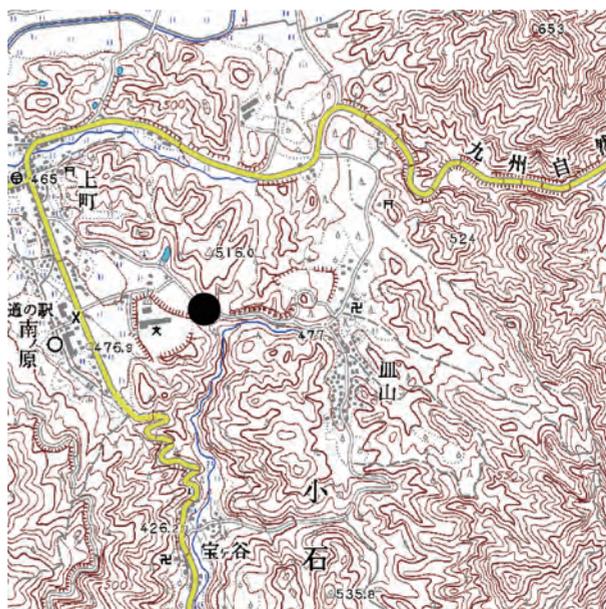
〔2号窯〕寛文9年(1669)～

現 況：公園（現地保存）・山林

備 考：〔1号窯〕村44、県550061として周知化

〔2号窯〕村45、県550062として周知化

県指定史跡



窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)

小石原窯跡群が集中する大肥川上流域の内、最も下流の右岸に位置する。1号窯は試掘調査のみであるが、2号窯については小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により、平成4年(1992)に調査が行われた。

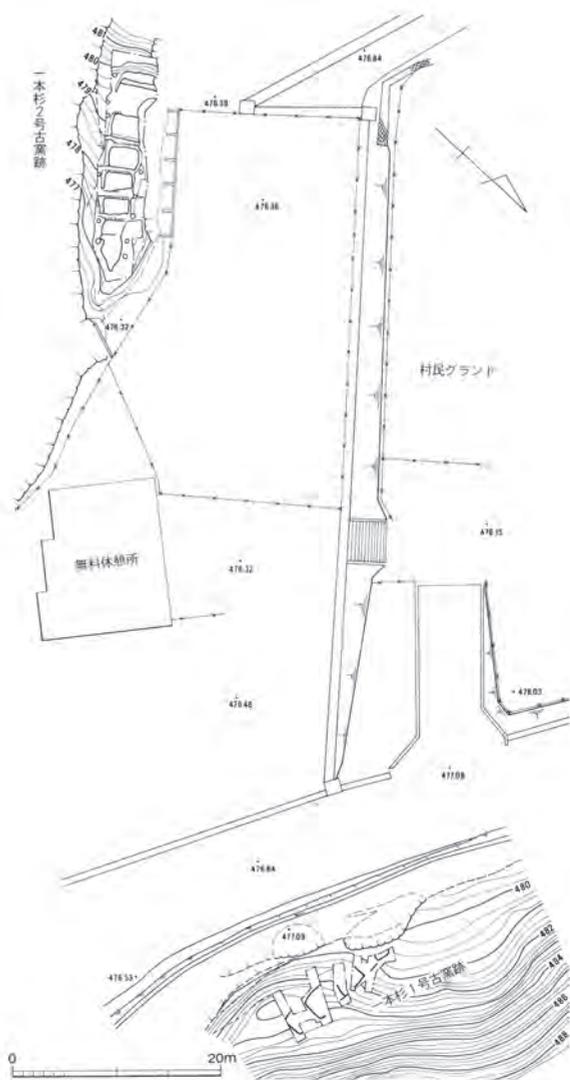
### 〔1号窯〕

奥壁だけにトンバイを使用し、天井・壁を粘土で構築する。他の窯跡とは異なる陶土を使用か。甕・鉢を中心とした陶器を焼く。窯幅が狭く、奥壁にだけトンバイを使用することから中野上の原窯跡より古い窯跡か。

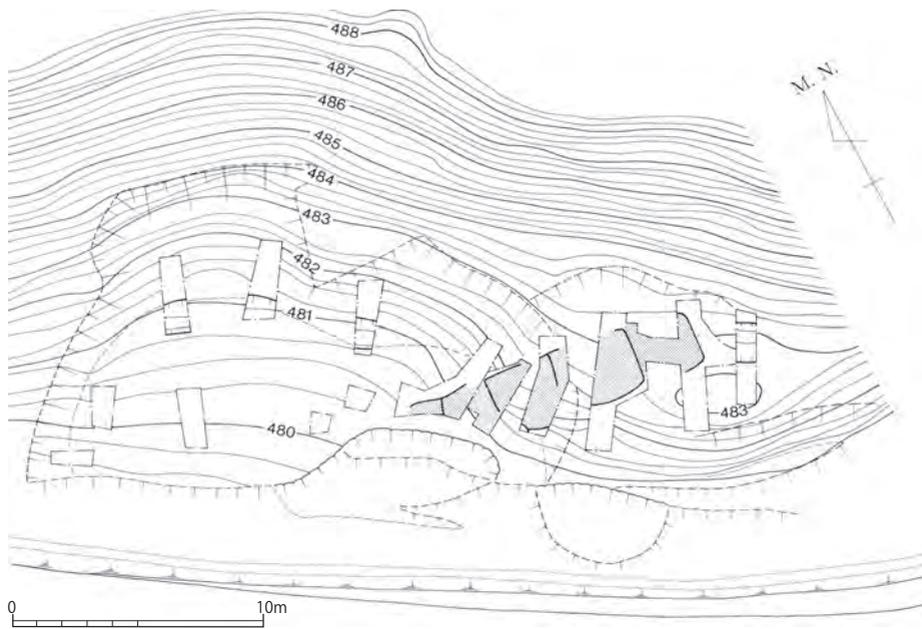
### 〔2号窯〕

全長約20mの階段状連房式登窯で、胴木間と6焼成室からなる。1号窯と同様に奥壁のみトンバイを使用し、天井・壁を粘土で構築する。窯南東側の谷に物原を形成する。出土品は陶器すり鉢が多くを占め、他に水指・片口・壺・甕・鉢と窯道具がある。

焼成室の第6室奥壁での考古地磁気年代法では1680±30年代の結果が出ている。出土品に肥前の影響が見られないことから、中野上の原窯に先行するものと考えられ、『高取歴代記録』による「寛文9年(1669)に小石原村の中野と云う所に新皿山が出来しより、高取八之丞が移り住む」に該当する窯かと考えられる。



一本杉窯跡



1号窯跡実測図 (1/300)



1号窯跡現況 (遠景)

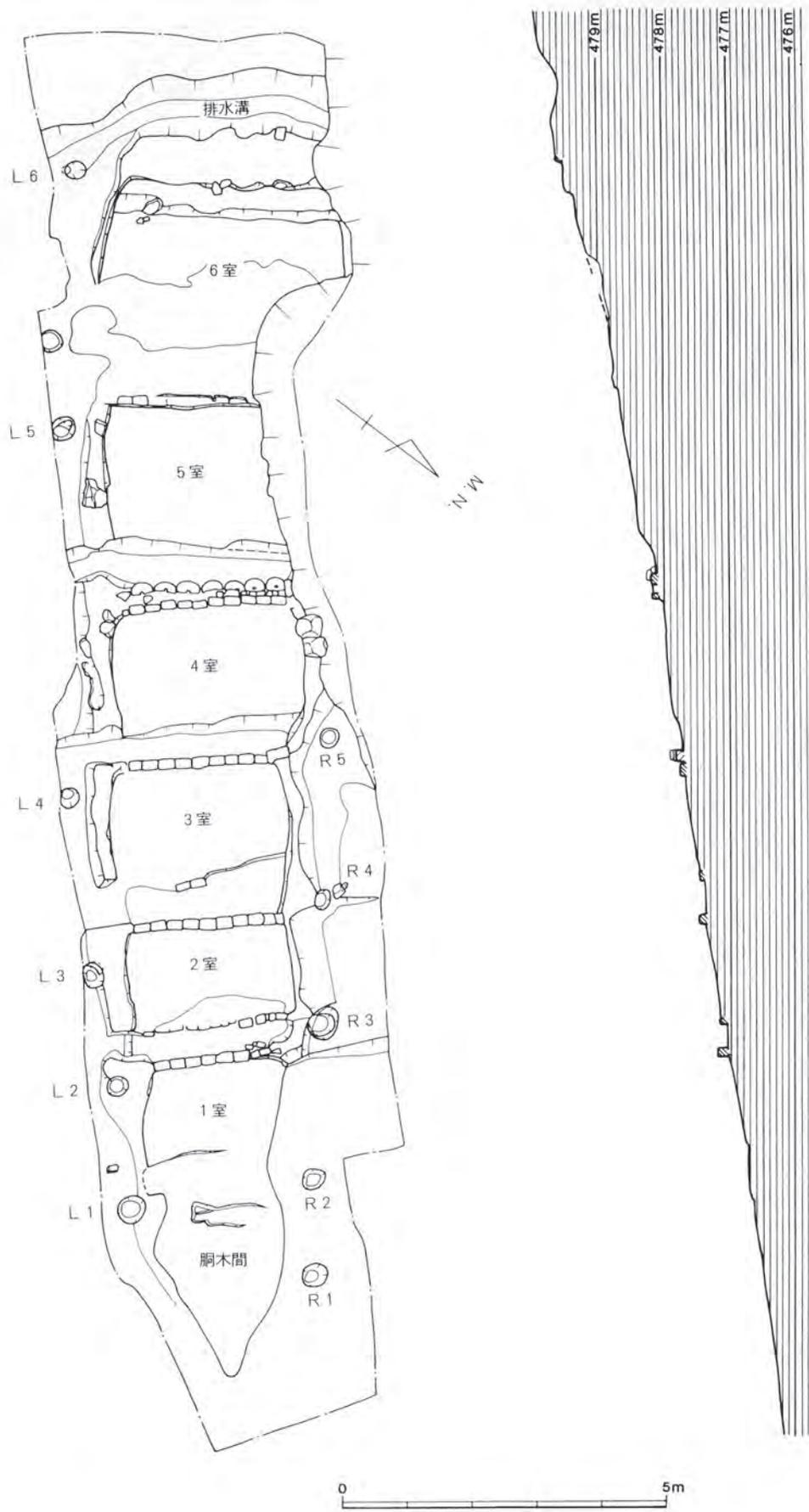


2号窯跡現況 (近景)



2号窯跡 (発掘調査時)

東峰村教育委員会提供



一本杉 2号窯跡実測図 (1/100)

## 筑前 40 十文字窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中山

経 営：

焼物名：小石原焼

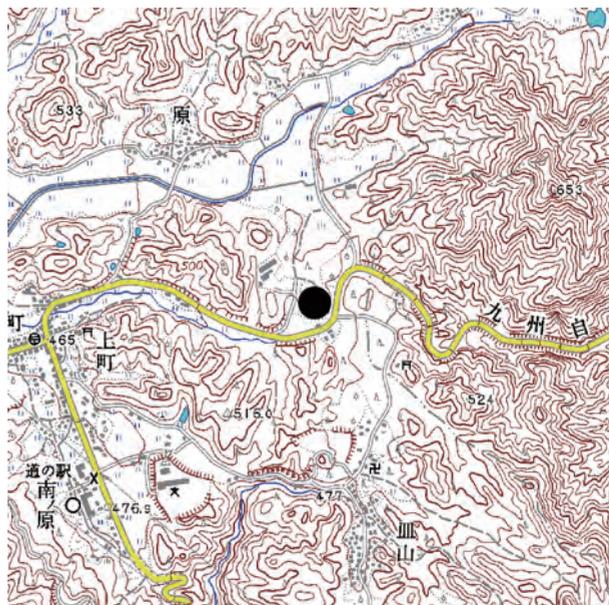
年 代：18 世紀中頃～後半

現 況：山林

備 考：村 46、県 550058 として周知化

小石原焼の窯元が集中する皿山地区から北に低い丘陵を挟んだ位置に単独で所在する。過去に梨園造成中に確認されたもので、多量の陶片が出土し、土瀝し場跡と思われる遺構もあったとされるが、窯本体は不明。村教育委員会にパンケース 1 箱の陶片が保管されており、発見当時の出土品とみられる。今回の現地踏査では、杉林に変わっており、数点の陶片が確認されたが、窯の存在に関する情報は得られなかった。

出土品は陶器の皿（小皿・大皿）、碗、鉢、すり鉢、土管があり、保管資料に窯道具は含まれていない。



窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

## 筑前 41 奥畑瓦窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字スキザキ

経営：民窯

焼物名：

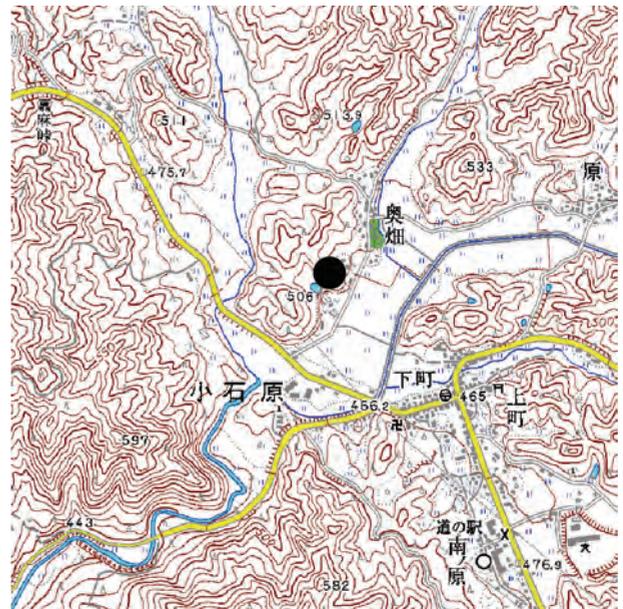
年代：明治？

現況：山林

備考：村 15、県 550015 として周知化

小石原焼の窯元が集中する皿山地区から北西に離れた丘陵裾に単独で位置する。急傾斜から緩斜面に変化する付近に焼土が多数散布し、東側を中心に物原を形成している。

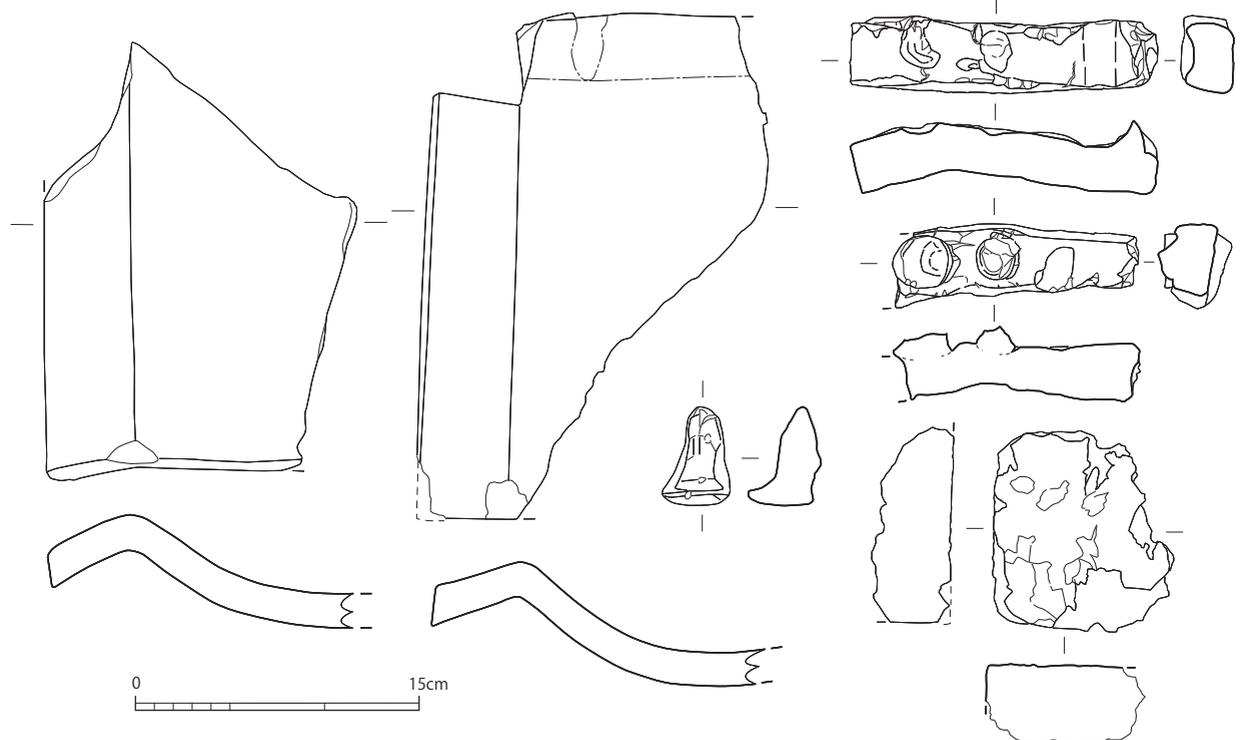
出土品は瓦と窯道具であり、陶器は焼かれていない。瓦は施釉する特色がある。



窯跡位置図 『小石原』 (1/25,000)



窯跡現況 (近景)



奥畑窯跡出土遺物実測図 (1/4)

九州歴史資料館所蔵

## 筑前 42 釜床窯跡

所在地：朝倉郡東峰村鼓

経 営：福岡藩

焼物名：高取焼

年 代：〔1号窯〕寛文5年(1665)～元禄年間

〔2号窯〕天保6年(1835)～明治

現 況：現地保存

備 考：1号窯 村95、県550050として周知化  
県指定史跡

2号窯 村96、県550051として周知化

〔1号窯〕

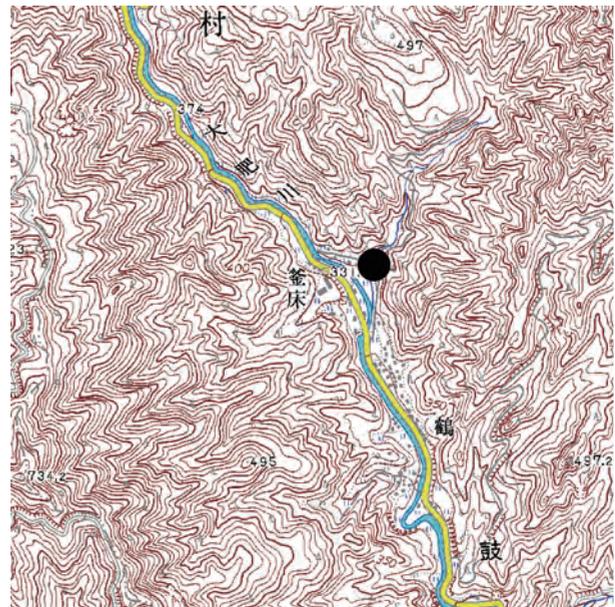
御用窯を営んだ高取焼2代八蔵貞明が寛文5年(1665)(寛文7年の記録もあり)に白旗山窯から移して活動した窯である。貞享年間(1684～88)に大鋸谷(福岡市)を開窯したが、八蔵は鼓から通い御用を勤めたとされる。その後、元禄17年(1704)頃まで焼き続けられた。

窯は大肥川が流れる溪谷に位置し、周辺は急峻な山々が連なる。1号窯は急な尾根線上にあり、2号窯は小河川を挟んだ丘陵裾にある。戦前、高取家が木材搬出路を掘削した際に確認され、多量の陶器片とトンバイが採集された。『高取歴代記録』によると窯は「居宅より丑方に当り山の尾の先也」や「東乃方及山の尾先」と記載される。

窯の中央は掘削され、さらに前面は崩落のため胴木間や焼成室の一部を欠損しているが、調査では6室を確認した。出土品は茶入を中心に茶器が主体をなす。またハマやサヤ鉢等の窯道具が出土した。考古地磁気推定年代によると最終焼成は1710±30年という結果がでている。

〔2号窯〕

8代高取八郎常保が天保6年(1835)に認可を願い出て築窯したもので、明治まで小石原焼風のを焼いたとされる。初代高取八山夫妻の墓が移築されている付近と想定される。



窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡付近見取図 「高取家文書」





1号窯跡現況（近景）



2号窯跡現況（近景）



1号窯跡（発掘調査時）

東峰村教育委員会提供

[天照太神宮]

高取家の敷地内にある。『筑前国続風土記付録』『筑前国続風土記拾遺』『天照太神宮御鎮座之記』では、社は延宝9年(1681)に2代高取八蔵貞明が、高取家が鼓に移り住むまでに営んできた所の神（大行事神社・彦山大権現・撃鼓大権現・天照太神宮・近津大明神・福地大権現・小鳥大明神）を勧請して建立したとある。



高取八山夫妻の墓



天照太神宮

## 筑前 46 三並ヒエデ窯跡

所在地：朝倉郡筑前町三並

経営：民窯か

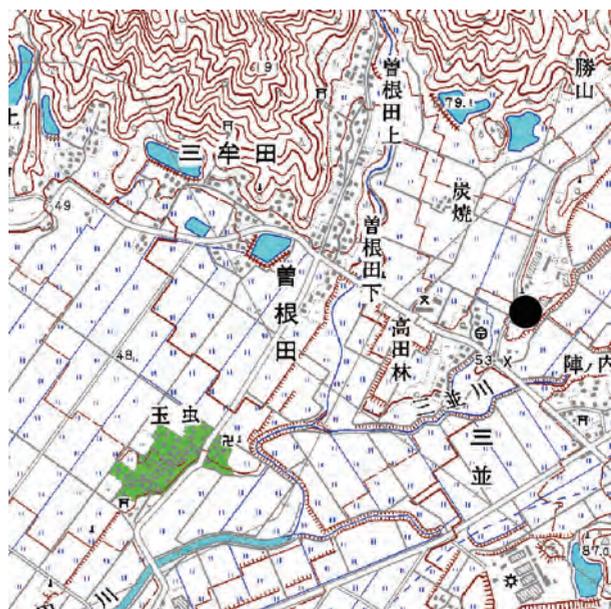
焼物名：

年代：19世紀

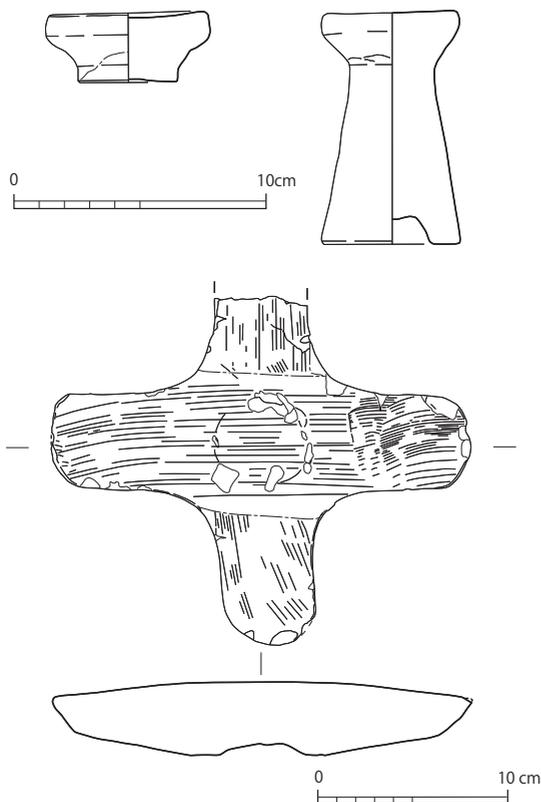
現況：宅地

三並ヒエデ窯跡出土銅戈と一緒に甘木歴史資料館に窯道具が保管されている。出土地は標高約60mの緩斜面に位置するが、圃場整備が行われたこともあり窯跡は確認できず、陶片等も採取できなかった。

保管されている出土品はトチンとハマであり、焼成された製品は不明である。



窯跡位置図 『二日市』(1/25,000)



三並ヒエデ窯跡出土遺物実測図 (1/3・1/4)

甘木歴史資料館所蔵



窯跡推定地現況 (遠景)

## 筑前 47 浄満寺窯跡

所在地：朝倉市長谷山

経営：秋月藩

焼物名：

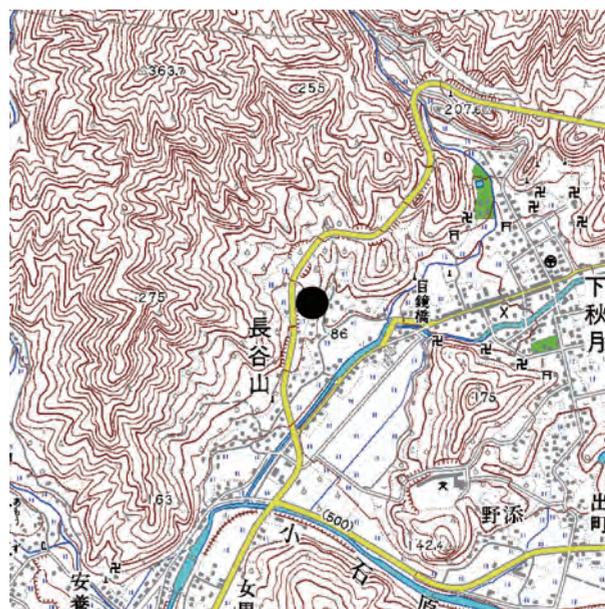
年代：18世紀中葉～18世紀後半

現況：山林

秋月藩士の平田望春が天保5年(1834)に記した『望春随筆』に、宝暦年間の末から明和年間の初めまで焼いたと記される。

秋月城下を見下ろす標高約110mの尾根上に長さ約14m、幅約3mの範囲で窯跡を確認した。周辺は削平を受けていて、露出した土層断面から厚さ約0.5mの床面が、階段状に見える。おそらく3室以上からなる登窯かとみられる。

南側の斜面からは素焼きの皿・すり鉢・甕等の陶器やトチン・ハマ等の窯道具が採取されている。



窯跡位置図 『甘木』(1/25,000)



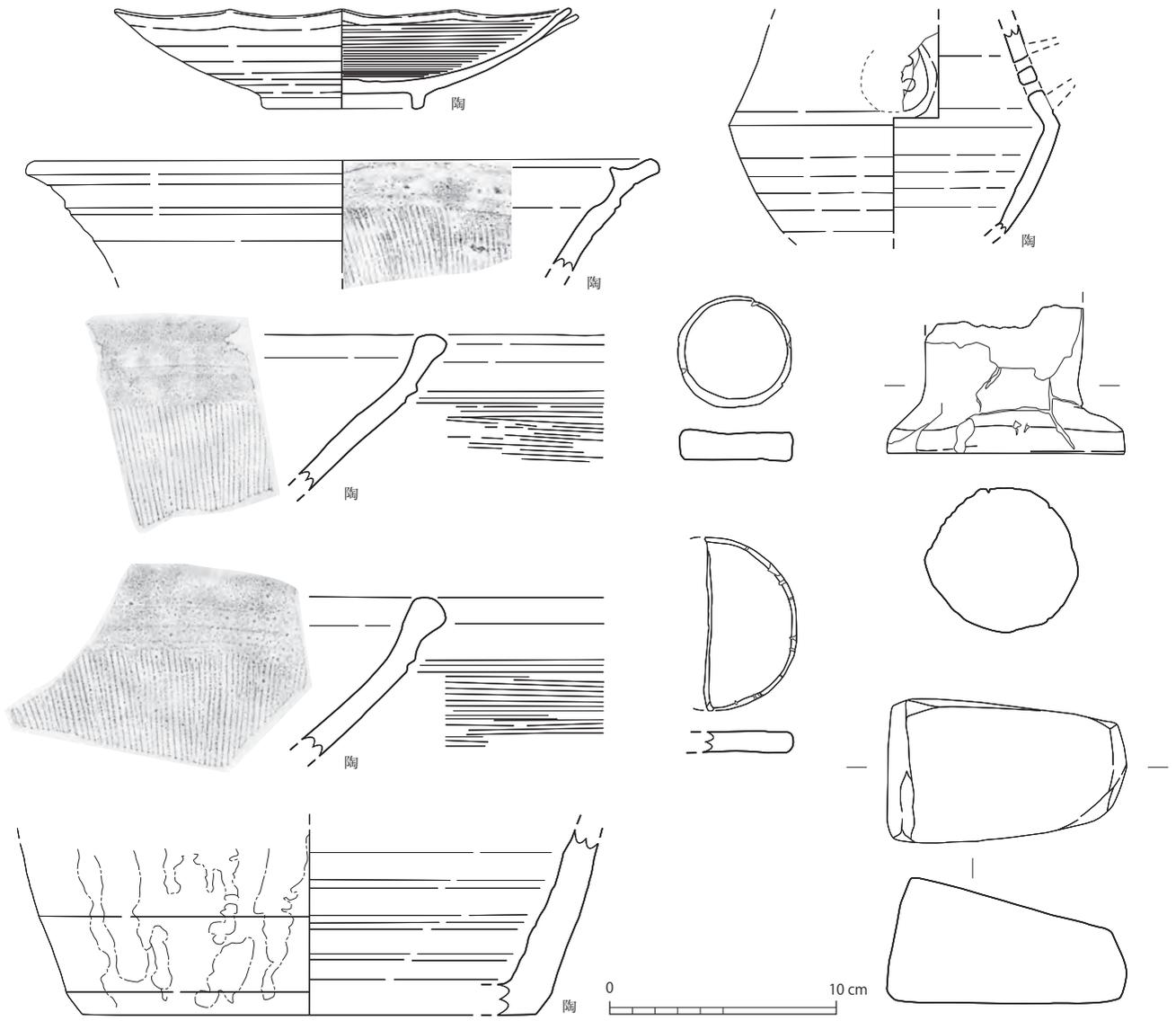
窯跡現況(遠景)



窯跡現況(近景)



窯跡現況(近景)



浄満寺窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

朝倉市教育委員会所蔵



浄満寺窯跡出土遺物

## 筑前 48 野鳥窯跡

所在地：朝倉市秋月野鳥

経 営：秋月藩

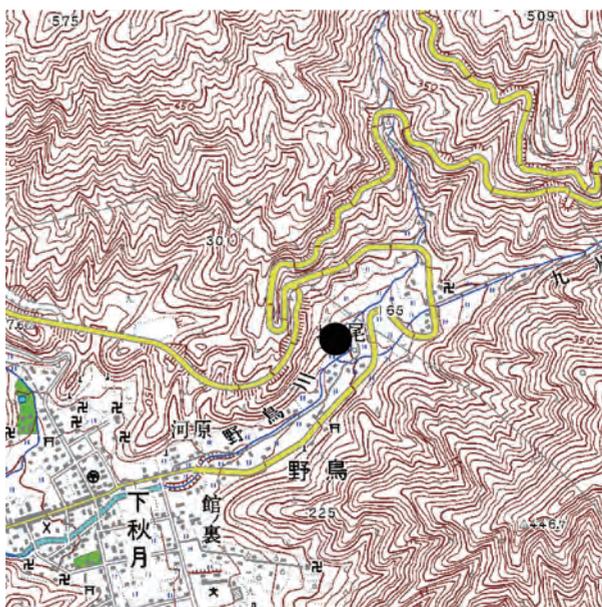
焼物名：

年 代：18 世紀後半～ 19 世紀初め

現 況：山林

秋月藩士の平田望春が天保 5 年 (1834) に記した『望春随筆』に、寛政 11 年 (1799) から約 10 年間操業され、陶工は上野・小石原から来た後に田香（今任）からも加わったと記される。秋月藩の年譜である『御代々之記』や『秋城御年譜』からは享和 2 年 (1802) から文化 9 年 (1812) の操業と読み取ることができる。

窯跡は秋月城下町から 500 m 程北西の野鳥川右岸に位置する。かつては僅かに壁体が見え、遺物も採集されていたとされるが、副島邦弘による平成 18 年 (2006) の現地踏査や今回の調査でも窯自体は確認できず、今回の現地踏査でも、わずかに周辺から窯壁片を確認したのみである。



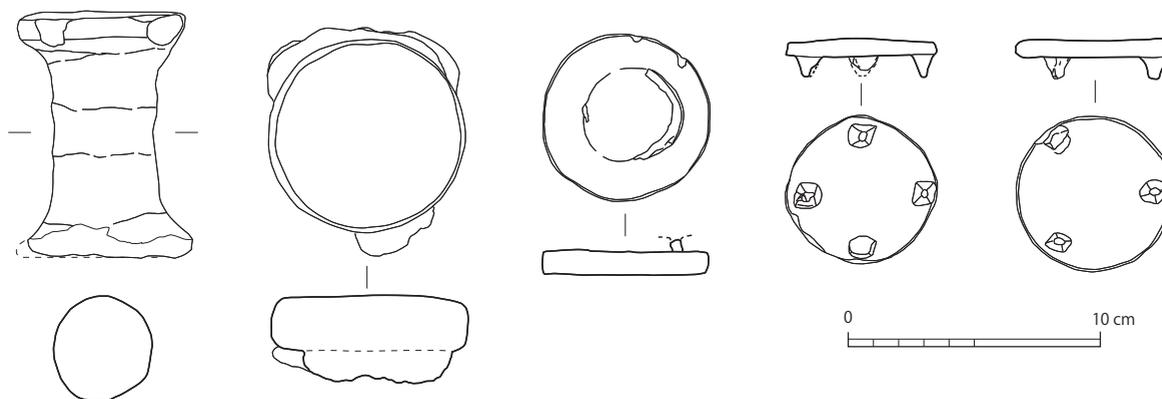
窯跡位置図 『甘木』 (1/25,000)



窯跡現況 (近景)



野鳥窯跡遺出土遺物



野鳥窯跡出土遺物実測図 (1 / 3)

朝倉市教育委員会所蔵

## 筑後1 一の瀬 [朝田] 窯跡

所在地：うきは市朝田

経営：

焼物名：一の瀬焼・朝田焼

年代：文化年間～明治

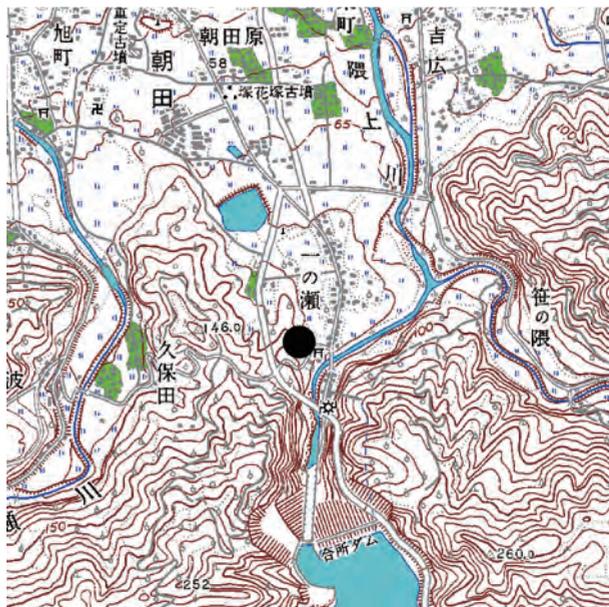
現況：山林

備考：市076、県620024として周知化

文化年間(1804～18)に太田勝次郎が開窯し、最初は陶器を中心に焼いていたが次第に磁器が増えたとされる。勝次郎窯の閉窯は文政12年(1829)もしくは天保6年(1835)頃とされる。天保元年(1830)頃には樋口勘次・長作が陶磁両種の窯をかまえ、短期間操業を行う。染付製品の銘にその名がみえる。安政年間(1854～90)には足立寿平が小石原、星野、唐津などの工人を雇い、陶器の生産を行おうとするが、明治初年に廃業したという。現在の窯元は昭和39年(1964)に再興されたもの。

上記の変遷で、同一の窯を使用したのか、別の窯を築いたのかは明確でない。窯跡は耳納山麓の東向きの急傾斜地裾に位置する。陶器窯・磁器窯の二基があったとされるが、陶片は確認されるものの磁器片は見つけることができず、地形が大きく改変されている場所もあることから磁器窯は失われている可能性がある。

器種は陶器については、碗・皿の他、甕や雲助等の中～大形品がみられる。磁器については碗・皿・瓶が多くみられる。磁器には「一ノ瀬」や「朝」、「朝田一瀬樋口勘二」等銘を高台内に記すものがみられる。採集された窯道具は多くはないが、ハマ等がある。



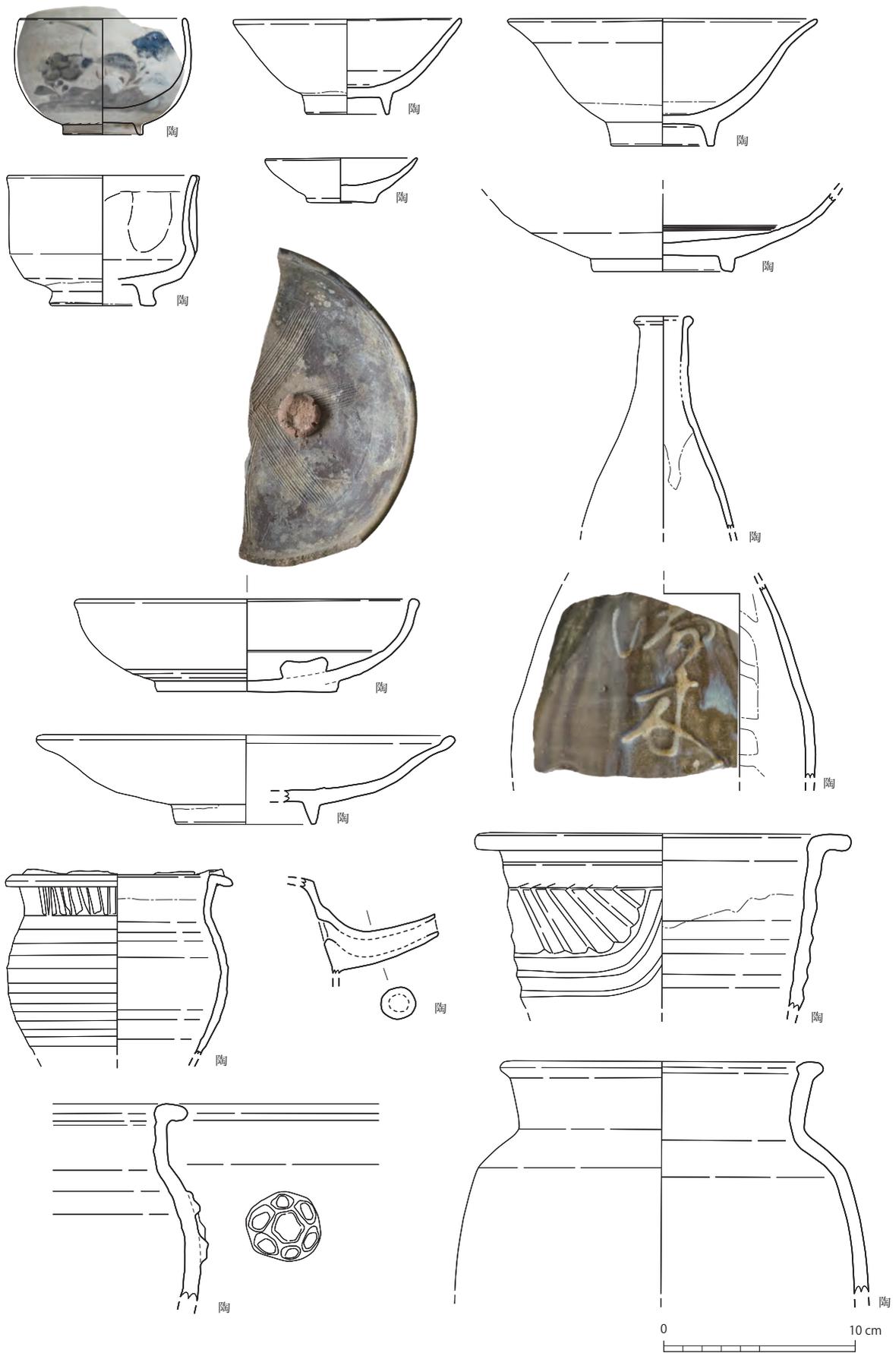
窯跡位置図 『千足』(1/25,000)



窯跡現況 (遠景)



窯跡現況 (近景)



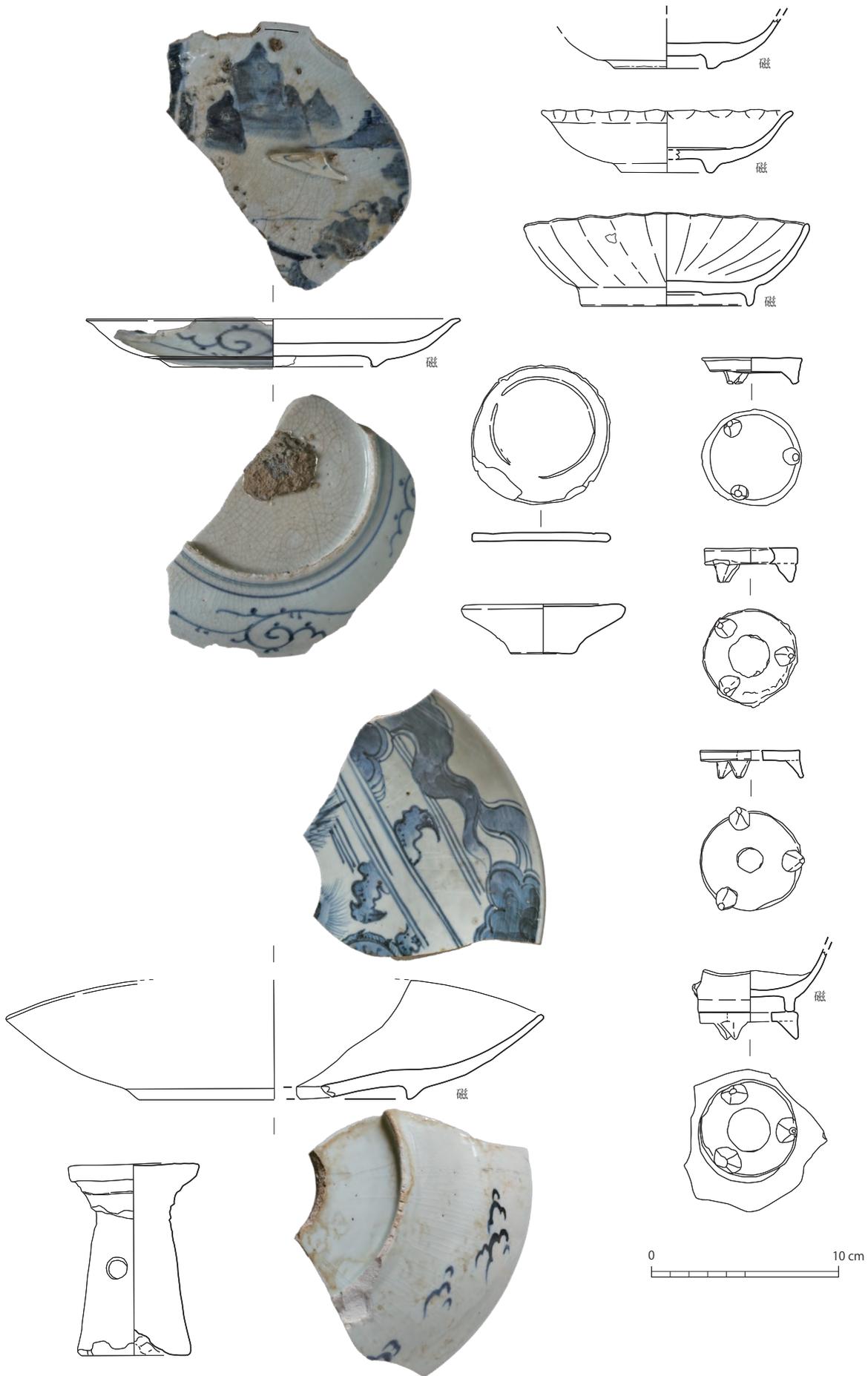
一の瀬窯跡出土遺物実測図1 (1/3)

うきは市教育委員会所蔵



一の瀬窯跡出土遺物実測図2 (1 / 3)

うきは市教育委員会所蔵



一の瀬窯跡出土遺物実測図3 (1 / 3)

うきは市教育委員会所蔵

## 筑後 2 柳原焼窯跡

所在地：久留米市篠山町

経営：久留米藩

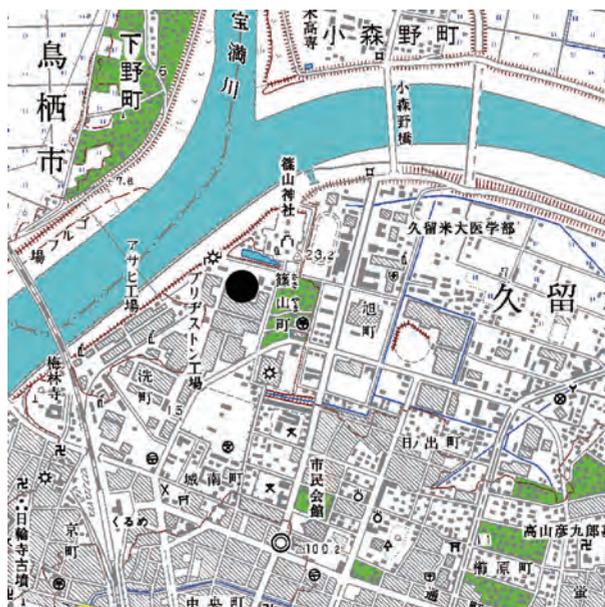
焼物名：柳原焼

年代：天保3年(1832)～天保12年(1841)

現況：工場

久留米藩9代藩主有馬頼徳(月船)が久留米城内の一角で開かせたお楽しみ窯である。天保3年(1832)から同12年(1841)頃までとされる。窯は城内二の丸の新御殿の庭にあったとされるが、現在工場地内であり確認することができない。

赤坂焼や星野焼の陶工が参画し、中国や朝鮮、日本の茶陶を倣い、茶陶を焼かせた。高台脇や高台内に「柳原」の小判形陰刻銘や、月船公の花押の陰刻がなされるものがある。



窯跡位置図 『久留米』(1/25,000)



窯跡推定地現況(遠景)

### 筑後3 朝妻焼窯跡

所在地：久留米市合川

経 営：久留米藩

焼物名：朝妻焼

年 代：正徳4年(1714)～享保13年(1728)

現 況：山林

備 考：県030253として周知化

『米府年表』や『石原家記』から、正徳4年(1714)に6代久留米藩主有馬則維の命により、枳形焼の陶工が関わり、肥前の工人や絵師を招致して開窯したとされる。享保13年(1728)には閉窯している。

窯は久留米市街地に近い標高約35mの丘陵上に位置する。平成4年、27年に久留米市教育委員会により発掘調査が行われ、残存長は8.8mの焼成室3室と煙道部からなる窯跡と物原が確認され、大部分は現地保存されている。

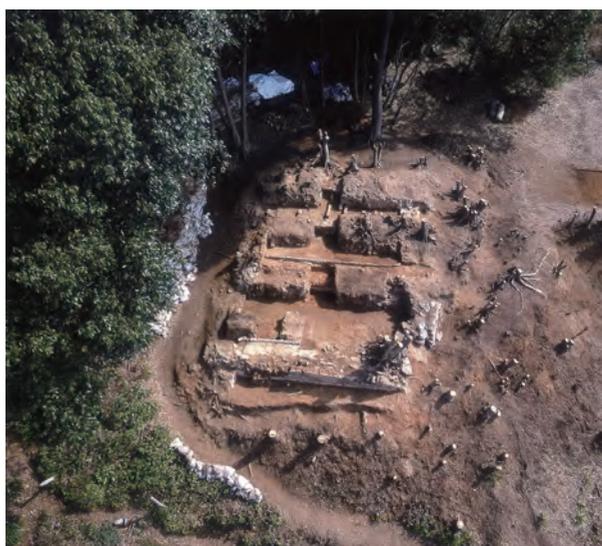
操業期間は短いですが、白磁や青磁、染付など色絵を含めて磁器生産が行われた。底部などに「朝」銘をもつ。窯道具はハマ、トチン、チャツ、ナンキン、さや鉢などが見られる。トンバイを煙道部に使用する。ハリ支えがある。煙道部は熊本県南関町に残る小代焼瓶焼窯とほぼ同様の形態を呈すとの指摘もある。



窯跡位置図 『久留米』(1/25,000)

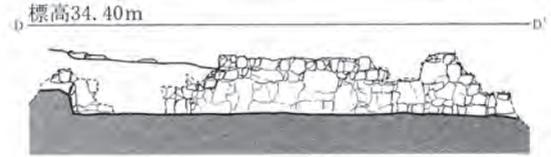
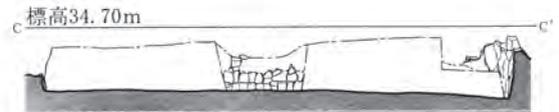
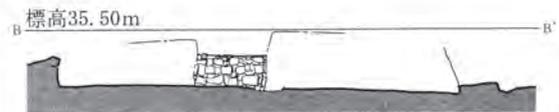
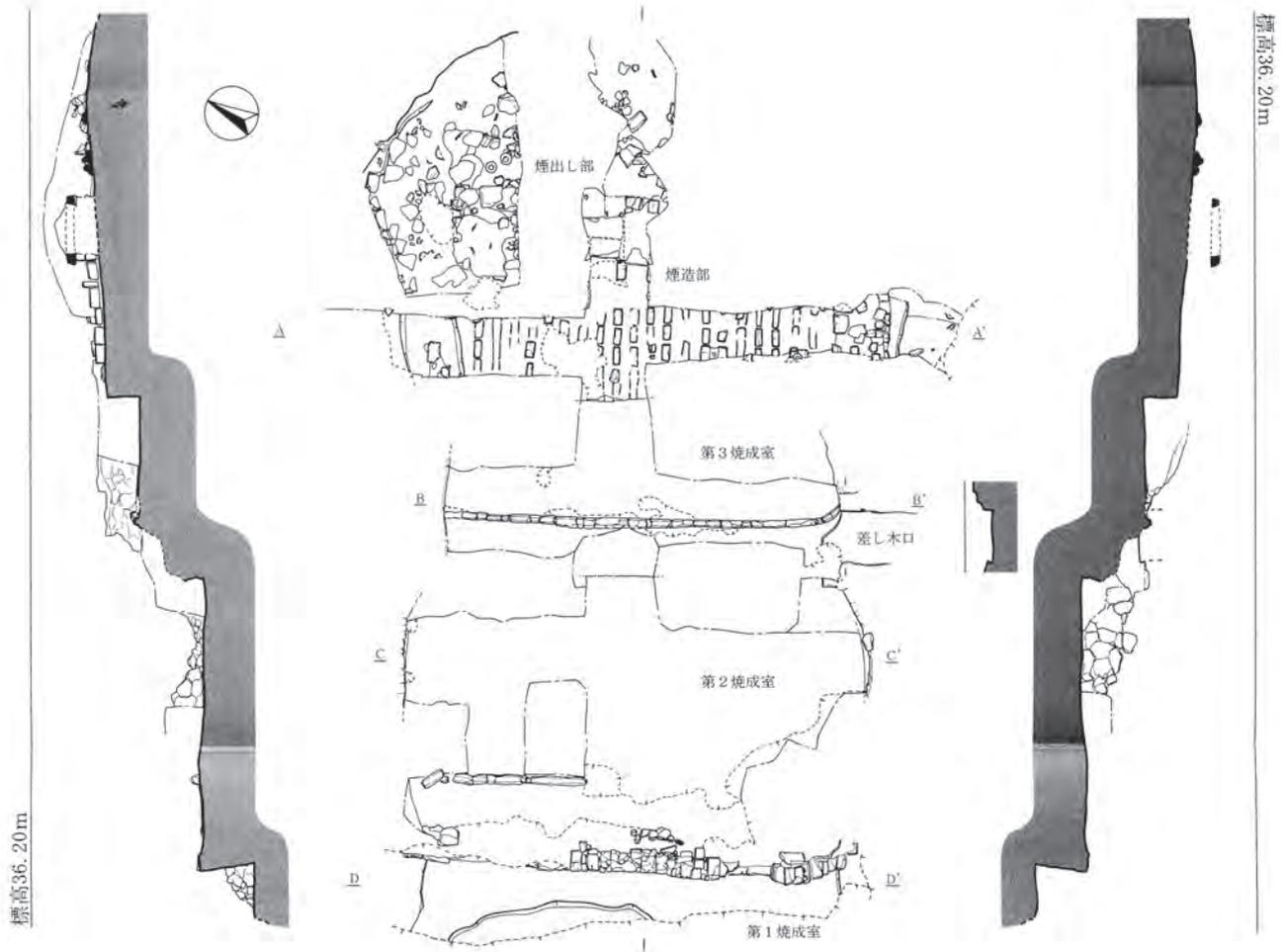


窯跡現況(遠景)



窯跡(調査時)

久留米市提供



朝妻焼窯跡実測図 (1/100)

## 筑後 4 東野亭焼窯跡

所在地：久留米市野中町

経営：久留米藩

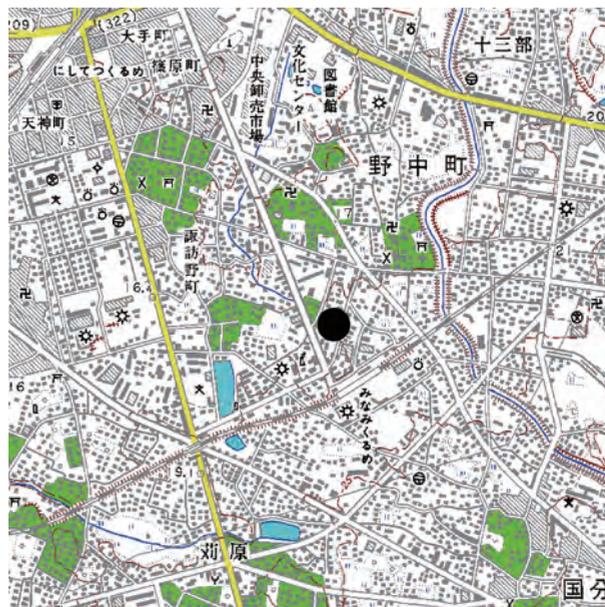
焼物名：東野亭焼

年代：慶応元年(1865)～明治8年(1875)頃

現況：消滅

久留米藩11代藩主有馬頼咸により、慶応元年(1865)にお楽しみ窯として開窯されたが、殖産興業を目的とする事業も担った。赤坂焼の陶工・緒方次助の次男・宗一が主に製品(花瓶、茶器など)を作った。廃藩後は民間に引き継がれたが、明治8年(1875)頃に廃窯となった。東野亭の名は、東野中(久留米市野中町)の藩主別邸である「東野亭」に由来する。

久留米市街地の南東部、高良川左岸の台地上に位置する。平成10年(1998)に久留米市教育委員会により発掘調査が行われ、窯は燃烧室と焼成室2～3部屋があることがわかったが、削平を大きくうけており不明な点も多い。陶器の行平鍋や片口、急須、徳利、鉢、すり鉢、灯明具等がある。また、染付で高台内に「東野亭造」の銘がある磁器皿が出土し、磁器も焼かれていたことがわかる。行平鍋の把手には「東埜寿」「東野亭」の銘がある。窯道具ではトチンがないのが特徴で、サヤ鉢、ハマ(逆台形、足付)、シノ(ナンキン)などが見える。



窯跡位置図 『久留米』(1/25,000)



窯跡(調査時)

久留米市提供



窯跡現況(遠景)



## 筑後 12 赤坂焼 [三原] 窯跡

所在地：筑後市蔵数字赤坂

経営：久留米藩

焼物名：赤坂焼

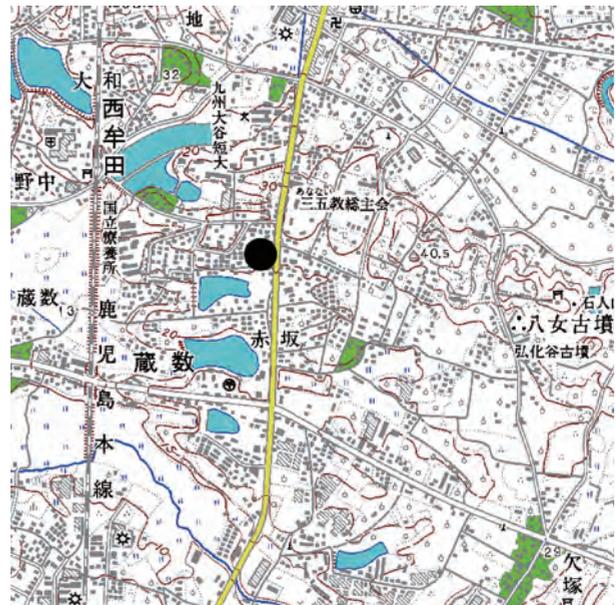
年代：文化9年(1812)～文政5(1822)年

文政7年(1824)～弘化3(1846)年

現況：神社・宅地

文化9年(1812)、水田窯(筑後市水田)の次郎吉が窯を開く。しかし経営はうまくいわず一時廃窯したが、文政7年(1824)に三原富次が再興する。文政10年(1827)には三原が久留米藩御用焼立役となる。三原は久留米藩のお楽しみ窯である柳原窯で制作した製品を赤坂で焼いた記録が残されている。三原窯は富次の次男貞吉の代まで御用窯として創業され、その後は民窯となった。三原窯で従事した緒方家が赤坂焼を維持し、会社窯・峠窯・新窯を営んだ。特に緒方宗市は久留米藩のお楽しみ窯である東野亭焼窯を起すにあたり選ばれて陶匠となった。東野亭焼窯廃窯後は赤坂に戻り窯を築いた。

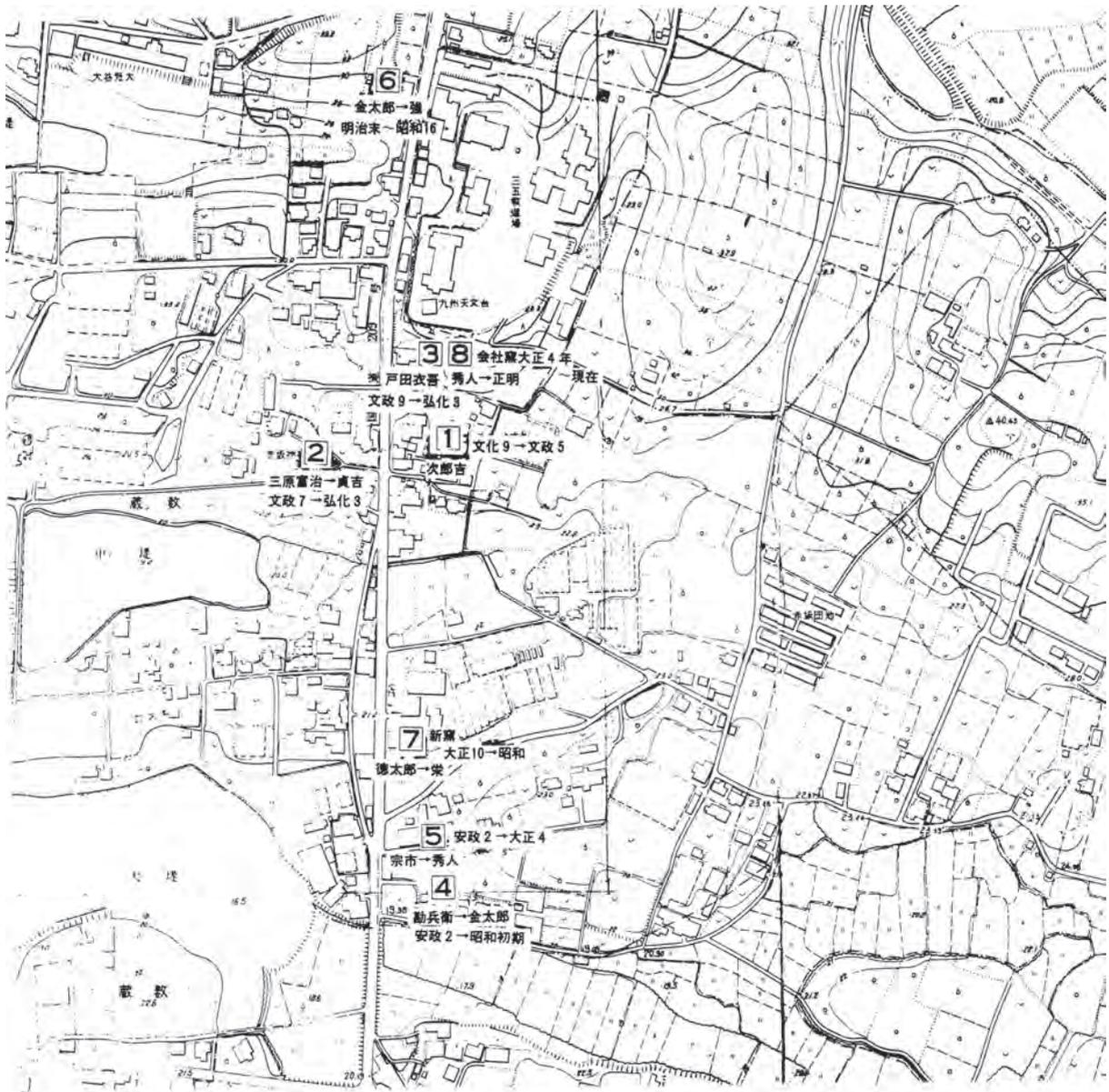
窯は東西に長く伸びる八女丘陵の西端付近に位置する。三原窯は周辺より高くなる地形にあり、現在は赤坂神社が祀られている。窯跡の上に社殿が建てられており、基礎周辺には焼土面が確認できる。周辺には陶片や焼土が散在する。他の窯跡については推定地を踏査したが、確認することはできなかった。



窯跡位置図『八女』(1/25,000)

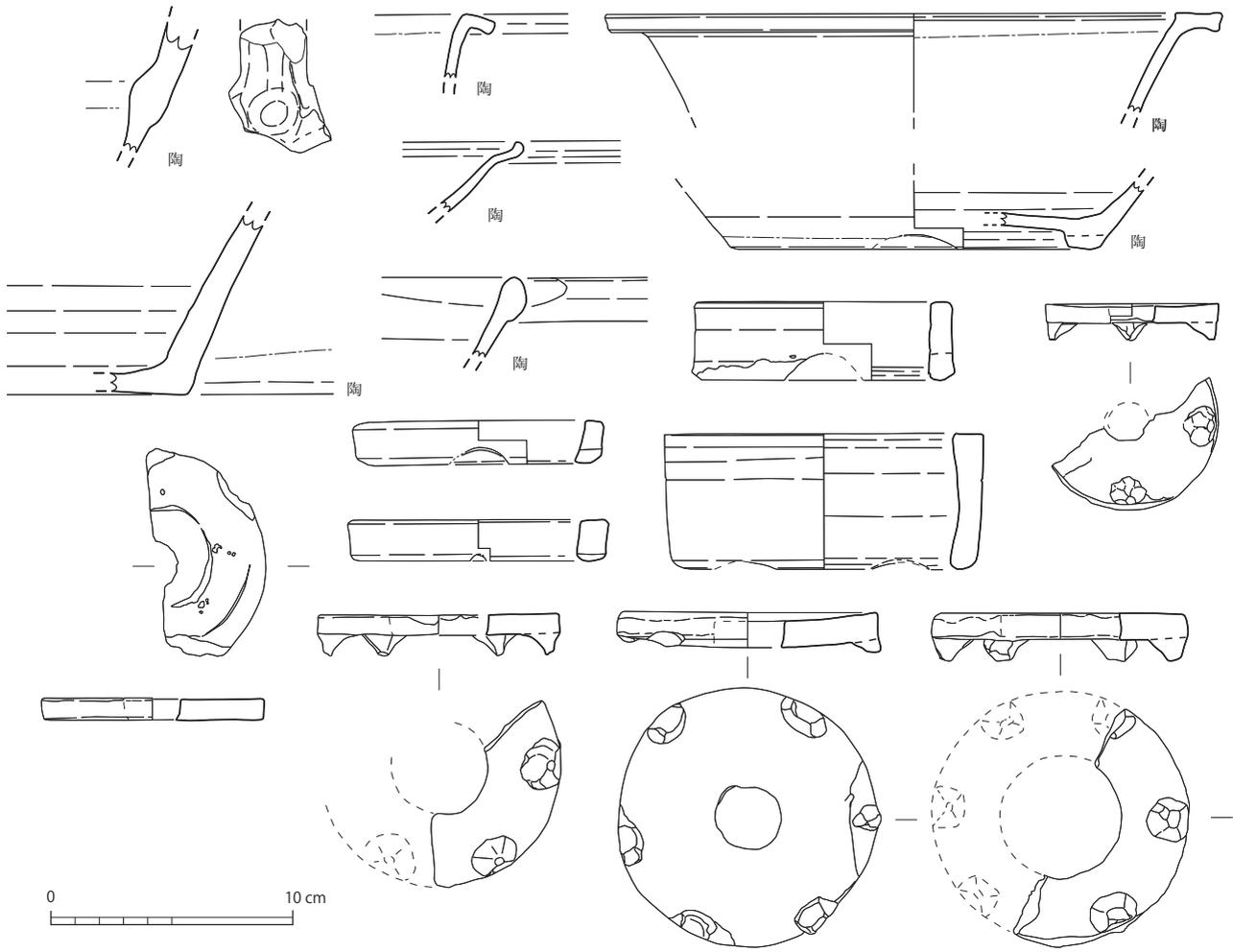


窯跡現況(近景)



赤坂焼窯位置図 「筑後赤坂焼」(以下の文章も参照)

- ①次郎吉窯 文化9年(1812)～文政5年(1822) 水田の次郎吉が窯を起こす。
- ②三原窯 文政7年(1824)～弘化3年(1846) 三原富次が赤坂焼を再興 陶名「利左衛門」  
富次 → 貞吉
- ③戸田窯 文政9年(1826)～弘化3年(1846) 戸田衣吾が戸田窯を起こす 陶名「作兵衛」  
衣吾→秀人→正明
- ④緒方勘兵衛窯 安政2年(1855)～昭和初期 緒方勘兵衛→金太郎
- ⑤明治初年(1867) 緒方宗市が赤坂に窯を開く。岡本信吉も同伴「赤岡」の銘を残す  
※安政2年(1855)～大正4年(1915)?
- ⑥峠窯(緒方金太郎窯) 明治末年～昭和16年(1941) 緒方金太郎→強
- ⑦新窯(緒方徳太郎窯) 大正10年(1921)～昭和初期 緒方徳太郎→栄
- ⑧会社窯(緒方正明窯) 大正4年(1915)～昭和52年(1977) 鶴田邦太郎・緒方秀人他3名で正典舎  
を創り、会社窯を起こす。  
昭和42年(1967) 正明窯を中心に、豊田勝秋の指導により赤坂焼の復活をみた。



赤坂焼窯跡出土遺物実測図 (1 / 3)

九州歴史資料館所蔵



赤坂焼窯跡出土遺物

## 筑後 15 本星野焼窯跡

所在地：八女市星野村大字本星野

経営：久留米藩

焼物名：星野焼

年代：享保年間～宝暦年間

明治 20 年 (1887) 頃～明治 27 年 (1894)

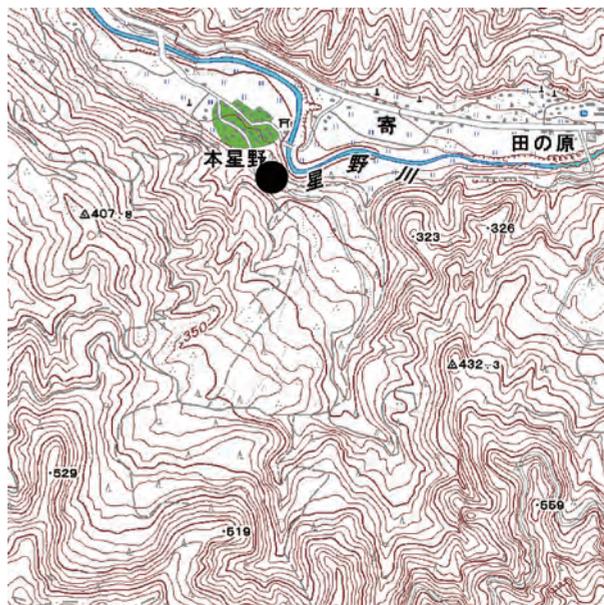
現況：畑地

積形焼を引き継ぎ、庄屋高木与三右衛門により享保年間に始められる。十六葉菊向附六人揃の箱に享保 9 年 (1724) とあるのが初現。久留米藩の山方史料である「山方小物成方格帳」によると、元文 2 年 (1737) に御用窯として認可された。室山熊野神社の陶製灯籠には元文 3 年 (1738) の紀年と与三右衛門の子、与次右衛門の名がみえ、御用窯認可の感謝を込めて奉納されたものであろう。その後、宝暦年間初頭に高木宇平次により十籠へ窯が移された。

明治 20 年 (1887) 頃に十籠の陶工森松勢蔵が小石原との関係が濃厚な池上清一や坂本計太とともに本星野に再び窯を築くが、明治 27 年 (1894) をもって廃絶した。

窯跡は星野川に近い尾根先端近くに位置する。

器種は、初期のものは茶の保存・運搬のための陶器壺を主体とするが、御用窯となってからは茶器・食器・花器・香炉等多彩となる。図工がないため、文様図柄の型で押し出したものがある。「星の」等の刻印をもつものもある。



窯跡位置図 『八女』 (1/25,000)



窯跡現況 (近景)



森松勢蔵の墓

## 筑後 16 星野十籠焼窯跡

所在地：八女市星野村麻生・十籠

経営：久留米藩

焼物名：星野焼

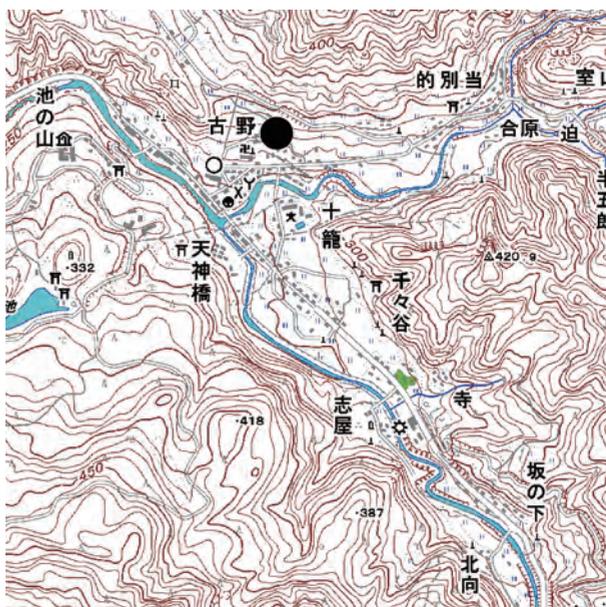
年代：宝暦年間～明治 27 年（1894）

現況：畑地・道路

宝暦年間（1751～1763）の初頭頃に高木宇平次が本星野から十籠へ移した窯。本星野から引き続き御用窯は継承され、廃藩置県に至るまで代々続く。中でも良八は久留米藩主 9 代有馬頼徳の御庭焼（柳原焼）の窯に召し出され活躍する。その頃、森松善助・安次親子が陶工として名をなすが、明治維新後、藩による庇護がなくなり窯の経営は傾いた。森松安次・勢蔵親子は十籠の中古野に窯を築き、その後明治 6 年（1873）に豊岡村今（八女市黒木町今）に移り今村焼を開窯する。安次の死後、勢蔵は再び十籠に戻り作陶を続けるとともに本星野でも新たに開窯した。明治 27 年（1894）に閉窯した。

窯跡は、急峻な丘陵が緩斜面となる旧星野村中心地に位置する。約 30 年前の町道拡幅時に遺物を確認した地点を十籠窯跡 A としている。今回の現地踏査では、窯跡は確認できなかったが、物原推定地周辺で焼土片や陶器片を採集した。『筑後陶器考』では高木窯としており、宝暦年間からの窯跡かと思われる。十籠窯跡 B としている地点は『筑後陶器考』で森松窯としている窯跡。

器種は陶器の壺・甕を主体とし、「星野十籠焼」等の文字を刻むものがある。



窯跡位置図 『十籠』（1/25,000）



窯跡現況（遠景）

## 筑後 19 釈形焼窯跡

所在地：八女市黒木町笠原字釈形

経 営：久留米藩

焼物名：釈形焼

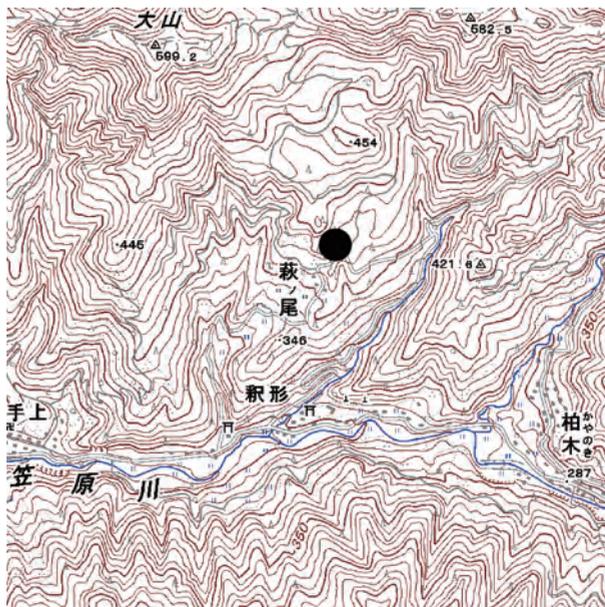
年 代：17世紀～享保年間(18世紀前半頃)

現 況：山林

個人蔵の茶甕の木蓋に元禄 11 年(1698) 銘があり、文献では『石原家記』の正徳 4 年(1714)12 月に「釈形焼」の記事があるため、元禄年間の開窯と考えられる。ただし有馬豊氏が元和 6 年(1620)に久留米に入封した後の寛永 9 年(1632)や正保 4 年(1647)の書状に黒木の焼物のことが記されており、これが釈形焼の可能性も残される。閉窯は本星野に窯を移す享保年間とされる。

窯跡はなだらかな東南傾斜地の山裾で、上部構造は確認できないが、周辺で焼土塊等が採取される。複数基築かれた可能性も考えられる。近隣にカメヤキドン(甕焼殿)の墓があり開墾に伴い改葬され地蔵を祀るとされるが、確認できなかった。北側に甕焼山があり、原料の白土を採ったとされる。甕焼山にも窯があったと伝えられるが、情報が少なく確認はできなかった。

製品は茶の容器としての陶器甕壺類が中心で、伝世品には「釋」「釈」の一字か、長方形枠内に「釈形」と楷書で刻んだ印がみられる。窯跡で採集される製品は陶器の小片やハマ、焼土塊等少量に留まる。



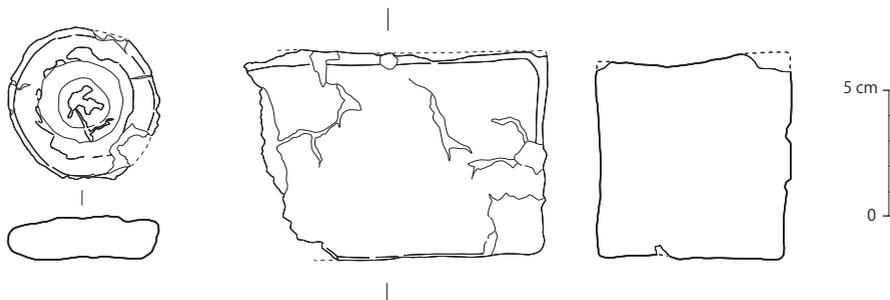
窯跡位置図 『黒木』(1/25,000)



窯跡現況(近景)



釈形焼窯跡出土遺物



釈形焼窯跡出土遺物実測図(1/3) 八女市教育委員会所蔵

## 筑後 20 鹿子生焼窯跡

所在地：八女市黒木町鹿子生

経営：民窯

焼物名：鹿子生焼

年代：創業不明

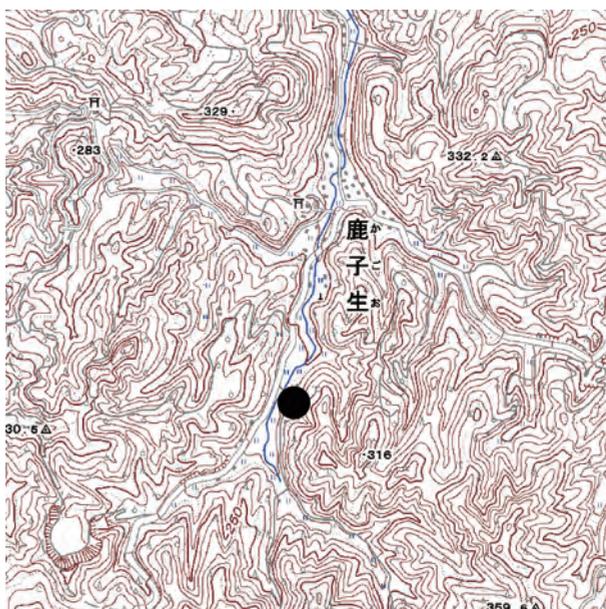
最終段階は天保6(1835)年開窯

現況：災害により消滅

『筑後陶器考』によると窯は持田山の真下に三か所あったとされる。窯ヶ谷という地名の場所には広範に陶片・磁器片・焼土が点在したとされるが、現在では確認できなかった。丘陵西斜面裾の現在宅地となっている地点は皿山と呼ばれ、天保6年(1835)頃に長岡鳳鳴が窯を開いた場所とされる。以前は石垣にトンバイが埋め込まれており、周辺からは焼土や陶片などが出土した。長岡鳳鳴が開いた窯は鹿子生焼の最後の窯とされる。平成24年(2012)の九州北部豪雨により被災し、窯跡は失われた可能性が高く、他の窯については記録類がないため、開窯時期等不明瞭な点が多い。平成6年(1994)11月に皿山の前面(西側)を圃場整備前に県教育委員会が試掘調査を行ったが、遺構等は確認されなかった。

長岡鳳鳴は食器・茶器・酒器・神仏具・装飾品等多岐にわたる陶器・磁器を焼いたとされる。

現在残る採集資料は少ないが、陶器碗やトチン・サヤ等の窯道具、トンバイがある。窯道具には磁器片が付着しており、陶器・磁器両者を焼いていたことがわかる。



窯跡位置図 『黒木』(1/25,000)



石垣に組み込まれたトンバイ 平成6年(1994)

## 筑後 21 池の本焼窯跡

所在地：八女市黒木町木屋

経営：柳河藩

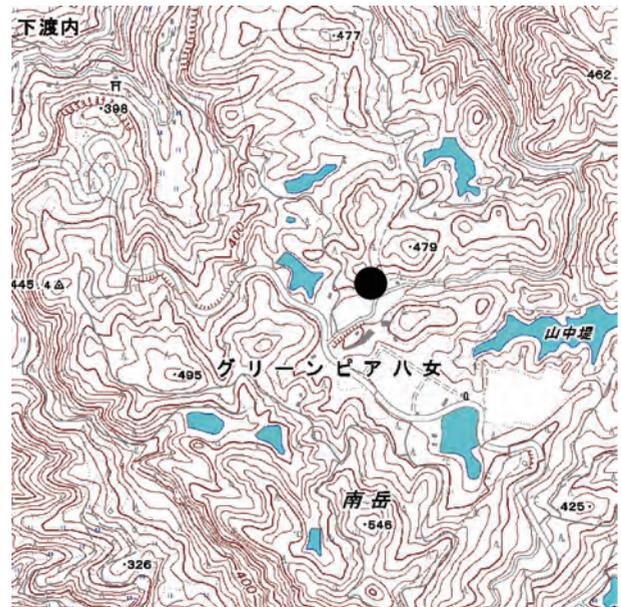
焼物名：池の本焼

年代：17世紀か

現況：山林

記録類にあらわれない窯で、1980年代のグリーンピア八女造成時に発見され、発掘されたとされるが、調査主体を含め詳細は不明である。

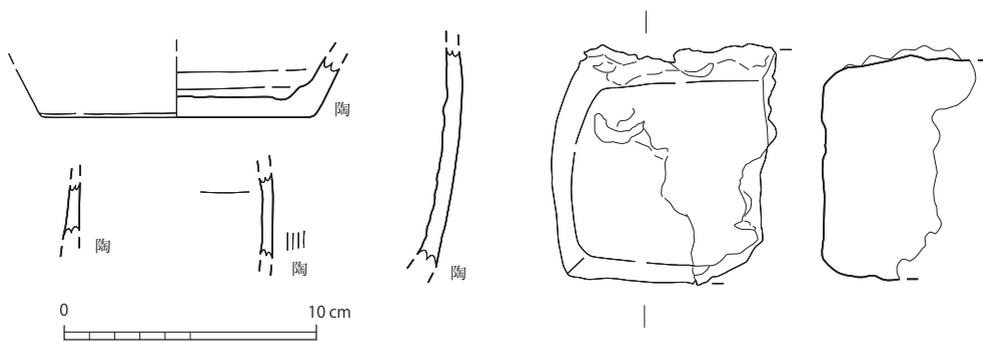
窯跡は熊本県境にあたる筑肥山地の山中、標高約450 mに位置する。現在も存在するとみられ、想定される場所の周辺からは陶器小片や焼土片が出土する。陶片は薄手で内面に青海波当て具痕を残すもので、17世紀に位置づけられる可能性がある。



窯跡位置図 『黒木』 (1/25,000)



窯跡現況 (近景)



池の本焼窯跡出土遺物実測図 (1/3)

八女市教育委員会所蔵

## 筑後 22 男ノ子焼窯跡

所在地：八女市立花町北山男ノ子

経 営：柳河藩

焼物名：男ノ子焼

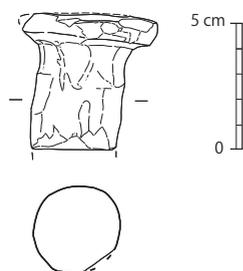
年 代：

現 況：山林

備 考：県 720146 として周知化

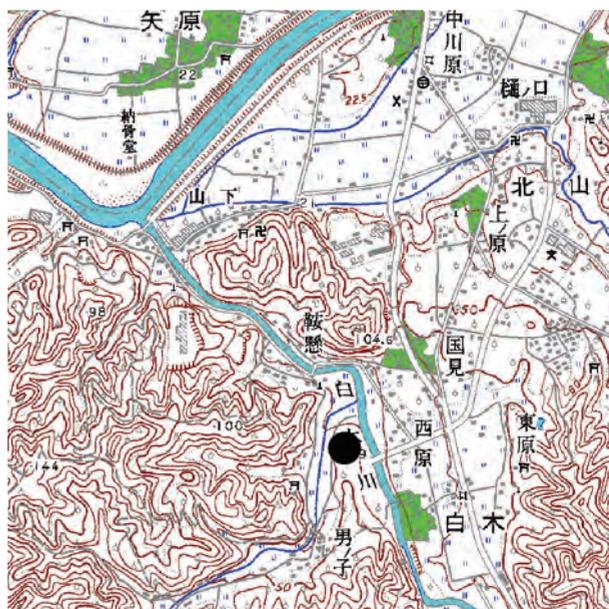
柳川藩立花宗茂が三潞郡浜口村（現在の大川市小保）にて朝鮮人陶工に開窯させたものの原料が乏しく、この地に移ったとされる。開窯の地から浜口姓を名乗ったが、浜口六左衛門が藩主立花艦虎に献上した陶器に対し不備があり、怒りを恐れて肥後国正臺山に居を移したと伝えられる。操業期間は 80 年程とされる。

窯は矢部川左岸の丘陵先端部西斜面に位置する。里道造成の際に陶片が多く出土したというが、現状で窯は確認できず、前面の畑からトチんとすり鉢片を採集した。茶壺の他に茶碗や磁器を焼いたとされるが、今回の調査では茶壺の伝世品のみを確認した。窯跡がある地は「窯床」の小字が残る。上流の現在男ノ子焼の里がある地は「瓶焼」の小字が残るため、複数の窯が存在する可能性がある。またそのさらに上流は「白石」と呼ばれ、釉の原料となる長石が多く産出する。



男ノ子焼窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

九州歴史資料館所蔵



窯跡位置図 『八女』 (1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）

## 筑後 25 二川 [後田] 焼窯跡

所在地：みやま市高田町下楠田、上楠田

経営：民窯

焼物名：二川焼

年代：江戸時代末～昭和19年(1944)

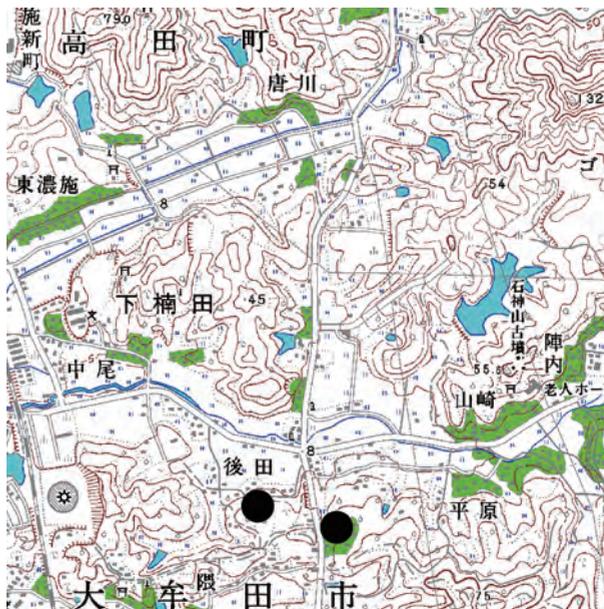
現況：山林

備考：県800005～800008、市0148①～④として周知化

江戸期に丑之助が来て柳河藩主立花家の許可を得て始めたのが起源とされる。明治になり肥前弓野(佐賀県武雄市)から中尾米作が移り住み、弓野焼の手法を伝えたとされ、松絵を代表的とする鉄絵緑彩の甕や大皿を焼いた。明治44年(1911)の記録には「土焼陶器四戸」の記載があり、昭和初期には上楠田(角窯)・後田(富重窯)・中尾(岡崎窯)・濃施(今村窯)があったとされる。

窯は旧高田町市街地に近い低丘陵にいずれも構築された。現在は角窯と富重窯の窯跡が良好な形で残る。丑之助が創業した初期の窯は特定できていない。

陶器窯で、かつては鉢・壺・甕・皿・徳利等を主体としたが、蘭鉢・捏鉢・骨壺・藍壺・半胴甕・土管・耐酸瓶等を多く焼くようになった。麦や蠟の生産が盛んであったため捏鉢の需要が高かったが、生活様式の変化や機械化により減退した。大正8年(1919)の頃に開かれた富重窯の製品には銘印がある。



窯跡位置図 『柳川』(1/25,000)



富重窯跡現況(近景)



二川焼

みやま市教育委員会提供

## 筑後 28 黒崎焼窯跡

所在地：大牟田市岬字黒崎

経営：

焼物名：黒崎焼

年代：天明年間～明治

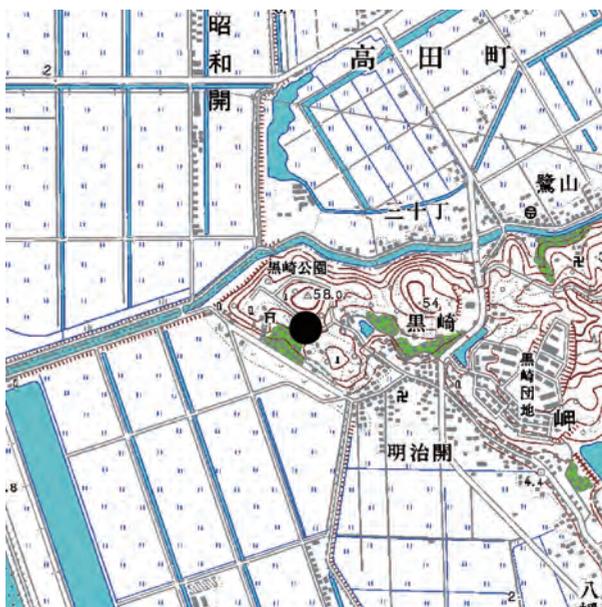
現況：山林

備考：市 452 として周知化

山本家により天明年間(1780年代)に創業されたと伝わる。その後も山本家により継承され、寛政年間にかけての初代嘉作、二代友助の時代が最盛期で、「於黒崎村嘉作」「於黒崎村友助」と底に刻む作品があるという。嘉永年間(1850年代)に下火となり、明治の始め頃に廃絶したとされる。

窯跡は、眼下に有明海や干拓地を臨む甘木山丘陵の先端、黒崎山中腹の南斜面に位置する。かつては窯体が観察できたようであるが、現状は比較的急な傾斜地に平坦面を造成している状況をなし、斜面下に窯壁片や陶片が散見される。かつての記録では、長さ10m余、幅4m前後、高さ1～2m余とされている。

採取された資料は磁器の碗・皿が主体を占めるが、焼き損じたすり鉢片もあり、陶器・磁器両者を生産していたものと判断される。窯道具にはトチン・ハマがある。



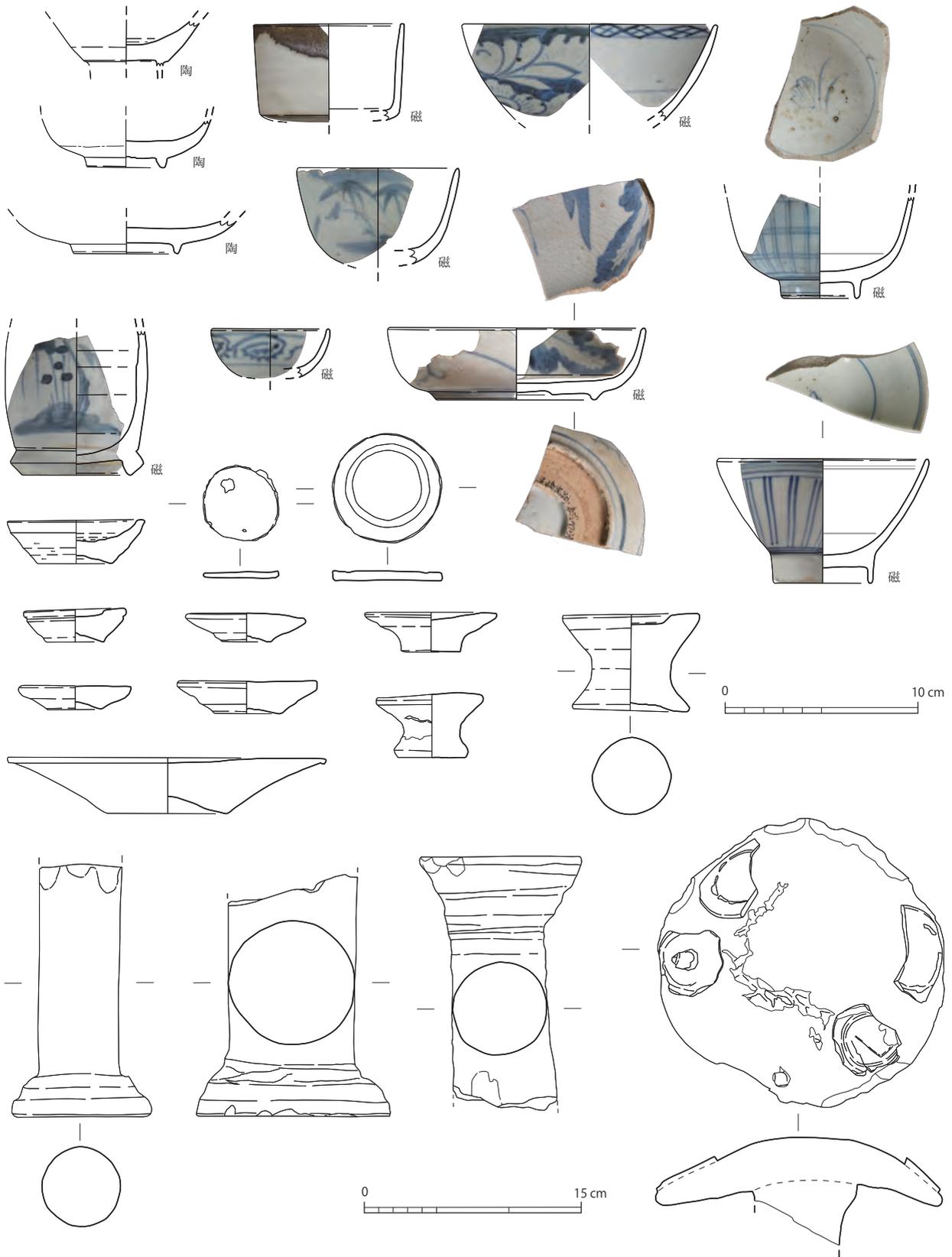
窯跡位置図 『大牟田』(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



窯跡現況(近景)



黒崎焼窯跡出土遺物実測図 (1 / 3)

大牟田市教育委員会所蔵

## 豊前1 菜園場窯跡

所在地：北九州市小倉北区菜園場

経 営：小倉藩

焼物名：上野焼

年 代：17世紀

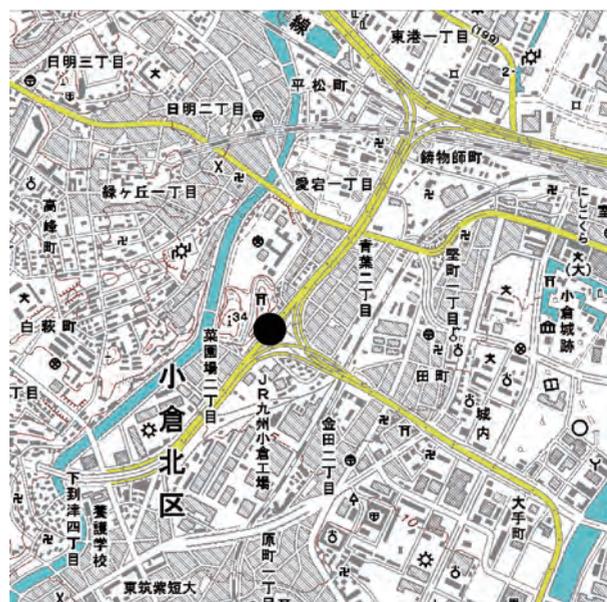
現 況：移築し整備

県指定有形文化財（考古資料）

備 考：市 2023 として周知化

小倉藩主細川家のお楽しみ窯で二代目の忠利御用の窯とされる。かつては幻の窯とされてきたが、都市計画道路建設に先立ち発見され、昭和 54・57 年（1979・1982）に財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室により愛宕遺跡として発掘調査が行われた。現在は隣接地に移築され、県指定有形文化財（考古資料）として保存されている。

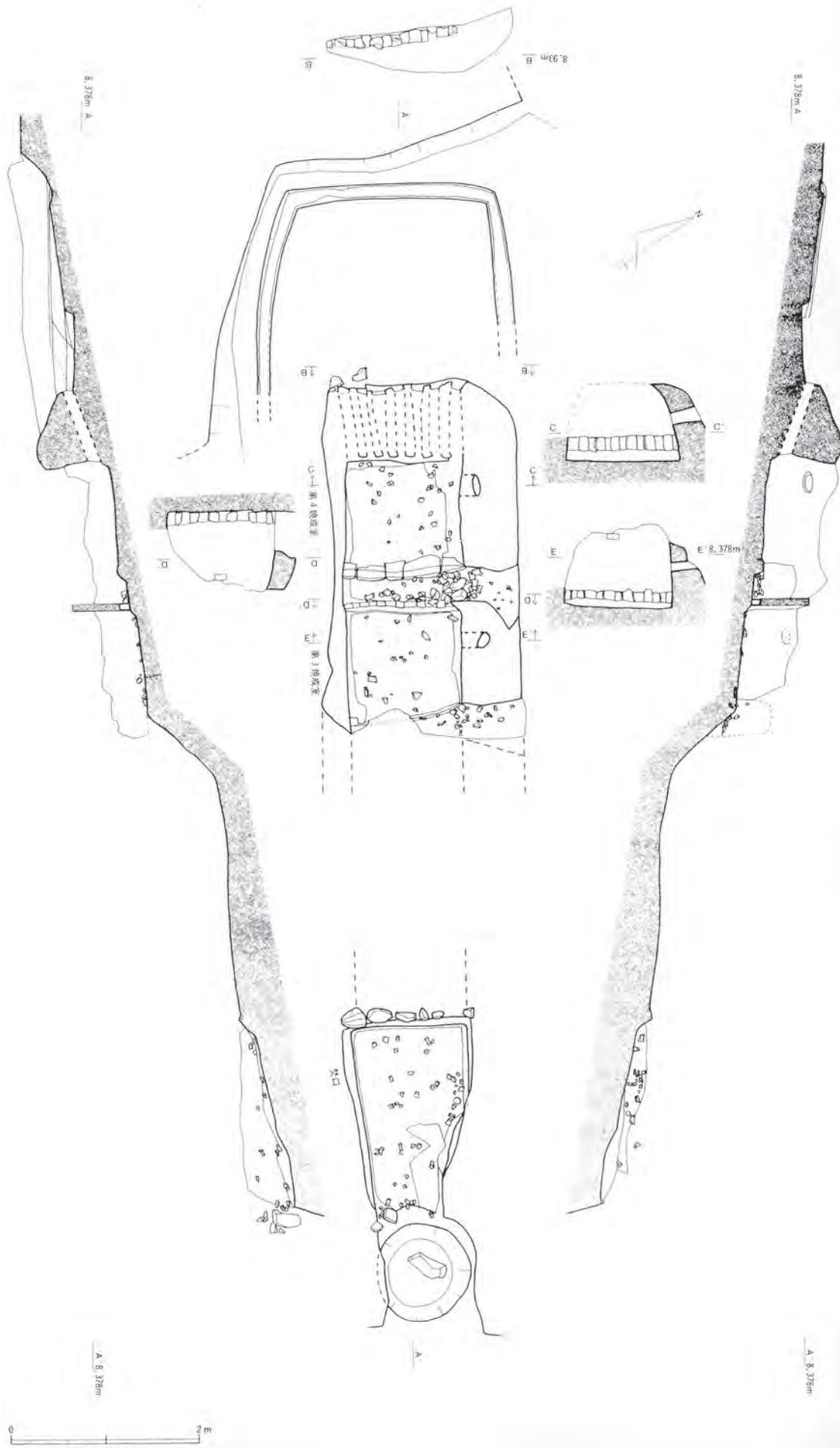
愛宕山東麓、旧板櫃川左岸の河口付近の標高 2～11m の緩斜面に位置する。全長 16.6m の割竹形登窯で、焚口、焼成室 4 室を持つ。出土品には陶器の碗・茶入・水指等があり、藁灰釉、鉄絵、刷毛目、三島手など多彩であり、白磁や染付、焼締陶も見られる。窯道具はトチン、ハマが出土しており、貝目跡が顕著に残る。



窯跡位置図 『八幡』(1/25,000)



窯跡（調査時）  
北九州市提供



菜園場窯跡実測図 (1/60)

## 豊前4 釜ノ口窯跡

所在地：田川郡福智町上野字釜蓋

経営：小倉藩

焼物名：上野焼

年代：慶長7年(1602)～寛永9年(1632)

※1601～1632年説あり

現況：山林

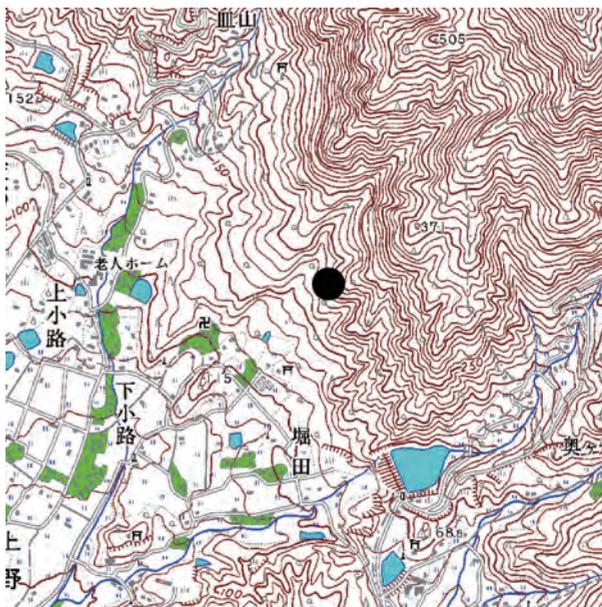
備考：県890015として周知化

慶長7年(1602)に細川忠興が小倉に入城後まもなく尊楷一族により創業されたとされる。細川氏が肥後熊本城への移封とともに八代に移るまでの約30年間操業された。元和8年(1622)の『田川郡家人畜改帳』に上野村焼物山に「焼物師八人 売子十人」とあり、本窯に係るものと考えられる。

福智山の南西山麓の集落域から外れた標高約160mに位置する。昭和30年(1955)に日本陶磁協会等が主体となり調査を実施し、全長約41mの胴木間と15室からなる割竹式の登窯を検出した。窯は3回の改築した状況がみられるという。窯周辺には工房跡かと想定される平坦地がひろがる。

陶器の皿・碗・茶入・水指・片口など多種多様な出土品がみられるが、正式な報告書が未刊であるため、実態がつかみ難い。

昭和30年(1955)5月27日(再び昭和32年(1957)8月13日)に史跡の仮指定がなされたが、指定には至っていない。

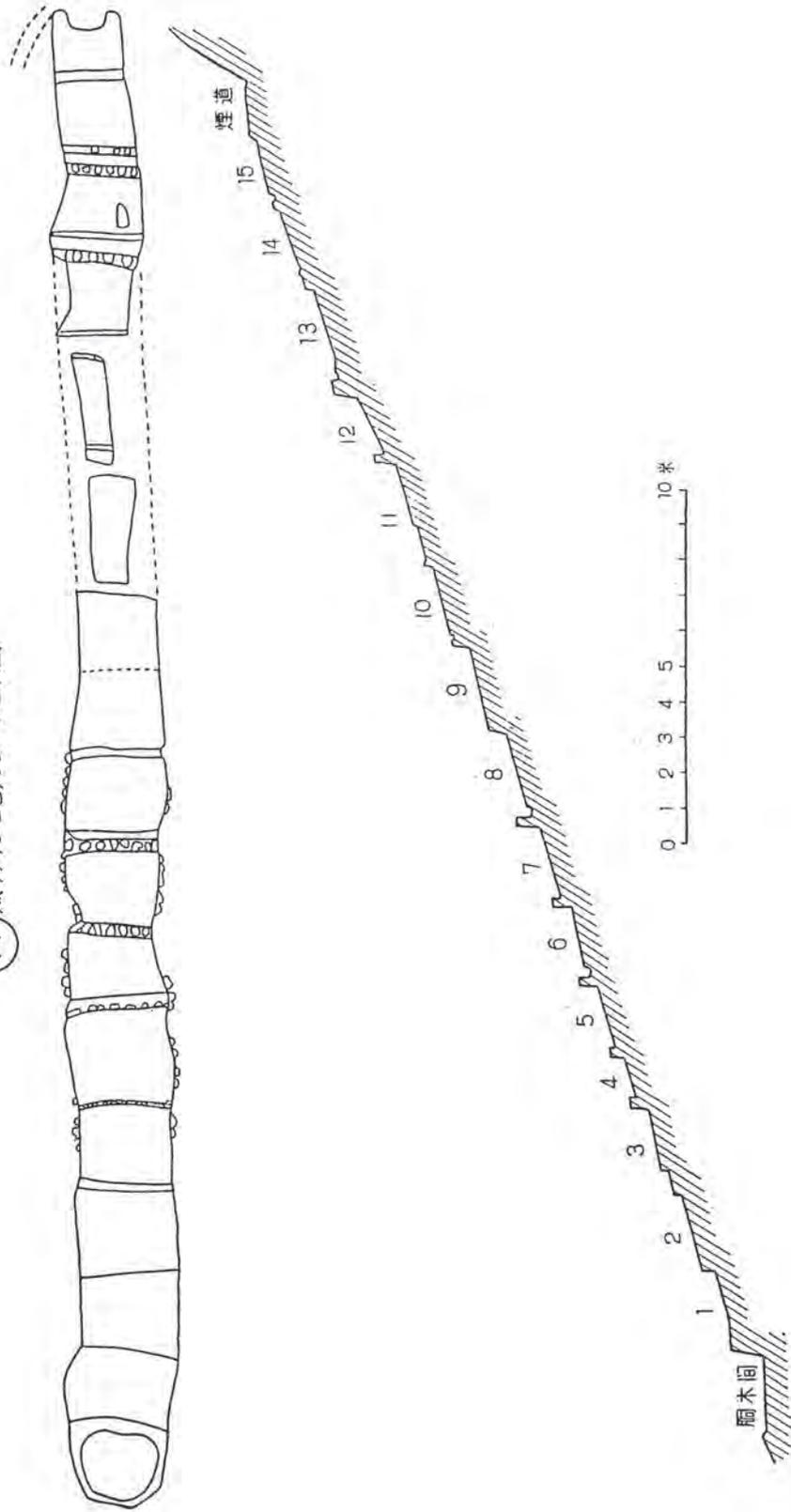


窯跡位置図 『金田』(1/25,000)



窯跡現況(近景)

74 窯のプランとセクションの見取図



釜ノ口窯跡実測図 (1/200)

## 豊前6 皿山本窯跡

所在地：田川郡福智町上野字皿山

経 営：小倉藩

焼物名：上野焼

年 代：元和・寛永年間～明治4年(1871)

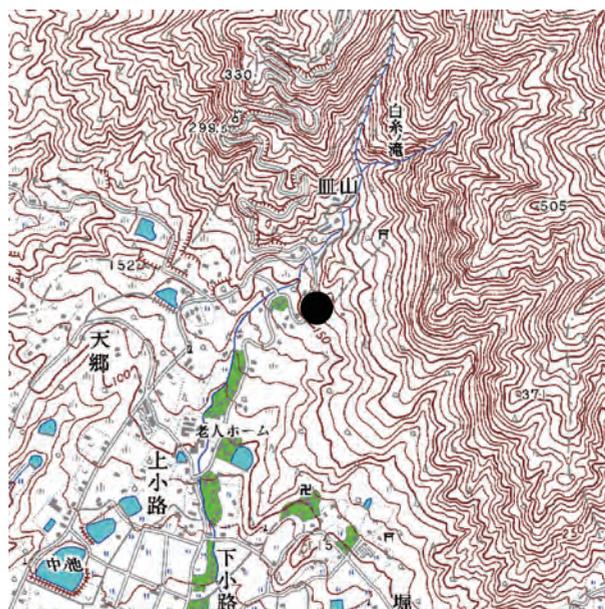
現 況：竹林

備 考：県 890014 として周知化

豊前小倉藩の御用窯であり、細川藩時代の創業と考えられる。細川氏の肥後移封に伴い尊楮は長男・次男を連れて八代へ移るが、上野では三男と娘婿の二家が継承し、本窯を操業したとされる。

福智山南西山麓に位置し、釜ノ口窯から一つ尾根を挟んだ北西にあたる。周辺は福智山信仰にかかる坊跡が点在する。

窯は明治期まで長期にわたって営まれ、厚い物原が形成される。長大な構造が想定されるが、具体的な室数等、規模は不明である。小笠原藩時代の操業が中心であり、多種多様な技法・釉薬の陶器がみられる。釜ノ口窯と共通する古式の陶片が含まれるため、開窯は細川藩時代の釜ノ口窯に並行する時期まで遡る可能性がある。



窯跡位置図 『金田』(1/25,000)



窯跡現況(近景)



窯跡現況(窯跡石碑)

## 豊前9 岩屋高麗窯跡

所在地：田川郡福智町弁城字岩屋

経営：小倉藩

焼物名：上野焼

年代：慶長・元和年間～寛永年間

現況：山林 道路

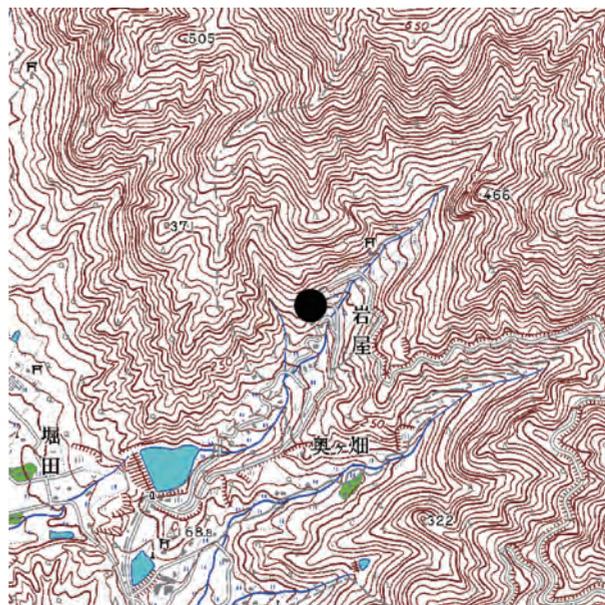
備考：県 840002 として周知化

元和8年(1622)の『田川郡家人畜改帳』に弁城村焼物山に「焼物師五人 売子十一人」とあり、本窯に係るものと考えられる。元禄7年(1694)の「豊州紀行」にはみられず、皿山本窯で主体的にみられるような小笠原期のものが含まれないため、操業期間は釜ノ口窯に近いものと想定される。

福智山南西山麓に位置し、釜ノ口窯からは南に尾根を隔てた比較的狭い谷地形に位置する。この谷も福智山信仰に重要な谷とみられ、坊跡が連なる。

かつては通焰孔が並んでいた状況がみられたが、現在では確認できない。これは窯上部であったとされ、道路拡幅時に失われた可能性がある。規模・構造等は不明である。

出土品には陶器の皿や碗類の他、多様な器種がみられる。



窯跡位置図 『金田』(1/25,000)



窯跡現況 (近景)



窯跡現況 (窯跡石碑)

## 豊前 12 田香焼窯跡

所在地：田川郡香春町高野字常安

経営：小倉藩

焼物名：高野田香焼

年代：天保年間 (1831 ~ 1845) ~ 明治

現況：竹林

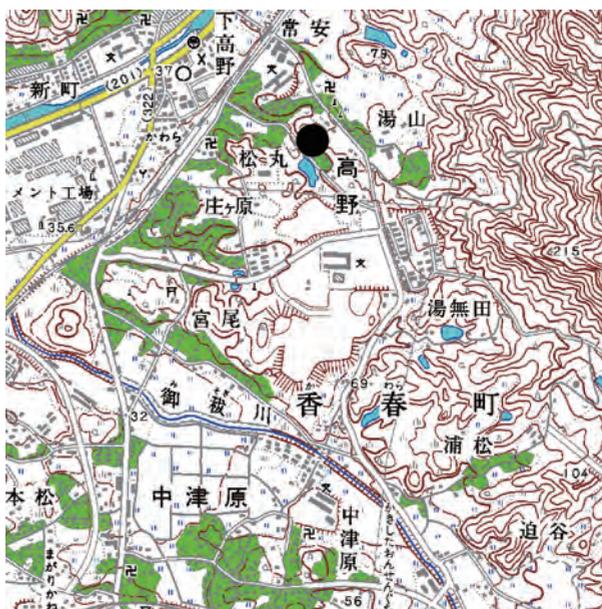
備考：町 225 として周知化

奥田儀三郎が分家して、天保5年(1834)にはすでに開窯していたとされるが、文献記録がほとんどなく詳細は不明である。田香焼の廃窯後は山岡徹山親子が昭和31年(1956)に香春焼を築窯した。

飯岳山から北西に延びる丘陵の先端、金辺川左岸に位置する。丘陵南西斜面に築かれ、長さ約22m、幅約7mの窪地を確認した。南西側の下る急斜面や池が物原にあたり、遺物片が散在する。出土品には陶器の碗・皿・徳利・水甕・花筒・茶碗・湯呑・狛犬や窯道具がある。「清」の銘がみられる。磁器も焼成したが、出土品はごく僅かである。

周辺の墓地には奥田儀三郎の墓がある。

北西に隣接して香春焼の窯が残るが、現在は使用されておらず、香春焼は飯岳山北麓で継承されている。香春焼には「かわら・香春」の銘がある。



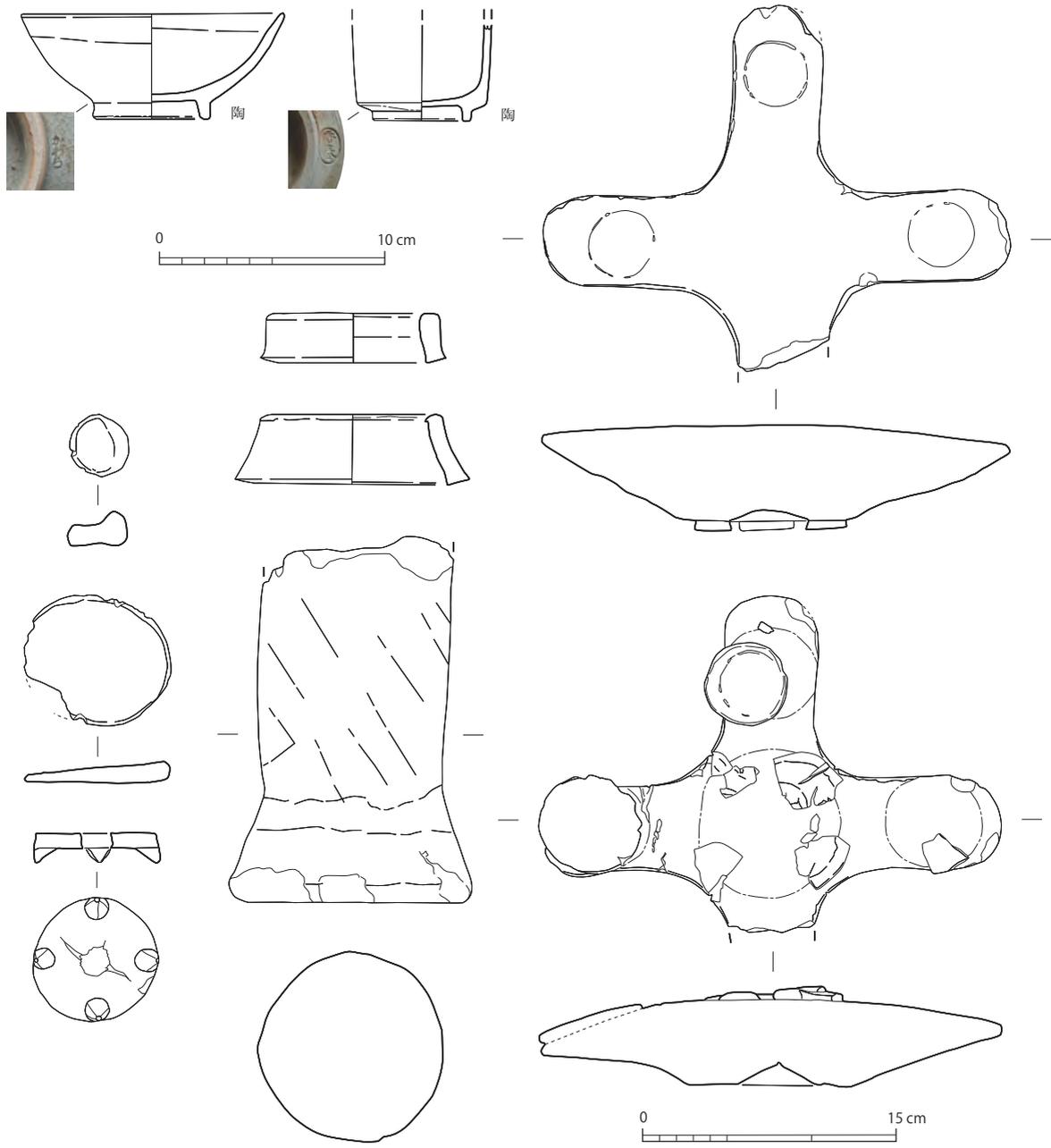
窯跡位置図 『田川』 (1/25,000)



窯跡現況 (近景)



奥田儀三郎の墓



田香焼・香春焼窯跡出土遺物実測図（1/3・1/4）香春町教育委員会蔵



田香焼・香春焼窯跡出土遺物

## 豊前 14 田香焼窯跡

所在地：田川郡大任町堂原

経 営：小倉藩

焼物名：今任田香焼

年 代：寛政年間～明治

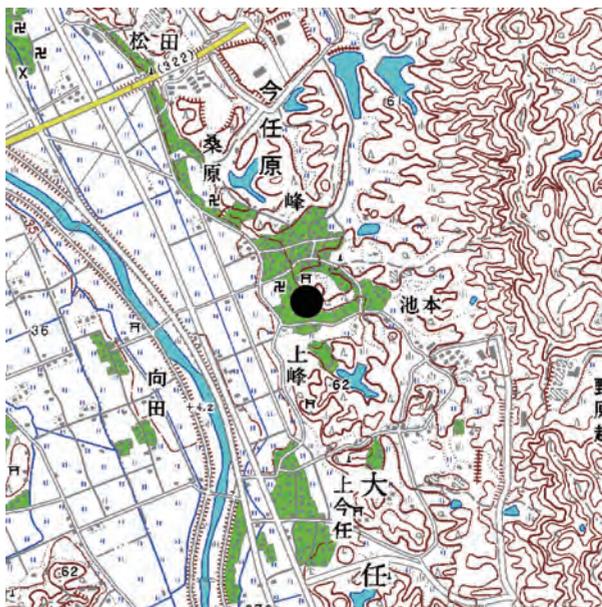
現 況：竹林

備 考：町 225 として周知化

上野焼の系譜に連なる窯跡。寛政 8 年 (1796) に成立した天草上田家文書『近国焼物山大概書上帳』に「藤原(堂原)皿山 窯一登 此数六間」「今藤(今任)皿山 窯一登 此数凡六七間」とし、「藤原(堂原)皿山」には 8 人の陶業者がおり、「楽焼師」が 1 人いたと記される。この記述から、寛政年間には開窯していたものと判断できる。終焉の時期は不明である。

彦山川右岸の標高 50m 程度の小丘陵南斜面に位置する。平成 6～8 年 (1994～1996) に大任町教育委員会によって発掘調査が行われ、2 基の窯が確認されている。1 号窯は全長 12～15 m 程の階段状連房式登窯で、焚口と焼成室 5 室がある。トンバイの使用は通焰孔、火あぜのみである。2 号窯は全長 10.5 m の階段状連房式登窯で焚口と焼成室が 3 室検出され、トンバイが壁材にも使用される。

碗・皿・鉢・すり鉢・片口・徳利等の日常雑器を主としていたが、小笠原藩茶道師範小市自得齋の指導のもと茶陶も焼いたという。上野焼に見られる象嵌や緑青釉の存在が知られる。また、少数ながら磁器を焼いていたことが判明している。窯道具にはトチン、ハマ、タコハマ、サヤ鉢などが見える。とくに、サヤ鉢に足のつく特異な窯道具が目目される。



窯跡位置図 『田川』 (1/25,000)

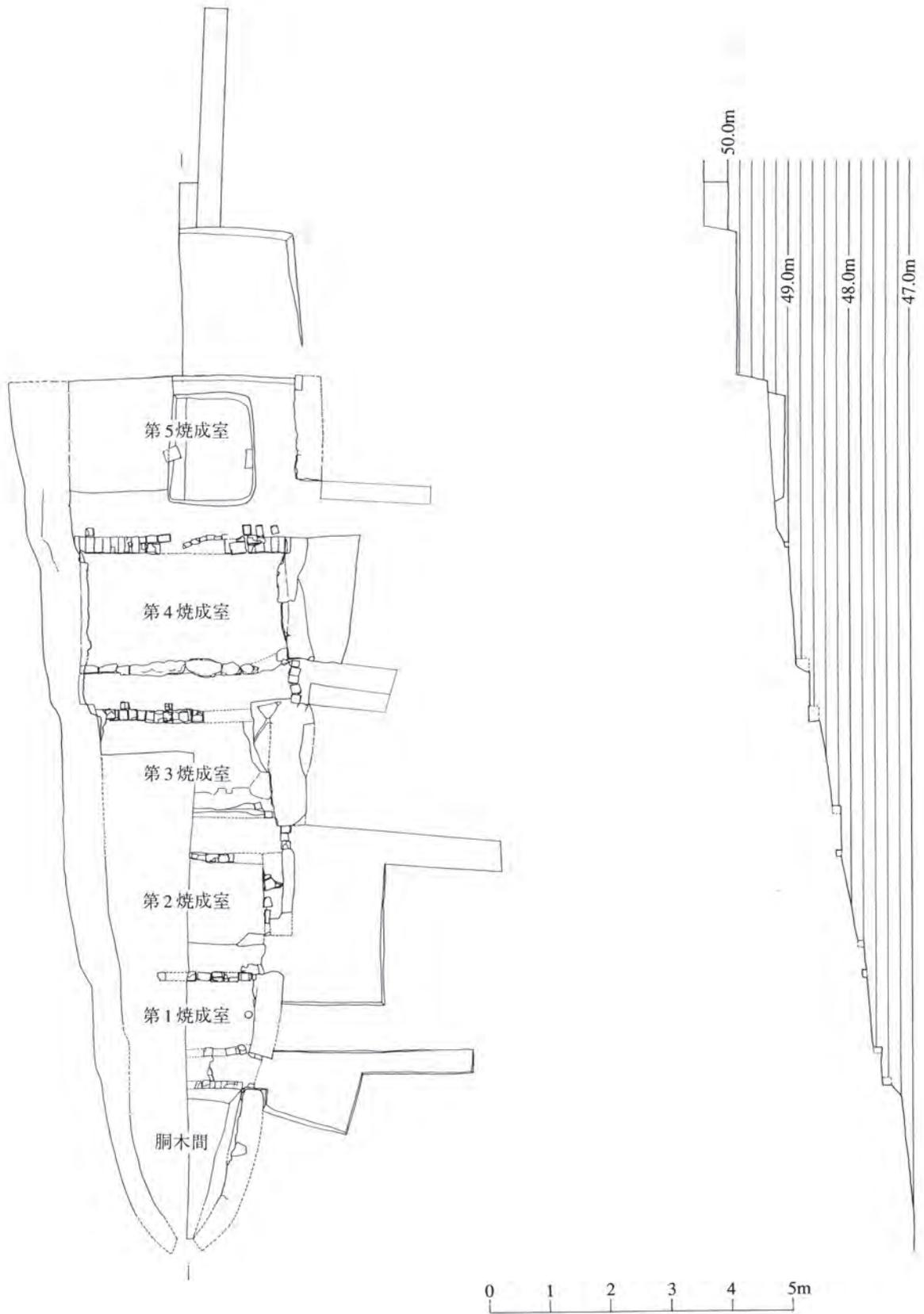


窯跡現況 (遠景)



窯跡 (調査時)

大任町教育委員会提供



田香焼 1 号窯跡実測図 (1/100)

## 豊前 15 乙子焼窯跡

所在地：京都郡みやこ町上高屋字乙子

経 営：民窯

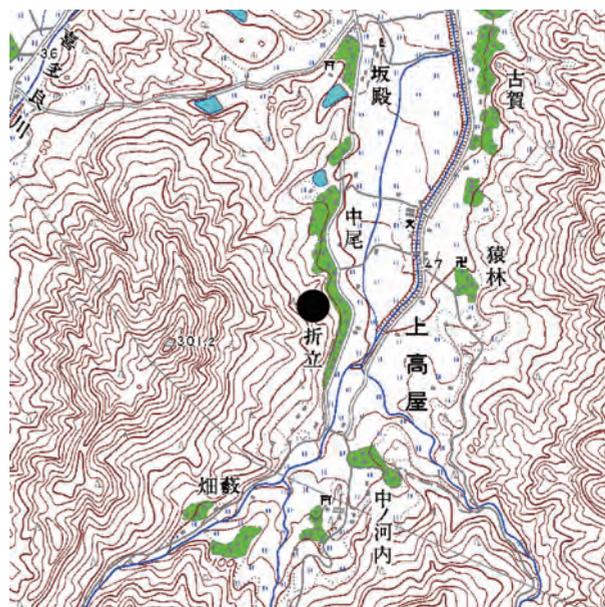
焼物名：乙子焼

年 代：江戸時代

備 考：町 910226 として周知化

近世の操業免許の記録があり、藩の奨励策に応じた開窯と考えられる（国作手永大庄屋日記 安政5年9月21日条）。

高屋川左岸の帝釈天山麓に所在する。山林に碗や鉢等の陶器片やトチン・ハマ等の窯道具、トンバイが散布する。連房式登窯とされるが、現況で窯体は確認できない。陶片の量は多くはなく、操業期間はそれほど長くない可能性がある。



窯跡位置図 『豊前本庄』 (1/25,000)



窯跡現況（遠景）

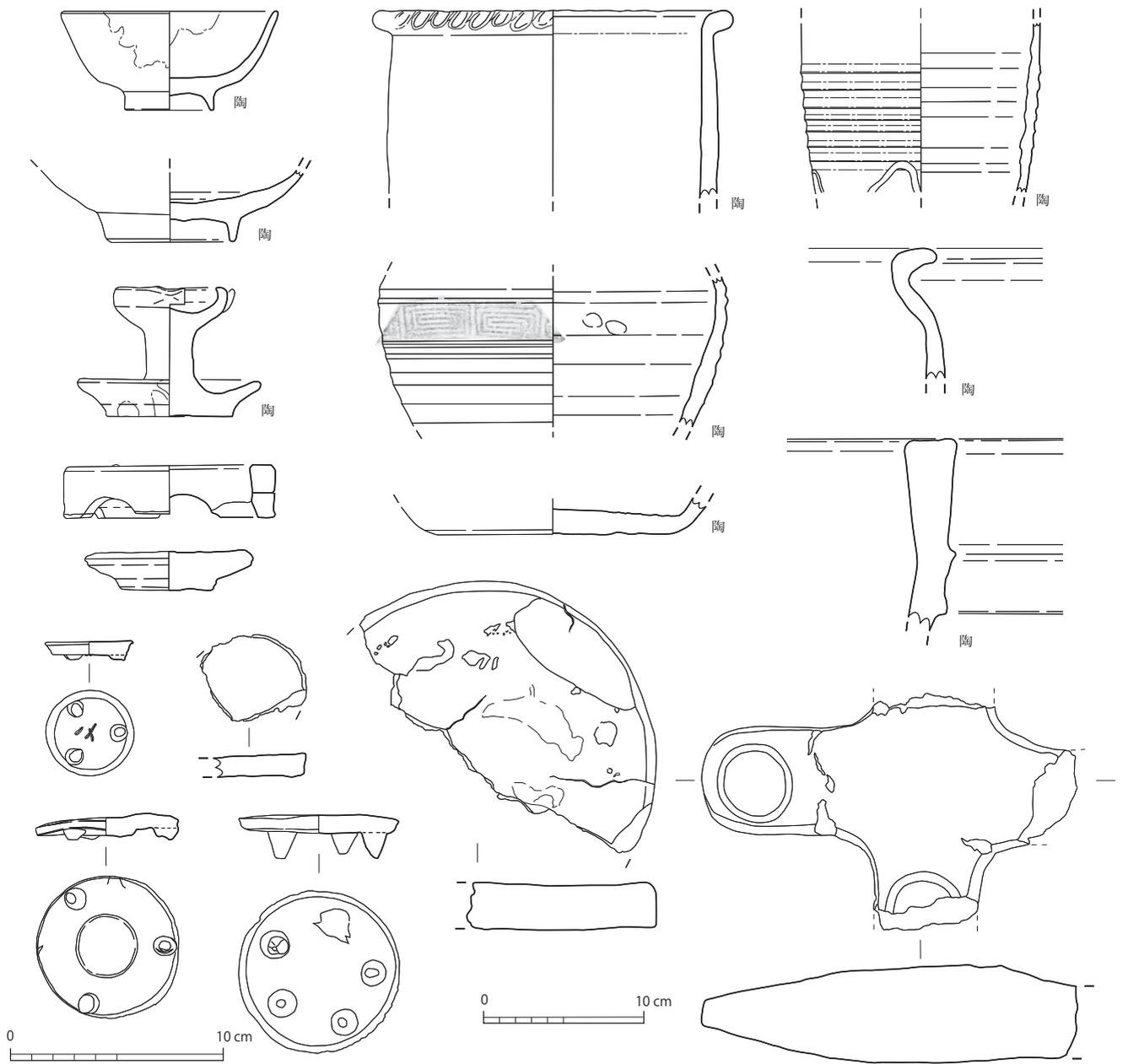


乙子焼窯跡出土遺物

犀川町教育委員会『城井遺跡群』（1992）所収分



窯跡現況（近景）



乙子焼窯跡出土遺物実測図 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵



乙子焼窯跡出土遺物

## 豊前 16 錦原皿山窯跡

所在地：京都郡みやこ町大字豊津

経 営：民窯

焼物名：豊津焼

年 代：江戸後期?～明治

現 況：竹林

備 考：「石走り南遺跡」

町 920112、県 920140 として周知化

明治 2 年 (1869) 豊津開府の需要で瓦を焼いたとされる。

昭和 30 年 (1955)、豊津町遺跡調査で発見される。錦町と石走り西山麓に所在したとされるが、錦町のみ残るものと見られる。今川と祓川に挟まれた南北に延びる低丘陵上に位置する。

みやこ町歴史民俗博物館には小笠原家別邸「御内家」に葺かれていた瓦が保管されており、本窯で焼かれた可能性が高い。「皿山」の地名から、陶磁器を焼いた可能性もあるが、実態は明らかでない。



窯跡位置図 『行橋』(1/25,000)



窯跡現況 (遠景)



小笠原家別邸「御内家」に葺かれた瓦

## 豊前 18 唐原焼窯跡

所在地：築上郡上毛町上唐原

経 営：

焼物名：唐原焼

年 代：

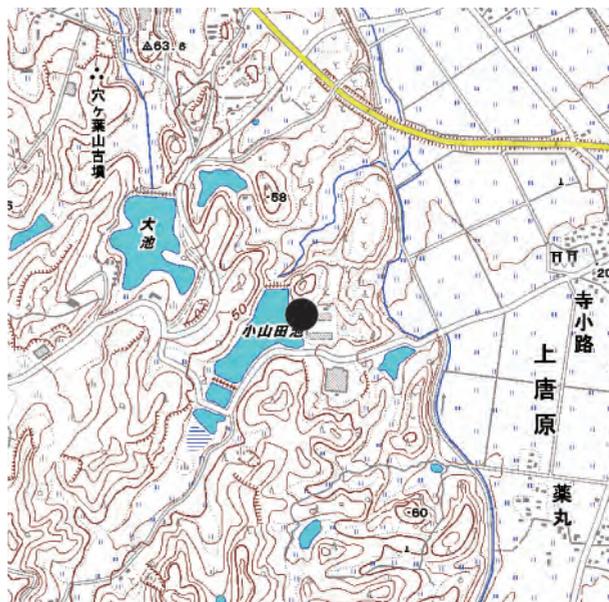
現 況：池

備 考：上毛町指定史跡

黒田長政が中津城に入った際に、高取焼陶工八山に焼かせたと伝わるが、採集資料からは古く溯るものは確認されない。

山国川左岸の低丘陵斜面に位置し、昭和30年(1955)頃に築造された池畔にある。階段状に窯の床面と判断される面が観察され、窯道具等が採取された。

採集資料は参考文献の報告書に紹介されているもの以外に、旧制福岡高等学校歴史地理資料室「玉泉館」にも所蔵されており、現在は九州大学総合研究博物館に収蔵されている。



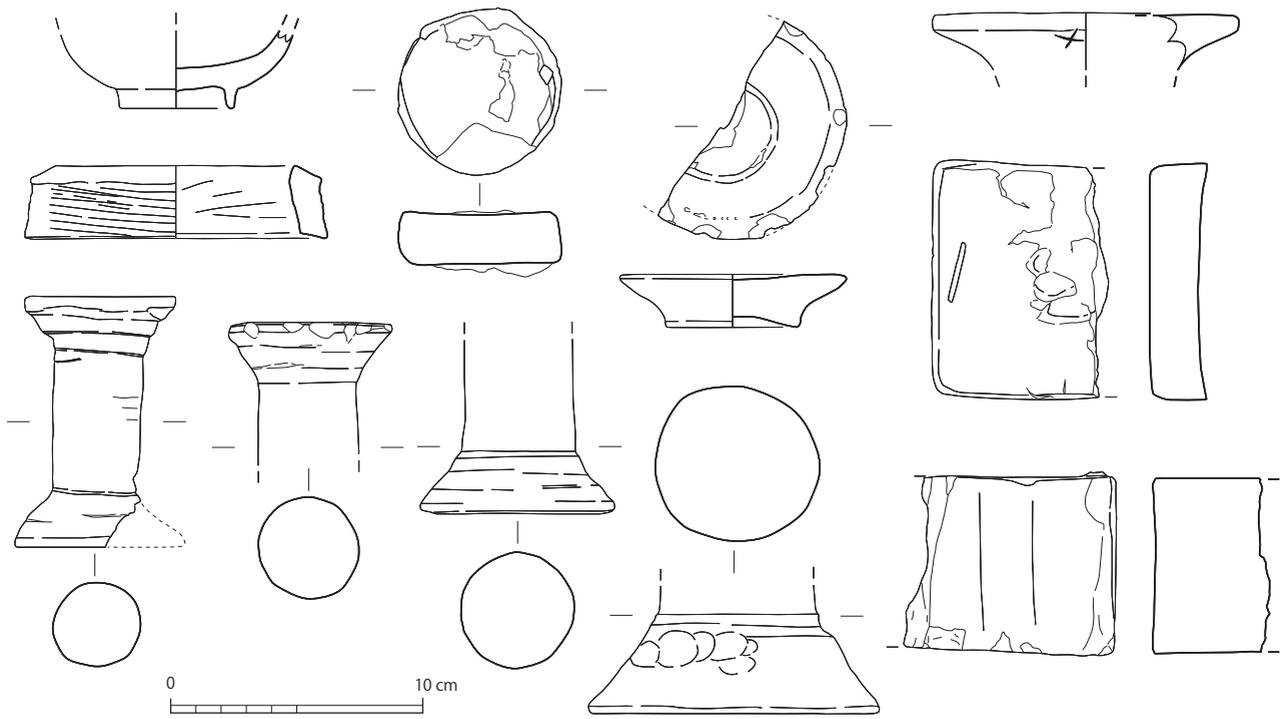
窯跡位置図 『土佐井』(1/25,000)



窯跡現況 (遠景)



窯跡現況 (近景)



唐原焼窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

九州歴史資料館所蔵



唐原焼窯跡出土遺物

福岡県教育委員会『百留居屋敷遺跡』（1999）所収分



唐原焼窯跡出土遺物

## IV 総括

### 1. 調査成果

#### (1) 調査表1

調査表1では筑前53件、筑後32件、豊前21件の総数106件の窯跡の情報を得た。それぞれの旧国別に状況をみている。

(筑前)すでに窯跡の所在が確認されているのは、16件である。それ以外に今回の現地踏査で窯跡を確認できたのは8件、現地で窯跡を確認できなかったが、窯跡の関連遺物を確認できたのが7件である。今回の調査で確認できなかった窯跡は18件で、その内2件は消滅していた。

筑前 53件

※()内は調査表1の番号

○確認されている窯跡 16件

| 発掘調査 16件    |            |              |
|-------------|------------|--------------|
| 永満寺宅間窯跡 (1) | 上畑窯跡 (10)  | 須恵焼窯跡 (29)   |
| 内ヶ磯窯跡 (2)   | 千石窯跡 (11)  | 中野上の原窯跡 (32) |
| 山田窯跡 (4)    | 犬鳴窯跡 (13)  | 火口谷窯跡 (33)   |
| 猪之鼻窯跡 (5)   | 能古焼窯跡 (16) | 金敷様裏窯跡 (38)  |
| 白旗山窯跡 (8)   | 西皿山窯跡 (23) | 一本杉窯跡 (39)   |
|             |            | 釜床窯跡 (42)    |

○今回の調査で窯跡又は遺物を確認した窯跡 15件

| 窯跡 8件       | 遺物 7件      |              |              |
|-------------|------------|--------------|--------------|
| 黒田窯跡 (6)    | 池の谷窯跡 (37) | 野口窯跡 (7)     | 三並ヒエデ窯跡 (46) |
| 野間焼窯跡 (27)  | 奥畑瓦窯跡 (41) | 東皿山窯跡 (22)   | 野鳥窯跡 (48)    |
| 役所畑新窯跡 (30) | 浄満寺窯跡 (47) | 宇美障子岳窯跡 (31) |              |
| 旧下組窯跡 (35)  |            | 十文字窯跡 (40)   |              |
| 旧上組窯跡 (36)  |            | 鎌研窯跡 (43)    |              |

○今回の調査で確認できなかった窯跡 18件

| 不明 7件      | 参考文献からの情報 9件 | 現在も続く 4件       |              |
|------------|--------------|----------------|--------------|
| 大鋸谷窯跡 (17) | 山部窯跡 (3)     | 石崎焼 (49)       | 宗七焼窯跡ほか (28) |
| 友泉亭窯跡 (18) | 相田窯跡 (9)     | 糟尾焼 (50)       | 津屋崎人形 (51)   |
| 荒戸山窯 (19)  | 上野窯 (14)     |                | 宰府瓦 (52)     |
| 東松山窯 (20)  | 勝野峰畑窯跡 (15)  |                | 今宿人形 (53)    |
| 田嶋窯 (21)   | 英一窯 (24)     | 消滅 2件          |              |
| 鳥飼茶屋窯 (25) | 日明窯跡 (44)    | 浅ヶ谷〔朝谷〕窯跡 (12) |              |
| 大明神窯跡 (34) | 雷山窯跡 (45)    | 今川高取窯跡 (26)    |              |

(筑後)発掘調査が行われたのは、現在の久留米市にある2件のみで少ない。現地調査を行い、陶器片や窯道具などを採集できた10件については、窯跡の所在を判断できた。今回の調査で確認できなかった

筑後 32件

○確認されている窯跡 2件

| 発掘調査 2件        |
|----------------|
| 朝妻焼窯跡 (3)      |
| 東野亭〔野中〕焼窯跡 (4) |

○今回の調査で窯跡又は遺物などを確認した窯跡 10件

| 窯跡 5件          | 遺物 5件        |
|----------------|--------------|
| 一の瀬〔朝田〕窯跡 (1)  | 本星野焼窯跡 (15)  |
| 赤坂焼〔三原〕窯跡 (12) | 星野十籠焼窯跡 (16) |
| 釈形焼窯跡 (19)     | 鹿子生焼窯跡 (20)  |
| 二川〔後田〕焼窯跡 (25) | 池の本焼窯跡 (21)  |
| 黒崎焼窯跡 (28)     | 男ノ子焼窯跡 (22)  |

○今回の調査で窯跡が確認できなかった窯跡 18件

| 不明 14件          | 参考文献からの情報 4件      | 現在も続く 2件     |          |
|-----------------|-------------------|--------------|----------|
| 柳原焼窯跡 (2)       | 野町焼窯跡 (14)        | 赤石焼 (29)     | 川瀬焼 (10) |
| 十三部焼窯跡 (5)      | 田の原焼 (17)         | 鶴東焼 (30)     | 水田焼 (13) |
| 日渡焼窯跡 (6)       | 今村焼窯跡 (18)        | 繩山〔水繩〕焼 (31) |          |
| 青木焼窯跡 (7)       | 浜口〔小保〕焼 (23)      | 建山焼 (32)     |          |
| 久留米焼 (8)        | 蒲池〔柳河〕焼窯跡 (24)    |              |          |
| 田川焼窯跡 (9)       | バカツクラ〔姥ヶ懐〕窯跡 (26) |              |          |
| 坂東寺〔熊野〕焼窯跡 (11) | 伏部焼窯跡 (27)        |              |          |
| ※石碑のみ           |                   |              |          |

た窯跡は 20 件になる。

なお、鹿子生焼窯跡は約 30 年前に窯跡を確認していたが、近年の災害で破壊され消滅していた。さらに坂東寺〔熊野〕焼窯跡は石碑のみで、窯跡は確認できなかった。それ以外の 18 件については窯跡を確認できなかった。

（豊前）すでに窯跡を確認できるのは 6 件、それ以外の 3 件については、陶器片や窯道具など採集でき、現地踏査で窯跡の存在を判断できた。その他、12 件については参考文献からの情報のみで、新たな情報は得られなかった。

豊前 21件

○確認されている窯跡 6件 ○今回の調査で窯跡又は遺物を確認した窯跡 3件

| 窯跡 6件（発掘調査5件） | 窯跡又は遺物 3件     |
|---------------|---------------|
| 菜園場窯跡（1）      | 田香焼〔高野〕窯跡（13） |
| 釜ノ口窯跡（4）      | 乙子焼窯跡（15）     |
| 皿山本窯跡（6）      | 錦原皿山窯跡（16）    |
| 岩屋高麗窯跡（9）     |               |
| 田香焼〔今任〕窯跡（14） |               |
| 唐原焼窯跡（18）     |               |

○今回の調査で確認できなかった窯跡 12件

| 参考文献から情報 12件 |              |           |
|--------------|--------------|-----------|
| 小倉清水焼（2）     | 吉右衛門谷窯跡（10）  | 太郎助楽焼（20） |
| 高保窯（3）       | 甲賀焼〔幸賀窯〕（11） | 水町焼（21）   |
| カンバ窯跡（5）     | 鳩軒（12）       |           |
| 山ノ神森ノ下窯跡（7）  | 添田皿山（17）     |           |
| かくし窯跡（8）     | 常山焼（19）      |           |

#### ○参考資料

参考資料として、明治～昭和時代にかけて窯業に関わる工場についても情報（p36～p45）を掲載している。この時代の窯業関連工場では、主に植木鉢、七輪、瓦、煉瓦、陶管、土管、衛生器、<sup>がいし</sup>碍子などを製造していた。主に『筑前国続風土記』『筑前国続風土記付録下巻』『工場通覧』『全国工場通覧』『工学博士北村彌一郎窯業全集』などの参考文献と市町村からの情報により、筑前 72 件、筑後 100 件、豊前 9 件の総数 181 件が確認された。

筑前では、件数の多い順に現在の自治体別にみていくと、福岡市 22 件、遠賀郡芦屋町 8 件、北九州市 6 件、太宰府市 5 件、朝倉市 4 件、古賀市 4 件、遠賀郡遠賀町 4 件、遠賀郡水巻町 4 件、糸島市 3 件、飯塚市 2 件、宗像市 2 件、糟屋郡粕屋町 2 件、以下、大野城市、筑紫野市、嘉麻市、宮若市、糟屋郡志免町が各 1 件存在した。

福岡市では、市内の西新町や野間で、高取焼や野間焼の関連で植木鉢、陶管、煉瓦を製造していた。また遠賀町、水巻町、芦屋町では瓦製造の件数が 16 件と多く、この地域は瓦産業が盛んであったことが窺え、水巻町の副田瓦工場（56）は嘉永 4 年（1851）の開業との情報があるが、詳細については不明である。なお、江戸時代に始まる瓦製造は太宰府市（40～42・44）に、4 件ある。

筑後では久留米市 58 件、みやま市 24 件、柳川市 8 件、大牟田市 3 件、八女市 1 件、三潞郡大木町 6 件で、主に瓦製造が多い。筑後では江戸時代後期頃と考えられる日渡瓦窯跡（17）や明治時代～昭和時代にかけて善導寺で使用されたと考えられる善導寺瓦窯（18・19）がある。また久留米市城島地区の瓦は、城島瓦と呼ばれ、江戸時代から現在に至るまで瓦が製造されている。なお久留米市の一部地域で煉瓦・陶管、大牟田市では磁管が製造されていた。

豊前では、他の地域より情報が少ない。北九州市5件、豊前市2件、田川郡糸田町1件、田川郡大任町1件の9件であり、工場では衛生器、煉瓦、瓦を製造していた。なお豊前では、豊前市（8・9）で江戸時代及び明治2年（1869）から瓦製造が行われていた。

## （2）調査表2

調査表2については、主に『筑前国統風土記拾遺』、『日本近世窯業史』の情報により、窯業の関連遺構として、筑前42件、筑後8件、豊前6件と総数56件を確認した。

筑前では、種別1（陶土の採掘地・磁石場など原料の採集地や集積地）について、土取り跡3件、原土や釉薬に関わる採掘地21件の情報を得た。詳細な場所までは確認できなかったが、これらが関連する焼物としては、高取焼、小石原焼、瓦町焼、野間焼、博多人形に関連すると想定される。時代は江戸時代が中心だが、明治以降のものもある。種別4（古陶磁生産に関連する神社・記念碑・墓地〔墓碑〕）の関連としては、近年に作られた窯跡の石碑が3件（永満寺宅間窯跡、内ヶ磯窯跡、山田窯跡）、陶工の墓石及び慰霊碑が6件あった。なお、陶神や火の神様、土神様など窯業に関連する石碑3件は、『小石原村史』に記載がある。その他、窯業に関連する神社は2件で、天照太神宮（高取焼）、皿山山王神社（野間焼）があたる。

筑後では、4についての情報が8件あった。その内、赤坂焼、坂東寺焼、水田焼、男ノ子焼、池の本焼、二川焼の石碑などが7件、星野焼の陶工の墓が1件ある。

豊前では、種別1の原土の採掘地が2件、種別4の上野焼の石碑が2件、陶工の墓が2件を確認した。陶工の墓2件の内、1件は田香焼（香春町）の陶工の墓である。

## 2. 福岡県における近世の窯跡と窯道具について

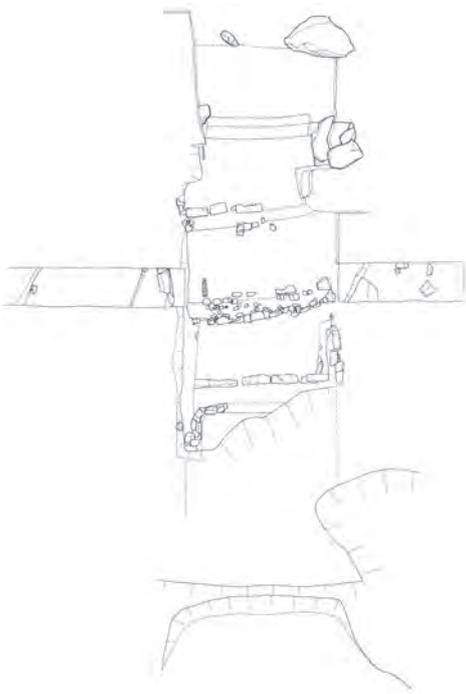
### （1）窯構造

p149に掲げた表はこれまで発掘調査が行われた窯跡の調査成果をまとめたものである。（註1）

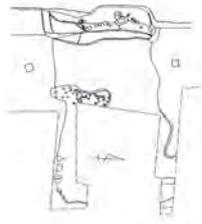
焼成室の計測値サンプルの検出方法については、『考古学ライブラリー 肥前陶磁』（大橋1989）を参考にし、先に今回調査した窯跡のデータを加え、それぞれの窯の形状の特徴を示す胴木間から焼成室4室前後の1室の計測値で比較した。

福岡県での窯跡の構造は、割竹式登窯と階段状連房式登窯の2種類に限られる。今のところ、肥前などで見られる単室登窯は検出されていない。県内で発掘調査が行われた近世窯業遺跡は佐賀県に比べると非常に少ないが、高取焼系窯跡では、時代順で永満寺宅間窯跡（筑前1）、上畑窯跡（筑前10）、千石窯跡（筑前11）、内ヶ磯窯跡（筑前2）、白旗山1号窯跡（筑前8）、犬鳴1号窯跡（筑前13）、釜床1号窯跡（筑前42）、一本杉1・2号窯跡（筑前39）、中野上の原窯跡（筑前32）、火口谷1・2号窯跡（筑前33）、金敷様裏3号窯跡（筑前38）がある。上野焼系窯跡では、釜ノ口窯跡（豊前4）、菜園場窯跡（豊前1）、田香焼1・2号窯跡（豊前14）、それ以外の窯跡として朝妻焼窯跡（筑後3）、東野亭焼窯跡（筑後4）などがある。ただ発掘調査が行われた釜ノ口窯跡・一本杉1号窯跡・金敷様裏3号窯跡は概要報告のみ、上畑窯跡については未報告である。

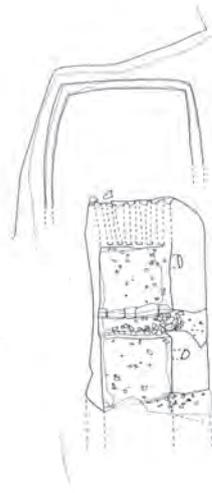
以上の調査結果を分析する上で、副島邦弘、大橋康二、野上建紀の3人の先行研究が参考になる。副



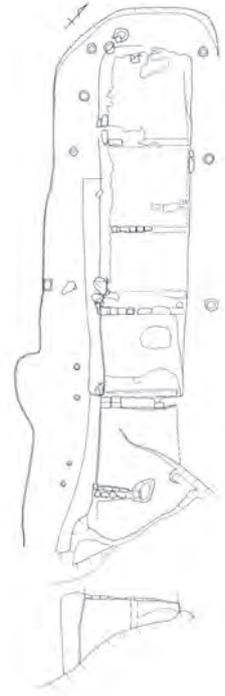
1 永満寺宅間窯跡



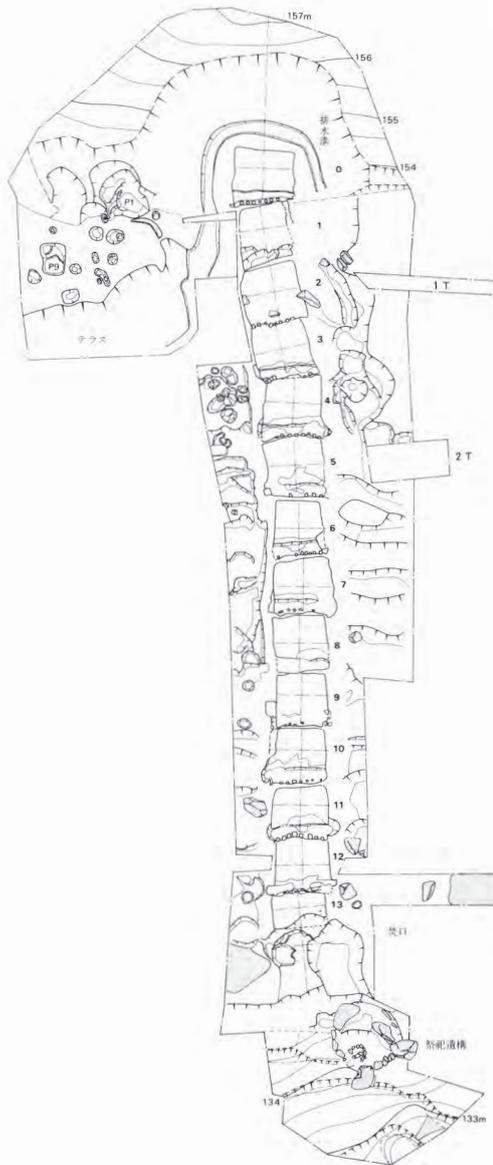
2 上畑窯跡



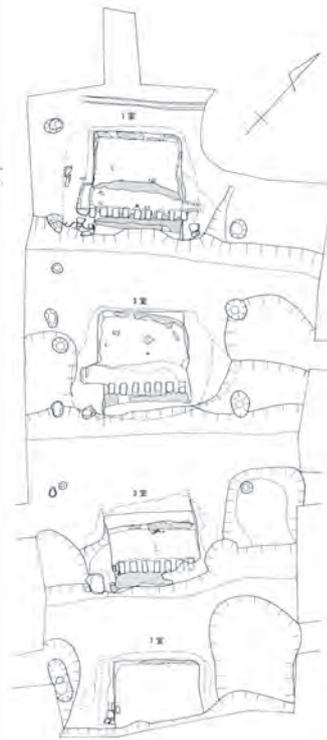
6 菜園場窯跡



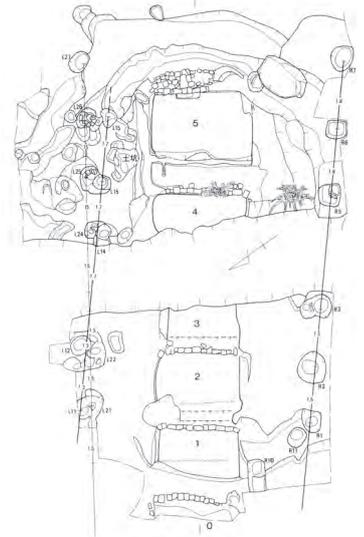
8 犬鳴1号窯跡



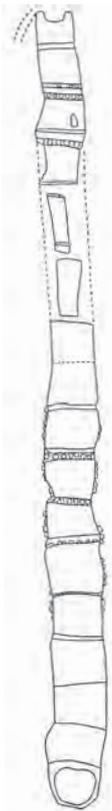
5 内ヶ磯窯跡



7 白旗山1号窯跡



9 釜床1号窯跡

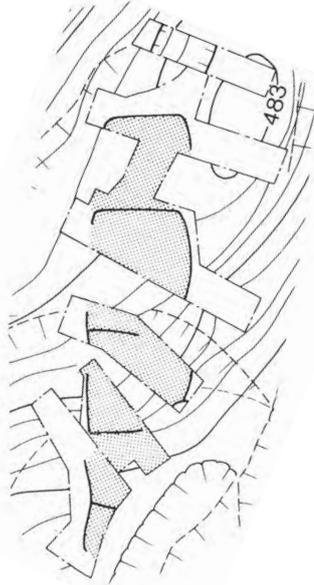


4 釜ノ口窯跡



3 千石窯跡

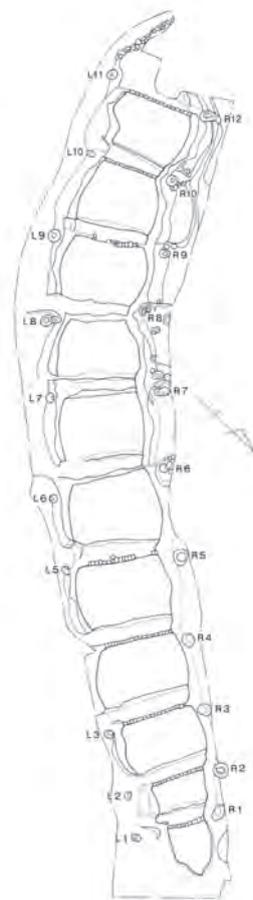




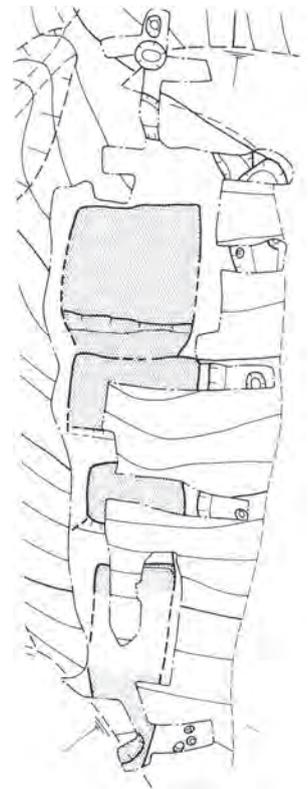
10 一本杉 1号窯跡



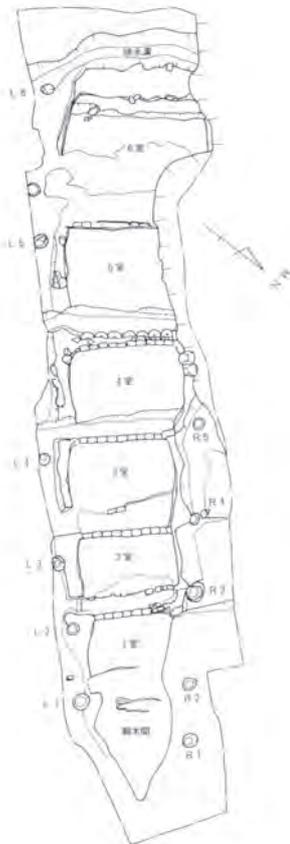
12 中野上の原窯跡



13 火口谷 1号窯跡



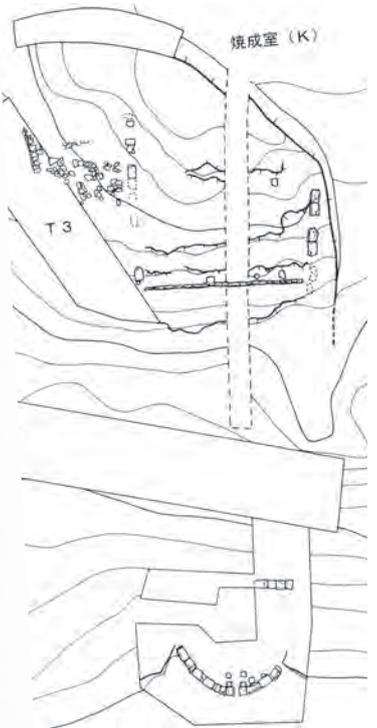
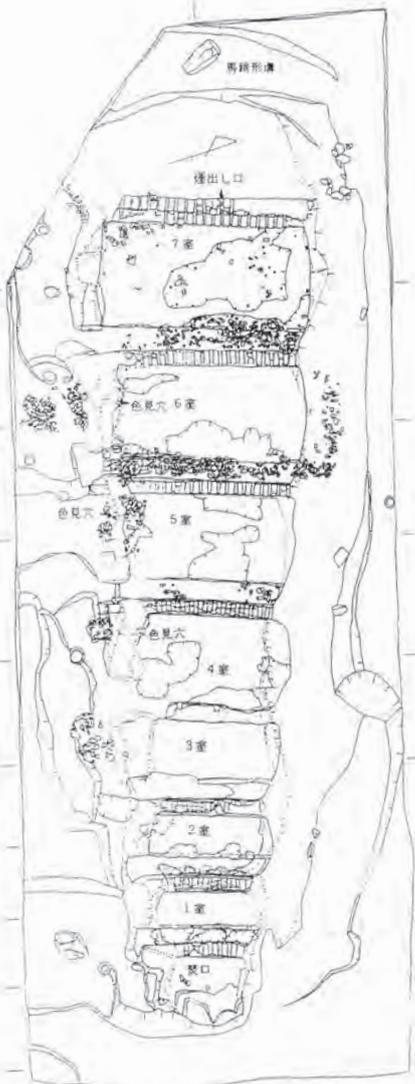
15 金敷様裏 3号窯跡



11 一本杉 2号窯跡



17 田香焼 1号窯跡



19 東野亭焼窯跡



14 朝妻焼窯跡

16 能古焼窯跡

島（副島 1983）は、福岡県内の窯跡を3つの登窯（割竹型登窯、半地下式階段状連房登窯、割竹型階段状連房登窯）に分類した。大橋は焼成室の平均幅・奥行きを計測して6つのグループに分け、そのグループごとに出土した窯道具を分類した（大橋 1989）。さらに『福岡の陶磁』で、福岡県の17世紀～18世紀の窯跡の位置付けを行った（大橋 1992）。野上建紀は『肥前の築窯技術の伝播について』（野上 2006）で、肥前でみられる3つの窯構造（単室登窯、割竹式登窯、階段状連房式登窯）から福岡県で検出された窯について分類した。これらの考察を踏まえて、今回、窯構造・窯道具という2つの視点から本県の特徴について考えたい。

### ○割竹式登窯

割竹式登窯の外観は竹を二つに割って伏せたような形状で、内部は竹の節に当たるところが間仕切りの隔壁になり、天井はアーチ型で、蒲鉾形となる。火はその隔壁に設けた通焰孔により窯内を巡る。また室と室との境は段差が小さい。平面は縦長形又は正方形で、中軸線は焚口から窯尻まで直線である。

県内の割竹式登窯の代表的な窯跡は、永満寺宅間窯跡と菜園場窯跡である。窯の形状はいずれも直線であるが、焼成室の形状は永満寺宅間窯跡で幅3.5 m前後の広い横長形で段差はないが、菜園場窯跡は奥行2 mを超える縦長形で段差があり、室の形状や大きさ、段差の有無で違いが認められる。

これ以降の割竹式登窯とされるのは17世紀後半の犬鳴1号窯跡がある。窯の形状は直線で、室の形状は正方形である。焼成室の大きさは2.6 mと菜園場窯跡の幅1.8 mよりやや大きく段差がある。菜園場窯跡とは焼成室の大きさで異なるものの、焼成室の形状や段差の有無などから犬鳴1号窯跡に影響を与えた可能性がある。

さらに上畑窯跡も割竹式登窯の可能性はある。焼成室1室程度の調査であるが、幅2.7 m、奥行3.9 mを測る縦長形の焼成室1室を確認した。

### ○階段状連房式登窯

階段状連房式登窯は、山腹の傾斜に添って地上にアーチ状の燃焼室を連ねた窯である。焼成室の境は段差を階段状に設け、平面は梯形で、中軸線は各室で異なる。

階段状連房式登窯は、県内では17世紀初頭～前半の釜ノ口窯跡と内ヶ磯窯跡が古いが、17世紀初頭の釜ノ口窯跡が若干先行する。両窯の形状は焼成室が連なる直線状で、焼成室の形状は横長形で、幅が釜ノ口窯跡で2.0～3.4 m（註2）、内ヶ磯窯跡で幅3 m前後となる。内ヶ磯窯跡の焼成室幅と近い窯として千石窯跡では、残存幅2.8 mを測る。この後、17世紀前半～中頃の白旗山1号窯跡で幅2.1 m前後、17世紀中頃～後半の釜床1号窯跡は幅2.0～2.6 mで正方形となる。

17世紀後半の一本杉2号窯跡以降の焼成室の平面形はまた横長形に変化し、肥前の陶工と関連があるとされる中野上の原窯跡は胴張り横長形となり、焼成室の大きさもこれまでの約3 m以下から4 m以上と、1 m以上大きくなる。18世紀前半の朝妻焼窯跡ではこの傾向が拡大し、幅6.1 mを測る焼成室も登場する。

なお、一本杉2号窯跡以降は窯の形状が直線であったものが、胴木間から徐々に焼成室が大きくなって行く扇形へと変わる（註3）。扇形の窯跡の胴木間～焼成室4室までの横幅は、一本杉2号窯跡で2.05～3.05 m、火口谷1号窯跡で2.85～4.7 m、田香焼1号窯跡で2.2～3.5 m、金敷様裏3号窯跡で2.1～3.5 m、能古焼窯跡で2.68～4.0 m、須恵焼新窯で2.0～3.4 m（註4）と1～2 m横に広がって

扇形になる。

また窯構造では遺構の残存状況に差異はあるが、各窯跡におけるトンバイ（直方体をなす窯体材）の使用が鍵となる。トンバイは、永満寺宅間窯跡～白旗山1号窯跡の17世紀前半までは通焰孔のみ使用されたものが、17世紀後半の犬鳴1号窯跡以降では焼成室の奥壁全体に使用範囲が広がる。さらに18世紀後半の能古焼窯跡ではトンバイの使用が焼成室5～7室に限定されるが、最も新しい19世紀中頃の東野亭焼窯跡では胴木間や焼成室の奥壁に加え、側壁にもトンバイが使用されており、この頃にはトンバイの窯での使用範囲が広がる。

以上、福岡県の近世窯跡構造の特徴をまとめると、下記の通りとなる。

- ・割竹式登窯は17世紀初期から始まり、17世紀後半の犬鳴1号窯跡以後は姿を消す。
- ・階段状連房式登窯は、17世紀初頭の釜ノ口窯跡、やや遅れて内ヶ磯窯跡から始まる。
- ・階段状連房式登窯の焼成室の形状は当初、横長形から正方形へ、その後横長形へと変化する。
- ・横長形へと変化した焼成室は、17世紀末の肥前の陶工と関連がある中野上の原窯跡から胴張り横長形となる。
- ・窯の形状は直線から扇形へ変化する。扇形は17世紀後半の一本杉2号窯跡から始まり、これ以降は扇形となる。
- ・トンバイの使用範囲が17世紀後半以降、通焰孔のみの使用から奥壁全体へと変わる。19世紀中頃の東野亭焼窯跡では焼成室全体に使用範囲が広がる。

## （2）窯道具

福岡県内の近世窯跡からは、トチン・ハマ・サヤ・シノ・チャツ・ダンゴ（ダゴ・団子状）などの窯道具が出土しており、この様相から窯の変遷を追うことができる。

17世紀初期の永満寺宅間窯跡ではトチン、ハマのみだが、内ヶ磯窯跡ではシッタ、ハマ、トチン、輪ドチ2点が出土する。この輪ドチは茶入れなどを焼くために使用されたとの指摘がある（註5）。この後に続く白旗山1号窯跡・釜床1号窯跡でも茶器が作られており、ドーナツ状焼台（輪ドチ）の出土が報告されている。菜園場窯跡ではトチン、ハマ、クサビ形焼台かと思われる1点が出土する。

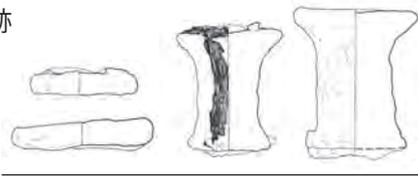
17世紀後半の犬鳴1号・2号窯跡、釜床1号窯跡、一本杉2号窯跡の共通のものとしてトチン・ハマ・クサビ形焼台（※釜床1号窯跡では出土していない）が出土する。これ以外のものとして釜床1号窯跡では桶胴形サヤ、棒状・ドーナツ状焼台（輪ドチ）・円盤状焼台などが出土する。桶胴形サヤは白旗山1号窯跡でも出土する。同時期の一本杉2号窯跡ではシノやチャツの出土がある。チャツは肥前の影響を受けた窯道具との指摘があり（註5）、1650年以降に出現するチャツが一本杉2号窯跡、中野上ノ原窯跡、火口谷1・2号窯跡で出土する。17世紀末には、中野上の原窯跡で断面が逆台形状になるハマが出土する。他にも磁器製のハマ・チャツもあるが、この時期唯一磁器生産を行った中野上の原窯跡でしかみられない。またトチンに押印、スタンプ、ヘラ書きを施したものは中野上の原窯跡、火口谷1号窯跡で出土する。

18世紀前半の朝妻焼窯跡ではトチン・逆台形ハマ・チャツ・シノ・サヤが出土する。ここでは磁器も焼かれていることから磁器製のチャツも出土する。

18世紀中頃～後半にかけては、窯跡の報告書が刊行されておらず、詳細は不明である。

18世紀末～19世紀中頃の窯跡では田香焼1号窯跡では、タコハマ（3足・4足・6足）、目、トチン、

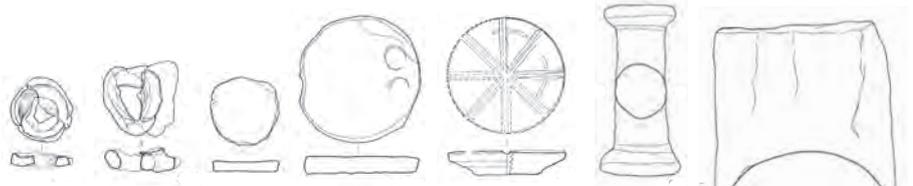
永満寺宅間窯跡  
17世紀初頭～



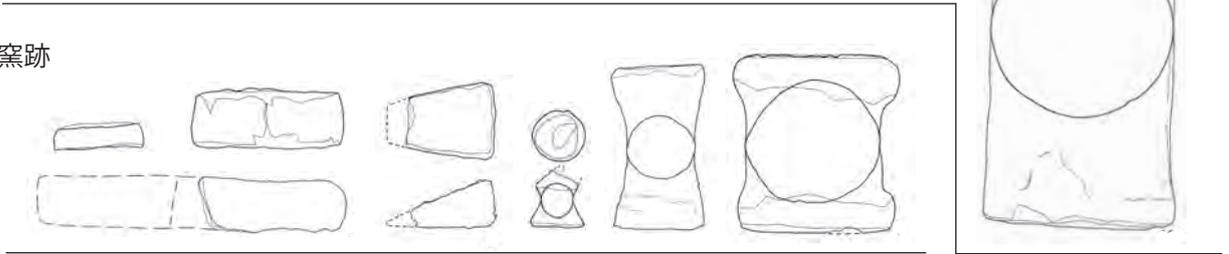
0 10cm

0 15cm

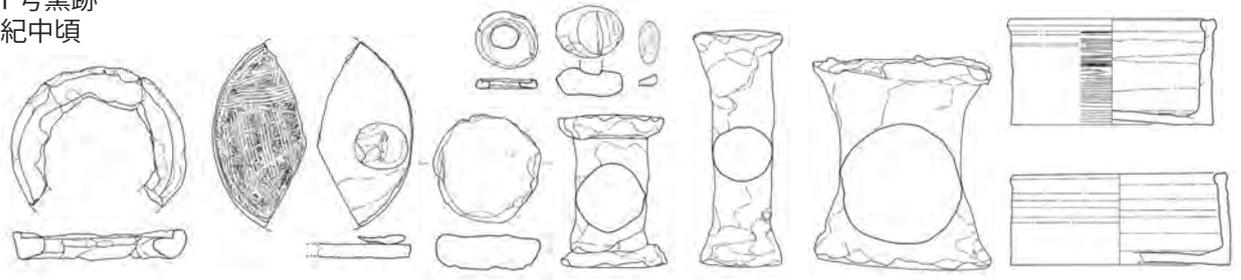
内ヶ磯窯跡  
17世紀前半～



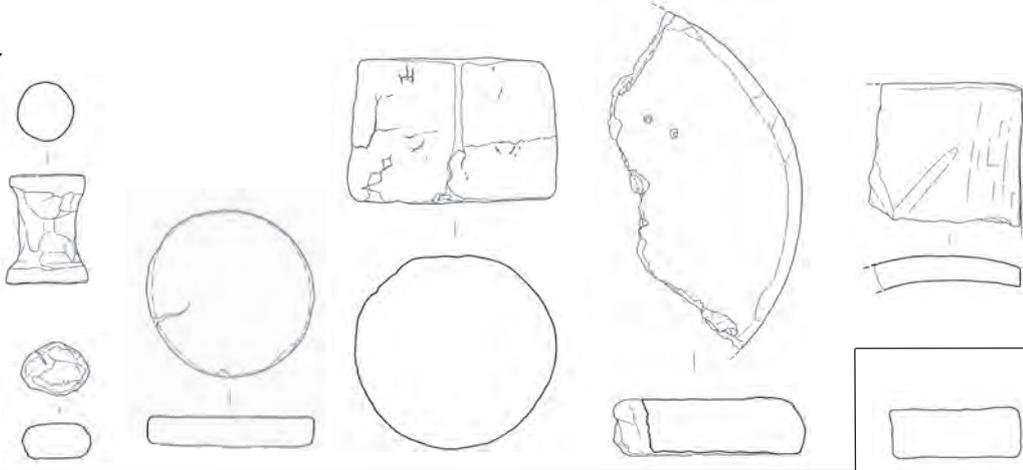
菜園場窯跡



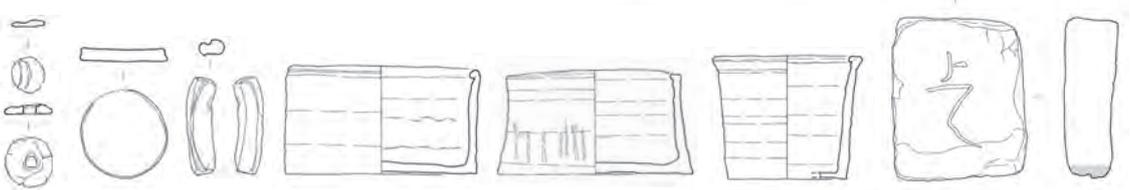
白旗山1号窯跡  
～17世紀中頃



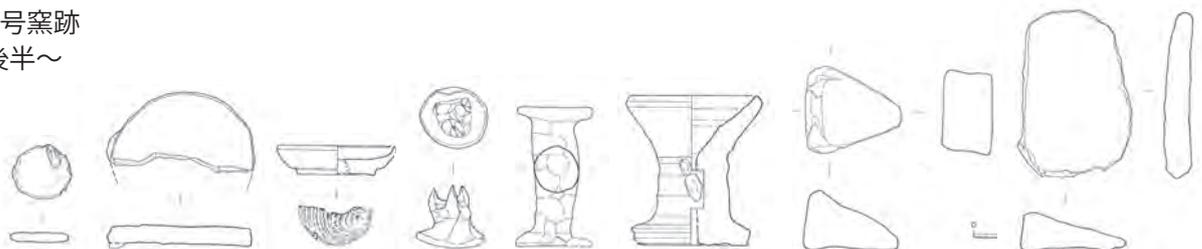
犬鳴1号窯跡  
17世紀中頃～



釜床1号窯跡

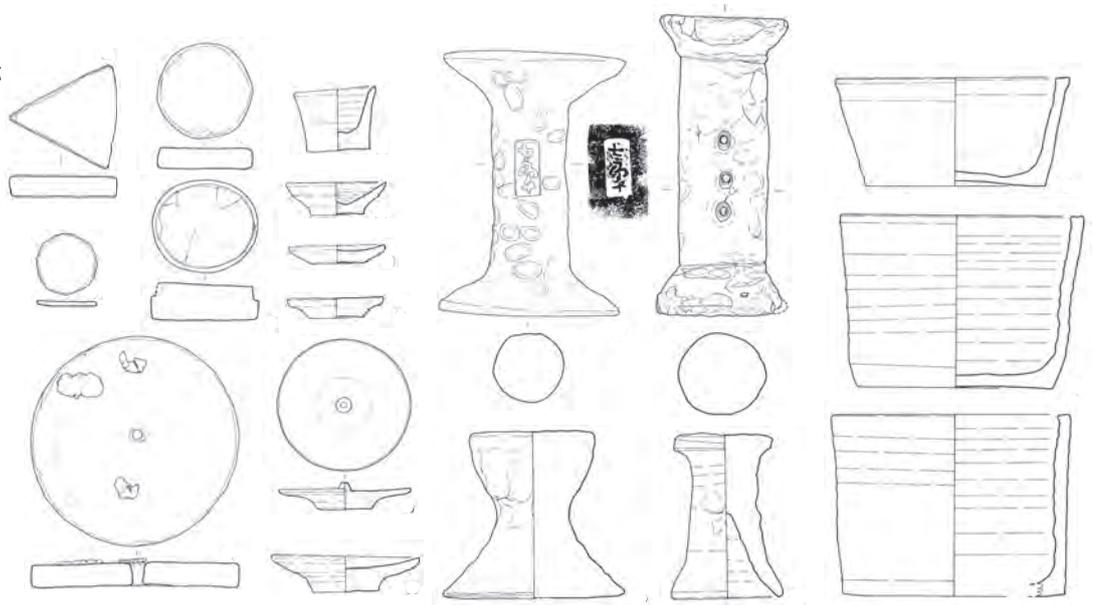
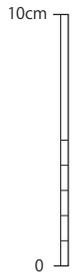


一本杉2号窯跡  
17世紀後半～

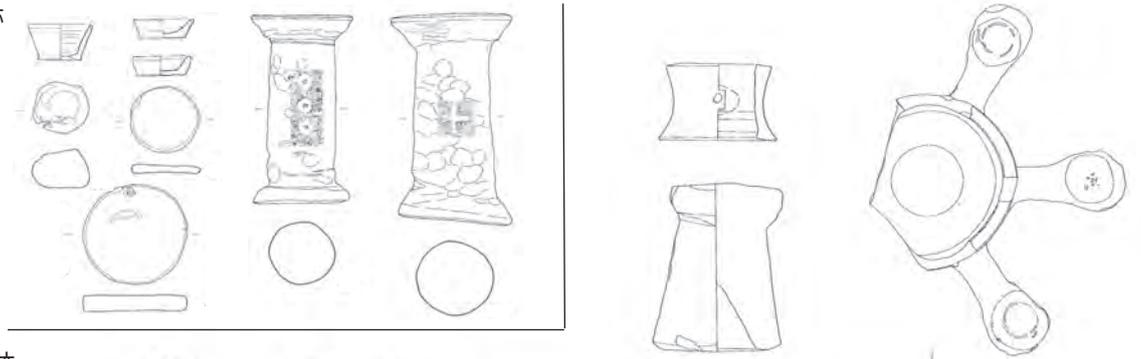


窯道具変遷図1 (1/3、1/4)

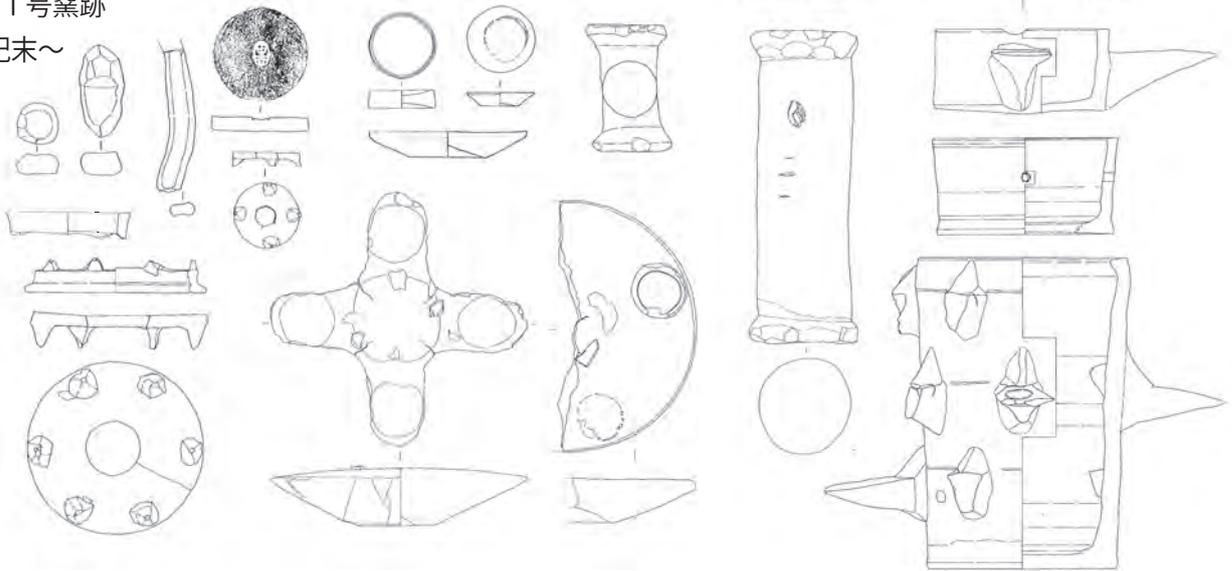
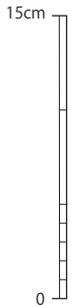
中野上の原窯跡  
17世紀後半～



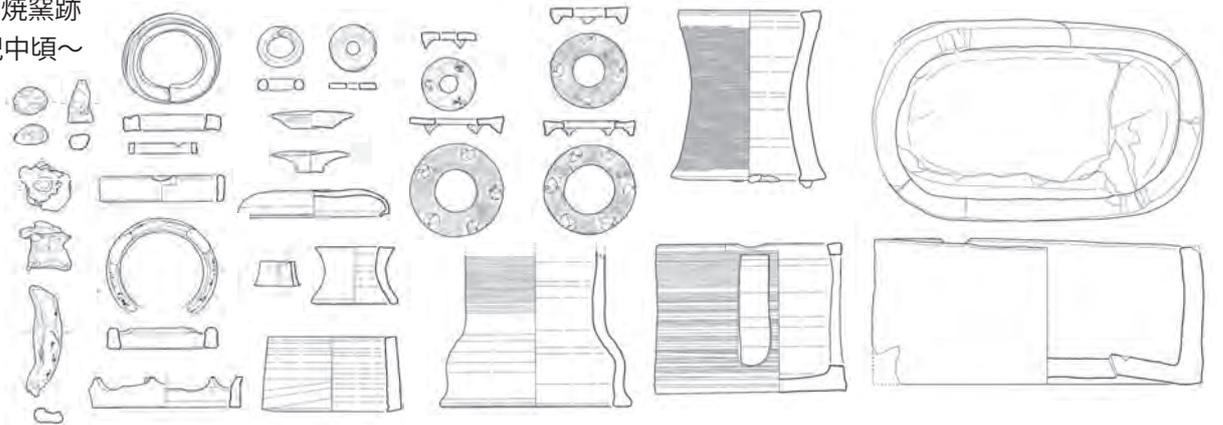
火口谷1号窯跡  
～18世紀前半



田香焼1号窯跡  
18世紀末～



東野亭焼窯跡  
19世紀中頃～



窯道具変遷図2 (1/3、1/4)

足付ハマ、環状（冠状）焼台、テンビン、脚付サヤなどの窯道具がみられる。環状（冠状）焼台や脚付けサヤは、肥前でみられない窯道具で、今のところ福岡県内では最古である。その他にタコハマは役所畑新窯跡、野口窯跡、三並ヒエデ遺跡、鹿子生焼窯跡のように筑前及び筑後で出土する。また脚付サヤについては、猪之鼻窯跡と黒田窯跡で今回の調査の際に採集された。脚付サヤ・環状（冠状）焼台についても肥前に類例がないことから、18世紀末以降に関西など他地域からの技術の流入も考える必要がある。

続く19世紀中頃の東野亭焼窯跡では、輪ドチ、ダンゴ、ハマ、逆台形ハマ、足付ハマ、環状（冠状）焼台、ツク、桶型サヤ、楕円形サヤ、支脚、焼台など多様な窯道具が出土するが、トチンやチャツの出土はない。ここで出土する環状（冠状）焼台と類似のものが、19世紀前半の赤坂焼窯跡でも表採しており、東野亭焼窯跡と赤坂焼窯跡との関連が窺える。

なお、上記の窯道具の流れは、大橋の区分（大橋1989）に照らし合わせても、肥前との時期的な相違はそこまで大きくないが、環状（冠状）焼台、脚付サヤなど肥前に見られない窯道具もあり、18世紀末以降に他地域からの技術流入も想定しうることが福岡県の窯道具の大きな特徴の一つである。

### （3）窯跡の時期

今回の調査及び既刊報告書と文献史料から福岡県内の初期の窯については、割竹式登窯の高取焼系窯跡である永満寺宅間窯跡、上野焼系窯跡である釜ノ口窯跡と菜園場窯跡があり、17世紀初頭に開窯し、閉窯は17世紀前半に収まる。

永満寺宅間窯の開窯は『高取歴代記録』による慶長5年（1600）説と『皿山役所記録』の慶長10年（1605）がある。菜園場窯跡は初代小倉藩主、細川忠興の小倉入部の慶長7年（1602）の時期以降を根拠にして慶長8年（1603）開窯と考えられていたが、2代細川忠利のお楽しみ窯の可能性が高く、クサビ形焼台など他の窯道具の出土はそのことを示す。釜ノ口窯跡に係る文献史料はないが、尊階一族により始められたとされることから慶長7年（1602）開窯と考えられている。これ以降、階段状連房式登窯の内ヶ磯窯跡が営まれる。内ヶ磯窯跡について『高取歴代記録』と『筑前国続風土記』では、慶長19年（1614）に開窯したとする。続く寛永元年（1624）には、内ヶ磯窯を営んだ高取八蔵らが福岡藩主2代黒田忠之の逆鱗に触れ山田村（山田窯跡）へ追放されるが、藩主の許しを得て白旗山に寛永7（1630）年に移る。17世紀後半には、犬鳴皿山に住む新四郎により犬鳴1・2号窯跡が寛文年間（1661～1673）に開窯し、貞享4年（1687）に藩の命令により閉窯する。

『高取歴代記録』によると同時期には小石原鼓（釜床1号窯跡）で、2代高取八蔵貞明が寛文5年（1665）に開窯し、元禄17年（1704）には閉窯する。さらに『高取歴代記録』では、寛文9年（1669）に小石原中野皿山に高取八之丞が移り住むとあり、その窯が一本杉1・2号窯跡と想定される。小石原中野では、『筑前国続風土記』によると天和2年（1682）にも肥前の陶工が来て陶器を作るとされ、これが中野上の原窯跡の開窯の時期を指すと考えられる。この閉窯については紀年銘のある土管の出土から、享保7年（1722）と考えられ、操業期間としては17世紀末～18世紀前半と考えられる。

これ以後の窯については、朝妻焼、能古焼、田香焼、東野亭焼が文献史料に記されている。そのうち朝妻焼窯跡については、『石原家記』では正徳5年（1715）に6代久留米藩主が有田・伊万里の陶工を招いて開窯したと記録される。

能古焼窯跡については『筑前国続風土記附録』によると「明和の比より此の島にて陶器を製す」とあ

福岡県の各窯概要

| 窯跡名           | 造り        | 窯の形状      | 全長 (m)    | 傾斜角     | 室数    | 室の形状   | 焼成室計測サンプル |       |        | 段差 | トンバイ使用       | 文献等の時期                            | 考古地磁気測定<br>推定年代   | 備考                        |
|---------------|-----------|-----------|-----------|---------|-------|--------|-----------|-------|--------|----|--------------|-----------------------------------|---|---------------------------|
|               |           |           |           |         |       |        | 室番号       | 幅 (m) | 奥行 (m) |    |              |                                   |   |                           |
| 1 永満寺宅間窯跡     | 割竹式登窯     | 直線        | 16.6      | 11° 30' | 6     | 横長形    | 4         | 3.5   | 2.15   | なし | 通焰孔のみ        | 慶長5年 (1600) ~ 寛永元年 (1624)         | AD1595 ± 15   |                           |
| 2 上畑窯跡        | 割竹式登窯     | 直線?       | 3.9+      |         |       | 縦長形    |           | 2.7   | 3.9    |    |              | 17世紀初頭?                           |   | 永満寺宅間窯跡と同時期か              |
| 3 千石窯跡        | 階段状連房式登窯? |           |           |         |       |        |           |       | 2.8+   |    |              | 17世紀前半?                           | AD1640 ± 20   | 永満寺宅間窯跡と同時期か              |
| 4 釜ノ口窯跡       | 階段状連房式登窯  | 直線        | 41 (42.5) | 10~18°  | 15    | 横長形    | 4         | 3     | 2.6    | あり | 通焰孔のみ        | 慶長7年 (1602)                       |   | 尊隆一族により始まる                |
| 5 内ヶ磯窯跡       | 階段状連房式登窯  | 直線        | 46.5 + α  | 19°     | 14    | 正方形    | 4         | 3     | 3.1    | あり | 通焰孔のみ        | 慶長19年 (1614)<br>~ 寛永元年 (1624)     | AD1610 ± 30<br>AD1700 ± 30<br>AD1700 ± 50<br>AD1590 ± 30                |                           |
| 6 菜園場窯跡       | 割竹式登窯     | 直線        | 約16.6     | 約15°    | 4     | 縦長形    | 4         | 1.8   | 2.3    | あり | 通焰孔のみ        | 慶長8年 (1603)<br>~ 元和5年 (1619)      | AD1630 ± 25   |                           |
| 7 白旗山1号窯跡     | 階段状連房式登窯  | 直線        | 25前後      | 19°     | 10前後  | 正方形    | 3         | 2.15  | 2      | あり | 通焰孔のみ        | 寛永7年 (1630) ~ 17世紀後半              | AD1630 ± 20   |                           |
| 8 大鳴1号窯跡      | 割竹式登窯     | 直線        | 18.5 + α  | 12°     | 8 + α | 正方形    | 4         | 2.6   | 2.6    | あり | 各室奥壁のみ       | 寛文年間 (1660~1673)<br>~ 貞享4年 (1687) | AD1550 ± 50<br>AD1580 ± 30<br>AD1650 ± 20<br>AD1440 ± 15<br>AD1710 ± 30 | 大鳴血山に住む新四郎が焼く             |
| 9 釜床1号窯跡      | 階段状連房式登窯  | 直線        | 11 + α    | 10° 48' | 6 + α | 正方形    | 5         | 2.6   | 2.6    | あり | 各室奥壁のみ       | 寛文5年 (1665) ~ 元禄17年 (1704)        | AD1440 ± 15<br>AD1710 ± 30  | 高取八蔵貞明 (2代目) が白旗山より移る     |
| 10 一本杉1号窯跡    | 階段状連房式登窯  | 直線        | 13 + α    |         | 4 +   | 正方形    | 4 ?       | 2.6   | 2.6    |    | 各室奥壁のみ       | 17世紀後半                            |   |                           |
| 11 一本杉2号窯跡    | 階段状連房式登窯  | 直線        | 20        | 10°     | 6     | 横長形    | 4         | 2.95  | 2.35   | あり | 各室奥壁・通焰孔・火アゼ | 寛文9年 (1669)                       | AD1680 ± 30<br>AD1720 ± 30  | 新之丞が中野に移った時の窯か?           |
| 12 中野上の原窯跡    | 階段状連房式登窯  | 直線        | 38.7 + α  | 12°     | 10    | 胴張り横長形 | 4         | 4.55  | 3.9    | あり | 各室奥壁のみ       | 天和2年 (1682) ~ 享保7年 (1722)         | AD1700 ± 15   |                           |
| 13 火口谷1号窯跡    | 階段状連房式登窯  | 弓なり<br>扇形 | 42        | 8°      | 10    | 胴張り横長形 | 4         | 4.7   | 4.4    | あり | 各室奥壁のみ       | 18世紀前半~中頃                         |   |                           |
| 14 朝妻焼窯跡      | 階段状連房式登窯  | 扇形        | 8.8 (約40) |         | 3 (9) | 胴張り横長形 | 2 (8?)    | 6.1   | 4      | あり | 各室奥壁及び側壁の一部  | 18世紀前半                            |   | 6代久留米藩主が有田・伊万里の陶工招いて築く    |
| 15 金数様裏3号窯跡   | 階段状連房式登窯  | 扇形        | 15        | 12° 30' | 4     | 胴張り横長形 | 4         | 3.5   | 3.1    |    | 各室奥壁のみ       | 18世紀中~後半                          |   |                           |
| 16 能古焼窯跡      | 階段状連房式登窯  | 扇形        | 22        |         | 7     | 胴張り横長形 | 4         | 4     | 2.4    | あり | 5~7室奥壁のみ     | 明和~天明年間 (1764~1787)               |   |                           |
| 17 田首焼1号窯跡    | 階段状連房式登窯  | 扇形        | 12 (15)   | 13°     | 4 (5) | 胴張り横長形 | 4         | 3.4   | 2.6    | あり | 通焰孔・火アゼ      | 寛政年間 (18世紀末) ~ 明治維新前後             | AD1810 ± 25   | 文政11年 (1828) 十時甫紹の弟子啓吉が開窯 |
| 18 須恵焼窯跡 (新窯) | 階段状連房式登窯  | 扇形        | 22        | 11°     | 7     | 横長形    | 4         | 3.4   | 3.4    | あり |              | 19世紀ごろか                           |   |                           |
| 19 東野亭焼窯跡     | 階段状連房式登窯  |           | 15.8 +    | 16°     | 4~5   |        | 3         | 5     |        | あり | 奥壁・側壁        | 慶応元年 (1865) ~ 明治8年 (1875)         | AD1850 ± 30   |                           |

ることから明和~天明年間 (1764 ~ 1787) の 18 世紀中~後半の操業と考えられる。

田香焼窯跡は、上野焼の十時甫紹の弟子啓吉が文政 11 年 (1828) に開窯したとされてきたが、寛政 8 年 (1796) 成立の『近国焼物山大概書上帳』にも記載があることから、開窯の時期が 18 世紀末に遡る可能性がある。

東野亭焼窯跡では、『加藤田日記』『筑後将士軍談』に慶応元年 (1865) 7 月に開窯し、さらにその年の 9 月に窯開きしたと記されており、19 世紀中~後半頃の操業と考えられる。

これ以外の窯については、発掘調査が行われておらず、詳細な時期が不明であるが、赤坂焼などでは『筑後赤坂焼』において、19 世紀前半~昭和時代まで操業した窯の場所の変遷についても詳細に記されている。

なお、発掘調査された窯跡のほとんどで考古地磁気測定推定年代が行われており、この理科学的に推定された年代は概ね文献の時期に収まっている。

註

- 1 各窯跡については、調査報告書を参考にした。それについては、巻末の参考文献に掲載した。なお、表は調査報告書などの図面から計測した。
- 2 釜ノ口窯跡の数値については、概要報告の図面から導き出した。再調査により、焼成室の数値は変わる可能性が大きい。
- 3 一本杉2号窯跡については、報告書で調査担当者が窯の形状が未広形になるとの指摘がある。
- 4 須恵焼新窯については、須恵町教育委員会からオルソ写真を提供して頂き、それから数値を導き出した。
- 5 輪ドチが茶入れなどを焼くために使用されたことやチャツの出現の時期については、大橋 (1992) の指摘がある。

### 3. 文献史料調査の成果と課題

福岡県近世窯業関係遺跡調査にあたり、基礎的作業として関連する文献史料（史料）の情報を収集した。現在の福岡県域における近世窯業に関する史料は多岐にわたる。この調査では、刊本を対象として、近世窯業に関する先行研究を参考として史料を探索し、また近世地誌等、関連する情報が採録されていることが見込まれる史料を博捜し、情報を収集した。集成した史料の情報は、編年順に表3に整理した。

#### (1) 集成した文献史料

近世窯業関係の史料は、製作された陶磁器が各藩の特産物であることから、藩または民間で編纂した地誌や史書に情報がみられる。福岡藩であれば、『筑前国続風土記』、『筑前国続風土記附録』、『筑前国続風土記拾遺』、『黒田家譜』、『石城志』など、久留米藩であれば、『北筑雑藁』、『米府年表』、『石原家記』、『筑後地鑑』、柳川藩であれば、『南筑明覧』、それ以外は古代の大宰府が統治した九国二嶋（九州全域）を対象とした地誌である『太宰管内志』といった地誌や史書にみえる。あわせて、久留米藩の『山方小物成方格帳』など藩の物産に関する記録にも情報が掲載される。高取焼に関する『高取歴代記録』、『筑前高取家旧記』や、『久留米藩土器司田中家資料』など、陶磁器の製作者による記録もある。

その他、寛政8年（1796）に天領天草の支配を預かる島原藩の大横目大原甚五左衛門の要望により上田源作（宜珍）が作成した『近国焼物山大概書上帳』、「添田町諸商賣諸職書上帳」（添田手永大庄屋中村家文書）、「上高屋、内垣村諸納控写」（京都郡みやこ町犀川上高屋の乙子焼）、『桑野岳幸家文書』の「年代記」など地方文書や、日記などの古記録にもみえることがあるので、未翻刻の史料まで探索すれば、関連史料は枚挙にいとまがない。

高取焼や上野焼などの陶磁器は、茶会で使用されることがあるので、『有楽亭茶湯日記』、『松屋会記』、『小堀遠州会記』、『元禄会記』、『清風軒会記』、『文政会記』など茶人の日記や茶会記、細川三斎及び忠利の書状、『三斎公伝書』など茶書にも登場する。

上記の紙媒体に書かれた古文書、古記録、編纂物のほか、伝世又は、出土した陶磁器の刻書や染付などの銘文も多くの情報を伝える史料である。

#### (2) 集成した文献史料にみえる焼き物と窯

本調査で集成した文献史料が、地誌や陶磁器の製作者の記録、茶会記を中心としているため、これらにみえる焼き物や窯には偏りがある。豊前国の窯は、近世初期の史料を中心に豊前焼や小倉焼、上野焼がみえる。地元の記録ではない、茶人が記した茶会記などの史料にみえることから、豊前焼と呼ばれる焼き物には上野焼が含まれている可能性がある。

田香焼は、『勾金地方郷土史資料』や『近国焼物山大概書上帳』に、文政8年（1825）に開窯されたと伝える。田香焼の伝世品の銘文として、天保5年（1834）の紀年が「筒形花生」（大任町指定有形文化財）の箱本体及び添え状にあり、安政3年（1856）の紀年が緑釉徳利の外底面に墨書の文字で「安政三 □□ 辰十月」とあることなどが知られる。

筑前国の窯は『筑前国続風土記』をはじめとする地誌が充実しているため、特に高取焼とその窯に関する史料が多い。内ヶ磯窯跡から白旗山窯跡、東皿山窯跡、西皿山窯跡へという窯の変遷に関する情報も追うことができる。高取焼の小石原鼓の釜床窯跡や高取焼系の中野上の原窯跡、犬鳴窯跡も『筑前国

続風土記』などの地誌を中心に史料がみられる。

須恵焼についても、宝暦年間（1751～64）に寺社司の下吏の新藤安平が開いたことなどがみえる。伝世品の銘文からわかることとして例えば、明和6年（1769）に、須恵焼の白磁釈迦像台座（須恵町指定有形文化財）の外底に「明和六年 丑四月八日 施主 植木村現蔵」、内底に「須恵皿山作者 森氏」の銘（須恵焼最古の銘）があり、天明4年（1784）に、須恵焼の染付花瓶（須恵町指定有形文化財）の外底の染付銘に「天明四年 皿山 忠一」とある。文化11年（1814）に、須恵焼の染付龍雲文鉢の外底面高台内の染付による文字に「文化十一年 戊四月初 長澤氏 山泉画」（須恵町指定有形文化財 No.14）とある。また能古焼について、『筑前国続風土記附録』には、明和年間（1764～72）より残嶋（能古島）にて陶器を製したことがみえる。

筑後国の窯は、地誌や久留米藩、柳河藩の記録に、蒲池焼、坂東寺焼、水田焼、朝妻焼、釈形焼、星野焼などの史料がある。筑後国にも多くの窯があったが、地誌が筑前国ほどは充実していないので、史料からわかる情報はそれほど多くはない。久留米藩では坂東寺焼、柳河藩では蒲池焼が近世初期に開かれたことがわかり、伝世品の箱書から元禄11年（1698）には釈形焼がみられる。『石原家記』から正徳4年（1714）または同5年（1715）に上妻郡釈形焼物師文右衛門の手伝夫が、惣郡より割方にて出されたとあり、釈形焼とのつながりが伝承される。『筑後志』は、「その製は肥州（肥前国）の伊万里焼にひとしい」とも述べている。

『筑後志』は「半田土鍋」について、下妻郡水田村の近藤家が製する所で、立花藩主が毎歳江戸幕府に献上していたと記し、「風爐前土器」についても、上妻郡熊野村の田中家の製する所で、やはり江戸城に献上していたとする。水田焼や坂東寺焼に関する記録と思われる。

星野焼については伝世資料として、室山神社蔵の星野焼の灯籠（八女市指定有形文化財）を載せる器台に「奉寄進 元文三戊午天 九月吉日 本星野 与次右衛門」とともに「作者 吉田小右門 大塚幸次郎」と刻まれ、元文3年（1738）の紀年銘がある。寛政7年（1795）に久留米藩で『山方小物成方格帳』を小川勘左衛門が補筆し、「同所本星野名二而皿・茶碗焼之事」として、元文2年（1737）に、同所仙頭与次右衛門が願いによって仰せ付けられ、釈形焼の手筋で焼立てたが、それ以後断絶し、今では近年同村内の十籠名で（つまり十籠焼として）、宇平次が焼立てているとある。

伝世品からわかることとして、天保3年（1832）の柳原焼の大皿の篋刻に「天保三辰年八月朔日於柳原浅田薰保定造之」とあり、九州医学専門学校の富田新氏蒐集の高台破片に、天保三辰年八月十三日と刻したものと、良八作と自己の名を篋刻したものとがある。また文政2年（1819）に、朝田焼（一の瀬焼）の伝世品の染付鶴文茶碗の入った木箱の銘記に「文政二卯年二月二十三日 生葉郡浅田村一の瀬谷大福山（不明）鶴絵茶碗 拾 平塚」とあり、文政6年（1823）に、やはり一の瀬焼の磁器染付瓶の胴部外面の染付銘に「皿山」「文政六年 閏仲秋」とある。

### （3）成果と課題

福岡県域の近世窯業に関する文献史料を収集したが、いまだ刊本を中心とした調査にとどまり、陶磁器の製作者や藩政史料、地方文書などを悉皆的に調査することには及ばなかった。主な窯や陶磁器の開窯などに関する情報を大観すると、上野焼や高取焼のように、近世初期に朝鮮半島からの陶工による窯のほかは、18～19世紀になって各地で開窯されていく趨勢がみて取れる。残された課題としては、やはり、未刊行史料を博搜し、史料の充実を図ることに尽きると言えよう。

表3 歴史史料調査

| 焼物名  | 番号 | 関連窯名                  | 年月日                       | 史料名                           | 内容   | 備考  |
|------|----|-----------------------|---------------------------|-------------------------------|--|---|
| 瓦    |    | 不明                    | 天正5年(1577)11月20日          | 『宗像社第一御宝殿御棟上之事置札』             | 「一棟瓦師之事 博多津中道場僧金師、小工武人御祝…」→宗像社第一宮の造営に博多の瓦職人が関わっていることがわかる。  | 宗像市1996                                   |
|      |    |                       | 天正20・文禄元年(1592)10月30日     | 『宗湛日記』                        | 豊臣秀吉、博多の神屋宗湛邸の茶湯会に臨む   | 川添ほか1980                                  |
| 高取焼  |    |                       | 天正20・文禄元年(1592)           | 『高取歴代記録』など                    | 「黒田長政、八山を拝謁す。長政の命により後藤又兵衛の家人・桐山常右衛門が八山夫婦及び一子を連れて渡海し来る。長政は文禄3年に朝鮮より帰国。」   | 尾崎2013                                    |
| 豊前焼  |    |                       | 天正20・文禄元年(1592)12月26日     | 『豊前以来由緒覚』                     |  | 九州陶磁文化館2010<br>永竹ほか1982                   |
|      |    | 不明                    | 慶長3年(1598)                | 北九州市八幡西区木屋瀬 木屋瀬資料館<br>備前焼大甕   | 慶長3年 捨土 叶 ひねりつち □□上々   | (財)北九州市1982                               |
| 豊前焼  |    | 不明                    | 慶長8年(1603)3月11日           | 『有楽亭茶湯日記』                     | 豊前焼茶碗に見ゆ   | 朝日新聞1981<br>磯野1980                        |
| 蒲池焼  |    |                       | 慶長9年(1604)11月7日・11月9日     | 『立花家旧臣文書』<br>『家永系譜』           | 11月7日 筑前国守・田中吉政は土器師・家永彦三郎を土器司に命じる。<br>「近世地方近世年表」は『立花家旧臣文書』『家永系譜』を参考として、11月9日吉政蒲池村土器師家永方親に禄を与ふ」と記述する。   | 永竹ほか1982<br>九州陶磁文化館1992/2010<br>伊東1948    |
| 豊前焼  |    |                       | 慶長18年(1613)3月11日          | 『有楽亭茶湯日記』                     | 「慶長十八年三月十一日昼 客。牧野伊予、伊藤基吉、堀田次郎八。懸物、珠光文。花入、角頭巾。花、白玉。茶入、盛法印の古瀬戸茶入。茶、竹の節。茶碗、豊前焼」   | 井上1943<br>赤池町1977                         |
| 高取焼  |    | 内ヶ磯窯<br>千石窯<br>上畑窯    | 慶長19年(1614)<br>寛永7年(1630) | 『筑前高取家日記』                     | 「鞍手郡内磯と云所御陶所に御引移に相成し也其近辺にて開地田島武町余の所無貢にて拝領被仰付弟子等仕立専井土陶を可製旨承伝門弟子附の者も多く有え候事」  | 永竹1977                                    |
| 高取焼  |    | 内ヶ磯窯<br>白旗山窯<br>釜床窯   | 慶長19年(1614)<br>寛永7年(1630) | 『筑前国統風土記』 卷29「土産考上」           | 「鷹取瓷器(やきもの) 鷹取焼は朝鮮軍の時、長政公の手にも、朝鮮人あまたとらはれ来りし中に、瓷器を製する上手あり。名を改て八蔵と云。…慶長十九年の比より、鞍手郡内磯と云所にて製し、寛永七年の比、穂波郡合屋の中村の白旗山の北の麓に移りて製し、寛永七年より上座郡鼓村にて製す。頃年福岡城の南田嶋村の東野松山にて製す。」  | 貝原1710                                    |
| 高取焼  |    | 内ヶ磯窯<br>白旗山窯<br>釜床窯   | 慶長19年(1614)<br>寛永7年(1630) | 『太宰管内志』 「筑前之18(鞍手郡)の「高島居ノ城」の項 | 「…また太閤朝鮮攻の時加藤清正彼國にて瓷器を製する者をつれ来たりて肥後國にて是を造らしむ其者ノ名を井戸新九郎と云故に其製せし器を井戸焼と云後に長政朝臣彼者を筑前に召されて鷹取ノ手塚水雪に命じてそにて瓷器を制せしめ給ふ是に依て鷹取焼となづく、慶長十九年より同郡内ヶ磯と云ふ處にて八蔵と云に仰せて焼かしめらる是を八蔵やきと云其後寛永七年穂波郡合屋ノ中村ノ内白旗山の北ノ麓に移りてやく、寛永七年より又上座郡鼓村にうつりてやく今の陶工は新九郎が末裔なり、」 | 伊藤1969                                    |
| 高取焼  |    | 内ヶ磯窯                  | 慶長19年(1614)               | 『筑前国統風土記』<br>『高取歴代記録』         | 内ヶ磯窯開窯。  | 西日本新聞1992<br>尾崎2013                       |
| 豊前焼  |    |                       | 元和5年(1619)正月23日           | 『吉田梵舜日記』                      | 「元和五年 正月二十三日 晴<br>次豊前沢村大学之助ヨリ豊前焼之壺三ツ来。使者之由也。<br>同年 四月十六日 晴<br>朝食西洞院振舞、康首座令同道也、予豊前今壺焼二ツ持参也。」  | 井上1943<br>赤池町1977                         |
| 上野焼  |    |                       | 元和5年(1619)                | 『吉田梵舜日記』                      | 豊前古上野と思われる「豊前壺三ツ使者持来」と記載ある。  | 永竹1980.1/1980.5                           |
| 高取焼  |    |                       | 元和6年(1620)                | 『筑前国統風土記』<br>『西高取家本東山高取焼仕法記』  | 「五十嵐次左衛門が忠之に召し抱えられ内ヶ磯において高取陶工と共に製陶に携わらようになるのはこの頃か。」  | 尾崎2013                                    |
| 釈形焼? |    |                       | 元和6年(1620)12月             | 有馬豊が国元の家老に宛てた書状3通             | 「黒木の焼物」についての記述がみられる。   | 星野1998                                    |
| 上野焼  |    | 釜ノ口窯<br>血山本窯<br>岩屋高麗窯 | 元和8年(1622)6月22日           | 『田川郡家人番御改帳』                   | 〔辨城村焼物山〕戸数30、人口63(男36・女27)、男の内訳:焼物師5、売子11、馬11<br>〔上野村焼物山〕戸数22、人口65(男37・女28)、男の内訳:焼物師8、売子10、馬7、牛1   | 井上1943<br>永竹1975/1977/1982<br>九州陶磁文化館2010 |

| 焼物名  | 番号 | 関連窯名 | 年月日                   | 史料名                                  | 内容  | 備考  |
|------|----|------|-----------------------|--------------------------------------|---|---|
| 豊前焼  |    |      | 元和9年(1623)3月4日        | 『吉田梵舜日記』                             | 「元和九年 三月四日 晴<br>次白川在所藤田浄源、豊前之壺水指一ツ、息太郎<br>左衛門染江染付鉢、餅三十添遣也、弥兵衛使也。」   | 井上1943<br>赤池町1977   |
| 坂東寺焼 |    |      | 元和9年(1623)3月9日        | 『久留米藩土器司田中家資料』                       | 「其方事久留米御城土器作二被下御究候、依夫、高<br>式拾石分御役儀被成御免候、則御分領内土物屋司<br>被仰付候間、可得其意者也<br>元和九年亥三月七日 鶺鴒基右衛門[花押]<br>上妻郡内坂東寺村<br>平兵衛どの」   | 古賀1979  |
| 高取焼  |    | 山田窯  | 寛永元年(1624)            | 『高取歴代記録』など                           | この頃、八山父子、朝鮮への帰国を願い出て忠之の<br>勤氣にふれ山田村に蝋居となる。山田窯開窯。  | 朝日新聞1981<br>永竹1977/1982<br>西日本新聞<br>1992<br>九州陶磁文化<br>館1992<br>尾崎2013                               |
| 豊前焼  |    |      | 寛永2年(1625)            | 『松屋会記』『小堀遠州会記』                       | 『松屋会記』に「肥後ヤキ茶碗小倉水指」、『小堀遠<br>州会記』に「筑前焼茶碗」と見ゆ。  | 朝日新聞1981  |
| 高取焼  |    |      | 寛永5年(1628)4月23日・24日   | 『小堀遠州会記』                             | 「茶入筑前焼」「筑前焼水指」の名で高取焼が初見。  | 西日本新聞<br>1992<br>尾崎2013   |
| 上野焼  |    |      | 寛永6年(1629)7月14日・9月23日 | 細川三斎公及び忠利公の書状                        | 上野焼の記述あり。<br>「上野の焼物師の内、我々いつも……」<br>「上野焼物師江戸へ来事迷惑ガルニ付而ハ、……」  | 井上1943<br>赤池町1977   |
| 高取焼  |    | 白旗山窯 | 寛永7年(1630)            | 『筑前国続風土記』巻12「穂波郡 榎村<br>合屋」の項         | 「…高取の蓋器(やきもの)、鞍手郡の内が礮にて焼<br>て後、寛永七年の此より、中村の内、白旗山の北の<br>麓に移り、三十二年此地にてやく。白旗山及庄内<br>の寛光山の木をきり。白旗山に檜樹多し。白旗山<br>西は合田村に属し、東は中村に属せり。」                                | 貝原1710  |
| 高取焼  |    | 白旗山窯 | 寛永7年(1630)            | 『大宰府管内志』『筑前之18(鞍手郡)』の<br>「高鳥居ノ城」の項   | 「高鳥居ノ城」の項に「…瓷器を制せしめ給ふ是に依<br>て鷹取焼となづく、慶長十九年より同郡内々礮と云<br>ふ處にて八蔵と云に仰せて焼かしめらる是を八蔵や<br>ぎと云其後寛永七年穂波郡合屋ノ中村ノ内白旗山の<br>北ノ麓に移りてやく、寛文七年より又上座郡鼓村にう<br>つりてやく今の陶工は新九郎が末裔なり、」 | 貝原1710  |
| 高取焼  |    | 白旗山窯 | 寛永7年(1630)            | 『筑前国続風土記』<br>『高取歴代記録』<br>『高取家記録』     | 白旗山窯開窯。   | 筑紫1938<br>永竹<br>1977/1980.1/19<br>80.5/1982<br>高鶴1990<br>西日本新聞<br>1992<br>九州陶磁文化<br>館2010<br>尾崎2013 |
| 高取焼  |    |      | 寛永10年(1633)5月1日       |                                      | 「遠州茶会に「高取」焼水指が初出」   | 尾崎2013  |
| 小倉焼  |    |      | 寛永17年(1640)4月17日      | 『三斎公伝書』(茶道四祖伝書)                      | 「寛永十七年卯月十七日朝。吉田(京都)三斎公へ。<br>客、辻関斎老、松屋久重兩人。……(略)……塩煮山<br>椒。小倉焼皿〔図あり〕。……(コクラヤキトモツタ水<br>サン。山ノ井御茶入、袋に入)……〔図あり〕」   | 井上1943<br>赤池町1977   |
| 蒲池焼  |    |      | 慶安2年(1649)            | 『三猪郡誌』                               | 「土器師家永彦三郎方親没す年八十一(三猪)」  | 伊東1948  |
| 高取焼  |    | 白旗山窯 |                       | 『高取歴代記録』                             | 「八蔵重貞(八山)、白旗山にて没(8月)。嫡子、八郎<br>右衛門多病のため、次男新九郎が二代となり八蔵貞<br>明を名乗る」   | 筑紫1938<br>永竹1977・永竹<br>ほか1979/1982<br>朝日新聞1981<br>九州陶磁文化<br>館1992<br>西日本1992<br>尾崎1994              |
|      |    |      | 万治4・寛文元年(1661)8月      | 久留米市日吉町三本松町遺跡出土「色<br>絵鳳凰唐草文托」の外底の年号銘 | 「万治四己丑閏八月吉日」  | 久留米市1992  |
| 上野焼  |    |      | 寛文4年(1664)10月5日       | 『御口切之覚』(古市自得齋筆記)「忠真<br>公御口解」         | 茶会記に、上野焼茶碗使用「薄茶盃上野」   | 井上1943<br>美和1958<br>赤池町1977<br>朝日新聞1981   |

| 焼物名         | 番号 | 関連窯名                | 年月日             | 史料名   | 内容  | 備考   |
|-------------|----|---------------------|-----------------|---|---|--|
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文5年(1665)      | 『筑前国続風土記』巻38「早良郡上 鹿原村」の項  | 「宝永五年の春より陶工高取・五十嵐二人を移して陶器を製せしめらる。今にしかり。寛文五年より元禄十七年までハ、上座郡鼓村にて陶工せり。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978                               |
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文5年(1665)      | 『高取歴代記録』<br>『高取家文書』   | 白旗山から小石原へ御陶所(窯)を移す。   | 西日本1992<br>尾崎2013                                |
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文7年(1667)      | 『筑前国続風土記』巻29「土産考上」  | 「寛文七年より上座郡鼓村にて〔瓷器を〕製す」  | 貝原1710   |
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文7年(1667)      | 『筑前国続風土記』巻21「上座郡(上)鼓村」の次行事社の項の「天照大神宮」   | 「釜床に在り。・明和年中に此神の靈験に依て盜賊の難を避し事高取家記にあり。本編に寛文七年國君より高取の陶工を此村の額に置て陶器を焼くとあれど何れの時に絶しに歟今は爰にては製せずなりぬ。」   | 青柳1993   |
| 高取焼         |    | 内ヶ磯窯<br>白旗山窯<br>釜床窯 | 寛文7年(1667)      | 『大宰管内志』「筑前之18(鞍手郡)の「高鳥居ノ城」の項  | 「・瓷器を制せしめ給ふ是に依て鷹取焼となづく、慶長十九年より同郡内内ヶ磯と云ふ處にて八蔵と云に仰せて焼かしめらる是を八蔵やきと云其後寛永七年穂波郡合屋ノ中村ノ内白旗山の北ノ麓に移りてやく、寛文七年より又上座郡鼓村にうつりてやく今の陶工は新九郎が末裔なり、」  | 伊藤1969   |
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文7年(1667)      | 『石原家記』  | 「此年上座郡鼓村に焼物始まる。元來合屋焼物師此處に移る(石原)」  | 伊東1948   |
| 高取焼         |    | 釜床窯                 | 寛文10年(1670)     | 『筑前国続風土記』巻11「上座郡 鼓村」<br>『高取家文書』<br>巻29「土産考上」  | 「・鼓河内の内、つると云所に、寛文十年國君より高取の陶工を遣はしおかれ、陶器をやく。今に其所にあり。」<br>「寛文七年より上座郡鼓村にて〔瓷器を〕製す」   | 貝原1710   |
| 坂東寺焼        |    | 坂東寺窯                | 延宝3年(1675)      | 『北筑雑業』1巻  | 「坂東寺ノ側二民居有リテ陶ヲ善クス。其酒盞爐具ノ類ノ如キハ深草半 田ノ甄家ト雖モ、亦及バズ。故ニ府君每歲之ヲ東武ニ獻ジタマフ。」  |  |
| 高取焼         |    | 中野上の原窯              | 天和2年(1682)      | 『筑前国続風土記』巻11「上座郡 小石原村 中野」の項<br>『筑前国続風土記附録』巻18「上座郡下小石原」の項の「中野」<br>『筑前国続風土記拾遺』巻21「上座郡(上) 小石原村」の項の「土産」 | 「・此所に天和二年より陶工来り住して陶器を作る。肥前伊萬里の磁器にならへり。中野焼と云。」<br>「上座郡下 小石原」の項の「中野」に「天和年中よりの陶製ハ止て、享保の末より高取焼にならひて民用に便する磁器を製せり。産工なり。今陶家八戸、甕三所にあり。・」<br>「中野にて陶器を製す。罫(とくり) 花瓶 碾茶壺 摺盆 瓦寶(いび)等の類なほ種々の土器を造る窯三處に在り。天和二年白瓷を製して中野焼と云しを後に其製は止て高取焼に習て民用の諸器を作る。・」 | 貝原1710<br>加藤1977/1978<br>西日本新聞<br>1992<br>尾崎2013 |
| 高取焼         |    | 中野上の原窯              | 天和2年(1682)      | 『筑前国続風土記』巻30「土産考上 器用類」の項  | 「中野瓷器」「土器(かわらけ)」「天和二年始て上座郡小石原村の南、中野と云所にて、國君光之公陶器を作らむ。是は肥前松浦郡伊萬里の陶工来り傳ふ。大明の製法にならへる也。其製猶いまた精巧ならずといへとも、甚民用に便あり。」   | 貝原1710   |
| 高取焼         |    | 中野上の原窯              | 天和2年(1682)      | 『筑前国続風土記』巻33「土産考上 土石類」の項  | 「瓷器(やきもの)土」「上座郡中野に多し。初中野にてやき物をやかんとして、其土のある所を広く所々に求めんとせしに、中野にをのづから有し故、他に求めず、天然の幸なり。」   | 貝原1710   |
| 坂東寺焼<br>水田焼 |    | 坂東寺窯<br>水田焼窯        | 天和2年(1682)      | 『筑後地鑑』上巻  | 「・東の大門ノ側二、居民アリテ陶ヲ善クス。其酒盞爐具ノ類ノ如キハ、深草半田ノ甄家ト雖モ亦及バズ故ニ府君每歲之ヲ東武ニ獻ジタマフ。」<br>「同邑ノ側ニ土師ノ流アリテ陶ヲ善クシ、半田土鍋ヲ作ル。〔数寄屋用フル所ノ爐具〕本朝比類ナン。故ニ每歲府君之ヲ東武ニ獻セラル。」<br>「下妻郡 水田村北嶋ニテハ藍蓋井筒陶シ、殊ニ半田土鍋ハ天下ノ美物ナリ。・〔後略〕」   | 西1682((筑後<br>遺籍刊行会<br>1979))                     |
| 高取焼         |    | 中野上の原窯              | 貞享元年(1684)      | 『高取歴代記録』  | 「この頃、八山の孫・八之丞貞正、小石原中野に移る。」  | 西日本新聞<br>1992<br>尾崎2013                          |
| 上野焼         |    |                     | 元禄年中(1688~1704) | 『元禄会記』  | (年号不詳)16日「/ 水指 上野 /」<br>(同年)10月16日「/ 茶入 上野 /」<br>(同年)11月28日「/ 水指 上野瓢箪 /」<br>(年号不詳)正月19日「/ 香炉 上野氣安麒麟 /」<br>(年号不詳)3月26日「上野焼御用ニ付出立・・・」   | 井上1943   |
| 高取焼         |    | 大鋸谷窯                | 元禄元年(1688)      | 『高取歴代記録』  | 「この前後に、福岡城の南、田嶋村大鋸谷に窯を開く(大鋸谷窯)。三代光之隠居、四代綱政襲封(12月)   | 西日本新聞<br>1992<br>尾崎2013                          |

| 焼物名 | 番号 | 関連窯名                        | 年月日             | 史料名                             | 内容   | 備考                               |
|-----|----|-----------------------------|-----------------|---------------------------------|--|----------------------------------|
| 高取焼 |    |                             | 元禄3年(1690)      | 『高取歴代記録』<br>『黒田家譜』網政記           | 「この頃、絵師の狩野昌運、黒田藩の御用絵師となり、御用陶器に絵付けを行う」  |                                  |
| 高取焼 |    | 大鋸谷窯                        | 元禄5年(1692)      | 陶器蛙形合子                          | 「元禄5年出来 八郎」の墨書銘  | 歴民2001                           |
| 高取焼 |    | 大鋸谷窯                        | 元禄6年(1693)      | 陶器唐獅子形香炉                        | 「元禄6年 窯八郎」の墨書銘   | 歴民2001                           |
| 上野焼 |    |                             | 元禄7年(1694)      | 『萬寶全書』巻8「古今和漢道具知鈔」              | 上野焼の記事   |                                  |
| 上野焼 |    |                             | 元禄7年(1694)      | 『貝原益軒豊国紀行』                      | 上野付近の記事<br>元禄7年4月5日「此里にすへ物作りて焼く籠土有」  | 森1939<br>井上1943                  |
| 釈形焼 |    |                             | 元禄11年(1698)     | 伝世品の箱書                          | 「元禄11戊寅」と記す  | 永竹1982                           |
| 上野焼 |    |                             | 元禄13年(1700)     | 古市無元齋「元禄(十三辰年)会記(三)」            | 「/釜戸屋真形/上野細口花入(花)馬リン/綾部茶入」の記述  | 井上1943                           |
| 高取焼 |    |                             | 宝永年中(1704~1711) | 『高取歴代記録』                        | 「御陶山御仕立」   | 尾崎1994                           |
| 高取焼 |    | 大鋸谷窯                        | 元禄17・宝永元年(1704) | 『高取歴代記録』                        | 「八蔵、鼓村より博多奥乃堂へ引越す。大鋸谷窯、不意に御取りくずしとなる」   | 九州陶磁文化館1992<br>西日本1992<br>尾崎2013 |
| 高取焼 |    | 内ヶ磯窯<br>白旗山窯<br>釜床窯         | 元禄17・宝永元年(1704) | 『筑前国統風土記附録』巻38「早良郡上鹿原村」の項の「陶器所」 | 「宝永五年の春より陶工高取・五十嵐二人を移して陶器を製せしめらる。今にしかり。寛文五年より元禄十七年までハ、上座郡鼓村にて陶工せり。元禄十七年の春、陶師高取某博多に居を移し、早良郡田嶋村の内六反間にて陶製せり。今も其跡あり。」  | 加藤・鷹取<br>1977/ 1978              |
| 高取焼 |    | 小石原鼓窯                       | 元禄17・宝永元年(1704) | 『筑前国統風土記附録』巻46「土産考上」の項の「鷹取瓷器」   | 「・寛文五年より元禄十七年迄は、上座郡鼓村にて製せしか、元禄十七年の春鷹取八蔵・井戸焼の事本編に見へたり。・・・」  | 加藤・鷹取<br>1977/ 1978              |
| 高取焼 |    | 釜床窯<br>荒戸山窯<br>西皿山窯         | 宝永5年(1708)      | 『筑前国統風土記附録』巻38「早良郡上鹿原村」の項の「陶器所」 | 「宝永五年の春より陶工高取・五十嵐二人を移して陶器を製せしめらる。今にしかり。寛文五年より元禄十七年までハ、上座郡鼓村にて陶工せり。元禄十七年の春、陶師高取某博多に居を移し、早良郡田嶋村の内六反間にて陶製せり。今も其跡あり。享保三年上座郡小石原村に居住せし陶工数人招かせられ、民用の陶器を製造せり。此所を土俗西皿山といふ。陶工の家廿七軒、窯所三ヶ所あり。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978               |
| 高取焼 |    | 釜床窯<br>荒戸山窯<br>東皿山窯<br>西皿山窯 | 宝永5年(1708)      | 『筑前国統風土記拾遺』巻43「早良郡上鹿原村付皿山」の項    | 「枝郷皿山 俗に西皿山と云。享保三年より上座郡小石原村の陶工数家を爰に移して陶器を製せしめらる。・・・村の北西新町の南辺に小山あり。上の山といふ。宝永五年の春陶器所と定らる。即陶工高取五十嵐の二氏爰に居を移して 其始ハ上座郡鼓村に在。其後博多住す。香爐 水指(礮茶壺) 天目(茶盃) 香合等種々の器物を製せしめらる。良工なり。世の人爰を東皿山といふ。」   | 青柳1993                           |
| 高取焼 |    | 荒戸山窯                        | 宝永5年(1708)      | 『高取歴代記録』                        | 荒戸新町に窯を開く  | 西日本1992                          |
| 高取焼 |    | 犬鳴窯                         | 宝永7年(1710)      | 『筑前国統風土記』巻13「鞍手郡 上新入村 犬鳴山」の項    | 「此地にて近年炭をやき、紙をすき、瓷器を作る。・・・近年は犬鳴山にて陶器を作らず。又炭をやもかす。大山の木もなくなりし故なり。」   | 貝原1710                           |
| 高取焼 |    |                             | 宝永7年(1710)      | 『筑前国統風土記』巻29「土産考上 器用類」の項        | 「鷹取瓷器(やきもの)」「鷹取焼は朝鮮軍の時、長政公の手にも、朝鮮人あまたとらはれ来りし中に、瓷器を製する上手あり。名を改て八蔵と云。又加藤清正の手にも、一人上手あり。新九郎と云。二人ともに、高麗にて井戸土と云色の者にて、八蔵は新九郎が甥也。・・・又五十嵐次左衛門と云者あり。肥前唐津寺澤家に仕へ、彼家を浪人して、筑前に来る。此者追戸瓷器の法を習ひ、其外種々の製を鍛錬せり。・・・慶長十九年の比より、鞍手郡内磯と云所にて製し、寛永七年の比、穂波郡合屋の中村の白旗山の北の麓に移りて製し、寛文七年より上座郡鼓村にて製す。頃年福岡城の南田嶋村の東の松山にて製す。」 | 貝原1710                           |
|     |    |                             | 宝永7年(1710)      | 『筑前国統風土記』巻31「土産考上 器用類」の項        | 「土器(かわらけ)」「早良郡飯盛村にて作る所の土器尤よし。博多及夜須郡甘木村にも作るといえども、飯盛の製に及はず。」   | 貝原1710                           |

| 焼物名 | 番号 | 関連窯名   | 年月日                | 史料名   | 内容   | 備考                                 |
|-----|----|--------|--------------------|---|--|------------------------------------|
|     |    |        | 宝永7年(1710)         | 『筑前国続風土記』巻32「土産考上 器用類」の項                                      | 「瓦」「博多に瓦町とて、瓦工の集り住る町一坊あり。屋瓦及もろもろの瓦器を作る。夜須郡甘木、糟屋郡青柳、宗像郡赤馬など所々に作る。又近年志摩郡今宿にて作る。」   | 貝原1710                             |
| 朝妻焼 |    |        | 正徳4年(1714)         | 『米府年表』  | 「五月上妻郡朝妻に焼物場出来(府)」   | 伊東1948                             |
| 朝妻焼 |    |        | 正徳4年(1714)         | 『石原家記』  | 「上妻郡萩形焼物師文右衛門手伝夫、惣郡より割方にて出」  | 浅野1935<br>佐々木1991/2006             |
| 朝妻焼 |    |        | 正徳5年(1715)         | 『石原家記』  | 「上妻郡萩形焼物師手伝人足、惣郡より指出御用。皿山主山崎屋丸左衛門云々」   | 佐々木2006                            |
| 高取焼 |    | 東皿山窯   | 正徳6・享保元年(1716)     | 『高取歴代記録』  | 東皿山窯開窯   | 西日本1992                            |
| 高取焼 |    | 西皿山窯   | 享保3年(1718)         | 『筑前国続風土記附録』の巻38「早良郡上 鹿原村」の項の「陶器所」                             | 「宝永五年の春より陶工高取・五十嵐二人を移して陶器を製せしめらる。…享保三年上座郡小石原村に居住せし陶工数人招かせられ、民用の陶器を製造せり。此所を土俗西皿山といふ。陶工の家廿七軒、窯所三ヶ所あり。」   | 加藤・鷹取1977/1978                     |
| 高取焼 |    | 西皿山窯   | 享保3年(1718)         | 『筑前国続風土記拾遺』巻31「鞍手郡下 感田村」の「浄福寺」の項                              | 「○薬土 行常と云處の松山の下より白土を出す。早良郡西皿山の焼物に用ゆる薬土也。毎年福岡へ出す。」  | 青柳1857                             |
| 高取焼 |    | 西皿山窯   | 享保3年(1718)         | 『筑前国続風土記拾遺』の巻43「早良郡上 鹿原村付皿山」の項                                | 「枝郷皿山 俗に西皿山と云。享保三年より上座郡小石原村の陶工数家を爰に移して陶器を製せしめらる。今八年を追て番昌し漸く村落をなせり。…」   | 青柳1993                             |
| 高取焼 |    |        | 享保6年(1721)         | 朝倉市甘木の高雄山観音寺にある「陶製 狛犬 一对」(朝倉市指定有形文化財[工芸品];1974.1.10指定)に刻まれた年号 | 片方の狛犬の左足に「奉寄進 享保六年辛丑歳 夜須郡甘木七日町住人」、別の狛犬の右足に「早良郡田嶋鳥越山ニテ尾藤孫七之造」   | 甘木市1996                            |
| 高取焼 |    |        | 享保7年(1722)         | 朝倉郡東峰村中野上の原窯跡の6・7室から出土した陶管                                    | 「口(享)保七年 口月三日」「八寸口 中野 重人 五郎八」のへら書き文字   | 小石原村1988                           |
| 高取焼 |    | 中野上の原窯 | 享保10年(1725)        | 朝倉郡小石原村(東峰村)の行者堂内の陶製灰色狛犬(山犬)の銘                                | 「享保拾年 筑前上座郡中野皿山住 己ノ四月吉祥日 長沼与三右衛門作」   | 小石原村やきもの関係年表                       |
| 高取焼 |    | 中野上の原窯 | 享保14年(1729)        | 行者堂内の灰釉陶製狛犬一对[白・茶色 狛犬(山犬)]の背面の刻銘                              | 「筑前国 上座郡小石原村皿山 長沼三右衛門 享保拾四年三月十八日」/「享保拾四年 筑前上座郡中野皿山住」   | 永竹ほか1982<br>歴民2001<br>小石原村やきもの関係年表 |
| 高取焼 |    |        | 享保16年(1731)        | 高取焼の鯉形土器の刻銘   | 「享保十六亥歳 二月十五日成 胤良為」<br>「享保十六季亥 二月十九日 写生 状 胤良為」   | 歴民2001                             |
| 高取焼 |    |        | 享保21・元文元年(1736)    | 『筑前国続風土記附録』巻19 上座郡下「小石原」                                      | 「天和年中よりの陶製ハ止て、享保の末より高取焼にならひて民用に便する磁器を製せり。雇工なり。今陶家八戸、竈三所にあり。…」  | 加藤・鷹取1977/1978                     |
| 星野焼 |    |        | 元文3年(1738)         | 室山神社蔵の星野焼の灯籠(八女市指定有形文化財)を載せる器台                                | 「奉寄進 元文三戊午天 九月吉日 本星野 与次右衛門」とともに「作者 吉田小右門 大塚幸次郎」と刻まれる   | 九歴2016                             |
| 高取焼 |    |        | 元文年中(1736~1741)    | 『筑前国続風土記拾遺』の巻25 嘉麻郡上 上山田村の両神宮の項の「土産」                          | 「猪鼻に陶冶二戸あり。茶碗 土鍋 花瓶 酒壺 鉢等の類を造る。抑此村に陶器を製する始ハ元文の比に起れり。然るに其後 中絶せしを、文化十年猪鼻の農人再興し、今専ら諸方に販きて家産とす。木城に唐人谷と呼處あり。むかし唐人來住して磁器を焼し事ありと云ふ。是元文の比にか又其以前の事が詳ならず。鷹取焼の元祖ハ朝鮮人也。其流の陶工なる故何となく唐人谷とよふか。猶考ふへし。」 | 青柳1993                             |
| 高取焼 |    |        | 寛保元年(1741)         | 『高取歴代記録』  | 西皿山窯開窯   | 西日本1992<br>尾崎2013                  |
| 高取焼 |    |        | 寛延2年(1749)         | 『高取歴代記録』  | 「高取東山御焼物所之記」が高取焼仕組記録として作られ、高取権八・五十嵐次兵衛ら高取陶工に渡される   | 尾崎2013                             |
| 須恵焼 |    |        | 宝暦8年(1758)         | 『筑前国続風土記附録・同拾遺』   | 新藤安平常興、白磁に適した磁土を発見、有田南川原の陶工の指導により須恵窯開窯   | 九州陶磁文化館2010・永竹ほか1982               |
| 須恵焼 |    |        | 宝暦14・明和元年(1764)    | 『筑前地方近世年表』  | 『筑前国続風土記拾遺』を参考として「此年新藤安平糟屋郡須恵村に窯を築き、南京焼を製す(拾)」と記述  | 伊東1948                             |
|     |    |        | 宝暦末~明和初(1763~1764) | 『望春隨筆』  | 「……長谷山浄満寺に皿山あり。摺鉢・水瓶類也とそ。宝暦の末より明和之初迄焼たりしか後退転す。……」  | 秋月1996<br>甘木歴史2006                 |

| 焼物名                     | 番号 | 関連窯名           | 年月日                | 史料名                               | 内容  | 備考                  |
|-------------------------|----|----------------|--------------------|-----------------------------------|---|---------------------|
| 須恵焼                     |    |                | 宝暦年中(1751~1764)    | 『筑前国統風土記附録』の巻34「表糟屋郡上 須恵村」の項の「皿山」 | 「伊勢山東原といふ所にあり。〔案るに上古陶器を作りし地なる故、村の名をもすへと云にや。防州にもすへ崎と云所有。〕宝暦年中寺社司の下吏新藤安平といへる者発起して新に陶器窯を営造し、南京焼を製せん事を有司に請ふ。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978  |
| 須恵焼                     |    |                | 宝暦年中(1751~1764)    | 『筑前国統風土記拾遺』の巻40「表糟屋郡下 須恵村」の「土産」   | 「瓷器 伊勢山東原と云所にて製す。今其地を皿山と呼へり。〔西須恵の地雑居す。但上須恵に近し。〕居民三拾二戸窯二所に在。本登〔廿二竈〕新登〔十三竈〕と云。白瓷の茶碗 花瓶 酒壺 盆 鉢 其外種々の皿器を焼出す。此處は大いに近く薪木多く且洞流に依て水碓を数多構へ陶土を舂しめ人功を助くれば陶師の便宜自ら地利に叶へり。其初宝暦年中寺社司の下吏に新藤安平と云者有。南京焼の器物を製せん事を官に請ければ、則許容有て同十四年此所に窯を築き・〔後略〕」 | 青柳[1993]            |
| 能古焼                     |    |                | 明和年中(1764~1772)    | 『筑前国統風土記附録』の巻40「早良郡下 残島」の項        | 「明和の比より此嶋にて陶器を製す。」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978  |
|                         |    |                | 明和2年(1765)         | 『石城志』巻7の「土産 上」「瓦工」の項              | 「土器師瓦町に住す、数家あり。天正6年丁丑、宗像社を大宮司氏貞再造せられし時、煉瓦師博多津中道場僧金師といふ名あり。されば古へより当津にて瓦を作りしなるべし。」  | 津田1977              |
|                         |    |                | 明和2年(1765)         | 『石城志』巻7の「土産 上」「瓷器(スヤキモノ)」の項       | 瓦町に陶工数家あり。近世、惣七〔先祖は播州より来る正木氏。〕といふ者良工にて、「風爐・手爐・丁字風爐・或は臺ヒチリン・智首坐ヒチリン・又は植木鉢・やうの物を製す。〔智首坐は聖福寺の塔頭盧白院に住せり。炭薪を用ゆるに便利なる事を工夫して、初て此ヒチリンを作らしめり。〕江戸具外近国にて是を賞す。」   | 津田1977              |
|                         |    |                | 明和2年(1765)         | 『南筑明覧』山門郡柳川城の「城外・市中・沖ノ端並二城下ノ村」の項  | 「一 南筑ノ産物ニテ、毎歳東武二進献スル品物ハ三月、風爐前土器、鹽鴨、六月、和紙、海草 九月、底取灰土鍋、海月、十一月、干白芋茎、鱗蓋辛」   | 戸次1765(筑後遺籍刊行会1979) |
| 蒲池焼                     |    |                | 明和2年(1765)         | 『南筑明覧』三漕郡の項                       | 「一 蒲池村ノ家永彦三郎ハ、土器師ナリ。太閤朝鮮征伐ノ時、肥前名護屋ニ於テ土器ヲ献ゼシガ、太閤御感アリテ御朱印ヲ給ヒ、土器師ノト為シヌ。今ニ二十三石ヲ領ス。」   | 戸次1765(筑後遺籍刊行会1979) |
|                         |    |                | 明和4年(1767)         | 『桑野岳幸家文書』の「年代記」、「明和四丁亥」の項         | 「当春ヨリ鞍手郡山口村百姓惣兵衛ト申者」屋鋪工伊万里焼皿茶碗類焼出ス、所々ヨリ見物多シ」  | 西日本文化協会1990         |
| 須恵焼<br>高取焼<br>伊万里焼<br>風 |    | 西皿山窯<br>山口浅ヶ谷窯 | 明和4年(1767)         | 肥後天草の庄屋・上田家に伝わる『近国焼物山大概書上帳』       | 「筑前領焼物山三ヶ所」須恵皿山・西町皿山・山口皿山   | 須恵町2003             |
| 上野焼                     |    |                | 明和4年(1767)         | 上野焼の獅子形香炉外面の刻書                    | 「行歳七十七 十時甫好」  | 歴民2001              |
| 須恵焼                     |    |                | 明和6年(1769)         | 須恵焼の白磁釈迦像台座(須恵町指定有形文化財 No.11)     | 外底に「明和六年 丑四月八日 施主 植木村現蔵」、内底に「須恵皿山作者 森氏」の銘(須恵焼最古の銘)  | 歴民2001              |
| 上野焼                     |    |                | 明和7年(1770)         | 上野焼の白釉鉄釉流し彫牡丹文徳利の外面の刻書            | 「行年八十歳 十時甫紹作」   | 歴民2001              |
| 高取焼                     |    |                | 明和8年(1771)         | 『高取歴代記録』                          | 「七代治之、友泉亭に於て御焼見學」   | 西日本1992             |
| 上野焼                     |    |                | 明和~安永年中(1764~1781) | 「本登御用目録控」(『萬々代控』〔吉田文書〕)           | 上野焼の土として伊方土・夏吉土・市場土・笹尾土が登場する。   | 井上1943              |
| 坂東寺焼<br>水田焼             |    |                | 安永6年(1777)         | 『校訂筑後志』巻二の「土産」                    | 半田土鍋 「下妻郡水田村近藤家の製する所、最も絶品なり。府君毎歳東武に進献あり。」   |                     |
| 坂東寺焼<br>水田焼             |    |                | 安永6年(1777)         | 『校訂筑後志』巻二の「土産」                    | 風爐前土器 「上妻郡熊野村、田中家の製する所、甚だ奇品なり、是も亦邦君江城に進献あり。又大小の土器あり、俗これを三斗、五斗、七斗間の土器と号す。又杯(さかつぎ)・土器(かほらけ)あり、上品を内曇(うちぐもり)と名く。」   |                     |
| 釈形焼<br>星野焼<br>朝妻焼       |    |                | 安永6年(1777)         | 『校訂筑後志』巻二の「土産」                    | 陶器 「生葉郡星野村十籠名の産なり。往年上妻郡釋形(しゃくかた)焼を伝來し、近世建山焼の茶器を製す、最も好品なり。先君命ありて、御井郡朝妻の地に於て陶器を製し遠近に販ぐ。其製肥州の伊萬里焼に齊し、今廃せり、惜むべし。」   |                     |

| 焼物名         | 番号 | 関連窯名   | 年月日             | 史料名                               | 内容   | 備考                                       |
|-------------|----|--------|-----------------|-----------------------------------|--|--|
| 坂東寺焼<br>水田焼 |    |        | 安永6年(1777)      | 『校訂筑後志』巻之二的「土産」                   | 坏子「下妻郡水田村・三瀬郡田川村の産、風爐・火鉢・水甕等の製、大に民用に利あり。」  |  |
| 高取焼         |    |        | 安永8年(1779)      | 『高取歴代記録』                          | 「東山高取焼仕法記」を五十嵐次兵衛・高取唯作・高取市郎ら藩に提出   | 尾崎2013                                   |
| 高取焼         |    |        | 安永8年(1779)      | 『高取歴代記録』                          | 『血山役所記録』成る   | 西日本1992                                  |
| 能古焼         |    |        | 天明元年(1781)      | 『筑前国統風土記拾遺』の巻43「早良郡上 残嶋浦」の「神宮寺」の項 | 「・・此寺の上の山に陶器を造る土あり。天明の初年此土を取て製せしかいくほとなく其事やみたり。」  | 青柳1993                                   |
| 須恵焼         |    |        | 天明4年(1784)      | 須恵焼の染付花瓶(須恵町指定有形文化財 No.12)の外面の染付銘 | 「天明四年 血山 忠市」   | 歴民2001                                   |
| 宗七焼         |    |        | 天明6年(1786)      | 達磨像体外の刻書                          | 「西戒壇祖師堂達磨 口覚大師尊像 博多津陶工正木宗七壁茂造 天明六年丙午閏十月初五日 古横岳徳隠薩和尚寄附 現住戒壇院太室玄昭謹記」   | 歴民2001                                   |
| 須恵焼<br>能古焼  |    |        | 天明7年(1787)      | 有田の『血山代官旧記覚書』(多久文書)               | 「筑前、鋸嶋、須恵両山へ有田筋より佐十郎と申す者、焼物細工に罷越し居り候段、相聞き候に付、補方のため、下目付共差し越され候処…(略)…佐十郎は有田中樽新九郎・良之進・為次郎と名を替えた。小倉あか山(清水山)へ所を替えた。絵書きき作十郎の元の名は長之進・為次郎といい、武雄筒江山の者であり、親の新九は血山に出生し筒江山に在りながら血山上幸平山に居る」 | 九州陶磁文化館1992<br>大橋1989<br>宇治2010          |
| 高取焼         |    |        | 天明8年(1788)      | 小石原高取の陶器の厨子の刻書                    | 「謹再興祠製口(員)満攸 口天明八戊申年 晩秋吉辰日 竈門山大先達 権大僧都法印 亀石坊有弁 白敬」   | 歴民2001                                   |
| 上野焼         |    |        | 天明年中(1781~1789) | 『八代郡誌』                            | 「肥後高田焼(八代)藤四郎家三代藤四郎豊前上野へ至り、十時孫右衛門、同榮藏、渡久之丞、吉田善藤太へ陶法を伝授す。」  | 井上1943                                   |
| 上野焼         |    |        | 寛政2年(1790)      | 『万々代控』                            | 上野焼、銅釉からできる緑青釉初めて現われる  | 九州陶磁文化館1992/2010<br>永竹ほか1982<br>朝日新聞1981 |
| 宗七焼         |    |        | 寛政4年(1792)      | 香炉の体外の刻書                          | 「寛政四年 正木宗七作 (印銘)」  | 歴民2001                                   |
| 星野焼         |    |        | 寛政7年(1795)      | 久留米藩で『山方小物成方格帳』を小川勘左衛門が補筆する       | 「同所本星野名二而血・茶碗焼之事 / 元文二巳年(1737)、同所仙頭と次右衛門依頼被仰付、釈形焼之手筋二焼立候処、其以後断絶、只今二而は近年同村之内十龍名二而、宇平次焼立候、御目付才判二而乾山焼之手筋も焼立被仰付候事」   | 佐々木2006                                  |
|             |    |        | 寛政8年(1796)      | 『近国焼物山大概書上帳』                      | 「柳川領血山之分」に黒崎血山、星野血山、「筑前領血山之分」に須恵血山、西町血山、「豊前領血山之分」に天野血山、藤原血山、添田血山、今藤血山、漆尾血山、清水血山、小石原血山が記述される  | 大橋2010                                   |
| 高取焼         |    | 中野上の原窯 | 寛政10年(1798)     | 『筑前国統風土記附録』巻18 上座郡下小石原の項の「中野」     | 「天和年中よりの陶製ハ止て、享保の末より高取焼にならひて民用に便する磁器を製せり。塵工なり。今陶家八戸、竈三所にあり。…」  | 加藤・鷹取1977/1978                           |
| 高取焼         |    |        | 寛政10年(1798)     | 『筑前国統風土記附録』巻18 上座郡下赤谷村の項          | 「スギソイといふ所に白土石を産す。」   | 加藤・鷹取1977/1978                           |
| 高取焼         |    | 犬鳴窯    | 寛政10年(1798)     | 『筑前国統風土記附録』巻25 鞍手郡上犬鳴谷の項          | 「・・昔は磁器を作り、炭を焼、紙を漉、…」<br>「血山跡」に「柚の木谷口と云所にあり。本編に見へたる陶器を製せし所也。今も犬鳴焼といふ、焼物稀に民家にあり。」   | 加藤・鷹取1977/1978                           |
| 高取焼         |    |        | 寛政10年(1798)     | 『筑前国統風土記附録』巻27 鞍手郡下頼野村の「鷹取山古城」の項  | 「永満寺村に境へり。此山の西北の谷二かまの尾と云所有り。古へ陶器を焼し所といふ。…」   | 加藤・鷹取1977/1978                           |
|             |    |        | 寛政10年(1798)     | 『筑前国統風土記附録』巻28 遠賀郡元上畑村の項          | 「此村中にて陶器を掘出せる事あり。宗像大宮司繁栄の時祭器を作りし所なるにや。」  | 加藤・鷹取1977/1978                           |

| 焼物名 | 番号 | 関連窯名                      | 年月日         | 史料名                                | 内容  | 備考                 |
|-----|----|---------------------------|-------------|------------------------------------|---|--------------------|
| 須恵焼 |    |                           | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻34 表糟屋郡上 須恵村の項の「皿山」    | 「伊勢山東原といふ所にあり。〔案るに上古陶器を作りし地なる故、村の名をもすへと云にや。防州にもすへ崎と云所有。〕宝暦年中寺社司の下吏新藤安平といへる者発起して新に陶器窯を営造し、南京焼を製せん事を有司に請ふ。有司其地所と薪材の料をあたへ安平に陶器の事を宰判せしむ。年々に陶工せる磁器をえらひ國用に充て其餘八他州にも販く事を許さる。安平ハ安永五年に功勞を賞し土籍に列せらる。翌年病をもつて没せり。其子長平父か遺跡を給ひ陶山の事を司らしめらる。渠もまた才覚ある者にて自ら業製して南京陶に擬す。製する所いよいよ精密にして奇麗なり。抑安平か始て南京焼を企てける由来を尋るに、宝暦の初年須恵村の内、蓬谷に金山間堀と云所有。又近村の諸山にて農夫等石炭を多く鑿り出しけるに、その堀り揚置たる土の中に陶器に用ひて好き白土あり。是をもつて西皿山 早良郡鹿原村 陶工を招寄、試に陶するに其製好からず。故に相しれる者一人をえらひ費用をあたへ、彼白土を携へ肥前国佐賀領南河原山の陶家に遣し、其法を習はしむ。其者六十餘日逗留して焼物の秘法を学ひ得て、もろもろの器物を焼出し携へ帰らぬ。しかりといへども、安平微賤の身にて最初に陶工を起せし時、家財を沽却しければ今更大なる作業を企へき餘蓄なし。幸に親しき富家二三輩をかたらひ、資財を借用して其志を遂げ、今に至りてかく繁昌を得待るとなん。」「登窯・陶器所等を表現した挿図あり」 | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 高取焼 |    | 釜床窯<br>田島窯<br>西皿山窯        | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻38 早良郡上 鹿原村の項の「陶器所」    | 「宝永五年の春より陶工高取・五十嵐二人を移して陶器を製せしめらる。今にしかり。寛文五年より元禄十七年までハ、上座郡鼓村にて陶工せり。元禄十七年の春、陶師高取某博多に居を移し、早良郡田嶋村の内六反間にも陶製せり。今も其跡あり。享保三年上座郡小石原村に居住せし陶工数人招かせられ、民用の陶器を製造せり。此所を土俗西皿山といふ。陶工の家廿七軒、窯所三ヶ所あり。」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 高取焼 |    | 田島窯                       | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻38 早良郡上 田嶋村の項          | 「六タンマといふ所にていにしへ陶器を製せし事あり。皿山の處に在るせり。今も陶器の破れ残り。」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 能古焼 |    |                           | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻40 早良郡下 残島の項           | 「明和の比より此嶋にて陶器を製す。」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 高取焼 |    | 大鳴窯<br>釜床窯<br>田島窯<br>西皿山窯 | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻46 土産考上 「鷹取瓷器(やきもの)」の項 | 「はしめ鞍手郡鷹取に居て瓷器を製す。故に鷹取焼と云となん。本編に詳なり。今も鷹取山古城の西北に釜の尾と云處あり。是陶器を製せし跡なるへし。又遠賀郡城畑村・鞍手郡大鳴谷にも陶器を製せし事有。…寛文五年より元禄十七年迄ハ、上座郡鼓村にて製せしか、元禄十七年の春鷹取八蔵居を博多に移し、早良郡田嶋村の内六反間、又那珂郡下鑿固村の大鋸谷にて製する事廿余年にして、又早良郡鹿原村の内、上の山にかまを移して今に製せり。其陶土ハ御笠郡向佐野村の土を佳とす。享保の初年鹿原村の内に陶工を置く。今西皿山と云。民間に用ゆる井桶及種々の磁器を製す。日用に便あり。其葉石は穂波郡合屋郷中村の内、高宮と云所より採用す。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 高取焼 |    | 中野上の原窯                    | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻46 土産考上 「中野陶器」の項       | 「本編に見ゆ。上座郡小石原村の内中野にて焼し昔の瓷器、たまたま民間に遺れるを見るに、南京の染付ありて奇麗なり。…又博多に慶長・元和の比、高原五郎七と云者あり。…今豊前国上野の陶工ハ、此五郎七か子孫也と云。また本州上座郡の小石原の陶工も五郎七か末也と云。…」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
| 須恵焼 |    |                           | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻46 土産考上 「須恵陶器」の項       | 「宝暦の初糟屋郡須恵村にて製せしめらる。伊萬里焼とならひて世に愛せらる。其製伊萬里に同し。…凡國中に磁器を製する所、上座郡小石原・嘉麻郡漆生村の内黒田・早良郡鹿原村の内同郡残嶋等なり。遠賀郡上畑村の土中よりも陶器を堀出す事あり。宗像大宮司盛なりし時に、祭器を製せし所なるへし。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
|     |    |                           | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻46 土産考上 「土器(かわらけ)」の項   | 「本編に早良郡飯盛村の製佳品なるよし見え侍れども、今は製せず。かはらけ屋敷といふ名のミ残り。博多にては今も多く作る。近年裏糟屋郡古賀村の内花津留年及夜須郡甘木町にて多く製す。…」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |
|     |    |                           | 寛政10年(1798) | 『筑前国続風土記附録』巻46 土産考上 「瓦」の項          | 「本編に見へたり。今博多瓦町に瓦師数家あり。…此町の瓦師等は昔より今に至りて丁役を免除し給ふ。此外宗像郡赤馬・穂波郡飯塚・裏糟屋郡濱男・夜須郡甘木・上座郡久喜宮・志摩郡今宿・早良郡鹿原等にも瓦師あり。今宿の瓦尤よし。府廷にもささく。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978 |

| 焼物名  | 番号 | 関連窯名 | 年月日         | 史料名                                  | 内容  | 備考                         |
|------|----|------|-------------|--------------------------------------|---|----------------------------|
|      |    |      | 寛政10年(1798) | 『筑前国統風土記附録』巻46 土産考上「瓦町陶」の項           | 「博多瓦町・祇園町辺に、瓦器〔焙轆(ほうろく)師といふ〕を製する家六七戸あり。火鉢・火ちりん・手爐等數品を製す。就中宗七と云者良工なり。…又夜須郡甘木・裏糟屋郡濱男にても瓦器類を製すれども、博多の瓦器に及はず。」  | 加藤・鷹取<br>1977/1978         |
|      |    |      | 寛政10年(1798) | 『筑前国統風土記附録』巻46 土産考上「土石類」の項           | 「瓷器土」「本編に出たり。穂波郡中村の内高宮といふ所の土八、早良郡西皿山に採用中。又同郡相田村の内やしき、上座郡赤谷村の内すぎぞい、鞍手郡中山村の内さるはみ、福井村の内さるはみ等にもあり。」   | 加藤・鷹取<br>1977/1978         |
| 皿山   |    | 野鳥窯  | 享和2年(1802)  | 『長舒公記』                               | 「秋月陶山を野鳥村に開く」   | (伊東1948)                   |
|      |    |      | 享和2年(1802)  | 『古史捷』                                | 「島原三重町金助同人子弟蔵右同町伊右衛門同人女房筑前小石原村武助同人女房延岡小峯町勝弥同人女房同人娘せいゞ九人皿山掛仕候二付下末広村助三郎方工宿為致度願被仰付」  | 郷土文化研究所1964<br>小石原やきもの関係年表 |
| 皿山   |    | 野鳥窯  | 享和2年(1802)  | 『望春随筆』                               | 「…作り人ハ豊前上野より二・三人来り、小石原よりも来る。後ハ豊前イマトウト云所よりも来る。寛政十一・二年より凡十年斗作る。摺鉢・イビ瓶・徳利之類也。都て小石原焼に似たり。…」   | 甘木歴史2006                   |
|      |    |      | 文化3年(1806)  | 宗七焼の女形面の体外の刻書                        | 「文化三年五月 正木宗七作 (印銘)」   | 歴民2001                     |
|      |    |      | 文化9年(1812)  | [中村平左衛門日記]                           | 豊前6代藩主小笠原忠固が小倉城下篠崎邑の清水皿山の窯場に立ち寄り、作品を見物した  | 北九州市歴博2000                 |
|      |    |      | 文化10年(1813) | 『筑前国統風土記拾遺』の巻25 嘉麻郡上 上山田村の両神宮の項の「土産」 | 「猪鼻に陶冶二戸あり。茶碗 土鍋 花瓶 酒壺 鉢等の類を造る。抑此村に陶器を製する始ハ元文の比に起れり。然るに其後中絶せしを、文化十年猪鼻の農人再興し、今専ら諸方に販きて家産とす。…」  | 青柳1993                     |
| 須恵焼  |    |      | 文化11年(1814) | 須恵焼の染付龍雲文鉢の外底面高台内の染付による文字            | 「文化十一年 戊四月初 長澤氏 山泉画」<br>(須恵町指定文化財 No.14;1982.4.1指定)   | 歴民2001                     |
| 上野焼  |    |      | 文化13年(1816) | 小笠原藩の御茶道頭古市氏11代自得齋の『江戸会記』            | 「 / 水指 萩 / 茶入 瀬戸耳付 / 茶碗 古上野 不変銘 銘 / 茶杓 山田宗也作 /」<br>文化14年正月23日、同年7月17日、同年6月3日にも上野焼が見える   | 井上1943<br>美和1942           |
| 上野焼  |    |      | 文化14年(1817) | 『江戸会記』                               | 「文化十四年六月三日 / 江戸、小笠原近江守亭 / 掛物 忠苗公御文、御茶頃絵御文 / 近江守様京二条御番の時なり / 釜、壺、古浄味作。水指、南蛮平 / 茶入、古上野 黄葉。」   | 赤池町1977                    |
| 一の瀬焼 |    |      | 文政2年(1819)  | 浮羽・朝田焼(一の瀬焼)の伝世品の染付鶴文茶碗の入った木箱の銘記     | 「文政二卯年二月二十三日 生葉郡浅田村一の瀬谷大福山(不明) 鶴絵茶碗 拾 平塚」   | 浮羽町1988(上)<br>永竹1982       |
| 上野焼  |    |      | 文政3年(1820)  | 小笠原藩の御茶道頭古市氏11代自得齋の『清風軒会記』           | 「 / 茶碗 古上野 /」<br>同年5月13日、文政5年正月元旦、同年正月2日、同年2月5日、同年2月28日、3月7日、文政6年正月元旦、同年3月7日、文政7年正月2日、同4月14日、同年5月17日、同年閏8月22日、同年9月13日、同10月3日、同年12月12日、文政8年正月22日、文政12年正月18日、文政13年正月2日、同年2月26日、同年同月28日にも上野焼関連で瓢形手付、狂言袴、香炉、茶入、薄茶入、水指、花入、茶碗、鉢などが見える | 井上1943                     |
| 須恵焼  |    |      | 文政4年(1821)  | 『筑前名所図会』巻9                           | 須恵皿山の記述がある  | 高倉1996<br>九州歴史資料館2009      |
| 上野焼  |    |      | 文政6年(1823)  | 小笠原藩の御茶道頭古市氏11代自得齋の『文政会記』            | 「 / 香合 上野 亀 / 花入 一重、作不知、花サン口 / 水指 上野 /」<br>同年8月12日にも上野焼が見える   | 井上1943                     |
| 一の瀬焼 |    |      | 文政6年(1823)  | 朝田焼(一の瀬焼)の磁器染付瓶の胴部外面の染付銘             | 「皿山」「文政六年 閏仲秋」  | 久留米市史1996<br>歴民2001        |
| 田香焼  |    |      | 文政8年(1825)  | 『勾金地方郷土史資料』                          | 「此年田川郡高野常安にて田香焼を始む」   | 伊東1948                     |
| 田香焼  |    |      | 文政8年(1825)  | 『近国焼物山大概書上帳』                         | 田香焼の藤原皿山(堂原焼)、今藤(今任焼)についてはこれよりも古く開窯していた   | 香春町2001                    |
| 須恵焼  |    |      | 文政11年(1828) | 須恵焼の染付菊花文神酒徳利の外面の染付銘                 | 「文政十一年 霜月吉祥日 上須恵皿山 小山田勝兵衛」「十六弁菊花文奉寄進」<br>(須恵町指定文化財 No.15;1982.4.1指定)  | 歴民2001                     |

| 焼物名  | 番号 | 関連窯名                | 年月日             | 史料名   | 内容  | 備考                |
|------|----|---------------------|-----------------|---|---|-------------------|
| 高取焼  |    | 西皿山窯                | 文政11年(1828)     | 西皿山窯跡(藤崎遺跡第35次調査)出土の窯道具の刻書                      | 「文政十一年 子五月吉日」   | 福岡市2006<br>力武2016 |
| 上野焼  |    |                     | 文政13・天保元年(1830) | 小笠原藩の御茶道頭古市氏11代自得齋の『天保小倉会記』                     | 「 / 花入 上野 華、白梅 / 」<br>同月3日、同年2月20日、同年3月6日、同年11月26日にも上野焼の茶入・建水・花入・香合が見える   | 井上1943            |
| 柳原焼  |    |                     | 天保3年(1832)      | 筑後柳原焼の大皿の篋刻                                     | 「天保三辰年八月朔日於柳原浅田薫保定造之」<br>九州医学専門学校の富田新氏蒐集の高台破片に、天保三辰年八月十三にちと刻せるものと、良八作と自己の名を篋刻せるものとがある。  | 梅野1934            |
|      |    |                     | 天保5年(1834)      | 『望春随筆』巻2の「皿山」の項                                 | 浄満寺皿山、野鳥皿山の記述あり   | 秋月1996            |
| 田香焼  |    |                     | 天保5年(1834)      | 「筒形花生」の箱本体及び添え状                                 | 天保5年の紀年がある<br>(大任町指定有形文化財)  | 大任町1998<br>歴民2001 |
| 高取焼  |    |                     | 天保 8年(1837)     | 『小石原村皿山記録』                                      | 高取源十郎重定、高取吉十郎重義により記される  | 小石原やきもの<br>関係年表   |
| 須恵焼  |    |                     | 天保 9年(1838)     | 染付菊文瓶子型神酒徳利(佐谷神社旧蔵)一対の外面の染付による文字                | 「天保九戊戌 三月吉日 願主 百田五内是村」<br>(須恵町指定文化財 No.16; 1982.4.1指定)  | 歴民2001            |
| 高取焼  |    | 西皿山窯                | 天保 9年(1838)     | 西皿山窯跡(藤崎遺跡第35次調査)出土の窯道具の刻書                      | 「戊十一 西皿山 天保九年」  | 福岡市2006<br>力武2016 |
| 高取焼  |    | 釜床窯                 | 天保 9年(1838)     | 『太宰府管内志』筑前之18鞍手郡の項                              | 「…寛文7年より又上座郡鼓村にうつりてやく」  | 小石原村第5集           |
| 上野焼  |    |                     | 天保10年(1839)     | 小笠原藩の御茶道頭古市氏11代自得齋の『文政天保京江戸会記』                  | 「 / 建水 上野 / 」<br>天保12年11月5日にも上野焼水指が見える  | 井上1943            |
| 高取焼  |    | 永満寺窯<br>白旗山窯<br>釜床窯 | 天保12年(1841)     | 『太宰管内志』筑前之18(鞍手郡)「高鳥居ノ城」の項                      | 当郡永満寺村の内に高取井ノ古城とてあり…また太閤朝鮮攻の時加藤清正彼國にて瓷器を製する者をつれ来たりて肥後國にて是を造らしむ其者ノ名を井戸新九郎と云故に其製せし器を井戸焼と云後に長政朝臣彼者を筑前に召されし鷹取ノ手塚水雪に命じてそにて瓷器を製せしめ給ふ是に依て鷹取焼となつ、慶長十九年より同郡内内ヶ嶽と云ふ處にて八蔵と云に仰せて焼かしめらる是を八蔵やきと云其後寛永七年穂波郡合屋ノ中村ノ内白旗山の北ノ麓に移りてやく、寛文七年より又上座郡鼓村にうつりてやく今の陶工は新九郎が末裔なり、 |                   |
| 星野焼  |    |                     | 天保12年(1841)     | 『太宰管内志』筑後之2(生葉郡)「星野」の項                          | 「[筑後志二卷]に陶器は生葉郡星野村十龍名の産あり往年上妻郡形焼を伝来し近來建山焼の茶器を製す尤好品なり先君命有て御井郡の地にして陶器を製しめ給ふ是を遠近に販ぐ其製肥州の伊万里焼に等し今廃せり惜しむべしとあり。」  |                   |
| 坂東寺焼 |    |                     | 天保12年(1841)     | 『太宰管内志』筑後之7(上妻郡下)「坂東寺」の項                        | 「…東大門ノ側有民居善陶如其酒盞爐具之類雖深草半田之甄家亦不及府君每歲獻之東武など見えたり、…[後略]」  |                   |
| 水田焼  |    |                     | 天保12年(1841)     | 『太宰管内志』筑後之7(下妻郡)                                | 「…さて下妻郡水田村に土師ありて半田(ハンダ)土鍋とて名産を出すその事くはし[く地鑑]に見えたり、」  |                   |
| 上野焼  |    |                     | 天保12年(1841)     | 『太宰管内志』豊前之3(田川郡下)「城田郷」の項                        | 「…序に云上野ノ瀧より少し下ノ方に上野ノ皿山とて陶器を作る處あり上野焼とて名産なり其製様は世に勝れてエミなる事もなければも酸酒ノ類を入れ置くに長く傷ふ事なしはは近古に筑前国鞍手郡高鳥井より移れりと云高鳥居に居たりし陶工は太閤朝鮮征伐の時加藤清正彼國よりつれ来たりし陶師の子孫なり上野にらひて当郡今任村又小倉の清水にも陶器を作れども其(ソノ)製はるかにおとれり、」   |                   |
|      |    |                     | 天保13年(1842)     | 筑紫野市原田の原田地区遺跡第80地点(原田宿の代官所跡)から出土した小石原産陶器の徳利の墨書銘 | 「天保十三 染屋[嘉]口 寅三月」   | 筑紫野市2018          |
| 宗七焼  |    |                     | 天保13年(1842)     | 宗七焼の施釉陶器の炉の外面の刻書                                | 「天保十三壬寅年 口口吉日 天神 陶工正木宗七 口口 作」   | 歴民2001            |
| 須恵焼  |    |                     | 弘化 3年(1846)     | 蓋裏鉄絵虎文蓋付染付牡丹唐草文鉢の蓋裏                             | 「七十八翁秋圃(花押)」  | 歴民2001            |
| 上野焼  |    |                     | 嘉永7・安政元年(1854)  | 田内梅軒の『陶器考、同附録』嘉永7年、安政2年著述、明治16年刊                | 上野焼の記述あり  | (井上1943)          |

| 焼物名 | 番号 | 関連窯名   | 年月日            | 史料名                                      | 内容   | 備考                                     |
|-----|----|--------|----------------|--|--|--|
| 田香焼 |    |        | 嘉永7・安政元年(1854) | 個人所有の香炉蓋裏の刻銘                             | 「安政年 銅原 田香」  | 大任町2004<br>歴民2001                      |
| 野間焼 |    |        | 安政3年(1856)     | 『福岡藩民政誌略』                                | 「那珂郡野間村柳河内にて焼物を製す(民)」<br>京都の陶工佐々木与三を招き、野間血山窯開窯。  | 伊東1948<br>九州陶磁文化館1992/2010<br>永竹ほか1982 |
| 田香焼 |    |        | 安政3年(1856)     | 緑釉徳利の外底面に墨書の文字                           | 「安政三 〇〇 辰十月」   | 歴民2001                                 |
| 高取焼 |    | 中野上の原窯 | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻21 上座郡(上)小石原村の項の「土産」         | 中野にて陶器を製す。罎(とくり)花瓶 碾茶壺 摺盆 瓦寶(いび)等の類なほ種々の土器を造る窯三處に在り。天和二年白瓷を製して中野焼と云しを後に其製は止て高取焼に習て民用の諸器を作る。・・」   |  |
| 高取焼 |    | 釜床窯    | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻21 上座郡(上)鼓村の「大行事社」の項の「天照大神宮」 | 「釜床に在り。・・延宝九年陶師高取氏建立す。其家祖以来転任せし處々の神を勧請すと云。明和年中に此神の靈験に依て盜賊の難を避し事高取家記にあり。本編に寛文七年國君より高取の陶工を此村の鶴に置て陶器を焼くとあれど何れの時に絶しに歎今は爰にては製せずなりぬ。」  |  |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻21 上座郡(上)赤谷村の項               | 「村ノ東杉添と云處より陶器の葉に用る白土を出す。」  |  |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻25 嘉麻郡上山田村の兩神宮の項の「土産」        | 「猪鼻に陶冶二戸あり。茶碗 土鍋 花瓶 酒壺 鉢等の類を造る。抑此村に陶器を製する始ハ元文の比に起れり。然るに其後中絶せしを、文化十年猪鼻の農人再興し、今専ら諸方に販きて家産とす。木城に唐人谷と呼處あり。むかし唐人來住して瓷器を焼し事ありしと云フ。是元文の比にか又其以前の事か詳ならず。鷹取焼の元祖ハ朝鮮人也。其流の陶工なる故何となく唐人谷とよふか。猶考ふへし。」 |  |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻26 嘉麻郡下漆生村の項                 | 「……田中に陶工二戸有。其製猪鼻焼に類す。豊前国上野の流なり。」   |  |
| 高取焼 |    | 犬鳴窯    | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻29 鞍手郡上大鳴谷の項                 | 「・・又血山址本谷筋に在。今も其所を血山と云。高原五郎七 慶長元和頃の人と云者瓷器を製せし所なり。今は陶工なし。犬鳴焼とて其陶器を民家に稀に持伝ふ者有。・・〔後略〕」  | 青柳1857                                 |
| 高取焼 |    | 犬鳴窯    | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻31 鞍手郡下乙野村の項                 | 「……又乙野原と云處に高原五郎七と云者の墓あり。此者は犬鳴谷にて瓷器を焼し者にて土を此地より取しと云ふ。……」  | 青柳1857                                 |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻31 鞍手郡下鶴田村の項                 | 「・・豊前国上野焼の瓷器の葉を用る土を出す。其代物として年々し播鉢三十を当村に贈る。」  | 青柳1857                                 |
| 高取焼 |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻31 鞍手郡下永満寺村の「土産」             | 「・・又古へ当村にて高取焼とて陶器を製せしか今ハ絶たり。其跡ハ宅間の南豊前国上野に通ふ山径の側に在。今も竈床と云。傍にある池をかま池と云。破瓦など多し。猶土産門に詳也。」  | 青柳1857                                 |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻32 遠賀郡元上畑村の「荒平社」の項           | 「村南菅町余羅か岳の麓に唐人山といふ處あり。宗像家在城の侍此所に陶器を焼しか其煙城中にかかりいふせしとて是を廢せられしよし伝へたり。今に其破瓦土中に埋れてあり。其昔唐人來り焼初し故に名つくといふ。」  |  |
|     |    |        | 安政4年(1857)     | 『筑前国統風土記拾遺』巻37 宗像郡中大井村の項                 | 「・・又土器田と云地有。宗像の祭の土器を製せし處也と云」   |  |

| 焼物名   | 番号 | 関連窯名 | 年月日                            | 史料名                            | 内容  | 備考                          |
|-------|----|------|--------------------------------|--------------------------------|---|-----------------------------|
| 須恵焼   |    |      | 安政4年(1857)                     | 『筑前国続風土記拾遺』巻40 表糟屋郡下 須恵村の「土産」  | 「瓷器 伊勢山東原と云所にて製す。今其地を皿山と呼へり。[西須恵の地雑居す。但上須恵に近し。] 居民三拾二戸窯二所に在。本登[廿二竈] 新登[十三竈]と云。白瓷の茶碗 花瓶 酒壺 鉢 鉢其外種々の器物を焼出す。此處は大山に近く薪木多く且洞流に依て水碓を数多構へ陶土を舂しめ人功を助ければ陶戸の便宜自ら地利に叶へり。其初宝暦年中寺社司の下吏に新藤安平と云者有。南京焼の器物を製せん事を官に請ければ、則許容有て同十四年此所に窯を築き土木の料を与へ安平をして其事を指揮せしめらる。扱出す所の焼器をえらひ国用に充て其余は他州にも販く事を許さる。・・[中略]・・抑安平か此山を起せし始末を聞に、宝暦の初年須恵村の内蓬谷の金山まふと云所及近辺の諸山にて石炭を採穴の内より掘出せる白土を見て、西皿山[早良郡鹿原村]の陶工を招寄て試に陶器を焼しむるの其製良からず。故に相知れる者一人を撰ひ用脚を与へ彼白土を齎し肥前国佐賀領南河原山の陶家に遣し其法を習はしむ。其者六拾余日逗留して焼物の秘術を学ひ得て数品の器物を焼出して携へ帰りぬ。・・[後略] |                             |
| 高取焼   |    | 西皿山窯 | 安政4年(1857)                     | 『筑前国続風土記拾遺』巻43 早良郡上鹿原村付皿山の項    | 「枝郷皿山 俗に西皿山と云。享保三年より上座郡小石原村の陶工数家を爰に移して陶器を製せしめらる。今八年を追て番昌し漸く村落をなせり。」<br>「村の北西新町の南辺に小山あり。上の山といふ。宝永五年の春陶器所と定らる。即陶工高取五十嵐の二氏爰に居を移して 其始ハ上座郡鼓村に在。其後博多住す。香爐 水指(碾茶壺) 天目(茶盃) 香合等種々の器物を製せしめらる。良工なり。世の人爰を東皿山といふ。」   |                             |
| 能古焼   |    |      | 安政4年(1857)                     | 『筑前国続風土記拾遺』巻43 早良郡上残嶋浦の「神宮寺」の項 | 「・・此寺の上の山に陶器を造る土あり。天明の初年此土を取て製せしかいくほとなく其事やみたり。」   |                             |
| 高取焼   |    | 田島窯  | 安政4年(1857)                     | 『筑前国続風土記拾遺』巻45 早良郡下田嶋村の「友泉亭」の項 | 「陶器所 六段間と云所にて昔陶器を製せり。今も其破綻たるもの多く残れり。」   |                             |
|       |    |      | 安政4年(1857)                     | 『筑前国続風土記拾遺』巻48 志摩郡上谷村の「土産」の項   | 「・・又瓦工三戸あり。其製殊に佳なり。」  |                             |
| 田香焼   |    |      | 安政4年(1857)                     | 金森得水の『本朝陶器攷證』                  | 「田川郡香春村 田香焼のこと八田川今任村にて焼物いたし候、上手ゆへ段々世話いたし、当時香春村に住居仕候て焼立候、田香の二字ハ自得より遣し候、則當時初代にて候」   | 香春町2001<br>井上1943<br>藍田1937 |
|       |    |      | 安政6年(1859)                     | 原田家津屋崎人形型(通称加藤清正像)の陰刻銘         | 「安政六〇〇〇〇〇四月朔日」「〇〇〇間屋藤兵衛」  |                             |
| 田香焼   |    |      | 文久2年(1862)                     | 緑釉徳利の外底面の刻書                    | 「文久二 戌 四月廿日 田香」   | 歴民2001<br>大任町2004           |
| 須恵焼   |    |      | 文久3(1863)                      | 染付仙人親子図茶杓立の体部外面の染付による文字        | 「文久三亥春日 紀荒写(花押)」「中牟田卯右衛門」   | 歴民2001                      |
| 高取焼   |    |      | 元治2・慶応元年(1865)                 | 東皿山窯の亀形蓋物の外底の刻書                | 「為山口用器雪杉重任製之/慶應元乙丑仲秋中旬」   | 歴民2001                      |
| 須恵焼   |    |      | 慶応3年(1867)                     | 「七卿在西日誌」                       | 太宰府に滞在中の五卿(三条実美・三条西季知・東久世通禧・四條隆調・壬生基修)が須恵焼皿山陶所を見物する<br>「乗馬、午後須恵皿山陶所見物。宇美社参詣。暮夜帰宰。所々藤花盛開」  | 伊東1934                      |
| 高取焼   |    |      | 慶応3年(1867)                     | 東皿山の陶器の亀形蓋物の外底部の刻書             | 「為山口用器雪杉重任製之 慶應元乙丑仲秋中旬」   | 歴民2001                      |
| 筑後赤坂焼 |    |      | 文久元年(1861)～慶応元年(1865)の頃に詠んだものか |                                | 野村望東尼が筑後赤坂焼を詠んだ歌あり<br>「筑後のまた見あるきけるにあか坂といふ處ありければ<br>あか坂の埴生のこやのすえ物のいろはくろくそ焼いてにけり」   | 浅野1935                      |
|       |    |      | 慶応4・明治元年(1868)                 | 「添田町諸商賣諸職書上帳」(添田手永大庄屋中村家文書)    | 「高野焼」「今任焼」の記述あり。<br>高野は香春町の、今任は大任町の、田香焼のこと  |                             |
| 乙子焼   |    |      | 慶応4・明治元年(1868)                 | 「上高屋、内垣村諸納控写」に連上として辰十一月に記載     | 京都郡犀川町(みやこ町)上高屋の乙子焼がこれ以前に開窯していたらしい<br>「焼物釜 壺枚」  | 広津1981                      |

注

(1)この表は、当館文化財調査室長補佐の伊崎俊秋氏(令和2年度当時)が作成したものを、学芸調査室学芸研究班の酒井が補訂したものである。

## 4 窯跡の保存と活用

今回の調査では、リスト上 106 件の窯跡を把握した。その内、窯本体の確認はできなかったものの陶片や窯道具、窯壁の発見等により確認したものを含め 52 件を確認することができた。その数はリストのおよそ半数であり、残りは所在場所の情報が不明確で、窯跡を特定できなかったものであり、災害等により消滅したものもあった。

既存資料や採集資料、文献史料からの検討により、それらの消長は p166 の表のように整理した。創業や廃絶の具体的な年代がおさえられるものは多くはないが、今後の調査により精度が高まることを期待したい。

第 1 章から述べてきた通り、近世窯業関係遺跡は、大名の庇護にあった国焼はもちろん、地域の産業や政策と深く関わり、地域文化の特色に相関する民窯も、福岡県あるいは当該地域にとって必要な埋蔵文化財として認識でき、必要なものについては埋蔵文化財包蔵地としての周知化と、重要なものについては指定等による保護措置が必要と考える。

重要なものとしての判断基準は、陶磁史的に画期となるもの、系譜において代表的なもの等が考えられ、かつ遺存状態が良いものが挙げられる。

旧国毎にみても、筑前国（福岡藩領）では、高取焼の永満寺宅間窯、内ヶ磯窯、山田窯、白旗山窯、釜床窯、大鋸谷窯、東皿山窯がある。これらの内、文化財指定を受けているのは永満寺宅間窯（直方市指定）、釜床窯（福岡県指定）である。内ヶ磯窯は調査後保全措置を図った上でダムに水没、山田窯はボタ山下に埋没、大鋸谷窯と東皿山窯は古い開発により状況が不明瞭である。特に白旗山窯は小堀遠州の好みを反映した高取焼を初めて焼成した窯であり、磁器焼成も実験的ながら取り組んでいる、高取焼の展開を考える上で画期となる窯であり、保護措置を図るべき窯と考える。

また、高取焼から派生し、民窯として展開していった、現在の小石原地区に点在する窯跡は、一本杉 2 号窯跡のみが福岡県指定史跡として指定されている。これらの窯は小石原村（現・東峰村）により体系的に確認調査が継続され、中野上の原窯跡・火口谷窯跡・金敷様裏窯跡の調査成果が公表されている。中野上の原窯跡は素材に恵まれず継続しなかったものの磁器生産に本格的に取り組もうとした窯であり、本県の陶磁器生産で重要な位置を占める。既に県指定の一本杉 2 号窯跡を含め、その後に展開する窯跡群を包括的に保護していくことも検討したい。

豊前国については、上野焼の釜ノ口窯跡、皿山本窯跡、岩屋高麗窯跡があり、お楽しみ窯である菜園場窯跡がある。菜園場窯跡は開発により確認され、現地から移設して保存されており、県の有形文化財（考古資料）の指定を受けている。上野焼の窯は岩屋高麗窯跡の一部が破壊されているものの、釜ノ口窯跡、皿山本窯跡いずれも残存しており、その持つ意義は極めて大きい。そのような意義から昭和 33 年（1958）から日本陶磁協会等が主体となり発掘調査が実施され、国指定の仮指定とされたものの、調査成果が十分に公表されなかったこともあり、未指定のままである。したがって、それぞれの窯跡や出土品の価値を明確化するための調査を経て、保護措置を図るべきである。その前提として、初期の釜ノ口窯跡を代表とした創業時期、技術系譜、製品の諸特徴の把握は、研究が比較的進んでいる高取焼と比較する上でも必須の作業である。また、基礎的な作業として、今回の調査ではかくし窯跡やカンバ窯跡等、先行研究で把握されているものの現地を特定できなかったものもある。上野焼の展開を考える上では、これら窯跡の確認が求められる。

筑後地域については、蒲池焼や坂東寺焼といった国焼の窯が、窯跡の確認等が十分なされておらず、平野部に位置することから大部分が失われている可能性があり、お楽しみ窯である柳原焼窯跡や東野亭焼窯跡も既に失われている。その中で、筑後において磁器生産に本格的に取り組んだ朝妻焼窯跡は特に重要である。

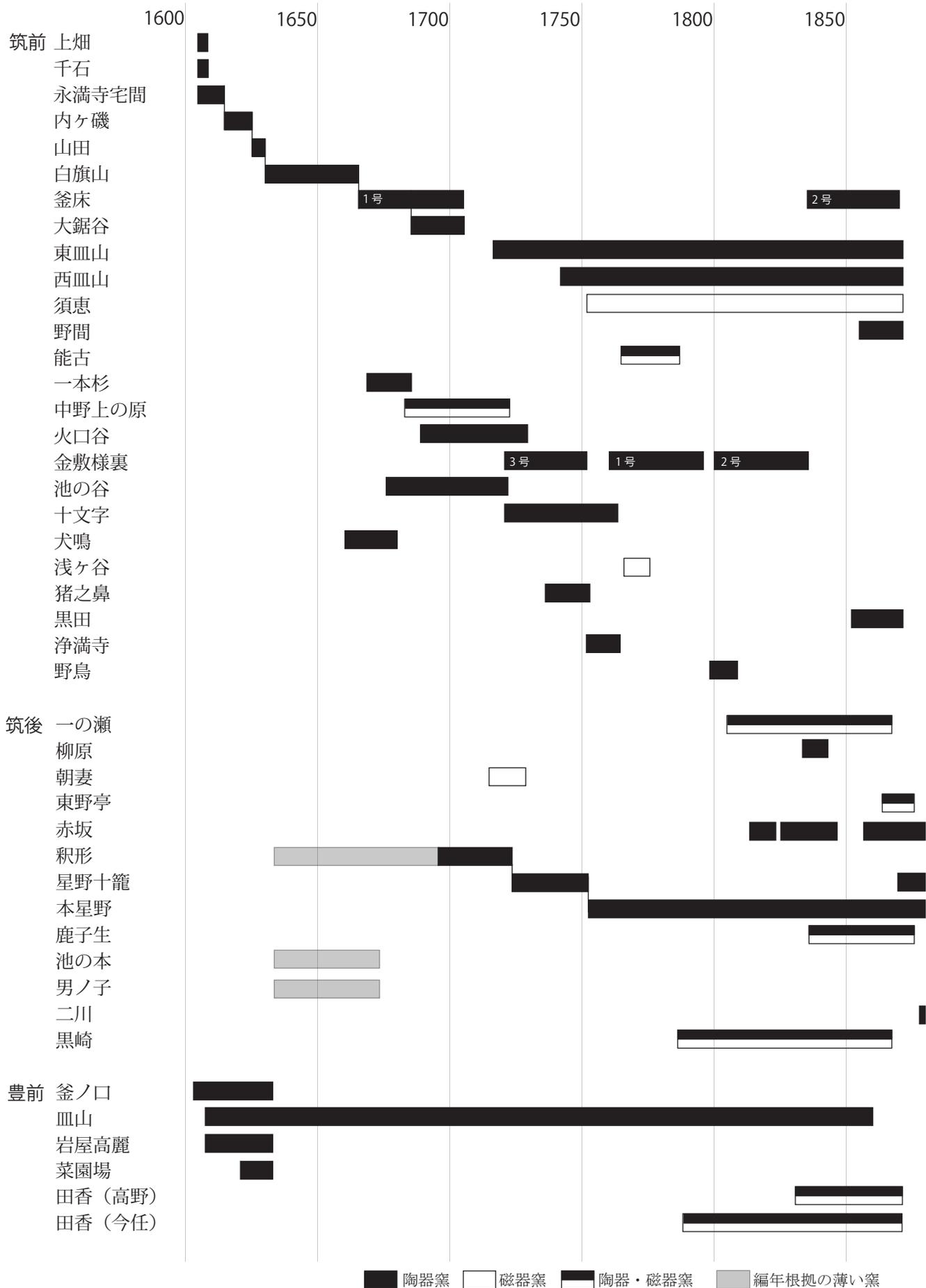
また、筑後地域は現在でも八女茶が大きな産業の一角を占めるが、この茶の文化は地域史として重要な位置付けがなされる。茶の貯蔵器である壺の生産は筑後山間部で早くから行われ、釈形焼や星野焼はそれを代表する。いずれも正式な発掘調査が行われておらず、操業時期は不明確なものも多い。釈形焼窯跡の創業時期や、より古式と考えられる池の本焼窯跡の詳細な情報が求められる。こうした茶生産に関わる陶器焼成窯については、学術的な確認調査を通して位置付けを行う必要がある。また、筑後地域の平野部の窯跡は既に失われたものが多いことを触れたが、二川焼は時期は比較的新しいとはいえ、上部構造の残存状況が良い。

隣県には佐賀県肥前古窯跡や大分県小鹿田焼、熊本県小代焼等、近世古窯跡を活かしながら現代の陶芸技術を継承している地域がある。佐賀や大分は窯や工房等が生む景観を文化的景観として保存するとともに特に佐賀では伝統的建造物群保存地区としても保全と活用が図られている。福岡県内では古窯跡を活かしたそうした取り組みは現時点では十分ではないが、今回の基礎的な把握を契機に保存と活用に向けた取り組みが活性化することを期待したい。

このように概観し、評価の方向性を示したが、注意すべきはそれぞれの窯業関係遺跡は、窯本体のみが保護の対象ではなく、工房を始めとして関連する諸遺構も保護の対象とすべき点である。県内の窯跡で積極的に工房が評価されているのは内ヶ磯窯跡と須恵焼窯跡のみである。検証するのは困難と思われるが、土取り場も意識する必要がある。また、窯に携わった工人の墓地も調査の対象となる。

今回行った近世窯業関係遺跡の現時点での悉皆的な把握により、課題や方向性が見出せるようになった。今回は埋蔵文化財包蔵地としての視点が主眼であったため、製品や窯道具の諸特徴については多く検討できなかった。今後、古代の土器編年と同様、近世遺跡を評価する上では出土する陶磁器の評価が肝要であり、そのためにも生産遺跡の評価が重要である。今回把握した窯跡とその出土品の検討が今回の調査を機に進展することを期待したい。

福岡県内窯業遺跡編年表（～明治）



## V おわりに

この報告書では、令和2年～4年度の4年間に渡った近世窯業関係遺跡調査をまとめた。

調査当時はコロナ下の緊急事態宣言により、令和2年度の1年間は資料集約に時間を費やすだけであったが、令和3・4年度には、窯跡のある現地での調査指導委員会開催と重点調査を進められた。最後の令和5年度の調査指導委員会では、雨の中で現地で開催し、この報告書を刊行に向けての十分な協議を行うことができた。

今回の調査では、大きく第1次調査の悉皆調査と第2次調査の重点調査の2つを行った。

第1次調査では関連論文、市町村史誌、市町村発掘調査報告書、歴史史料などから情報を集めた。その結果、窯跡で106件、関連遺跡で56件の情報を得ることができたのは、今回の成果の一つである。情報の中には、参考文献からの情報のみで不明な窯跡も多々あるが、現時点での福岡県内の近世窯業関連遺跡についての情報をまとめることができた。

第2次調査では、重点調査として福岡県内の近世窯業を考える上で、高取焼、上野焼、小石原焼、その他の地域の窯跡に注目して、関連する窯跡28件について現地確認を行った。調査は主に現地へ赴き踏査を行い、現況や遺物の採集から窯跡の有無を判断した。調査に赴いたほとんどの窯跡で遺物を表採集することができ、窯跡の存在を証明し、今回の報告書では、できるだけ採集した遺物は、実測して掲載することに心がけ、これまで知られていない遺物についても掲載できたのも今回の成果である。

これら2つの悉皆調査と重点調査で得られた情報をまとめたこの報告書をもとに、確認調査や本調査で詳細な情報が判明していけば、新たな知見を得ることができると期待される。

しかし、この報告書を刊行することで、窯跡や関連遺跡の情報が広まることによる遺跡の盗掘などで保護が疎かになることだけは避けて頂きたい。この報告書で掲載した遺跡が、現状よりもより良く保護されることを期待して刊行されたものである。

埋蔵文化財として取り扱うべき遺跡の範囲については、「I はじめに」で先述したが、再度ここで重要な部分のみを述べると、近世の遺跡の取り扱いについては、「地域において必要なものを対象とすることができる」とされており漠然としている所も多い。しかし現在の私たちが福岡県の歴史やそれぞれの地域の歴史を考える上では、文献史料以外の情報を知る上で埋蔵文化財の近世遺跡の取り扱いはより重視されるべきものと思われる。この報告書の刊行により、近世の窯業関係遺跡の取り扱いに関して、一つの方向性を示すことで、今後の遺跡保護に寄与できれば幸いである。

なお、この報告書で作成した第1次調査及び第2次調査については、市町村の文化財職員の情報提供と調査協力を得て成し遂げられたものである。ご協力頂いた地元の関係者の方々と市町村文化財職員の方々に再度、お礼を申し上げたい。

この報告書の刊行により、掲載された遺跡の保護がさらに進み、福岡県内の近世窯業関係遺跡の調査研究を行う上で、一助になれば申し分もない。

## 福岡県の窯業関係事象年表

- 1422 (応永 29) 【茶】この年または翌年に、僧で茶人の村田珠光が生まれる
- 1423 (応永 30) 【茶】周瑞禅師が筑後国鹿子尾村（八女市黒木町）に靈巖寺を建立、茶種子を播く
- 1522 (大永 2) 千利休（宗易）が生まれる（1522～1591.2）→ 天文 13 年（1544）説あり
- 1543 (天文 12) 武将で茶人の古田織部（重然）が生まれる（～1615.6.11）
- 1579 (天正 7) 小堀遠州が生まれる（遠州流の開祖、宗甫と号す。茶道は古田織部に学ぶ）
- 1592 (文禄 1) 3 月 文禄の役（壬辰倭乱）（～1593）  
12 月 豊臣秀吉は家長彦三郎に朱印状を与える
- 1596 (慶長 1) 朝鮮出兵の武将・大名帰陣。李朝系工人ら多数帰化し西日本諸域に開窯
- 1597 (慶長 2) 1 月 慶長の役（丁酉再乱）（～1598）
- 1600 (慶長 5) 9 月 関ヶ原の戦い。12 月に黒田長政が筑前名島城に、細川忠興が中津城に入る
- 1601 (慶長 6) 3 月 田中吉政が柳川城に、11 月に細川忠興が小倉城に入る  
※この頃、永満寺宅間窯開窯か。八山、高取八蔵の名を賜る  
※この頃、尊楷（上野喜蔵高国）、釜ノ口窯開く（説）  
※筑前上畑窯〔唐人焼窯〕（遠賀郡岡垣町上畑）と千石焼（宮若市千石）開窯説
- 1603 (慶長 8) 2 月 徳川家康が征夷大將軍となり、江戸幕府を開く
- 1604 (慶長 9) 11 月 筑後国守・田中吉政は土器師・家長彦三郎を土器司に命じる〔蒲池焼（柳河焼）〕  
※永満寺宅間窯開窯説（慶長 7 年説・11 年説あり）
- 1605 (慶長 10) 上野：釜ノ口窯開窯 → 慶長 6 年（1601）・7 年開窯説あり
- 1606 (慶長 11) 永満寺宅間窯が開窯される（慶長 7 年・9 年説あり）
- 1607 (慶長 12) 岩屋高麗窯が開窯される
- 1608 (慶長 13) 正木金右衛門博多瓦町にて瓦を焼く
- 1613 (慶長 18) 3 月 茶会記の『織田有楽亭、茶湯日記』に「茶碗 豊前焼」の記述あり
- 1614 (慶長 19) 内ヶ磯窯が開窯される（～1624）
- 1615 (元和 1) 4 月 大坂夏の陣（豊臣氏滅亡一元和偃武）
- 1616 (元和 2) 筑前国の小石原窯（中野焼）創まる
- 1619 (元和 5) 1 月 『吉田梵舜日記』に「豊前焼」の記述がなされる
- 1620 (元和 6) 11 月 筑後柳川の田中家が改易され、立花宗茂が陸奥国棚倉から柳河藩主に復帰する  
12 月 久留米に丹波福地山から有馬豊氏が転封される
- 1623 (元和 9) 3 月 上妻郡坂東寺村の田中平兵衛が久留米藩の御用土器師となる（坂東寺焼開窯）
- 1624～1643 有馬豊氏書状に「黒木の焼物」との記述がある。（後の釈形焼のことか）  
（寛永年間）
- 1624 (寛永 1) 高取焼の山田窯が嘉麻郡（嘉麻市）上山田唐人谷に開窯する  
※筑前・千石焼窯が開窯との説あり
- 1625 (寛永 2) 豊前の上野本窯（皿山）開窯説
- 1628 (寛永 5) 4 月 「遠州茶会記」に「茶入筑前焼」「筑前焼水指」の名で高取焼が初めて記載される
- 1630 (寛永 7) 高取焼の白旗山窯が飯塚市幸袋に開窯（～1665）される

- 1632 (寛永 9) 12 月 小倉藩細川忠利が肥後に転封、小倉に播州明石から小笠原忠真 (忠政) が入る
- 1640 (寛永 17) 4 月 細川氏の『三斎公伝書』(茶道四祖伝書) に「小倉焼皿・コクラヤキ」の記述
- 1661 ~ 1673 鞍手郡若宮町 (宮若市) 大字犬鳴の犬鳴焼窯が創業する  
(寛文年間)
- 1665 (寛文 5) 二代高取八蔵貞明、白旗山から小石原へ移り、小石原鼓窯開窯される
- 1682 (天和 2) 上座郡小石原村皿山 (中野) の中野焼開窯説 (~ 1722)
- 1686 (貞享 3) 黒田藩主光之は小石原鼓から早良郡田島村大鋸谷 (友泉亭御庭窯) に窯を移す
- 1688 ~ 1703 星野焼 [生葉郡星野村] 元禄年間、開窯説 (正徳年間 (1711-1715) 説あり)  
(元禄年中)
- 1698 (元禄 11) 釈形焼 [八女郡黒木町]: 伝世品の箱書に「元禄 11 戊寅」と記されたものがある
- 1704 ~ 1710 この初期、早良郡鹿原村上の山に東皿山窯 (御用窯) が築かれる  
(宝永年中)
- 1704 (宝永 1) 大鋸谷窯閉窯
- 1705 (宝永 2) 豊後の天領日田に、小石原系の陶窯 (小鹿田焼) が開かれる
- 1708 (宝永 5) 2 月 早良郡鹿原上の山 (福岡市早良区祖原皿山) に東皿山窯 (東山窯) 開窯する
- 1710 (宝永 7) 貝原益軒『筑前国続風土記』が完成する
- 1711 ~ 1716 生葉郡星野村の星野焼を藩主有馬氏が御用窯として復活する  
(正徳年中)  
※八女郡水田村野町の野町焼が始まる
- 1714 (正徳 4) 久留米の朝妻焼が藩命により八女釈形窯の焼物師により焼かれ始める
- 1716 (享保 1) 星野焼 (本星野焼) がこの頃に始まる
- 1718 (享保 3) 五代黒田宣政は小石原の陶工数人を移動させ、高取系西新町に西皿山を開窯する
- 1730 (享保 15) 福岡藩では、那珂郡山田村の庄屋・高橋善蔵から樫蠟の栽培が始まるとされる
- 1737 (元文 2) 星野焼の本星野窯が、星野仙頭与次右衛門の願い出で御用窯として認可される
- 1751 ~ 1764 宝暦年間の初頭に窯が本星野から十籠へ移る  
(宝暦年中)
- 1764 (明和 1) 表糟屋郡須恵村皿山にて新藤安平が須恵焼の窯を築き、白瓷を焼く  
※この頃に、秋月の長谷山浄満寺窯が開窯か (『望春随筆』)
- 1764 ~ 1771 早良郡残島で「明和の比より此嶋にて陶器を製す」(『筑前国続風土記附録』)  
(明和年中)
- 1765 (明和 2) 3 月 『石城志』巻 7 「土産 上」に瓦町の「瓷器 (スヤキモノ)」の項が設けられる  
※『南筑明覧』に、山門郡柳川城の風爐前土器、三潞郡蒲池村の家永彦三郎の記事がある
- 1766 (明和 3) 宗七焼: 黒田藩御用素焼物細工師・初代正木宗七死去
- 1767 (明和 4) 春 鞍手郡山口村 (宮若市) 浅ヶ谷で百姓惣兵衛が磁器焼物を焼成 (山口浅ヶ谷窯)  
11 月 『近国焼物山大概書上帳』に筑前領の須恵皿山・西町皿山・山口皿山が記載される
- 1764 ~ 1781 この頃の記録に上野焼の土として伊方土・夏吉土・市場土・笹尾土が使われるとい  
(明和~安永年中) う記載がみられる

- 1777 (安永 6) 『筑後志』の「土産」に、半田土鍋、風爐前土器(上妻郡熊野村)などの記載がみられる
- 1781～1789 黒崎焼が興る  
(天明年中)
- 1781 (天明 1) 『高取家記録』が成立する
- 1784 (天明 4) 柳河藩領の黒崎焼に肥前有田の陶工が移る
- 1787 (天明 7) 有田の『皿山代官旧記覚書』に須恵焼・能古焼の記載がみられる
- 1788 (天明 8) 筑後国の水田焼が有馬領主の御用窯となる。筑後国の三原窯が開窯する
- 1798 (寛政 10) 『筑前国続風土記附録』完成。焼物・瓦などに関する記述多々あり
- 1799 (寛政 11) 秋月藩で野鳥窯が開窯される
- 1812 (文化 9) 筑後で赤坂焼が始まる
- 1813 (文化 10) 『筑前国続風土記拾遺』嘉麻郡上山田村の項「猪鼻に陶冶二戸あり。」の記述
- 1817 (文化 14) 太田勝次郎筑後国の朝田窯を経営す(陶器大辞典 1936)
- 1823 (文政 6) 三原富次が赤坂焼復興する
- 1827 (文政 10) 8月 赤坂焼三原窯が久留米藩御用焼立役となる
- 1828 (文政 11) この頃、筑後赤坂焼の陶工が肥前国田代の代官より招かれ、同所瓜生野皿山を創設
- 1830 (天保 1) 朝田焼の樋口窯時代で、大村領内の長与焼・波佐見焼との陶技交流もみられる
- 1832 (天保 3) 筑後久留米の柳原焼が始まる(1832～1836の間焼成)
- 1835 (天保 6) 鹿子生焼：長岡鳳鳴、鹿子生焼開窯(～明治1・2年)
- 1843 (天保 14) 博多市瓦町に大坪久次郎楽焼を創む(陶器大辞典 1936)
- 1850 (嘉永 3) 博多祇園町に中ノ子吉兵衛がこの年に初めて節句人形を作って売り出した
- 1854 (安政 1) 豊前国の田香焼興る(陶器大辞典 1936)
- 1854～1860 須恵焼：須恵皿山役所設置(安政末頃)  
(安政年中) ※朝田焼：足立寿平、朝田にて旧窯を利用し、唐津・小石原・星野系の陶工を雇い操業
- 1855 (安政 2) 福岡藩が野間柳河内に開窯し、藩御用窯として陶工佐々木与三郎に京焼を造らせた
- 1857 (安政 4) 青柳種信ほか『筑前国続風土記拾遺』54巻がこの頃なり、陶磁器関係の記述多くあり
- 1858 (安政 5) 5月 豊前小倉の村田成の『豊国名所』が成り、三館飴・田香焼・清水皿山の絵あり  
6月 筑後地方で大風あり。これにより御用窯である坂東寺焼の窯が破損した
- 1860 (万延 1) 安政末年、須恵皿山役所が再度設置される
- 1861 (文久 1) 野間焼が開窯される(安政3年(1856)開窯したとする説もある)
- 1865 (慶応 1) 3月 浮羽郡朝田村の庄屋足立俊平の長男・壽平が一の瀬窯を再興する  
7月 久留米市野中町東野中の東野亭焼(野中焼)の窯が造られ、製陶が始まる
- 1868 (明治 1) 11月 京都郡犀川町(みやこ町)上高屋の乙子焼がこれ以前に開窯したとされる  
※筑後の赤坂会社窯が開窯される(陶器大辞典 1936)
- 1870 (明治 3) 須恵焼：澤田舜山、野間皿山へ移る → 藩窯としての須恵焼が廃窯される

- 1871 (明治 4) 7.14 廃藩置県 → 藩窯はその基盤を失って廃窯となるか、民窯として存続した
- 1875 (明治 8) 豊前国企救郡水町村 (北九州市門司区) の水町焼が創業
- 1876 (明治 9) 蜷川式胤の『観古図説』陶器之部 (明治 9 年 -13 年刊) に上野焼に関する記載がみられる
- 1877 (明治 10) 三池郡の二川焼が焼かれ始める → 肥前弓野焼の中尾米作が来て再興したと伝える  
※久留米市で青木焼が開窯される (陶器大辞典 1936)
- 1886 (明治 19) 須恵焼は、田原養全・玉ノ井勝一郎その他福博の商売人 20 人の株式の経営
- 1888 (明治 21) 糟屋郡須恵村の金鏑焼について、福陵新報雑報に売れ行き好調という記事が掲載される
- 1889 (明治 22) 森長三郎筑前藤崎に高取焼を再興す (陶器大辞典 1936)
- 1892 (明治 25) この頃、三井郡国分村 (久留米市) 日渡で、水田焼の近藤某が日渡焼を開窯する
- 1897 (明治 30) この頃、遠賀郡折尾村 (北九州市八幡西区折尾) で折尾窯が創業される
- 1899 (明治 32) 福岡市西新町の西皿山窯で高取英一が製品を作り、鳥飼に森長三郎の高取再興窯が設置される  
※この頃に三井郡合川村 (久留米市合川町) 十三部で十三部焼創業
- 1902 (明治 35) この頃に、須恵焼が完全に廃窯となる
- 1906 (明治 39) 筑後二川焼について、角熊五郎が窯を引き継いで経営する
- 1911 (明治 44) 「福岡県の鷺谷焼興る」「筑後の柳河焼廃絶」 (陶器大辞典 1936)

論文等

| 執筆者           | 論文名                               | 刊行年     | 書籍名・雑誌名                       | 発行元                   |
|---------------|-----------------------------------|---------|-------------------------------|-----------------------|
| 貝原益軒          | 筑前国統風土記                           | 1710    |                               |                       |
|               | 近国焼物山大概書上帳                        | 1796    | 上田家文書                         |                       |
| 加藤一純、鷹取周成     | 筑前国統風土記附録 下巻                      | 1798    |                               |                       |
| 伊藤常足          | 太宰管内志                             | 1841    |                               |                       |
| 青柳種信ほか        | 筑前国統風土記拾遺                         | 1857    |                               |                       |
| 秋月古文書講読会      | 望春随筆                              | 1996.11 | 秋月郷土館資料集二「望春随筆」               | 筑前秋月秋酔倶楽部             |
| 秋吉満           | 筑南の古窯                             | 1972. 7 | 筑南の古蹟をたずねて                    | 久留米郷土研究会              |
| 浅野陽吉          | 坂東寺焼、水田焼、蒲池焼                      | 1934.10 | 郷土研究 筑後 2-10                  |                       |
| 浅野陽吉          | 蒲池焼星野焼及本星野焼                       | 1934.12 | 郷土研究 筑後 2-12                  |                       |
| 浅野陽吉          |                                   | 1935.9  | 筑後陶器考                         | 金文堂                   |
| 浅野陽吉          | 筑後諸窯                              | 1938.9  | 九州陶磁                          | 寶雲舎                   |
| 浅野陽吉          | 増補筑後陶器考                           | 1978.10 |                               | 鶴久二郎                  |
| アンディー・マスキ     | 東血山窯物原の試験的な調査                     | 1994.12 | 博多研究会誌 第3号                    | 博多研究会                 |
| 池田史郎編         | 血山代官日記覚書                          | 1966.7  |                               | 金華堂                   |
| 石沢誠司          | 特論・土人形                            | 1984.12 | 講座・日本技術の社会史 第4巻 窯業            | 日本評論社                 |
| 井上園蔵          |                                   | 1943. 3 | 豊前上野焼研究                       | 窯藝美術陶磁文化研究所           |
| 上村佳典          | 愛宕遺跡菜園場窯                          | 1984.5  | 陶説 374 [特集 初期上野・高取]           | 日本陶磁協会                |
| 上村佳典          | 愛宕遺跡 菜園場窯                         | 1985.10 | 閉館十周年記念特別展 小倉藩創始 細川家の歴史展      | 北九州市立歴史博物館            |
| 上村佳典          | 菜園場窯跡                             | 1987.10 | まぼろしの美 古上野焼展 図録               | 福岡県立美術館               |
| 魚里洋一、植野かおり編   |                                   | 2009. 1 | 特別展 柳川・立花家の至宝 図録              |                       |
| 梅崎次義          |                                   | 1924    | 久留米市編入当時の国分町                  | 福岡県立美術館               |
| 相賀徹夫          |                                   |         | 世界陶磁全集7 江戸(二)                 | 小学館                   |
| 大橋康二          | 肥前陶磁生産技術の地方窯への伝播                  | 2010.3  | 東洋陶磁 第39号                     | 東洋陶磁学会                |
| 大橋康二          | わが国の窯業における生産技術の展開                 | 2005.1  | 窯構造・窯道具からみた窯業-関西窯場の技術的系譜をさぐる- | 関西陶磁史研究会              |
| 大橋康二          |                                   | 1989.10 | 考古学ライブラリー 肥前陶磁                | ニュー・サイエンス社            |
| 大橋康二          |                                   | 1992.10 | 福岡の陶磁 平成4年度特別企画展 図録           | 佐賀県立九州陶磁文化館           |
| 岡茂政           | 楠田ノ貝塚及焼ヶ焼窯址調査                     | 1929. 3 | 福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書 第4輯         | 福岡県                   |
| 岡茂政           |                                   |         | 柳川史話【全】                       | 柳川郷土研究会               |
| 岡崎林平          | 上野古窯発掘調査                          | 1955.10 | 郷土田川 6号 臨時増刊                  | 郷土田川研究会               |
| 岡田宗叙          | 高取焼窯跡をたずねるの記                      | 1984.5  | 陶説 374 [特集 初期上野・高取]           | 日本陶磁協会                |
| 奥村次八郎         | 筑前黒田藩の高取焼(一)                      | 1936.7  | 福岡 No.62                      | 東西文化社                 |
| 奥村武           | 筑前黒田藩窯高取焼窯の移動と変遷について              | 1979.6  | 大塚薬報 No.322                   |                       |
| 尾崎直人          | 筑前黒田藩御用窯 高取焼                      | 1987.7  | 西日本文化 233                     | 西日本文化協会               |
| 尾崎直人          | 筑前高取焼の研究                          | 2013. 3 | 福岡市美術館叢書 3                    | 福岡市美術館                |
| 小野賢一郎編        | 陶器大辞典                             | 1934    |                               |                       |
| 小畑弘己          | (補説)アンディー・マスキ氏採集遺物について            | 1994.12 | 博多研究会誌 第3号                    | 博多研究会                 |
| 加藤唐九郎編        |                                   | 1972.10 | 原色陶器大辞典                       | 納屋嘉治                  |
| 金森得水著、堀田松三郎校訂 |                                   | 1943    | 本朝陶器図説                        |                       |
| 金子文夫          | 筑後陶器考と陶器器考                        | 1955.12 | 筑後史学 第3号                      | 筑後史学会                 |
| 金子雨石          | 田香の系譜                             | 1958. 4 | 郷土田川 No.13                    | 郷土田川研究会               |
| 香春町郷土史会       | 郷土誌かわら 第44集                       | 1996. 7 |                               | 香春町教育委員会              |
| 香春町郷土史会       | 郷土誌かわら 第56集                       | 2003. 3 |                               | 香春町教育委員会              |
| 九州歴史資料館       |                                   | 1999    | 福岡のやきもの～豊前田香焼～                |                       |
| 久保利之ほか        | 上野古窯発掘日記                          | 1955. 7 | 陶説 28                         | 日本陶磁協会                |
| 久保智康          | 越前における近世瓦生産の開始について～武生市小丸城跡出土瓦の検討～ | 1989.   | 福井県立博物館紀要 第3号                 | 福井県立博物館               |
| 久保智康          | 屋根瓦の普及と煉瓦の登場                      | 1990. 9 | 文明開化の光と影-福井県/その誕生期- 図録        | 福井県立博物館               |
| 久保智康          | 近世後期南加賀における赤瓦の生産                  | 1992. 8 | 福井考古学会会誌 第10号                 |                       |
| 熊谷紅陽          | 上野古窯跡発掘を終えて                       | 1955.10 | 郷土田川 6号 臨時増刊                  | 郷土田川研究会               |
| 熊澤治郎吉編        |                                   | 1929. 8 | 工学博士北村彌一郎窯業全集 第三巻             | 社団法人大日本窯業協会           |
| 黒瀬真頼、前田泰次校注   |                                   | 1974.6  | 東洋文庫 254 増訂工芸志料               | 平凡社                   |
| 好陶会 編         |                                   | 1918.11 | 陶寄                            | 好陶会                   |
| 鴻江敏雄          | 古上野の壺型徳利                          | 1974. 6 | 製鐵文化 第125号                    | 新日本製鐵株式会社 八幡製鐵所       |
| 高鶴元           |                                   | 1973.3  | 陶片に聞く                         |                       |
| 高鶴元           |                                   | 1990.11 | 日本陶磁大系 第15巻 上野 高取 八代 小代       | 平凡社                   |
| 古賀幸雄          | 瓦師久兵衛(瀬下通町目附)                     | 1975.9  | 久留米藩旧家由緒書                     | 久留米郷土研究会              |
| 古賀幸雄、田中茂男     |                                   | 1979.10 | 久留米藩土器司田中家資料                  | 田中定                   |
| 小林省吾          | 豊前国焼上野焼の発祥とその背景                   | 2006.11 | 県史だより 第124号                   | 福岡県地域史研究所             |
| 境忠二郎          | 英彦山土鈴                             | 1958. 4 | 郷土田川 No.13                    | 郷土田川研究会               |
| 佐々木達夫         | 磁器生産の開始                           | 1984.12 | 講座・日本技術の社会史 第4巻 窯業            | 日本評論社                 |
| 佐々木四十臣        | 星野焼 ～その歴史と価値～                     | 2006.12 | 地方史ふくおか 132                   |                       |
| 佐藤浩司          | 小倉名物三官船とその容器について                  | 2000.3  | 研究紀要 第14号                     | 朝北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 |
| 佐藤浩司          | 消費地出土の田香焼について                     | 2002. 3 | 研究紀要 第16号                     | 朝北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 |
| 佐藤浩司          | 小倉名物三官船の生産と流通                     | 2011.3  | 江戸時代の名産品と商標 江戸遺跡研究会編          | 吉川弘文館                 |
| 佐藤進三          | 上野焼古窯発掘調査について                     | 1955. 7 | 陶説 28                         | 日本陶磁協会                |
| 佐藤進三          | 上野焼古窯発掘調査について                     | 1955.10 | 郷土田川 6号 臨時増刊                  | 郷土田川研究会               |
| 佐藤進三          | 上野焼古窯調査と顔末と発掘日記                   | 1955.12 | 上野古窯調査報告書 陶器7                 | 日本陶磁協会                |
| 佐藤進三          |                                   | 1961.11 | 陶器全集 第21巻 萩・上野・高取・薩摩          | 平凡社                   |
| 塩田力蔵          | 日本近世窯業史第三編陶磁器工業                   | 1991.4  | 日本窯業史総説 第五巻 日本近世窯業史復刻版        | 柏書房株式会社               |
| 塩田力蔵          | 日本陶工傳(九)                          | 1938.2  | 陶器講座 第23巻                     |                       |
| 浪田 喬          | 近代化に翔けた人間模様—古賀の里の起業人と受け継がれる文化—    | 2009. 8 | 福岡地方史研究 47                    | 福岡地方史研究会              |
| 嶋田光一          | 高取焼初代八山の墓跡                        | 1997.11 | 歴史のさんぽみち 第7回 市報いづか            | 飯塚市歴史資料館              |
| 嶋田光一          | 高取焼白旗山古窯跡の調査                      | 1992.10 | 福岡の陶磁 平成4年度特別企画展 図録           | 佐賀県立九州陶磁文化館           |
| 嶋田光一          | 高取焼白旗山古窯跡の調査                      | 2001. 3 | 東洋陶磁 第30号                     | 東洋陶磁学会                |
| 関工省編纂         |                                   | 1931. 9 | 全国工場通覧                        | 日本工業新聞社               |
| 岡口広次          | 高取山田窯址採集陶片分類・実測図                  | 1989.3  | 桃山の茶陶                         | (財)根津美術館              |
| 副島邦弘          | 古高取 内ヶ磯窯跡の発掘調査                    | 1981. 3 | 陶説 336 [大名茶陶展特集]              | 日本陶磁協会                |
| 副島邦弘          | 高取 内ヶ磯窯の発掘                        | 1982. 2 | 日本やきもの集 12 九州 II 沖繩           | 平凡社                   |

| 執筆者              | 論文名   | 刊行年     | 書籍名・雑誌名   | 発行元                  |
|------------------|---|---------|---|----------------------|
| 副島邦弘             | 飯塚市幸袋高取家墓所出土の遺物について                           | 1982.3  | 内ヶ磯窯跡(直方市文化財調査報告書 第4集)                                | 直方市教育委員会             |
| 副島邦弘             | 古高取永満寺宅間窯の発掘調査                                | 1984.5  | 陶説 374 [特集 初期上野・高取]                                   | 日本陶磁協会               |
| 副島邦弘             | まぼろしの筑前秋月窯をさがして                               | 1985.12 | 陶説 393  | 日本陶磁協会               |
| 副島邦弘             | 高取焼の系譜  | 1986.3  | 地方史ふくおか 54  |                      |
| 副島邦弘             | 北部九州における近世古窯跡の研究—福岡県鞍手郡若宮町犬鳴所在犬鳴焼窯跡について—      | 1987.11 | 「東アジアの考古と歴史 下」 岡崎敬先生退官記念論集                            | 同朋舎                  |
| 副島邦弘             | ある発掘調査から                                      | 1988.4  | 陶説 421  | 日本陶磁協会               |
| 副島邦弘             | 高取系犬鳴窯址について                                   | 1989.7  | 陶説 436  | 日本陶磁協会               |
| 副島邦弘             | 北部九州における近世窯跡の研究—筑前高取焼を中心として—                  | 1990.11 | 乙益重孝先生古稀記念 九州上代文化論集                                   | 乙益重孝先生古稀記念論文集刊行会     |
| 副島邦弘             | 福岡県   | 1997.3  | 国立歴史民俗博物館研究報告 第73集 近世窯業遺跡データ集成                        | 国立歴史民俗博物館            |
| 副島邦弘             | 北部九州における近世古窯跡の研究—筑前国鞍手郡山口村(現鞍手郡若宮町)浅ヶ谷窯跡について— | 1999.3  | 九州歴史資料館研究論集 24  | 九州歴史資料館              |
| 副島邦弘             | 北部九州における近世古窯跡の研究—磁器への道(福岡県の場合)—               | 2000.3  | 九州歴史資料館研究論集 25  | 九州歴史資料館              |
| 副島邦弘             | 古高取宅間・内ヶ磯窯跡について                               | 2001.3  | 東洋陶磁 第30号   | 東洋陶磁学会               |
| 副島邦弘             | 福岡県近世古窯跡研究の流れ                                 | 2007.1  | 高取焼開窯400年祭記念誌   | 高取焼開窯400年祭実行委員会      |
| 副島邦弘             | 筑後の近世の焼物を考える                                  | 2011.9  | 福岡地方史研究 49  | 福岡地方史研究会             |
| 副島邦弘             | 北部九州における近世古窯跡の研究—筑前秋月藩窯について—                  | 1983.7  | 麻生優編『人間・遺跡・遺物 -わが考古学論集 1-』                            | 文献出版                 |
| 大日本窯業協会          |   | 1902.4? | 第一回全国窯業品共進会報告   | 大日本窯業協会              |
| 高木誠一             | 田香焼の系譜と子孫                                     | 1983.11 | 郷土文化誌 おおとう 第3集  |                      |
| 高取静山編            | 『高取家文書』                                       | 1979.1  | 高取家文書   | 雄山閣                  |
| 高山慶太郎            | 筑前須恵焼の歴史                                      | 1991.6  | ふるさと自然と歴史 227   |                      |
| 高山慶太郎            | 筑前の磁器「須恵焼」—基礎資料による年表—                         | 1992.1  | 福岡県地域史研究 第10号   | 福岡県                  |
| 田崎博之<br>二宮忠司     | 能古焼の古窯跡調査                                     | 1992.10 | 福岡の陶磁 平成4年度特別企画展 図録                                   | 佐賀県立九州陶磁文化館          |
| 筑後郷土史研究会         |   | 1957.11 | 水田村郷土史  | 筑後郷土史研究会             |
| 筑紫豊、笠文七監修        | 福岡市南区 伝説・由来・遺跡                                | 1980.12 | 福岡市南区 伝説・由来・遺跡  | 「南区民の祭り」運営委員会        |
| 筑紫頼定             | 高取焼その他  | 1938.9  | 九州陶磁  | 寶雲舎                  |
| 堤昭南              | 幻の土器田川焼窯跡                                     | 1982.3  | 三瀨路今昔   | 三瀨町文化財専門委員会・三瀨町郷土研究会 |
| 柄内禮次             |   | 1936.3  | 古高取山田窯  |                      |
| 刀根為次郎            |   | 1914.8  | 北九州の名物 芦屋の浜   |                      |
| 永尾正剛、有川宣博、税田昭徳 編 |   | 2000.3  | 豊国名所 付 六郷名所記  | 北九州市立歴史博物館           |
| 永尾正剛             | 細川菜園場窯の史的考察                                   | 1990.8  | 近世近代史論集   | 吉川弘文館                |
| 永尾正剛             | 細川菜園場窯と上野焼陶工                                  | 2001.3  | 東洋陶磁 第30号   | 東洋陶磁学会               |
| 永尾正剛             | 豊前上野焼および菜園場窯に関する編年史料                          | 2002.3  | 研究紀要 10   | 北九州市立歴史博物館           |
| 中ノ堂一伸            | 近代窯業の展開                                       | 1984.12 | 講座・日本技術の社会史 第4巻 窯業                                    | 日本評論社                |
| 中山平次郎            | 高取焼最古の二窯址と其遺物 附、筑前鞍手郡勝野村赤地発見の古陶器              | 1915.2  | 考古学雑誌 5-6   |                      |
| 中山平次郎            | 筑前国犬鳴谷に於ける高原五郎七の製陶所址                          | 1915.4  | 考古学雑誌 5-8   |                      |
| 中山平次郎            | 筑前国嘉穂郡白旗山麓の高取焼窯址                              | 1915.6  | 考古学雑誌 5-10  |                      |
| 西日本新聞社           |   | 1982.11 | 福岡県百科事典   | 西日本新聞社               |
| 農商務省商工局工務課       |   | 1904.3  | 工場通覧  |                      |
| 乗富勝洋             | 二川焼について                                       | 1959.11 | 郷土研究 Vol.7  | 福岡県立伝習館高校郷土研究部       |
| 野上建紀             | 肥前の窯業技術の伝播について                                | 2005.1  | 窯構造・窯道具からみた窯業-関西窯場の技術的系譜をさぐる-                         | 関西陶磁史研究会             |
| 原寛               | 市指定史跡 能古焼古窯                                   | 2006.10 | 能古博物館だより 号外   | 能古博物館                |
| 広津友一郎            | 年貢について  | 1981.11 | 郷土誌さいがわ 創刊号   | 厚川町郷土史研究会            |
| 福岡市観光課           |   | 1973    | 福岡市の史話と観光 はかた   |                      |
| 藤丸三雄             | 三橋町の製瓦業について                                   |         | 故郷の文化に希望を   | 三橋町教育委員会             |
| 藤原友子             | 二川焼とよばれるのはなぜ?                                 | 2018.10 | 古武雄   | 九州陶磁文化館              |
| 豊前市人権センター        | 明治二年 巳年諸願書控                                   | 2010.3  | 友枝文書史料集(一)商業  | 豊前市人権センター-庶民史研究会     |
| 船木長造             | 高取焼と博多人形に就いて                                  | 1932.10 | 大日本窯業協会雑誌 41巻490号                                     | 大日本窯業協会              |
| 文化庁文化財部          | 新指定の文化財 無形文化財                                 | 2017.9  | 月刊文化財648  |                      |
| 星野半陶子            | 田川の陶業—現況と課題—                                  | 1958.4  | 郷土田川 No.13  | 郷土田川研究会              |
| 丸山雍成             | 史跡・能古島古窯跡                                     | 1990.5  | 能古博物館だより 第4号  | 能古博物館                |
| 丸山雍成             | 能古島古窯をめぐる問題                                   | 1990.7  | 能古博物館だより 第5号  | 能古博物館                |
| 丸山雍成             | 能古島古窯をめぐる問題(続)                                | 1990.10 | 能古博物館だより 第6号  | 能古博物館                |
| 三上次男             | 上野釜の口の古窯                                      | 1955.7  | 陶説 28   | 日本陶磁協会               |
| 三上次男             | 上野釜の口の古窯                                      | 1955.10 | 郷土田川 6号 臨時増刊  | 郷土田川研究会              |
| 三上次男             | 上野釜の口の古窯                                      | 1955.12 | 陶説 33 上野古窯調査報告  | 日本陶磁協会               |
| 三上次男             | 釜の口窯について                                      | 1955.12 | 上野古窯調査報告書 陶窯 7  | 日本陶磁協会               |
| 右田乙次郎            |   | 1957.11 | 水田村郷土史  | 筑後郷土史研究会             |
| 右田乙次郎            |   | 1973.9  | 水田の半田土鍋焼  | 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会    |
| 右田乙次郎            | 三原家と赤坂焼(筑後赤坂焼)                                | 1977.8  |   | 筑後市教育委員会・筑後郷土史研究会    |
| 三島格・村松正一         |   | 1966    | 須恵器の窯址・小代焼と二川焼  | 三井三池開発株式会社           |
| 水谷良一             | 九州の民窯 二川の陶業                                   | 1933    | 工藝33号   |                      |
| 水原道範             | 朝妻焼の古窯跡調査                                     | 1992.10 | 福岡の陶磁 平成4年度特別企画展 図録                                   | 佐賀県立九州陶磁文化館          |
| 美和弥之助            | 筑前上畑古窯考                                       | 1939.7  | やきもの趣味  |                      |
| 美和弥之助            |   | 1942.8  | 茶会記に現れたる上野焼   | 窯芸美術陶磁文化研究所          |
| 美和弥之助            | 小笠原公時代の上野焼                                    | 1958.4  | 郷土田川 No.13  | 郷土田川研究会              |
| 美和弥之助、船木顯司       |   | 1975.2  | カラー日本のやきもの5 上野 高取 小石原 小鹿田                             | 淡交社                  |
| 毛利茂樹             | 上野・高取の系譜                                      | 1984.5  | 陶説 374 [特集 初期上野・高取]                                   | 日本陶磁協会               |
| 森谷尅久             | 近世陶磁生産の発展                                     | 1984.12 | 講座・日本技術の社会史 第4巻 窯業                                    | 日本評論社                |
| 山下啓之             | 福岡藩磁器御用窯 須恵器の盛衰                               | 2016.10 | 西日本文化 480   | 西日本文化協会              |
| 山村信榮             | 博多出土の素焼人形—近世末の博多に於ける一手工業の研究 I—                | 1988.1  | 九州考古学 第62号  | 九州考古学会               |
| 山村信榮             | 筑前野間焼について                                     | 1992.3  | 『大町遺跡』 西日本鉄道株式会社太宰府駅駅舎改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書〔太宰府市の文化財第18集〕 | 太宰府市教育委員会            |

| 執筆者       | 論文名                | 刊行年     | 書籍名・雑誌名         | 発行元       |
|-----------|--------------------|---------|-----------------|-----------|
| 雄山閣編集部    |                    | 1979    | 陶磁用語辞典          | 雄山閣       |
| 横河民輔      | 日本諸國窯一覽            | 1935.12 | 陶器講座 第7巻        | 雄山閣       |
| 横山群       | 上野焼への期待            | 1955.10 | 郷土田川 6号 臨時増刊    | 郷土田川研究会   |
| 横山群       | 田川古窯跡について          | 1958.4  | 郷土田川 No.13      | 郷土田川研究会   |
| 米山公子      | 初期上野焼菜園場窯についての一考察  | 1998.11 | 嘉飯山郷土研究会会誌 第12号 | 嘉飯山郷土研究会  |
| 渡辺村男      | 第9章 生業 第2節 工業      | 1914    | 旧柳川藩志           | 山門郡教育会    |
| 渡辺村男      | 第10章 生産物 第2節 重要生産物 | 1914    | 旧柳川藩志           | 山門郡教育会    |
| 渡辺村男      | 第18章 人物 家永彦三郎      | 1914    | 旧柳川藩志           | 山門郡教育会    |
| 渡久兵衛(話し手) | 上野焼の復興と渡久兵衛の歩み     | 2006.11 | 県史だより 第124号     | 福岡県地域史研究所 |
|           |                    | 2017.3  | 豊前小倉藩窯上野焼展 図録   | 福智町       |
|           | 能古焼諸資料紹介と解説        | 1992.10 | 能古博物館だより 第14号   | 能古博物館     |

#### 県史・市町村市史

| 執筆・編集者                 | 文献名  | 刊行年     | 書籍名・雑誌名                 | 発行元                        |
|------------------------|--|---------|-------------------------|----------------------------|
| 尾崎直人                   | 四 陶磁   | 1994.3  | 福岡県史 通史編 福岡藩文化(下)       | 福岡県                        |
| 西田宏子                   | 福岡県の歴史における高取焼                                | 1992.3  | 福岡県史 文化史料編 筑前高取焼        | 福岡県                        |
| 尾崎直人                   | 高取焼研究簡史                                      | 1992.3  | 福岡県史 文化史料編 筑前高取焼        | 福岡県                        |
| 春日市史編さん委員会             | 春日市史 下巻                                      | 1994.3  |                         | 春日市                        |
| 力武卓治                   | 藤崎遺跡第35次調査                                   | 2016.3  | 新修福岡市史資料編考古1            | 福岡市                        |
| 菅波正人                   | 能古焼窯跡  | 2016.3  | 新修福岡市史資料編考古1            | 福岡市                        |
| 高山慶太郎<br>須恵町誌編集委員会     | 筑前の磁器“須恵焼”                                   | 1983.3  | 須恵町誌                    | 須恵町役場                      |
| 村上敦                    | 二丈町誌(平成版)                                    | 2005.11 |                         | 二丈町                        |
| 糸島郡教育会                 | 糸島郡誌   | 1972.9  | 糸島郡誌                    | 株式会社名著出版                   |
| 伊藤尾四郎                  | 宗像郡誌 上巻                                      | 1944.6  | 宗像郡誌 上巻                 | 株式会社名著出版                   |
| 福岡市南区民俗文化財保存会          | 南区ふるさと                                       | 1992.10 |                         |                            |
| 博多人形沿革史編集委員会           | 博多人形沿革史                                      | 2013.3  |                         | 博多人形商工業協同組合                |
| 津屋崎町史編さん委員会            | 津屋崎町史 通史編                                    | 1999.3  |                         | 津屋崎町                       |
| 粕屋町誌編集委員会              | 粕屋町誌   | 1992.3  |                         | 粕屋町                        |
| 岡垣町史編集委員会              | 岡垣町史   | 1988.3  |                         | 岡垣町                        |
| 岡垣町教育委員会               | 図録岡垣町の文化財 I                                  | 1996.3  |                         | 岡垣町教育委員会                   |
| 遠賀郡教育会                 | 遠賀郡誌   | 1917.9  |                         | 株式会社臨川書店1986.6復刻           |
| 遠賀郡誌復刊行会               | 増補改訂 遠賀郡誌                                    | 1961.8  |                         | 遠賀郡誌復刊行会                   |
| 遠賀町史編集委員会              | 遠賀町誌   | 1986.3  |                         | 遠賀町                        |
| 直方市史編さん委員会             | 直方市史 上巻                                      | 1971.8  |                         | 福岡県直方市                     |
| 柴村一重編                  | 直方市史 資料編 上巻-史料による直方のあゆみ-                     | 1983.3  | 10 高取焼の歴史と内ヶ磯窯跡         | 直方市役所                      |
| 副島邦弘<br>若宮町誌編さん委員会     | 第八章 若宮の近世陶磁器の生産                              | 2005.3  | 若宮町誌上巻                  | 若宮町                        |
| 鞍手町誌編集委員会              | 鞍手町誌 上巻                                      | 1974.9  |                         | 福岡県鞍手町                     |
| 鞍手町誌編集委員会              | 鞍手町誌 下巻                                      | 1980.12 |                         | 福岡県鞍手町                     |
| 北九州市教育委員会文化部保護管理課      | 北九州市の文化財                                     | 1999.3  |                         | 北九州市教育委員会                  |
| 久留米市役所                 | 久留米市誌 中編                                     | 1933.1  |                         | 久留米市役所                     |
| 久留米市役所                 | 久留米市誌 下編                                     | 1932.12 |                         | 久留米市役所                     |
| 久留米市史編さん委員会            | 久留米市史 第2巻                                    | 1982.11 |                         | 久留米市                       |
| 久留米市史編さん委員会            | 久留米市史 第3巻                                    | 1985.3  |                         | 久留米市                       |
| 久留米市史編さん委員会            | 久留米市史 第12巻                                   | 1996.3  |                         | 久留米市                       |
| 久留米市史編さん委員会            | 久留米市史 第13巻                                   | 1996.3  |                         | 久留米市                       |
| 浮羽町史編集委員会              | 浮羽町史 上巻                                      | 1988.3  |                         | 浮羽町                        |
| 浮羽町史編集委員会              | 浮羽町史 下巻                                      | 1988.3  |                         | 浮羽町                        |
| 浮羽郡誌刊行会                | 浮羽郡誌   | 1966.1  |                         | 浮羽郡誌刊行会                    |
| 御井小学校開校百周年記念事業特別委員会町誌部 | 御井町誌   | 1986.2  |                         | 御井小学校父母教師会                 |
| 三潁郡役所                  | 福岡懸三潁郡誌                                      | 1925    |                         | 三潁郡役所                      |
| 城島町誌編集委員会              | 城島町誌   | 1998.3  |                         | 城島町                        |
| 吹春茂<br>立花町史編さん委員会      | 立花町史 上巻                                      | 1996.3  |                         | 立花町                        |
| 佐々木四十臣<br>星野村史編さん委員会   | 星野村史 産業編                                     | 1998.3  |                         | 星野村                        |
| 江頭亨                    | 郷土史物語  | 1968.11 |                         |                            |
| 黒木町史編さん実務委員会           | 黒木町史   | 1993.11 |                         | 黒木町                        |
| 八女郡役所                  | 稿本 八女郡史 増補                                   | 1917.10 | 星野・釈形・今村・男ノ子・鹿子生・赤坂・坂東寺 |                            |
| 筑後市史編さん委員会             | 筑後市史 第一巻                                     | 1997.9  |                         | 筑後市                        |
| 田淵義樹                   | 柳川市史 別編 新柳川明証図会                              | 2002.9  |                         | 柳川市                        |
| 柳川市教育委員会編              | 柳川の文化財                                       | 1978.5  |                         | 柳川市教育委員会                   |
| 植野かおり<br>柳川市史編さん委員会編   | 第2章 社寺の美術 6 蒲池焼                              | 2005.2  | 『柳川の美術 I』柳川文化資料集 第3集    | 柳川市                        |
| 植野かおり<br>柳川市史編さん委員会編   | 第3章 柳河藩主時代の美術 第5項 藩窯一蒲池焼一                    | 2007.3  | 『柳川の美術 II』柳川文化資料集 第3集-2 | 柳川市                        |
| 服部英雄・白石直樹編             | 蒲池地区 南本村・北本村 しこな                             | 2002.3  | 『柳川地名調査報告書』柳川歴史資料集 第5集  | 柳川市                        |
| 鈴木寛之<br>柳川市史編さん委員会編    | 東宮永地区 第2章 なりわい 第2節 諸職 瓦作り                    | 2004.3  | 『柳川の民俗概観』柳川歴史資料集 第6集    | 柳川市                        |
| 鈴木寛之<br>柳川市史編さん委員会編    | 第1編 大和町・三橋町の民俗概観 大和町・三橋町のなりわいとくらし 3 諸職(1) 瓦業 | 2012.3  | 『柳川の民俗概観 II』柳川歴史資料集 第7集 | 柳川市                        |
| 大和町史編さん実務委員会編          | 第5編 近現代 第2章 産業の発達 第3節 工業 3 矢部川・塩塚川沿岸の瓦焼き     | 2001.3  | 大和町史 通史編 上巻             | 大和町                        |
| 三潁町史編さん委員会             | 三潁町史   | 1985.9  |                         | 三潁町史刊行委員会                  |
| みやま市史編さん事務局            | みやま市史 通史編 下巻                                 | 2020.3  |                         | みやま市<br>みやま市教育委員会          |
| 龍富太郎・永井新編              | 高田町誌   | 1958.10 |                         | 福岡県三池郡高田町                  |
| 三池郡教育会                 | 三池郡誌 全                                       | 1926.6  |                         | 株式会社名著出版<br>1986.9復刻(臨川書店) |
| 福岡県山門郡教育会              | 山門郡誌   | 1974.4  |                         | 株式会社名著出版                   |
| 大川史誌編集委員会              | 大川市誌   | 1977.12 |                         | 福岡県大川市役所                   |
| 大牟田市史編さん委員会            | 大牟田市史 上巻                                     | 1965.3  |                         | 大牟田市役所                     |
| 内野喜代治編                 | 三川地方誌  | 1936.10 |                         |                            |
| 西山吉之助ほか                | 高田町の文化財                                      | 1992.3  |                         | 高田町教育委員会                   |

| 執筆者        | 論文名                | 刊行年     | 書籍名・雑誌名 | 発行元                |
|------------|--------------------|---------|---------|--------------------|
| 上野 馨       | 山田の遺跡 文化財          | 1982.1  |         |                    |
| 飯塚市史編さん室   | 飯塚市誌               | 1975.8  |         | 福岡県飯塚市 飯塚市役所総務部庶務課 |
|            | 地図と絵で見る飯塚地方誌       | 1975.2  |         | 元野木書店              |
| 二瀬町誌編さん委員会 | 二瀬町誌               | 1963.3  |         | 町長 三浦末松            |
| 幸袋町編集委員会   | 幸袋町誌               | 1963.3  |         | 幸袋町編集委員会           |
| 松岡治郎編      | 山田町誌               | 1953.2  |         | 山田町誌編集委員会          |
| 山田市誌編さん委員会 | 山田市誌               | 1986.3  |         | 山田市                |
| 貞包博幸       | 第7編 美術・建築編 第2節 田香焼 | 2001.3  | 香春町史 下巻 | 香春町編集委員会           |
| 和田泰光       | 上野村史               | 1930.5  |         | 筑豊之實業社             |
| 赤池町史編集委員会  | 赤池町史               | 1977.11 |         | 赤池町                |
| 方城町史編集委員会  | 方城町史               | 1966.5  |         | 方城町                |
| 添田町史編集委員会  | 添田町史 上巻            | 1992.3  |         | 添田町                |
| 稲築町誌編集委員会  | 稲築町誌               | 1959.3  |         | 稲築町                |
| 稲築町誌編集委員会  | 稲築町誌               | 1973.3  |         | 稲築町                |
| 嶋田光一       | 第1章第3節 高取焼         | 2016.3  | 飯塚市史中巻  | 飯塚市                |
| 大任町誌編集委員会  | 大任町誌               | 1970.5  |         | 大任町                |
| 大任町誌編集委員会  | 大任町誌 ふるさと大任 上巻     | 2004.3  |         | 田川郡大任町             |
| 嘉穂郡役所      | 嘉穂郡誌 全             | 1972.7  |         | 株式会社名著出版           |
| 小竹町史編さん委員会 | 小竹町史               | 1985.3  |         | 小竹町                |
| 豊津町誌編集委員会  | 豊津町誌               | 1983.3  |         | 豊津町                |
| 豊津町史編集委員会  | 豊津町史(下)            | 1997.4  |         | 豊津町                |
| 大平村誌編集委員会  | 大平村誌               | 1986.3  |         | 大平村                |
| 築上郡史編集委員   | 築上郡史 下巻            | 1956.7  |         | 福岡県築上郡・豊前市教育振興会    |

県内調査報告書等

| 執筆・編集者           | 文献名                       | 刊行年     | 副題                               | シリーズ名                     |
|------------------|---------------------------|---------|----------------------------------|---------------------------|
| 福岡県              | 福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書 第4輯     | 1929.3  | 「楠ノ貝塚及焼ヶ懐焼址調査」                   |                           |
| 福岡県教育委員会         | 大鳴Ⅱ                       | 1991.3  | 福岡県鞍手郡若宮町犬鳴区の調査                  | 福岡県文化財調査報告書第94集           |
| 福岡県教育委員会         | 上唐原福本屋敷遺跡                 | 1997.3  | 福岡県築上郡大平村所在遺跡の調査                 | 一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告1     |
| 福岡県教育委員会         | 百留居屋敷遺跡                   | 1999.3  | 福岡県築上郡大平村所在遺跡の調査                 | 一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告3     |
| 福岡県教育委員会         | 内ヶ磯窯跡 1                   | 2001.3  | 福智山ダム建設に伴う福岡県直方市大字頓野所在近世窯跡の調査    | 福岡県文化財調査報告書第163集          |
| 福岡県教育委員会         | 内ヶ磯窯跡 2                   | 2002.3  | 福智山ダム建設に伴う福岡県直方市大字頓野所在近世窯跡の調査    | 福岡県文化財調査報告書第170集          |
| 福岡県教育委員会         | 内ヶ磯窯跡 3                   | 2003.3  | 福智山ダム建設に伴う福岡県直方市大字頓野所在近世窯跡の調査    | 福岡県文化財調査報告書第181集          |
| 福岡県教育委員会         | 秋月街道                      | 2004.3  | 歴史の道調査報告書 第2集                    | 福岡県文化財調査報告書第195集          |
| 福岡市教育委員会         | 能古島                       | 1993.3  | 能古島遺跡発掘事前総合調査報告書                 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第354集       |
| 福岡市教育委員会         | 福岡市埋蔵文化財年報 vol.3 1988年度   | 1990.3  |                                  | 福岡市埋蔵文化財年報 vol.3 1988年度   |
| 福岡市教育委員会         | 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.32 2017年度版 | 2018.3  |                                  | 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.32 2017年度版 |
| 福岡市教育委員会         | 藤崎遺跡 17                   | 2006.12 | 藤崎遺跡第35次調査報告書                    | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第916集       |
| 福岡市教育委員会         | 福岡市文化財分布地図(西部Ⅰ)           | 1994.3  |                                  |                           |
| 福岡市教育委員会         | 福岡市文化財分布地図(西部Ⅲ)           | 1984.3  |                                  |                           |
| 須恵町立歴史民俗資料館      | 筑前の磁器 須恵焼                 | 1981.10 |                                  |                           |
| 須恵町立美術センター久我記念館  | 筑前の磁器 須恵焼 資料集 2003        | 2003.10 |                                  |                           |
| 須恵町教育委員会         | 福岡藩磁器御用窯跡Ⅰ                | 2010.3  | 福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵所在遺跡の調査            | 須恵町文化財調査報告書第10集           |
| 須恵町教育委員会         | 須恵町文化財分布地図                | 2009.3  |                                  | 須恵町文化財調査報告書第9集            |
| 太宰府市教育委員会        | 大町遺跡                      | 1992.3  | 西日本鉄道株式会社太宰府駅駅舎改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 太宰府市の文化財第18集              |
| 北九州市埋文調査室        | 愛宕遺跡 1                    | 1985.3  |                                  | 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第40集       |
| 北九州市教育委員会        | 北九州市の文化財                  | 1999.3  |                                  |                           |
| 北九州市教育委員会        | 北九州市埋蔵文化財分布地図             | 1998.3  | 小倉北区・門司区・離島                      |                           |
| 直方市教育委員会         | 内ヶ磯窯跡Ⅰ                    | 1980.3  |                                  | 直方市文化財調査報告書第2集            |
| 直方市教育委員会         | 内ヶ磯窯跡Ⅱ                    | 1981.3  |                                  | 直方市文化財調査報告書第3集            |
| 直方市教育委員会         | 内ヶ磯窯跡                     | 1982.3  | 福岡県直方市大字頓野字二ノ瀬所在近世陶器窯跡発掘調査報告書    | 直方市文化財調査報告書第4集            |
| 直方市教育委員会         | 永満寺宅間窯跡                   | 1983.3  | 福岡県直方市大字永満寺宅間所在近世陶器窯跡発掘調査報告書     | 直方市文化財調査報告書第5集            |
| 直方市教育委員会         | 直方市内遺跡群詳細分布調査報告書          | 1995.3  |                                  | 直方市文化財調査報告書第19集           |
| 宮田町教育委員会         | 千石窯跡                      | 1995.3  | 福岡県鞍手郡宮田町千石所在遺跡の調査               | 宮田町文化財調査報告書第5集            |
| 岡垣町教育委員会         | 岡垣町遺跡等詳細分布調査報告書           | 1994.3  |                                  | 岡垣町文化財調査報告書第16集           |
| 甘木市教育委員会         | 筑前秋月城跡                    | 1983.3  | 福岡県甘木市秋月町野島梅園所在近世城郭跡調査概要         | 甘木市文化財調査報告書第15集           |
| 甘木市教育委員会         | 甘木市の文化財                   | 1996.3  |                                  |                           |
| 小石原村教育委員会        | 中野上の原古窯跡                  | 1988.3  |                                  | 小石原村文化財調査報告書第1集           |
| 小石原村教育委員会        | 中野火口谷1号古窯跡                | 1989.3  |                                  | 小石原村文化財調査報告書第2集           |
| 小石原村教育委員会        | 中野上の原古窯跡                  | 1990.11 |                                  | 小石原村文化財調査報告書 第3集          |
| 小石原村教育委員会        | 一本杉1号古窯跡・金敷様裏3号古窯跡        | 1993.3  |                                  | 小石原村文化財調査報告書第4集           |
| 小石原村教育委員会        | 鼓釜床1号古窯跡                  | 1994.3  |                                  | 小石原村文化財調査報告書 第5集          |
| 東峰村教育委員会         | 火口谷古窯跡                    | 2014.3  |                                  | 東峰村文化財調査報告書第4集            |
| 東峰村教育委員会         | 東峰村内遺跡等分布地図               | 2013.3  |                                  | 東峰村文化財調査報告書第3集            |
| うきは市教育委員会        | うきは市遺跡群詳細分布調査報告書          | 2010.3  |                                  | うきは市文化財調査報告書第10集          |
| 久留米市教育委員会        | 東部土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告 第1集 | 1981.3  |                                  | 久留米市文化財調査報告書第29集          |
| 久留米市教育委員会        | 久留米城下町 両替町遺跡              | 1996.3  |                                  | 久留米市文化財調査報告書第116集         |
| 久留米市教育委員会        | 平成10年度久留米市内遺跡群            | 1999.3  |                                  | 久留米市文化財調査報告書第150集         |
| 久留米市教育委員会        | 平成27年度久留米市内遺跡群            | 2016.3  |                                  | 久留米市文化財調査報告書第368集         |
| 久留米市教育委員会        | 東野亭焼窯跡                    | 2019.3  |                                  | 久留米市文化財調査報告書第404集         |
| 公益財団法人財建造物保存技術協会 | 重要文化財善道寺大庫裏他六棟保存修理工事報告書   | 2011.3  | 大庫裏7・釜屋・本堂編                      |                           |
| 黒木町教育委員会         | 城ノ原遺跡                     | 1995.3  | 福岡県八女郡黒木町所在遺跡の発掘調査報告書            | 黒木町文化財調査報告書第2集            |
| 星野村教育委員会         | 十籠星野小学校遺跡                 | 1994.3  | 福岡県八女郡星野村所在遺跡の発掘調査報告書            | 星野村文化財調査報告書第2集            |

| 執筆者                  | 論文名               | 刊行年    | 書籍名・雑誌名   | 発行元              |
|----------------------|-------------------|--------|---|------------------|
| 立花町教育委員会             | 北山小学校遺跡           | 1993.3 | 福岡県八女郡立花町所在遺跡の調査報告                                    | 立花町文化財調査報告書第5集   |
| みやま市教育委員会            | みやま市内遺跡等分布地図      | 2015.3 |   | みやま市文化財調査報告書第10集 |
| 筑後市教育委員会<br>筑後郷土史研究会 | 水田の半田土鍋焼          | 1973.9 |   |                  |
| 筑後市教育委員会<br>筑後郷土史研究会 | 筑後市神社仏閣調査書 坂東寺篇   | 1974.3 |   | 筑後市神社仏閣調査書第4集    |
| 筑後市教育委員会<br>筑後郷土史研究会 | 三原家と赤坂焼〔筑後赤坂焼〕    | 1977.8 |   | 筑後市むらの生いたちの記第4集  |
| 大牟田市教育委員会            | 大牟田市遺跡等分布地図       | 2007.3 |   | 大牟田市文化財調査報告書第59集 |
| 名勝松濤園修理事業委員会         | 名勝松濤園内御居間他修理工事報告書 | 2007.3 | 〔第1編修理工事 第3章調査・発見物 2.瓦刻印<br>第2編資料 第3章発見物・墨書等 墨書等9・10〕 |                  |
| 飯塚市教育委員会             | 遠州高取 白旗山窯跡        | 1992.3 | 福岡県飯塚市大字中野間所在近世陶器窯跡発掘調査報告書                            | 飯塚市文化財調査報告書第16集  |
| 飯塚市教育委員会             | 飯塚市内遺跡詳細分布調査報告書   | 1997.3 |   | 飯塚市文化財調査報告書第24集  |
| 嘉麻市教育委員会             | 嘉麻市文化財等分布地図       | 2012.3 |   | 嘉麻市文化財調査報告書第4集   |
| 香春町教育委員会             | 香春町文化財等分布地図       | 2001.3 |   | 香春町文化財調査報告書第12集  |
| 大任町教育委員会             | 田香焼窯跡             | 1998.3 | 福岡県田川郡大任町大字今任原所在の上野系窯跡の調査                             | 大任町文化財調査報告書第6集   |
| 九州歴史資料館              | 福岡のやきもの～豊前田香焼～    | 1999.1 |   |                  |
| 福智町                  | 豊前小倉藩窯 上野焼展       | 2017.3 |   |                  |
| 犀川町教育委員会             | 城井遺跡群             | 1992.3 |   | 犀川町文化財調査報告書第3集   |
| 豊津町教育委員会             | 豊津町内遺跡等分布地図       | 2001.3 |   | 豊津町文化財調査報告書第25集  |
| 犀川町教育委員会             | 犀川町内遺跡等分布地図       | 2003.3 |   | 犀川町文化財調査報告書第8集   |
| みやこ町教育委員会            | みやこ町内遺跡等分布地図      | 2010.3 |   | みやこ町文化財調査報告書第6集  |
| 豊前市教育委員会             | 大村天神林遺跡           | 2009.3 | 県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書13                             | 豊前市文化財報告書第26集    |
| 豊前市教育委員会             | 吉木穴井遺跡            | 2003.3 | 都市計画道路県道犀川豊前線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                    | 豊前市文化財報告書第17集    |
| 大平村教育委員会             | 大平村の文化財           | 1975.3 |   | 福岡県築上郡大平村教育委員会   |

報告書抄録

| ふりがな                   | ふくおかけんのきんせいようぎょうかんけいいせき  |      |          |      |    |                                 |      |               |
|------------------------|--|------|----------|------|----|---------------------------------|------|---------------|
| 書名                     | 福岡県の近世窯業関係遺跡   |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 副書名                    |  |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 巻次                     |  |      |          |      |    |                                 |      |               |
| シリーズ名                  | 福岡県文化財調査報告書  |      |          |      |    |                                 |      |               |
| シリーズ番号                 | 第284集  |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 編著者名                   | 坂本真一（編集）伊崎俊秋 遠藤啓介 岸本圭 酒井芳司   |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 編集機関                   | 福岡県教育委員会   |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 所在地                    | 〒812-8575 福岡県福岡市博多区東公園7番7号 Tel.092-651-1111                            |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 発刊年月日                  | 令和6（2024）年3月31日  |      |          |      |    |                                 |      |               |
| 所収遺跡名                  | ふりがな<br>所在地  | コード  |          | 北緯   | 東経 | 調査期間                            | 調査面積 | 調査原因          |
|                        |  | 市町村  | 遺跡番号     |      |    |                                 |      |               |
| 福岡県内各市町村に所在する近世の窯業関係遺跡 | ふくおかけんないしちょうそん<br>福岡県内市町村  |      |          |      |    | 2020. 9. 24<br>～<br>2024. 3. 31 |      | 福岡県近世窯業関係遺跡調査 |
| 所収遺跡名                  | 種別   | 主な時代 | 主な遺構     | 主な遺物 |    | 特記事項                            |      |               |
| 福岡県内各市町村に所在する近世の窯業関係遺跡 | 窯業関係遺跡   | 江戸時代 | 窯業に関わる窯跡 |      |    |                                 |      |               |
| 要約                     | 福岡県内に所在する江戸時代の窯業に関わる窯跡とそれに関する生産、埋葬などの関係遺跡について、悉皆調査を行い、106件の窯跡について確認した。 |      |          |      |    |                                 |      |               |

| 福岡県行政資料     |                  |
|-------------|------------------|
| 分類番号<br>J H | 所属コード<br>2120253 |
| 登録年度<br>5   | 登録番号<br>0002     |

## 福岡県の近世窯業関係遺跡

福岡県文化財調査報告書第284集

令和6年3月31日

発行 福岡県教育委員会  
〒812-8575  
福岡県福岡市博多区東公園7番7号

印刷 株式会社 四ヶ所  
〒838-8512  
福岡県朝倉市馬田336